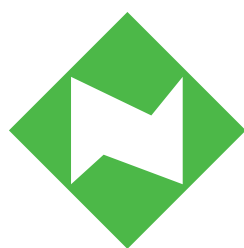


公第5卷 (通算第16卷)



公益財団法人 日本生命済生会付属

日生病院年報

平成28年4月～平成29年3月

vol.5

平成28年度 日生病院年報の発刊にあたって



院長 笠山 宗正

日生病院年報（公第5巻：平成28年4月～平成29年3月）をお届けします。どうぞご高覧ください。

平成28年度は、2年ぶりの診療報酬改定によって本体部分は+0.49%となったものの薬価・材料費の引き下げを含む全体では-1.03%のマイナス改訂となり、病院運営にとって厳しい年度となりました。本改定では、一般病棟用の「重症度、医療・看護必要度」の評価方法と該当患者割合要件の変更もなされたため、この対応に向けた体制整備も余儀なくされました。

このように医療を取り巻く環境はますます厳しくなっていますが、当院では、平成30年春に開院する予定の新病院の新設を見据えて、平成26年度に「みんなで『素晴らしい病院』をつくろう！～安心・安全・信頼の地域No.1 病院をめざす～」をスローガンとした「変革4ヶ年計画」を策定し、業務変革のためのさまざまな取り組みを行ってきました。平成28年度は本計画の3年目として、「病院業務改革推進本部」を中心にさまざまな観点から検討を重ねこれらを実行してきました。

診療の面では、平成27年に新設した「中央手術管理部」で手術枠の見直しを行った結果全身麻酔手術件数が増加したほか、「救急診療センター」を中心に「断らない救急医療」の取り組みを推進し救急搬送件数も増加しました。さらに、平成28年4月には耳鼻咽喉科を「耳鼻咽喉・頭頸部外科」に改組、平成29年7月には「腎臓内科」、「腎臓・透析センター」を新設し、診療機能向上のための体制を整備しました。

また、主に近隣の勤労者の受診の利便向上のための毎水曜日の夕刻診療の開始、1月の成人の日の祝日開院、「入退院支援センター」の設置、外来診察のブロック受付運営の開始、3階病棟の回復室を集中治療室として運用するなどの新たな取り組みを行ったほか、地域医療支援運営委員会を定期的に開催し、地域の医療機関や医療従事者との連携強化の方策についての検討を重ねました。さらに、新病院で導入予定であった自動精算機を先行導入しその運用を開始しています。

日生病院の母体である日本生命済生会は、『済生利民』を基本理念として大正13年に設立されています。わたしたちは、設立後90年以上を経た今もなお、『心ふれあう、あったかサポート』を合言葉に、予防から治療・在宅まで一貫した最優の医療サービスを提供し、地域と社会から愛され信頼されるよう努力していきます。これからも当院に対しまして倍旧のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

平成28年度日生病院年報の発刊にあたって 院長 笠山 宗正

第Ⅰ章 軌跡

1. 日生病院理念と基本方針	1
2. 患者様の権利と義務について	1
3. 施設概要	3
4. 学会認定状況	4
5. 主要医療機器	5
6. 日本生命済生会組織図	6
7. 会議・委員会	7
8. 平成28年度業績概要	8
9. 日本生命済生会（日生病院）の沿革	9
10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日生病院歴代院長	12

第Ⅱ章 病院統計

1. 全体統計	13
1) 一日平均外来患者数	13
2) 一日平均入院患者数	14
3) 患者年齢・診療圏構成	15
4) 病床稼働率	16
5) 救急患者数	17
6) 退院患者医療評価指標	18
①退院患者統計	18
②診療科別・月別・退院患者数、平均在院日数	19
③疾病統計	20
④悪性新生物統計	21
⑤診療科別・月別・死亡（剖検）患者数	22
7) 手術件数	23
①診療科別・月別手術件数（中央手術室実施）	23
②診療科別・年間手術件数（総件数の内、上位のみ）	24
2. 医事統計	26
1) 診療科別医療収入	26
2) 医療行為別医療収入	28
①外来	28
②入院	29
3. その他統計	30
1) 病院従業員数	30
2) セカンドオピニオン外来件数	30

第Ⅲ章 部門別概要〈診療科・センター・部(室)〉

循環器内科	31
消化器内科	33
総合内科	35
血液・化学療法内科	38

神経内科	40
腎臓内科	41
消化器・一般外科	43
呼吸器外科	45
乳腺外科	47
産婦人科	48
小児科	50
神経科・精神科	51
整形外科	54
皮膚科	56
泌尿器科	58
眼科	60
耳鼻咽喉・頭頸部外科	61
放射線科	63
麻酔・緩和医療科	64
病理診断科	66
がん治療センター	67
女性骨盤底センター	68
糖尿病・内分泌センター	70
消化器内視鏡センター	72
腎臓・透析センター	73
救急診療センター	74
臨床研修部	75
輸血管理室	76
化学療法室	77
リハビリテーション室	78
中央手術管理部	80
中央臨床検査部	81
中央放射線部	84
栄養管理室	85
薬剤部	88
臨床研究管理室	90
医療安全対策室	91
感染対策室	93
あったかサポートセンター	95
日生訪問看護ステーション	103
日生ケアプランセンター	104
看護部	105
ニッセイ予防医学センター	113

第IV章 諸活動

1. 診療科別教育	115
2. 全体教育	116
3. 日生医学賞・日生医学奨励賞	126
4. 地域活動	126
5. ボランティアについて	127
6. 広報関係	127
7. 院内行事	128

1. 日生病院理念と基本方針

理念

日生病院は（公財）日本生命済生会の基本理念である「済生利民」の精神にもとづき、地域に対し、予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療サービスを提供します。

基本方針

1. 患者様の立場に立った最良の医療サービスを提供します。
2. 常に安全な医療とまごころの看護を実践します。
3. 人権の尊重、プライバシーの保護、並びに法令等の遵守に努めます。
4. 日々研鑽に努め、より信頼される医療人を目指します。
5. 地域・社会のニーズに対応した変革を進め、地域医療と地域社会の健全な発展に貢献します。
6. 上記5項目を継続して実現するため、健全な経営を行います。

2. 患者様の権利と義務について

《患者様の権利》

医療は患者様と医療関係者とが相互の信頼関係に基づき、協力し合ってつくり上げていくものです。日生病院では、患者様中心の医療サービスの実践を常に心がけ、以下の患者さまの権利を大切にします。

1. 患者様は、良質な医療を平等に受けることができます。
2. 患者様は、自分が受ける治療や検査に関して、効果や危険性、他の治療方法の有無などにつき、わかりやすく説明を受けることができます。
3. 患者様は、十分な説明と情報提供を受けたうえで治療方針など自らの意思で選択することができます。また希望しない医療を拒むことや自分で医療機関を選択し、転院することもできます。
4. 患者様は、自分が受けている医療について知ることができます。
5. 患者様は、個人として常にその人格を尊重され、また個人情報も自分の承諾なくして第三者に開示されることはありません。

《患者様の義務》

日生病院では、ご来院・ご入院されるすべての患者様に対し、安全・安心な環境において、良質な医療サービスを提供致します。患者様におかれましても、病院の規則を守り、職員や他の人々に迷惑をかけない責務や自分自身の健康に関する情報を正確に提供する責務がありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

1. 患者様には、自らの過去の病歴を含む健康に関する詳細な情報、診療中の変化を正確に伝える義務があります。
2. 患者様には、治療や検査などの治療方針について、医療者から説明があった場合は、できるだけ明確な意思表示をする義務があります。
3. 患者様には、医療が安全かつ効果的に実施されるよう、患者様のご本人確認を含めた診療行為に積極的に参加し、協力する義務があります。
4. 患者様には、病院内では、当院の規則および公共の場のルールを守って他の方の迷惑にならないように行動する義務があります。
5. 患者様には、医療費を支払う義務があります。
6. 患者様には、医療は医学、社会、経済、倫理等の様々な要因により限界があることを認識する義務があります。

平成28年 6 月 制定

3. 施設概要

1. 名 称 公益財団法人日本生命済生会付属日生病院
2. 所 在 地 大阪市西区立売堀 6 - 3 - 8
3. 開設年月日 昭和57年 3 月11日
4. 構 造 病院本館／鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上7階 （搭屋1階）
病院別館／鉄筋コンクリート造 地下1階地上5階
予防医学センター・寮／地上5階
5. 設 備 空調設備／セントラル空調方式一部個別方式
熱源設備／ガス吸収式冷温水発生機・空冷ヒートポンプチラー
電気設備／契約電力1500kw
6. 竣工年月日 昭和57年 2 月 1 日
工事期間／昭和54年12月 6 日～昭和57年 2 月 1 日
7. 許可病床数 350床

〈病院本館〉

7 F	ミニ・コンビニ、カフェ		555㎡
病棟等（主な入院診療科）			
6 F	消化器内科 神経科・精神科 小児科	産婦人科 (LDR、新生児室)	1,979㎡
5 F	血液・化学療法内科 総合内科	循環器内科 神経内科	1,979㎡
4 F	整形外科 眼科 皮膚科	耳鼻咽喉・頭頸部外科 泌尿器科 内科	2,016㎡
3 F	消化器・一般外科 呼吸器外科 乳腺外科 婦人科 泌尿器科	手術室 人工透析室 結石破碎室	2,900㎡
外来			
2 F	眼科/泌尿器科/皮膚科/耳鼻咽喉・頭頸部外科/神経科・精神科 麻酔・緩和医療科/糖尿病・内分泌センター/栄養指導室 中央臨床検査部/生理検査室/中央採血室/MRI・RI検査室 医局/診療情報管理室/図書室/情報システム室		3,942㎡
1 F	内科（循環器内科、消化器内科、総合内科、血液・化学療法内科、神経内科、腎臓内科、健診精査内科） 小児科/産婦人科/消化器・一般外科/呼吸器外科/乳腺外科/整形外科 リハビリテーション室/消化器内視鏡センター/放射線科 臨床研究管理室/医事サービス部/あったかサポートセンター 女性骨盤底センター/がん治療センター/救急診療センター/時間外診療室		3,881㎡
B 1 F	リニアック治療室/薬剤部/栄養管理室		4,756㎡
計			22,011㎡

〈病院別館〉

5 F	別館病棟	409㎡
4 F	管理部門・会議室	499㎡
3 F	管理部門	499㎡
2 F	管理部門	777㎡
1 F	講堂・訪問看護・看護部管理室	929㎡
計		3,114㎡

〈予防医学センター〉

2 F	ドック・健診スペース	1,102㎡
1 F	受付・事務	847㎡
計		1,949㎡

4. 学会認定状況

- ・日本内科学会
- ・日本整形外科学会
- ・日本血液学会
- ・日本超音波医学会
- ・日本循環器学会
- ・日本皮膚科学会
- ・日本肝臓学会
- ・日本胆道学会
- ・日本病理学会
- ・日本消化管学会
- ・日本IVR学会
- ・日本高血圧学会
- ・日本呼吸器学会
- ・日本外科学会
- ・日本泌尿器科学会
- ・日本耳鼻咽喉科学会
- ・日本アレルギー学会
- ・日本産科婦人科学会
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本麻酔科学会
- ・日本小児科学会
- ・日本臨床腫瘍学会
- ・日本糖尿病学会
- ・日本心血管インターベンション治療学会
- ・日本静脈経腸栄養学会
- ・日本医学放射線学会
- ・日本リウマチ学会
- ・日本臨床細胞学会
- ・日本内分泌学会
- ・日本乳癌学会
- ・日本消化器病学会
- ・日本大腸肛門病学会
- ・日本神経学会
- ・日本精神神経学会
- ・日本総合病院精神医学会
- ・日本呼吸器内視鏡学会
- ・日本産科婦人科内視鏡学会
- ・日本消化器内視鏡学会

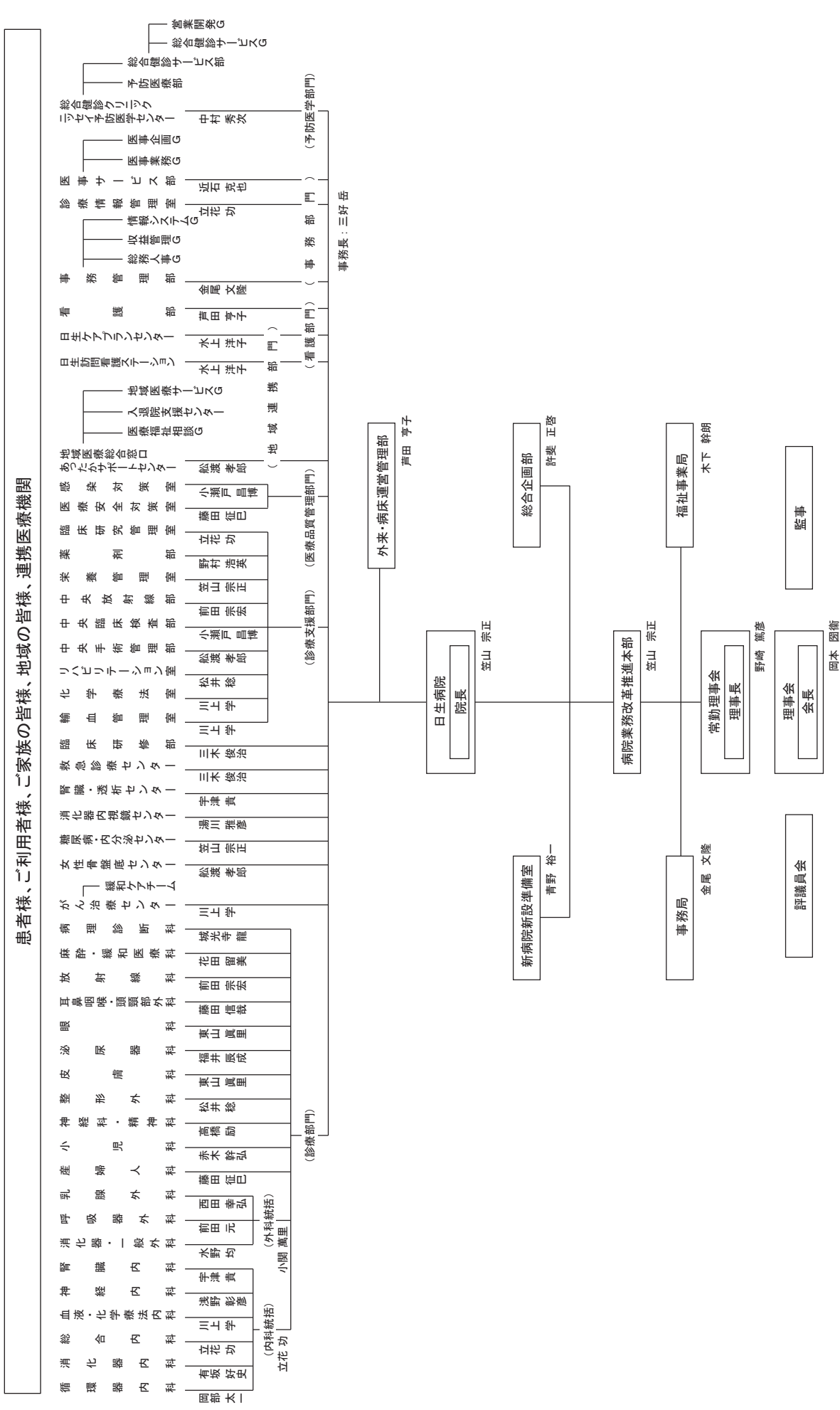
(平成29年3月31日現在)



5. 主要医療機器（取得金額1,000万円以上）

品 名	設置部署	数量	品 名	設置部署	数量
超音波内視鏡	消化器内視鏡 セ ン タ ー	1	全身用磁気共鳴装置（MRI） MAGNETOM SYMPHONY	中央放射線部	1
超音波内視鏡観測装置	消化器内視鏡 セ ン タ ー	1	デジタルガンマカメラGMS-7700B	中央放射線部	1
ステレオ定位乳腺バイオプシーシステム	乳 腺 外 科	1	超音波診断装置SSA-370A	中 央 臨 床 検 査 部	1
体外衝撃波結石破碎装置 Integra	泌 尿 器 科	1	超音波診断装置SONOS-7500システム	中 央 臨 床 検 査 部	1
フリードメインOCT RS-3000	眼 科	1	超音波診断装置 VIVID E9 BASIC	中 央 臨 床 検 査 部	1
前眼部OCT CASIA	眼 科	1	血液検査分析器 HSトランスポートーション	中 央 臨 床 検 査 部	1
マルチカラーレーザー光凝固装置	眼 科	1	実験台及び什器備品 一式5台	中 央 臨 床 検 査 部	1
X線テレビ装置DBA-300A	中央放射線部	1	微生物分類同定分析装置 バイテックMS	中 央 臨 床 検 査 部	1
画像読取装置FCR5000	中央放射線部	1	手術顕微鏡OPMI-6S	中央手術室	1
位置決めX線装置	中央放射線部	1	ニューマック手術台システム	中央手術室	1
画像読取装置FCR5000 PLUS	中央放射線部	1	眼科用手術顕微鏡 OPMI CS-XY	中央手術室	1
16列マルチスライスCT	中央放射線部	1	高圧蒸気滅菌器	中央手術室	1
多目的血管連続撮影装置 INNOVA3100	中央放射線部	1	全身麻酔装置	中央手術室	1
乳房X線撮影装置LORAND M-IV	中央放射線部	1	麻酔ワークステーション (監視モニター)	中央手術室	1
放射線治療システム (リニアアクセラレーター)	中央放射線部	1	蒸気滅菌器	中央手術室	1
IMRT対応部品	中央放射線部	1	全身麻酔器 エステイバ5/ST	中央手術室	1
心臓カテーテル検査装置 MCS-9000	中央放射線部	1	トランスマックハッチウェイシステム	中央手術室	1
320列CT装置 Aquilion ONE	中央放射線部	1	アルファマック分離手術台	中央手術室	1
大動脈内バルーンポンプ IABP	中央放射線部	1	ステラッド100S低温プラズマ滅菌器	中央手術室	1
X線テレビジョンシステム ZEXIRA	中央放射線部	1	S/5麻酔ワークステーション	中央手術室	1
経皮的心肺補助装置 PCPS	中央放射線部	1	形成外科用手術顕微鏡 M525 F40	中央手術室	1
ガンマカメラGCA-7200A	中央放射線部	1	手術顕微鏡 OPMI LUMERA	中央手術室	1

6. 日本生命済生会組織図



7. 会議・委員会

会 議

・常勤理事会

理事長所管の下、常勤の理事以上がメンバーとなり、原則として毎週開催し、済生会3部門（病院、予防医学センター、訪問看護ステーション・ケアプランセンター）の基本的運営方針を協議決定する。

この他、会長や外部の理事、監事を交えた定時理事会がある。

・予算理事会 → 3月

・決算理事会 → 事業年度終了後3ヵ月以内に開催される

また評議員会が6月に開催される。

・病院運営会議

理事長の委嘱により院長が主宰し、病院幹部をメンバーとして毎週開催され、日常的な病院運営のテーマについて討議・決定する。

ただし、予算・人員・規則の問題などに関しては、常勤理事会に付議する。

・病院管理診療会議

院長を中心に、病院各科・各部の部長・担当部長、病棟師長以上等をメンバーとし、診療や病院運営に関する事項について協議、意見交換、連絡を行う。

（運営会議、病院管理診療会議ともそれぞれが独立して存在するのではなく、所定の内規の下に、課題を共有し改善を分担してより良く病院機能が発揮されることを基本的精神としている。）

委員会

各種委員会は、理事長または理事長の委嘱を受けた院長の諮問機関として、検討結果を理事会・病院運営会議に答申している。

当年度の設置委員会は次の通り。

委員会名	委員長	開催回数
ACLS委員会	中川 厚	9
あったかサポートセンター運営委員会	船渡 孝郎	※
安全衛生委員会	立花 功	12
医療安全管理委員会	藤田 征巳	12
医療ガス安全管理委員会	住谷 哲	1
医療機器・デバイス検討委員会	笠山 宗正	7
医療従事者業務見直しワーキング	笠山 宗正	1
院内感染対策委員会	小瀬戸 昌博	12
栄養・給食委員会	笠山 宗正	4
化学療法運営委員会	西田 幸弘	1
教育委員会	立花 功	3
クリティカルパス委員会	福井 辰成	4
研修推進委員会	三木 俊治	4
研修管理委員会	笠山 宗正	1
サービス・広報委員会	三好 岳	11
情報管理委員会	藤田 征巳	1

※代替として、あったかサポート・ミーティング（船渡運営委員長が座長）を毎週実施

委員会名	委員長	開催回数
褥瘡対策委員会	東山 眞里	1
診療情報提供委員会	高橋 励	1
診療録管理委員会	浅野 彰彦	12
治験審査委員会	東山 眞里	13
TQM推進委員会	西田 幸弘	1
DPC・質向上委員会	前田 元	4
当直・救急検討委員会	三木 俊治	1
7：1看護体制発展推進委員会	芦田 亨子	1
日生医学賞顕彰委員会	岡部 太一	3
年報ワーキング	岡部 太一	1
病院機能向上委員会	藤田 征巳	2
防災管理委員会	松井 稔	2
放射線安全委員会	前田 宗宏	1
訪問看護運営委員会	芦田 亨子	1
薬事管理委員会	笠山 宗正	4
輸血療法委員会	川上 学	6
臨床検査適正化委員会	箭野 文秀	4
臨床工学技士ワーキング	水野 均	1
倫理委員会	中村 秀次	11

8. 平成28年度 業績概要

総収益	9,163百万円（8,115百万円）*	従業員数	716人
新入院患者数	7,585人	平均在院日数	12.6日
1日平均入院患者数	281人	入院単価	50,944円
病床稼働率	80.3%		
外来延患者数	216,343人	外来単価	13,464円
1日平均外来患者数	883人		
紹介率	62.1%	逆紹介率	75.6%

*（ ）病院単独

9. 日本生命済生会（日生病院）の沿革

大正13年 7月	財団法人「日本生命済生会」設立	昭和46 4	給与体系、退職金規定改正、60才定年制施行
14 4	健康相談所（無料診療所）を開設 大地震に救護班派遣	47 4	臨床研修指定病院の認定受ける
昭和5 6	緒方病院の土地、建物を譲り受け （大阪市西区新町）	48 2	「日生病院医学雑誌」第一巻第1号を刊行
6 6	日生病院（内科、外科、理学的診療科）開院	48 3	紀要「地域福祉研究」第一集刊
7 4	看護婦養成所を設立	48 4	放射線学会「専門医修練機関」認定
7 7	産婦人科、小児科を新設	48 9	病歴図書部を新設
17 1	耳鼻咽喉科を新設	48 10	超音波検査部「超音波カラー診断装置」開発で機械振興会賞を受賞
22 1	眼科新設（その後皮膚泌尿器科、歯科、整形外科新設）	49 7	創立50周年記念式典、50年史の編纂（54年発刊）
22 4	インターン制度の開始 （第一期生9名受入れ）	51 1	RI検査室を新設
23 9	健康保険、労災保険病院の指定受ける	53 3	「(新) 病院建築基本構想委員会」設置
24 7	結核病棟を設置（昭和48年8月、閉鎖）	53 4	学校、高等看護学院から看護専門学校へ昇格
30 12	第二種社会福祉事業（無料低額診療）を開始	54 4	医療事務をコンピュータ化
31 1	日生病院、本館、別館につづき新館竣工（350床へ）	57 4	新病院（現在地）の竣工、開院
31 6	健康精密検査室（人間ドック）を開設	58 3	日本生命と第一回特別委員会（5カ年計画策定）
32 8	総合病院の認可受ける	59 3	全科で午後外来診療を開始
33 4	済生会組織、三部門体制へ （現行体制スタート）	59 4	社会事業局を福祉事業部に改組
33 10	甲表採用、三基準認可	60 4	病理部を再設置
34 10	神経科新設	62 12	HBS社（医療経営コンサルト）の診断を受ける
35 4	学校、准看護学院から高等看護学院 （正看護婦養成）へ	63 10	横井先生、第5回世界超音波医学学術 連合会議からパイオニア賞を受賞
36 6	日本生命済生会労働組合の結成	平成元 2	夕食を午後6時配膳
40 8	各診療科に部長制採用	元 10	専門外来（10科）開始
42 10	中央検査室を「臨床検査センター」へ 拡大、充実	元 11	自動再診受付機を設置
43 8	第一回「社会福祉カウンセリング講座」開講	2 10	学校、創立30周年記念式典
44 4	冲中重雄氏（虎の門病院長）を顧問委嘱	3 4	4週6休制試行開始
45 9	第一回「篤志解剖者慰霊祭」執行	3 10	地域の「健康講座」に講師派遣
		4 6	外科、世界内視鏡外科学会で受賞
		5 2	「病院運営会議」を再開

平成5	4	MRIの稼働開始	13	7	第一回日生病院病診連携フォーラム開催
5	6	全病棟「特Ⅲ類基準看護」の資格獲得	14	1	開放型病院資格取得
5	10	内科、産婦人科、人間ドックの外来領域 リフォーム工事完成	15	4	医療安全対策室設置
6	3	内科外来等で予約診療開始	15	4	予防医学センター設置
6	7	創立70周年記念式典、諸行事実施（7～ 11月）、70年史の編纂開始	16	2	内科二次救急指定病院取得
6	10	脳ドック検診開始	17	3	電子カルテシステム稼働
6	10	新看護体系「2：1（A）」の承認	18	4	血液・化学療法内科新設
6	11	無菌治療室設置、使用開始	18	7	DPC導入（入院医療費）
7	2	保温保冷配膳車導入	19	2	土曜日閉院 4週8休制開始
7	8	日生医学賞・医学奨励賞創設、第一回 表彰式実施	19	3	7対1入院基本料算定開始
7	8	山本前院長、和漢医薬学会から学会賞 受賞	19	3	日生看護専門学校閉校
8	5	総合案内・看護相談の試行実施	19	11	がん治療センター、 低侵襲医療センター開設
8	10	「歯科口腔外科」標榜	20	4	ニッセイ総合健診クリニックオープン
9	2	経営改善推進本部・部会の発足	20	7	生活習慣病センター開設
9	3	歯科臨床教育病院の新規指定	20	10	乳腺外科新設
9	3	疾病分類包括支払研究プロジェクト （医療経済研究機構）に選ばれ、参加 （全国17モデル病院）	21	3	第一回日生病院市民公開講座開催
10	2	「日生病院だより」創刊号発行	21	4	大阪府がん診療拠点病院に指定
10	5	総合診療科機能発足	22	8	無料乳がん検診開始
10	7・8	DRG／PPS分析結果報告会開催	23	4	消化器内視鏡センター開設
10	11	院外処方箋発行開始	24	1	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下子宮 体がん根治手術」（産婦人科）が承認さ れる
10	11	薬剤管理指導料全科算定認可	24	4	公益財団法人へ移行
11	3	医療材料院外SPD（物品管理システム） 始動	24	4	地域医療総合窓口 あったかサポートセンター創設
11	7	インフラ工事開始 （12年4月：3階新病棟オープン）	24	4	生活習慣病センターから糖尿病センター へ組織名称変更
12	3	日生訪問看護ステーションを開設	24	4	厚生労働省より先進医療「前眼部三次 元画像解析」（眼科）が承認される
12	4	日生ケアプランセンター設置	24	8	320列マルチスライスCT導入
13	4	病院機能評価認定証取得	25	4	新病院新設準備室の新設
13	4	「日生病院の理念」制定、 「患者様の権利」院内掲示	25	4	予防医学センターで「統合健診システム」 の稼働
平成13	6	公開学術講演会開催 （講師：北村国立循環器病センター総長）	25	5	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下仙骨 腫固定術」（産婦人科）が承認される
			25	12	ニッセイ緑の財団との共催イベント 「自然に学ぶ！自然に遊ぶ！健康キッズ」 開催

26	1	広報誌「日生病院あったかサポート通信『Saisei Rimin（済生利民）』」を発刊	27	4	中央手術管理部の新設
26	1	「金融コンシェルジュ」相談窓口開設	27	6	胃がんのESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を再開
26	4	「変革4ヵ年計画」がスタート	27	7	新病院開設許可受ける
26	4	病院業務改革推進本部、外来・病床運営管理部、女性骨盤底センター、救急診療センター、中央放射線部、事務管理部の新設	27	9	休日診療の試験実施（9月23日、11月23日）
26	4	日本産科婦人科内視鏡学会 施設認定	27	10	新病院着工
26	5	新電子カルテシステムが全面稼働	27	11	食道がんのESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を再開
26	7	日本生命済生会 創立90周年「90年小史」作成	28	1	呼吸器外科新設
26	9	「ウィークエンド糖尿病精査入院」開始	28	3	日本産科婦人科学会の倫理委員会で承認された、不妊治療の臨床研究に係る卵巣ミトコンドリア採取手術を開始
27	1	日本呼吸器内視鏡学会 施設認定			

（平成28年度沿革）

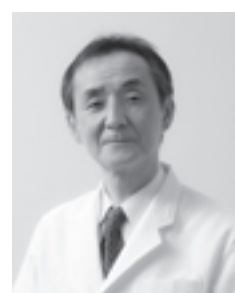
28年4月1日	耳鼻咽喉科を耳鼻咽喉・頭頸部外科に改組
28年4月1日	内科統括・外科統括職制の新設
28年5月6日	自動精算機（新病院で導入予定）を先行導入
28年6月25日	日本総合病院精神医学会 施設認定
28年7月1日	腎臓・透析センター、腎臓内科を新設
28年7月7日	「入退院支援センター」をあったかサポートセンター内に設置
28年8月24日	予約制による夕刻診療（毎週水曜日）の実験開始
28年9月20日	日生病院地域医療支援運営委員会の開催（11月15日、1月17日、3月21日）
28年10月1日	日本大腸肛門病学会 施設認定
28年10月3日	外科外来ブロック受付運営開始
28年10月12日	看護外来設置
28年11月1日	日本消化管学会 施設認定
28年12月15日	新病院上棟式
29年1月5日	「移転開設準備本部（本部長：笠山院長）」を設置
29年1月9日	休日診療の実験実施を継続
29年1月30日	2階外来ブロック受付運営開始
29年3月28日	日本胆道学会 施設認定

10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日生病院歴代院長

設立時の常任理事	小 河 滋 次 郎	大正13年～14年
日本生命済生会 会 長	弘 世 現	昭和35年～平成 3 年
	川 瀬 源 太 郎	平成 3 年～12年
	小 林 幹 司	平成12年～17年
	宇 野 郁 夫	平成17年～28年
	岡 本 罔 衛	平成28年～
日本生命済生会 理 事 長	手 塚 太 郎	大正14年～昭和 7 年
	弘 世 助 太 郎	昭和 7 年～11年
	成 瀬 達	昭和11年～26年
	弘 世 現	昭和26年～35年
	若 林 源 蔵	昭和35年～43年
	浜 田 勝 巳	昭和43年～55年
	浅 井 啓 三	昭和55年～61年
	鳥 井 静 夫	昭和61年～平成 4 年
	弟 子 丸 兆 生	平成 4 年～ 6 年
	平 島 一	平成 6 年～ 8 年
	沼 田 輝 夫	平成 8 年～14年
	小 林 三 紘	平成14年～20年
	野 崎 篤 彦	平成20年～
日 生 病 院 院 長	長 雄 勝 馬	昭和 6 年～12年
	清 水 寛 一	昭和12年～21年
	勝 部 育 郎	昭和21年～23年
	新 海 輝 一	昭和23年～46年
	諏 訪 信 吾	昭和46年～49年
	上 野 元 男	昭和49年・51～52年
	乾 久 朗	昭和49年～51年
	中 井 俊 夫	昭和52年～平成 2 年
	山 本 昌 弘	平成 2 年～12年
	佐 藤 文 三	平成12年～16年
	宗 田 滋 夫	平成16年～20年
	寺 川 直 樹	平成20年～25年
	笠 山 宗 正	平成25年～



理事長 野崎 篤彦



院長 笠山 宗正

1. 全体統計

1 一日平均外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	61人 (55)	61人 (60)	57人 (52)	55人 (52)	55人 (54)	56人 (54)	56人 (57)	53人 (56)	60人 (62)	55人 (56)	57人 (58)	52人 (55)	56人 (55)
消化器内科	64 (55)	59 (59)	61 (56)	65 (60)	60 (55)	62 (61)	62 (64)	63 (61)	62 (64)	60 (65)	63 (65)	66 (63)	62 (63)
総合内科	137 (129)	138 (132)	128 (125)	129 (124)	130 (124)	138 (132)	139 (138)	140 (130)	149 (137)	141 (137)	135 (132)	144 (134)	137 (131)
血液・化学療法内科	30 (29)	29 (31)	25 (28)	27 (29)	28 (29)	26 (30)	27 (29)	27 (28)	28 (30)	26 (31)	26 (31)	25 (27)	27 (27)
神経内科	28 (26)	26 (27)	25 (23)	27 (27)	23 (25)	28 (30)	26 (27)	26 (28)	25 (28)	26 (27)	25 (28)	24 (28)	26 (28)
腎臓内科	- -	- -	- -	1 -	2 -	3 -	3 -	4 -	4 -	4 -	6 -	5 -	3 -
内 科 (計)	320 (294)	313 (309)	296 (284)	304 (292)	298 (287)	313 (307)	313 (315)	313 (303)	328 (321)	312 (316)	312 (314)	316 (307)	316 (308)
消化器・一般外科	13 (17)	13 (16)	14 (15)	14 (14)	13 (15)	16 (15)	16 (14)	14 (18)	14 (17)	13 (14)	14 (14)	15 (15)	14 (15)
呼吸器外科	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
乳腺外科	20 (15)	21 (16)	21 (18)	21 (18)	17 (15)	24 (19)	20 (24)	20 (20)	23 (25)	19 (21)	20 (20)	18 (22)	20 (22)
外 科 (計)	34 (32)	35 (32)	36 (33)	37 (32)	31 (30)	41 (34)	37 (38)	35 (38)	38 (42)	34 (35)	35 (35)	34 (38)	36 (38)
産婦人科	90 (90)	95 (95)	89 (90)	92 (94)	88 (90)	89 (93)	90 (98)	90 (95)	91 (97)	85 (96)	83 (96)	82 (99)	88 (99)
小児科	31 (34)	36 (35)	32 (33)	32 (38)	30 (31)	30 (34)	30 (39)	32 (37)	33 (40)	26 (34)	27 (33)	25 (34)	30 (34)
神経科・精神科	64 (62)	67 (71)	58 (57)	63 (64)	59 (58)	62 (67)	63 (63)	66 (64)	62 (64)	61 (67)	54 (61)	60 (63)	62 (63)
整形外科	54 (56)	62 (59)	56 (52)	56 (52)	53 (49)	62 (47)	59 (53)	58 (48)	59 (52)	58 (48)	54 (50)	54 (47)	57 (47)
皮膚科	107 (106)	116 (109)	106 (102)	111 (107)	105 (103)	111 (110)	108 (108)	102 (99)	103 (109)	96 (106)	97 (104)	99 (106)	105 (106)
泌尿器科	46 (50)	43 (53)	41 (49)	46 (49)	40 (38)	52 (45)	49 (48)	45 (45)	47 (49)	45 (48)	42 (45)	45 (46)	45 (46)
眼 科	36 (55)	39 (59)	38 (58)	36 (58)	32 (58)	35 (58)	34 (59)	34 (54)	32 (61)	28 (56)	27 (56)	28 (57)	33 (57)
耳鼻咽喉・頭頸部外科	53 (54)	54 (55)	49 (52)	46 (54)	43 (54)	50 (53)	45 (54)	47 (55)	48 (57)	43 (53)	45 (54)	46 (55)	47 (55)
放射線科	18 (21)	17 (20)	17 (19)	16 (18)	20 (13)	19 (16)	15 (23)	15 (22)	14 (16)	16 (17)	20 (18)	20 (21)	17 (21)
麻酔・緩和医療科	19 (19)	18 (19)	20 (17)	19 (18)	21 (17)	21 (17)	20 (18)	20 (18)	18 (18)	20 (17)	20 (18)	21 (18)	20 (18)
救急診療センター	22 (15)	21 (17)	24 (17)	24 (17)	29 (14)	24 (13)	27 (13)	27 (15)	31 (18)	31 (20)	25 (20)	24 (21)	25 (21)
糖尿病・ 内分泌センター	5 (4)	4 (4)	5 (4)	5 (3)	5 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (5)	5 (4)
腎臓・透析センター	- -	- -	- -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	1 -	0 -	1 -	1 -	0 -
その他	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
合 計	901 (891)	922 (936)	865 (869)	890 (894)	821 (828)	914 (899)	896 (934)	890 (897)	911 (946)	824 (893)	848 (910)	858 (919)	883 (919)

(注) 1. 数値は小数第1位四捨五入

[医事サービス部]

2. () 内は前年同月

2 一日平均入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	40人 (33)	35人 (31)	36人 (39)	39人 (36)	32人 (35)	26人 (34)	32人 (32)	32人 (30)	30人 (29)	30人 (35)	31人 (48)	34人 (41)	33人 (35)
消化器内科	17 (26)	18 (18)	23 (19)	24 (14)	24 (16)	22 (16)	23 (13)	25 (17)	23 (16)	24 (18)	28 (14)	26 (18)	23 (17)
総合内科	44 (43)	44 (43)	49 (42)	45 (46)	41 (46)	49 (39)	46 (45)	52 (37)	49 (41)	50 (37)	49 (48)	43 (49)	46 (43)
血液・化学療法内科	29 (27)	26 (28)	25 (27)	28 (26)	20 (27)	25 (27)	24 (30)	16 (25)	17 (27)	18 (23)	22 (27)	24 (30)	23 (27)
神経内科	14 (16)	13 (10)	17 (12)	16 (15)	16 (13)	18 (19)	14 (19)	13 (14)	14 (11)	11 (14)	15 (14)	16 (9)	15 (13)
腎臓内科	- -	- -	- -	1 -	2 -	2 -	3 -	5 -	3 -	5 -	8 -	5 -	4 -
内 科 (計)	157 (153)	147 (140)	158 (147)	166 (147)	151 (147)	155 (146)	154 (149)	152 (136)	144 (137)	148 (138)	161 (160)	157 (158)	154 (146)
消化器・一般外科	8 (19)	8 (15)	13 (13)	12 (8)	14 (11)	13 (13)	12 (9)	14 (11)	15 (11)	15 (8)	18 (8)	15 (8)	13 (11)
呼吸器外科	3 -	2 -	1 -	1 -	2 -	2 -	2 -	2 -	2 -	2 (1)	3 (2)	1 (2)	2 (2)
乳腺外科	4 (3)	4 (4)	5 (5)	3 (6)	3 (7)	4 (5)	4 (6)	3 (6)	5 (5)	2 (5)	5 (6)	4 (4)	4 (5)
外 科 (計)	15 (22)	14 (23)	19 (18)	16 (14)	19 (18)	19 (18)	18 (15)	19 (17)	22 (19)	19 (13)	26 (14)	20 (12)	19 (16)
産婦人科	37 (36)	30 (29)	36 (39)	35 (40)	37 (38)	32 (39)	36 (37)	30 (40)	31 (33)	35 (30)	37 (36)	39 (43)	34 (36)
小児科	8 (6)	9 (7)	9 (9)	10 (7)	11 (9)	7 (12)	11 (8)	9 (13)	9 (11)	9 (7)	14 (8)	12 (8)	10 (8)
神経科・精神科	10 (8)	9 (10)	8 (14)	10 (14)	11 (9)	10 (7)	11 (14)	11 (12)	8 (10)	10 (11)	14 (16)	12 (10)	10 (11)
整形外科	22 (33)	23 (28)	24 (34)	27 (26)	17 (28)	20 (26)	23 (26)	25 (24)	27 (22)	26 (20)	24 (20)	22 (21)	23 (25)
皮膚科	10 (7)	9 (9)	15 (7)	10 (11)	10 (14)	7 (14)	7 (10)	6 (9)	7 (10)	9 (11)	9 (13)	10 (10)	9 (10)
泌尿器科	10 (12)	9 (8)	10 (10)	8 (8)	11 (8)	9 (8)	9 (10)	9 (9)	7 (9)	9 (11)	12 (13)	12 (8)	9 (9)
耳鼻咽喉・頭頸部外科	14 (16)	15 (13)	14 (10)	15 (15)	19 (14)	16 (10)	8 (13)	9 (12)	9 (13)	12 (9)	7 (10)	8 (14)	12 (12)
麻酔・緩和医療科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
救急診療センター	13 (8)	11 (10)	8 (8)	13 (10)	16 (10)	13 (11)	12 (10)	9 (13)	8 (13)	10 (11)	8 (9)	9 (11)	11 (10)
合 計	284 (299)	267 (265)	294 (291)	297 (285)	288 (287)	275 (283)	277 (286)	268 (274)	263 (266)	275 (254)	302 (294)	291 (289)	281 (281)

(注) 1. 数値は小数第1位四捨五入

[医事サービス部]

2. () 内は前年同月

3 患者年齢・診療圏構成

外来			大阪市内訳（主要区）										
年齢階級	年度	総数	他府県	大阪府下	大阪市	西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0～9	H24	2,455	85	69	2,301	1,554	267	59	79	59	18	52	113
	H25	2,255	85	47	2,123	1,456	310	58	68	63	23	43	102
	H26	2,161	61	51	2,049	1,397	278	62	62	72	22	46	110
	H27	2,092	75	48	1,969	1,293	293	52	82	76	30	42	101
	H28	1,894	56	47	1,791	1,190	271	44	103	59	30	29	65
10～19	H24	679	32	31	616	373	98	50	23	20	8	5	39
	H25	601	27	29	545	307	93	44	28	23	5	8	37
	H26	587	32	30	525	301	80	42	24	26	9	7	36
	H27	635	33	35	567	324	73	42	42	23	9	4	50
	H28	604	31	32	541	289	97	48	35	20	8	6	38
20～29	H24	2,457	274	331	1,852	962	215	105	79	99	76	51	265
	H25	2,280	264	302	1,714	838	207	91	65	113	82	58	260
	H26	2,235	270	303	1,662	818	207	89	61	108	85	47	247
	H27	2,254	255	303	1,696	791	222	88	61	112	105	44	273
	H28	2,444	317	365	1,762	792	235	88	67	115	106	49	310
30～39	H24	4,342	421	646	3,275	1,653	404	170	115	154	129	127	523
	H25	4,259	381	588	3,290	1,645	377	173	125	167	142	115	546
	H26	4,137	403	578	3,156	1,562	362	157	133	171	146	127	498
	H27	4,221	420	604	3,197	1,528	369	155	148	168	171	121	537
	H28	4,363	436	638	3,289	1,573	360	184	168	199	199	110	496
40～49	H24	4,853	628	946	3,279	1,279	512	294	124	140	109	99	722
	H25	4,997	612	1,020	3,365	1,233	544	276	155	135	126	126	770
	H26	5,077	653	1,000	3,424	1,229	549	269	134	133	139	137	834
	H27	5,541	718	1,152	3,671	1,340	561	328	153	162	161	123	843
	H28	5,806	722	1,245	3,839	1,385	607	341	169	162	156	140	879
50～59	H24	4,136	686	799	2,651	972	407	279	160	114	88	66	565
	H25	4,218	646	881	2,691	949	431	277	148	119	104	72	591
	H26	4,555	719	980	2,856	990	453	279	164	122	114	71	663
	H27	4,722	748	985	2,989	988	504	309	175	127	104	92	690
	H28	4,978	782	1,014	3,182	1,063	522	288	202	131	120	110	746
60～69	H24	5,801	773	1,125	3,903	1,551	585	489	230	206	94	79	669
	H25	5,769	816	1,090	3,863	1,482	566	500	263	201	102	75	684
	H26	5,725	798	1,068	3,859	1,451	589	495	278	207	105	69	665
	H27	5,789	784	1,061	3,944	1,441	600	511	308	196	113	71	704
	H28	5,883	771	1,072	4,040	1,423	654	524	330	200	116	79	714
70～79	H24	4,819	458	775	3,586	1,374	649	460	158	199	87	79	580
	H25	5,085	472	832	3,781	1,416	700	515	180	215	77	70	608
	H26	4,990	464	794	3,732	1,376	713	511	200	193	86	65	588
	H27	4,891	446	721	3,724	1,322	717	533	233	203	87	66	563
	H28	5,143	473	736	3,934	1,371	796	554	276	199	87	64	587
80～89	H24	2,395	168	299	1,928	794	275	249	66	116	81	40	307
	H25	2,539	171	309	2,059	801	356	265	82	121	74	32	328
	H26	2,574	179	280	2,115	798	388	276	86	120	66	43	338
	H27	2,718	184	275	2,259	852	414	275	96	130	73	50	369
	H28	2,834	186	294	2,354	901	450	296	117	125	73	47	345
90以上	H24	275	10	24	241	126	31	25	3	13	7	4	32
	H25	328	16	24	288	143	46	30	3	16	8	7	35
	H26	377	19	25	333	138	58	45	10	18	16	8	40
	H27	432	19	25	388	153	69	47	10	33	18	9	49
	H28	485	20	31	434	176	87	43	21	32	22	12	41
総計	H24	32,212	3,535	5,045	23,632	10,638	3,543	2,180	1,037	1,120	697	602	3,815
	H25	32,331	3,490	5,122	23,719	10,270	3,620	2,229	1,117	1,173	743	606	3,961
	H26	32,418	3,598	5,109	23,711	10,060	3,677	2,225	1,152	1,170	788	620	4,019
	H27	33,295	3,682	5,209	24,404	10,032	3,822	2,340	1,308	1,230	871	622	4,179
	H28	34,434	3,794	5,474	25,166	10,163	4,079	2,410	1,488	1,242	917	646	4,221

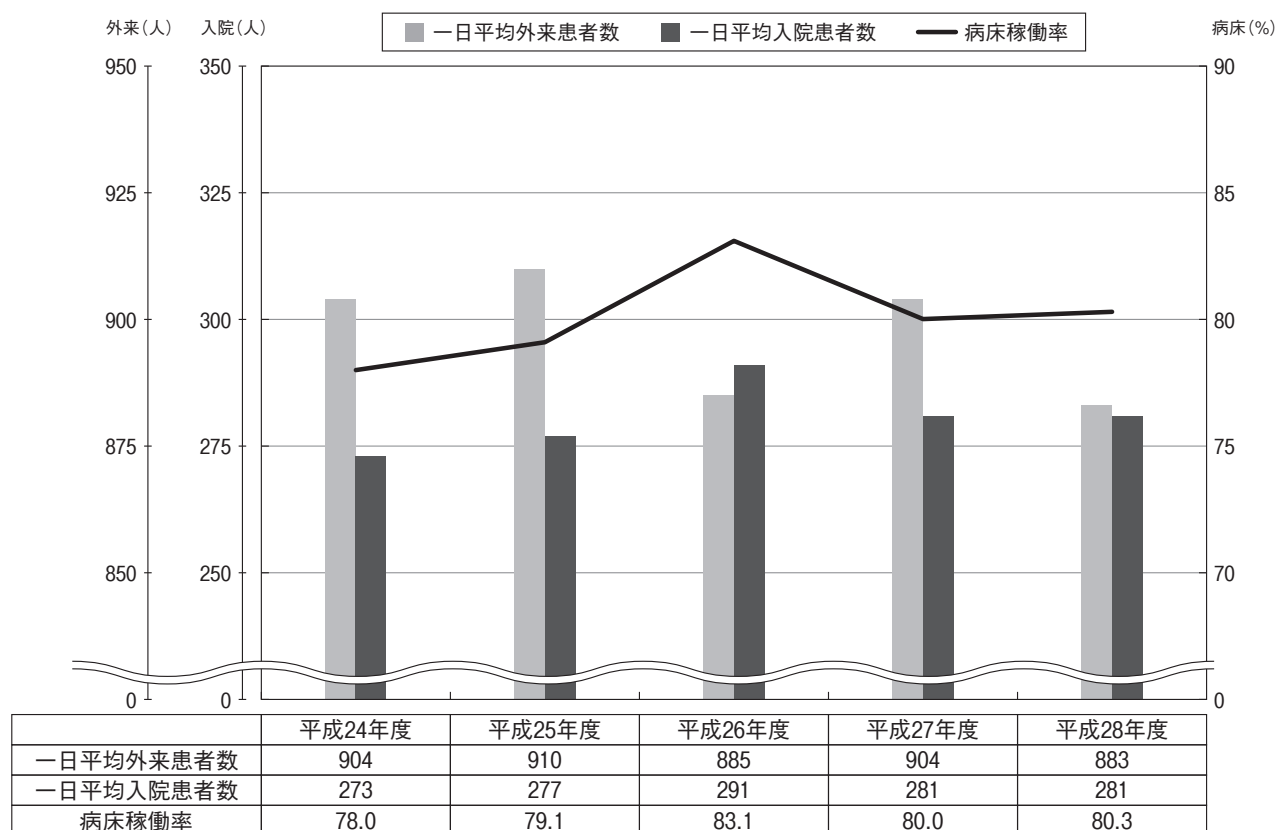
入院			大阪市内訳（主要区）										
年齢階級	年度	総数	他府県	大阪府下	大阪市	西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0～9	H24	298	14	8	276	171	59	59	8	11	5	2	17
	H25	168	9	1	158	101	27	27	4	10	3	5	4
	H26	319	16	9	294	165	70	70	12	10	9	5	17
	H27	481	21	17	443	285	84	9	16	14	7	7	21
	H28	433	16	11	406	228	100	7	27	12	7	13	12
10～19	H24	56	5	2	49	23	11	11	7	4	0	1	1
	H25	52	3	2	47	19	12	12	7	2	2	2	2
	H26	56	1	3	52	22	7	7	8	5	2	1	7
	H27	74	4	4	66	25	11	12	3	5	1	0	9
	H28	74	6	6	62	26	14	5	4	5	4	1	3
20～29	H24	423	30	44	349	157	57	57	19	16	28	16	47
	H25	367	38	39	290	114	51	51	22	14	15	16	42
	H26	433	48	50	335	135	50	50	23	18	28	13	52
	H27	410	49	44	317	109	54	23	10	30	20	11	60
	H28	466	61	75	330	107	54	17	21	22	22	15	72
30～39	H24	805	75	113	617	270	97	97	25	26	23	33	104
	H25	867	84	99	684	290	115	115	39	36	33	36	99
	H26	840	68	111	661	324	87	87	28	29	27	36	97
	H27	925	91	120	714	303	105	38	27	44	31	34	132
	H28	869	83	134	652	265	84	35	42	52	42	32	100
40～49	H24	751	79	166	506	163	81	81	53	14	29	17	131
	H25	785	78	162	545	164	96	96	52	23	23	23	136
	H26	903	113	180	610	195	92	92	63	27	24	25	161
	H27	907	104	191	612	191	87	77	28	29	38	27	135
	H28	823	91	196	536	167	85	45	21	29	26	27	136
50～59	H24	592	88	130	374	132	66	66	41	15	15	13	83
	H25	584	78	128	378	129	55	55	41	22	16	18	85
	H26	655	86	130	439	146	67	68	47	30	19	20	100
	H27	618	77	109	432	151	78	45	25	19	15	15	84
	H28	534	63	95	376	110	71	43	25	17	14	10	86
60～69	H24	1,055	128	210	717	239	114	114	113	55	43	17	122
	H25	1,050	118	223	709	229	104	104	106	60	18	40	141
	H26	1,037	139	167	731	257	129	125	87	49	46	25	131
	H27	967	97	152	718	223	127	110	62	41	19	10	126
	H28	857	89	109	659	217	124	86	63	36	15	11	107
70～79	H24	1,166	95	205	866	304	166	166	98	45	56	23	151
	H25	1,271	105	234	932	318	191	191	121	41	13	60	169
	H26	1,275	79	187	1,009	350	194	196	147	62	54	27	158
	H27	1,191	82	145	964	299	201	131	74	69	19	20	151
	H28	1,042	73	110	859	277	191	123	68	52	12	10	126
80～89	H24	779	40	103	636	266	81	81	73	24	43	26	106
	H25	790	47	103	640	230	106	106	84	34	24	42	111
	H26	845	38	84	723	243	125	126	102	36	52	22	126
	H27	857	41	79	737								

4 病床稼働率

	定床	定床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計 平均	前年度 累計平均
3階	60床	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	46人 76.3%	39人 65.3%	48人 80.5%	45人 75.6%	46人 77.3%	42人 74.2%	42人 69.9%	42人 70.4%	44人 74.0%	44人 73.1%	48人 79.9%	46人 77.3%	44人 74.5%	45人 74.7%
4階(西)	60	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	47 77.6	44 73.0	50 83.9	51 85.4	47 78.1	46 76.6	46 76.4	46 76.6	46 76.8	48 79.3	50 83.4	50 82.7	48 79.2	46 76.3
4階(東)	51	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	41 80.2	42 82.2	43 83.5	44 86.8	43 83.9	42 81.6	39 77.4	40 78.4	37 73.2	42 82.5	44 87.0	41 79.6	42 81.4	42 83.2
5階(西)	44	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	40 90.2	38 86.6	39 89.6	40 90.4	37 84.9	40 91.0	37 83.3	36 81.1	36 81.3	36 82.8	40 91.5	38 87.5	38 86.7	39 88.3
5階(東)	49	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	42 85.5	41 83.3	44 90.7	44 90.5	43 88.2	40 81.2	41 82.7	40 81.1	38 76.6	37 76.2	43 87.2	44 90.0	41 84.4	43 87.1
6階(西)	42	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	39 93.3	34 81.2	39 92.1	39 92.9	38 89.6	36 85.6	38 89.3	36 85.6	33 77.5	36 85.7	39 92.2	37 86.9	37 87.7	36 81.6
6階(東)	27	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	23 84.7	21 78.9	23 84.7	23 84.2	24 87.9	21 76.9	24 90.2	19 72.1	20 74.8	23 86.9	25 91.9	24 88.2	23 83.5	23 84.3
小計	333	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	277 83.1	259 77.8	287 86.1	287 86.1	278 83.5	266 79.9	266 80.0	259 77.8	254 76.2	267 80.1	289 86.8	279 83.9	272 81.8	273 81.9
小児	10	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	4 40.3	5 51.6	5 51.0	7 65.5	6 59.0	4 44.7	7 74.2	6 63.7	6 57.7	4 44.5	8 76.8	7 72.9	6 58.5	6 70.8
未熟児	7	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	3 43.3	2 33.2	3 36.7	4 53.5	4 53.5	2 31.0	3 40.1	3 37.6	3 47.5	4 59.0	6 79.6	4 59.9	3 47.9	3 38.1
計	350	1日平均患者数(人) 稼働率(%)	284 81.1	267 76.2	294 84.1	297 84.9	288 82.2	273 78.0	277 79.0	268 76.6	263 75.1	275 78.7	302 86.3	291 83.1	282 80.4	281 80.3

* 稼働率 = 1日平均患者数 / 定床

[医事サービス部]



5 救急患者数

	人 数													(内、入 院 数)														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	入院計		
循環器内科	35 (15)	41 (16)	49 (16)	44 (16)	32 (12)	38 (15)	49 (10)	35 (9)	38 (20)	48 (15)	27 (14)	35 (14)	471 (172)	21 (11)	26 (12)	33 (14)	23 (9)	27 (9)	27 (11)	35 (7)	28 (7)	24 (15)	32 (12)	22 (13)	27 (11)	325 (131)		
消化器内科	26 (6)	29 (7)	37 (12)	30 (8)	18 (3)	20 (2)	45 (6)	40 (8)	32 (10)	38 (11)	33 (12)	39 (10)	387 (95)	19 (6)	23 (6)	31 (10)	21 (5)	14 (3)	15 (2)	39 (6)	33 (6)	29 (7)	33 (8)	27 (10)	29 (8)	313 (77)		
総合内科	67 (14)	52 (18)	55 (13)	50 (15)	63 (15)	66 (21)	64 (16)	55 (13)	69 (20)	73 (19)	45 (11)	67 (19)	726 (194)	38 (8)	28 (10)	39 (12)	35 (12)	41 (12)	48 (17)	41 (14)	37 (9)	45 (13)	44 (14)	33 (7)	47 (16)	476 (144)		
血液・化学療法内科	15 (6)	17 (7)	15 (3)	18 (1)	17 (1)	12 (4)	15 (3)	15 (5)	14 (2)	20 (5)	18 (4)	21 (5)	197 (46)	10 (6)	14 (6)	12 (2)	11 (1)	7 (1)	10 (4)	10 (3)	9 (4)	7 (1)	15 (5)	16 (4)	15 (4)	136 (41)		
神経内科	12 (4)	16 (2)	13 (5)	8 (2)	12 (5)	19 (5)	17 (7)	13 (3)	16 (4)	18 (5)	14 (8)	18 (5)	176 (55)	9 (3)	12 (2)	7 (4)	5 (1)	7 (5)	7 (3)	6 (4)	9 (2)	7 (3)	8 (2)	7 (6)	8 (3)	92 (38)		
腎臓内科	- -	- -	- -	1 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (2)	1 (1)	2 (0)	3 (0)	3 (1)	19 (4)	- -	- -	- -	1 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (2)	1 (1)	2 (0)	1 (0)	2 (1)	16 (4)		
内科（計）	155 (45)	155 (50)	169 (49)	151 (42)	143 (36)	158 (47)	191 (42)	162 (40)	170 (57)	199 (55)	140 (49)	183 (54)	1,976 (566)	97 (34)	103 (36)	122 (42)	96 (28)	97 (30)	110 (37)	132 (34)	120 (30)	113 (40)	134 (41)	106 (40)	128 (43)	1,358 (435)		
消化器・一般外科	11 (5)	10 (2)	9 (3)	9 (2)	13 (5)	18 (6)	12 (2)	6 (1)	14 (2)	15 (6)	13 (6)	8 (2)	138 (42)	7 (3)	5 (1)	5 (3)	5 (1)	10 (4)	11 (5)	10 (1)	6 (1)	7 (1)	12 (5)	10 (5)	6 (2)	94 (32)		
呼吸器外科	0 (0)	2 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	10 (3)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	7 (3)		
乳腺外科	7 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	3 (0)	8 (0)	5 (0)	1 (0)	7 (0)	5 (1)	2 (1)	4 (1)	46 (3)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	7 (2)		
外科（計）	18 (5)	13 (3)	10 (3)	12 (2)	16 (5)	27 (6)	18 (2)	8 (2)	22 (2)	22 (8)	15 (7)	13 (3)	194 (48)	8 (3)	7 (2)	6 (3)	5 (1)	11 (4)	14 (5)	10 (1)	7 (2)	8 (1)	14 (7)	11 (6)	7 (2)	108 (37)		
産婦人科	180 (0)	191 (2)	149 (1)	152 (1)	182 (3)	181 (3)	159 (4)	180 (3)	193 (4)	181 (4)	162 (3)	187 (3)	2,097 (31)	39 (0)	52 (1)	26 (1)	39 (1)	40 (0)	33 (3)	40 (4)	33 (2)	32 (1)	54 (2)	40 (3)	42 (2)	470 (20)		
小児科	18 (1)	25 (0)	31 (0)	32 (0)	29 (0)	20 (0)	30 (0)	19 (2)	23 (0)	15 (1)	23 (0)	25 (2)	290 (6)	16 (1)	24 (0)	30 (0)	31 (0)	28 (0)	20 (0)	30 (0)	18 (0)	20 (0)	14 (1)	23 (0)	25 (2)	279 (4)		
神経科・精神科	23 (2)	26 (1)	20 (0)	17 (1)	23 (0)	24 (0)	21 (3)	19 (0)	13 (2)	26 (2)	11 (0)	22 (2)	245 (13)	5 (1)	0 (0)	3 (0)	2 (1)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (1)	2 (1)	3 (0)	2 (0)	25 (4)		
整形外科	14 (5)	17 (5)	14 (3)	17 (9)	20 (5)	18 (9)	31 (13)	31 (12)	25 (11)	25 (11)	11 (4)	24 (6)	247 (93)	9 (4)	10 (4)	9 (1)	11 (8)	9 (3)	14 (8)	10 (6)	17 (7)	11 (6)	14 (8)	7 (3)	12 (2)	133 (60)		
皮膚科	20 (0)	22 (1)	40 (1)	16 (1)	25 (0)	30 (0)	32 (1)	13 (0)	16 (1)	16 (2)	17 (1)	18 (0)	265 (8)	11 (0)	17 (1)	31 (0)	13 (1)	14 (0)	14 (0)	14 (0)	12 (0)	15 (1)	13 (0)	9 (0)	10 (0)	173 (3)		
泌尿器科	16 (4)	47 (1)	37 (2)	48 (2)	35 (1)	51 (1)	22 (3)	38 (1)	38 (1)	55 (3)	44 (3)	69 (6)	500 (28)	5 (3)	5 (1)	8 (1)	3 (1)	10 (1)	7 (1)	7 (2)	2 (0)	8 (1)	3 (1)	6 (2)	11 (4)	75 (18)		
眼科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
耳鼻咽喉・頭頸部外科	38 (6)	28 (6)	13 (1)	19 (5)	27 (3)	25 (5)	16 (3)	28 (5)	39 (6)	29 (4)	21 (5)	21 (6)	304 (55)	15 (3)	15 (3)	6 (0)	11 (3)	12 (2)	11 (2)	7 (1)	12 (5)	11 (3)	10 (3)	8 (3)	10 (4)	128 (32)		
放射線科	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
麻酔・緩和医療科	3 (0)	4 (0)	5 (0)	4 (0)	5 (0)	6 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	5 (1)	6 (0)	44 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	5 (1)		
救急診療センター	162 (95)	146 (94)	128 (92)	178 (122)	190 (137)	181 (135)	210 (148)	179 (127)	225 (146)	224 (128)	185 (132)	158 (118)	2,166 (1,474)	40 (25)	45 (35)	37 (25)	59 (50)	68 (48)	58 (46)	68 (52)	51 (38)	69 (56)	58 (44)	49 (43)	53 (48)	655 (510)		
合 計	647 (163)	677 (163)	616 (152)	646 (185)	695 (190)	721 (206)	733 (219)	677 (192)	771 (230)	794 (218)	634 (205)	726 (200)	8,337 (2,323)	245 (74)	278 (83)	278 (73)	271 (94)	293 (88)	282 (102)	320 (100)	274 (84)	288 (110)	316 (108)	264 (101)	300 (107)	3,409 (1,124)		

(注) 各欄下段の () の数値は救急車で搬送された患者数

[医事サービス部、救急当直委員会]

6 退院患者医療評価指標

① 退院患者統計

注1) 疾病分類は厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10準拠」を使用した。

平成18年退院患者から厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10（2003年版）準拠」を使用した。

注2) 手術分類は（一財）医療情報システム開発センター監修「手術及び処置の分類 ICD・9・CM」を使用した。

平成18年退院患者から日本病院会版2003「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。

注3) データは診療録管理システムから集計をした。

注4) 実退院患者1入院、1主病名、1主手術で集計をした。

	算定式	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成24年度 (2012.4 -2013.3)	平成25年度 (2013.4 -2014.3)	平成26年度 (2014.4 -2015.3)	平成27年度 (2015.4 -2016.3)	平成28年度 (2016.4 -2017.3)
病床数(床)		350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350
一日平均在院 患者数(人)	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{365\text{日}}$	272	269	280	283	278	278	273	277	291	284	281
病床稼働率(%)	$\frac{1\text{日平均在院患者数}}{350\text{床}}$	77.7	76.9	80.0	80.9	79.4	79.4	78.0	79.1	83.1	81.1	80.3
平均在院日数(日)	$\frac{\text{年間延入院患者数}-\text{退院患者数}}{(\text{入院}+\text{退院患者数})\div 2}$	14.6	14.1	14.2	13.2	13.3	13.3	12.3	12.6	12.1	12.8	12.6
実退院患者数(人)		6,350	6,486	6,740	7,283	7,119	7,396	7,490	7,435	8,119	8,244	7,573
転科数		158	140	176	206	164	209	208	192	241	278	870
総退院患者数		6,508	6,626	6,916	7,489	7,283	7,605	7,698	7,627	8,360	8,522	8,443
実退院患者平均 在院日数(日)	$\frac{\text{実退院患者入院延日数}}{\text{実退院患者数}}$	15.6	15.0	15.5	14.1	14.6	13.4	13.2	13.5	13.2	12.3	13.6
院内粗死亡率(%)	$\frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.7	2.4	2.5	2.2	2.1	2.1	2.3	2.8	2.8	2.4	2.8
院内精死亡率(%)	$\frac{\text{入院48時間超死亡数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.4	2.2	2.4	2.2	1.8	1.9	2.1	2.4	2.5	2.3	2.4
剖検率(%)	$\frac{\text{剖検患者数}}{\text{死亡患者数}} \times 100$	8.9	7.2	5.8	9.6	6.6	7.7	8.1	9.3	6.2	7.5	5.7
術後死亡率(%)	$\frac{\text{術後10日以内死亡患者数}}{\text{総手術数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	-	0.05	0.02	-
帝王切開率(%)	$\frac{\text{帝王切開数}}{\text{分娩数}} \times 100$	23.4	19.1	17.0	18.8	16.8	16.6	14.2	16.6	15.7	16.8	19.4
分娩死亡率(%)	$\frac{\text{分娩による妊産婦死亡数}}{\text{分娩数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新生児死亡率(%)	$\frac{\text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 100$	-	-	-	0.2	-	-	-	-	-	-	-
紹介入院率(%)	$\frac{\text{紹介入院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	35.9	38.0	40.5	40.8	38.8	38.1	39.3	41.5	39.8	40.1	41.6
対診率(%)	$\frac{\text{対診数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	43.1	43.6	41.1	36.1	40.2	44.9	45.2	47.3	40.6	43.0	49.1

[診療情報管理室]

② 診療科別・月別・退院患者数、平均在院日数

診療科		平均在院 日数	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡	剖検
総数	計	13.6	7,573	637	609	609	673	692	619	651	632	661	598	567	625	217	12
	男	14.6	3,179	251	247	253	286	289	285	283	267	283	251	232	252	116	5
	女	13.0	4,394	386	362	356	387	403	334	368	365	378	347	335	373	101	7
循環器内科	計	14.4	849	81	81	77	78	74	60	64	68	74	67	67	58	19	2
	男	12.3	480	40	47	47	39	42	35	36	37	43	43	41	30	10	-
	女	17.0	369	41	34	30	39	32	25	28	31	31	24	26	28	9	2
消化器内科	計	11.6	720	52	48	66	64	65	56	63	65	66	49	57	69	45	-
	男	10.2	411	31	25	38	40	39	29	41	35	39	27	30	37	23	-
	女	13.5	309	21	23	28	24	26	27	22	30	27	22	27	32	22	-
総合内科	計	17.8	941	75	71	72	74	71	83	80	91	97	82	71	74	59	5
	男	18.3	508	43	40	36	31	39	49	48	49	51	37	40	45	36	4
	女	17.3	433	32	31	36	43	32	34	32	42	46	45	31	29	23	1
血液・化学療法内科	計	29.6	291	33	26	19	27	18	26	31	23	19	26	21	22	43	4
	男	32.7	183	21	15	12	19	12	21	19	13	8	16	13	14	28	1
	女	24.3	108	12	11	7	8	6	5	12	10	11	10	8	8	15	3
神経内科	計	35.1	156	13	10	12	16	12	16	16	12	17	10	10	12	5	-
	男	35.5	67	8	5	7	7	4	6	9	5	6	3	3	4	3	-
	女	34.8	89	5	5	5	9	8	10	7	7	11	7	7	8	2	-
腎臓内科	計	18.5	56	-	-	-	2	2	6	5	7	10	6	10	8	-	-
	男	17.9	42	-	-	-	2	2	3	4	5	7	5	8	6	-	-
	女	20.1	14	-	-	-	-	-	3	1	2	3	1	2	2	-	-
消化器・一般外科	計	13.4	338	22	14	26	28	27	36	34	34	27	31	30	29	7	-
	男	12.3	221	14	7	14	17	19	18	22	24	23	25	17	21	3	-
	女	15.5	117	8	7	12	11	8	18	12	10	4	6	13	8	4	-
呼吸器外科	計	13.1	54	4	7	4	4	4	6	4	3	6	4	5	3	-	-
	男	13.1	36	3	4	3	3	2	5	4	1	5	-	4	2	-	-
	女	12.9	18	1	3	1	1	2	1	-	2	1	4	1	1	-	-
乳腺外科	計	7.9	176	21	16	11	12	16	14	14	11	20	9	16	16	2	-
	男	8.0	2	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
	女	7.9	174	21	16	11	12	16	14	13	11	19	9	16	16	2	-
産婦人科	計	7.7	1,650	153	128	132	146	156	123	141	131	131	134	125	150	8	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	7.7	1,650	153	128	132	146	156	123	141	131	131	134	125	150	8	-
小児科	計	7.4	476	38	38	44	46	56	28	39	37	31	41	36	42	-	-
	男	7.2	265	23	21	21	26	30	17	20	23	17	25	17	25	-	-
	女	7.6	211	15	17	23	20	26	11	19	14	14	16	19	17	-	-
神経科・精神科	計	45.3	88	8	3	8	10	9	7	7	10	5	4	4	13	-	-
	男	43.3	27	4	2	5	3	-	3	3	1	1	1	-	4	-	-
	女	46.2	61	4	1	3	7	9	4	4	9	4	3	4	9	-	-
整形外科	計	30.9	287	16	30	21	27	23	25	24	24	33	22	25	17	-	-
	男	27.5	107	5	6	8	13	8	13	9	11	10	8	10	6	-	-
	女	32.9	180	11	24	13	14	15	12	15	13	23	14	15	11	-	-
皮膚科	計	12.5	263	24	25	34	24	29	16	19	16	18	21	15	22	1	-
	男	12.7	133	14	15	15	11	18	7	9	3	8	11	9	13	-	-
	女	12.3	130	10	10	19	13	11	9	10	13	10	10	6	9	1	-
泌尿器科	計	10.5	332	26	26	23	35	36	29	34	25	24	24	24	26	10	-
	男	10.6	256	17	17	18	30	30	25	28	19	18	19	18	17	6	-
	女	10.2	76	9	9	5	5	6	4	6	6	6	5	6	9	4	-
耳鼻咽喉・頭頸部外科	計	11.3	389	37	47	38	33	40	44	26	28	28	27	19	22	4	1
	男	13.0	200	15	27	18	18	17	30	9	18	14	14	10	10	3	-
	女	9.4	189	22	20	20	15	23	14	17	10	14	13	9	12	1	1
麻酔・緩和医療科	計	4.5	8	-	1	-	1	2	2	1	-	-	-	-	1	-	-
	男	3.0	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	4.7	7	-	-	-	1	2	2	1	-	-	-	-	1	-	-
救急診療センター	計	7.7	498	34	38	22	46	52	42	48	47	55	41	32	41	14	-
	男	6.4	239	13	15	11	27	27	24	20	23	32	17	12	18	4	-
	女	8.9	259	21	23	11	19	25	18	28	24	23	24	20	23	10	-

[診療情報管理室]

③ 疾病統計

疾病別・診療科別・患者数

コード	国際分類大項目分類	総 数	循環器 内科	消化器 内科	総合内 科	農林水 産学医 科	神経内 科	腎臓内 科	消化器 一般外 科	呼吸器 外科	乳腺外 科	産婦人 科	小児科	神経科 精神科	整形外科	皮膚科	泌尿器 科	耳鼻咽喉 科	麻酔緩和 医療科	救急診療 センター
	総数	計 7,573 男 3,179 女 4,394	849 480 369	720 411 309	941 508 433	291 183 108	156 67 89	56 42 14	338 221 117	54 36 18	176 2 174	1,650 - 1,650	476 265 211	88 27 61	287 107 180	263 133 130	332 256 76	389 200 189	8 1 7	498 239 259
I	感染症及び 寄生虫症	計 297 男 130 女 167	10 7 3	30 10 20	46 18 28	4 2 2	6 1 5	- - -	3 - 3	1 - 1	- - -	2 - 2	57 37 20	- - -	- - -	95 39 56	4 4 -	1 - 1	- - -	38 12 26
II	新生物 (悪性新生物)	計 2,032 男 821 女 1,211	5 3 2	319 204 115	171 123 48	230 147 83	2 1 1	- - -	173 118 55	40 28 12	158 1 157	664 - 664	- - -	- - -	3 2 1	24 12 12	146 125 21	89 56 33	6 - 6	2 1 1
III	血液及び造血器の 疾患並びに免疫機 構の障害	計 64 男 34 女 30	3 1 2	- - -	7 5 16	34 18 16	1 - 1	4 4 -	1 - 1	- - -	- - -	5 - 5	6 4 2	- - -	- - -	1 - 1	- - -	- - -	- - -	2 2 -
IV	内分泌、栄養及び 代謝疾患	計 360 男 182 女 178	28 13 15	8 7 1	247 117 130	3 3 -	9 2 7	19 16 3	- - -	- - -	- - -	- - -	9 4 5	1 1 -	- - -	1 1 -	4 1 3	2 - 2	1 1 -	28 16 12
V	精神及び行動の 障害	計 280 男 133 女 147	2 1 1	5 3 2	11 1 10	1 - 1	3 - 3	- - -	- - -	- - -	- - -	1 - 1	- - -	80 22 58	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	177 106 71
VI	神経系の疾患	計 125 男 66 女 59	19 15 4	3 1 2	5 3 2	1 1 -	51 18 33	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	4 2 2	6 3 3	- - -	- - -	30 22 8	1 - 1	5 1 4
VII	眼及び付属器の 疾患	計 3 男 3 女 -	- - -	- - -	1 1 -	- 2 -	2 - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -
VIII	耳及び乳様突起の 疾患	計 104 男 36 女 68	1 - 1	- - -	1 - 1	- - -	5 1 4	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	88 32 56	- - -	9 3 6
IX	循環器系の疾患	計 767 男 443 女 324	653 378 275	11 7 4	23 15 8	3 2 1	45 26 19	- - -	8 6 2	- - -	- - -	3 - 3	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	5 - 5	- - -	16 9 7
X	呼吸器系の疾患	計 722 男 395 女 327	39 24 15	21 13 8	235 138 97	9 7 2	14 8 6	- - -	- - -	10 7 3	1 - 1	2 - 2	162 83 79	- - -	- - -	- - -	- - -	143 73 70	- - -	86 42 44
XI	消化器系の疾患	計 514 男 282 女 232	15 7 8	275 146 129	34 19 15	4 2 1	3 2 1	- - -	136 86 50	- - -	- - -	6 - 6	6 5 1	- - -	- - -	- - -	- - -	9 5 4	- - -	25 9 16
XII	皮膚及び 皮下組織の疾患	計 151 男 87 女 64	3 1 2	1 - 1	7 4 3	- - -	- - -	- - -	2 1 1	- - -	- - -	- - -	2 1 1	- - -	1 - 1	130 78 52	- - -	- - -	- - -	5 2 3
XIII	筋骨格系及び 結合組織の疾患	計 217 男 96 女 121	4 2 2	2 1 1	47 14 33	1 1 -	- 1 -	2 1 1	2 2 -	- - -	- - -	- - -	11 7 4	- - -	125 56 69	2 - 2	1 1 -	- - -	- - -	20 11 9
XIV	腎尿路生殖器系の 疾患	計 732 男 156 女 576	20 6 14	8 3 5	39 12 27	- 4 -	9 4 5	28 19 9	1 1 -	- - -	5 - 5	423 - 423	10 4 6	- - -	- - -	- - -	149 98 51	- - -	- - -	40 9 31
XV	妊娠、分娩及び 産じょく	計 527 男 - 女 527	- - -	- - -	1 - 1	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	526 - 526	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -
XVI	周産期に発生した 病態	計 180 男 100 女 80	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	180 100 80	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -
XVII	先天奇形、変形 及び染色体異常	計 13 男 4 女 9	2 - 2	- - -	- - -	- - -	- - -	1 - 1	- - -	- - -	- - -	- - -	7 2 5	- - -	- - -	- - -	1 1 -	2 1 -	- - -	- - -
XVIII	症状、徴候及び異常臨床 所見・異常検査所見で 他に分類されないもの	計 129 男 54 女 75	17 5 12	8 3 5	17 6 11	1 - 1	5 2 3	1 1 -	4 2 2	1 1 -	10 1 9	2 - 2	26 18 8	1 1 -	- - -	- - -	2 1 1	11 5 6	- - -	23 8 15
XIX	損傷、中毒及び その他の外因の 影響	計 227 男 70 女 157	8 2 6	5 3 2	14 3 11	- - -	1 - 1	1 1 -	4 3 1	1 - 1	2 - 2	10 - 10	- - -	2 1 1	139 40 99	10 3 7	2 2 -	6 4 2	- - -	22 8 14
XXI	健康状態に影響を 及ぼす要因及び 保健サービスの利用	計 129 男 87 女 42	20 15 5	24 10 14	35 29 6	- - -	- - -	- - -	4 2 2	1 - 1	- - -	6 - 6	- - -	- - -	13 6 7	- - -	23 23 -	3 2 1	- - -	- - -

[診療情報管理室]

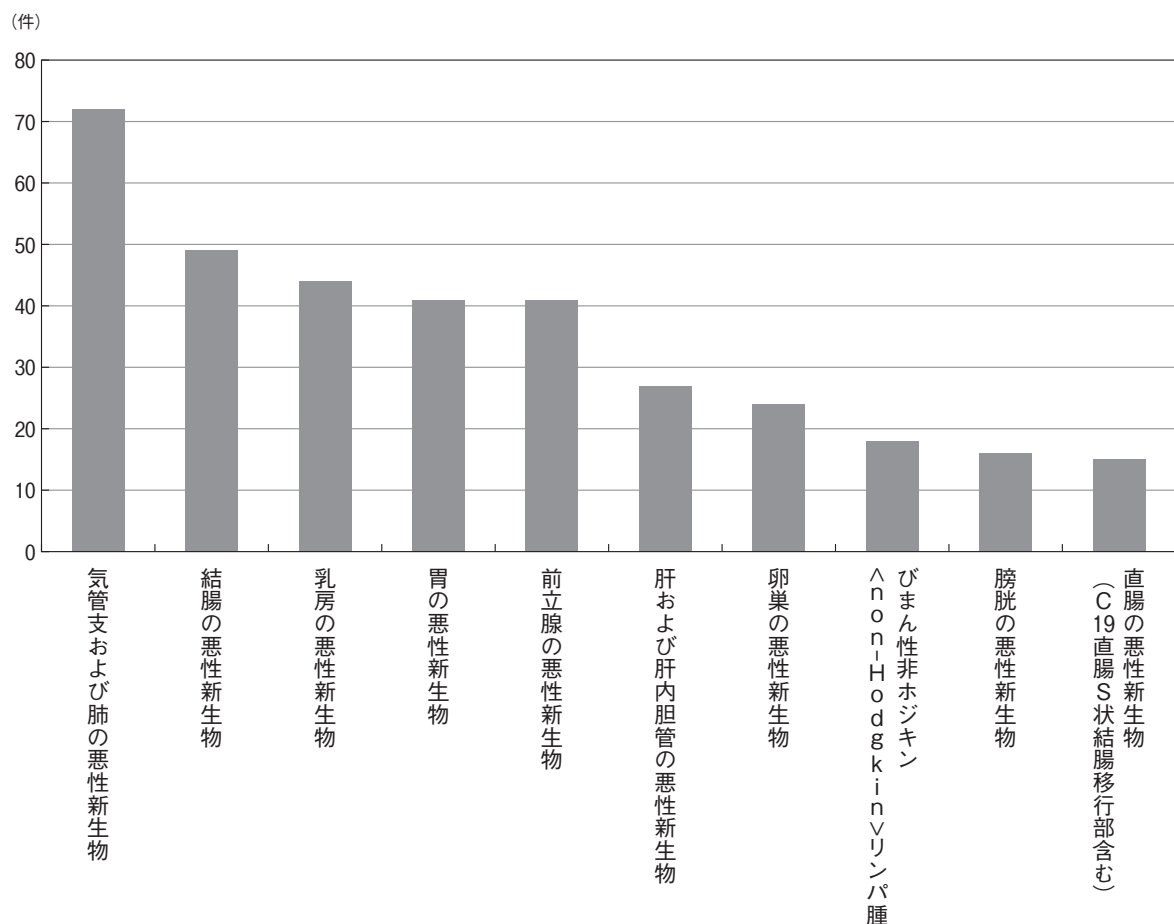
④ 悪性新生物統計

	算定式	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成24年度 (2012.4 -2013.3)	平成25年度 (2013.4 -2014.3)	平成26年度 (2014.4 -2015.3)	平成27年度 (2015.4 -2016.3)	平成28年度 (2016.4 -2017.3)
悪性新生物： 比率（％）	$\frac{\text{悪性新生物患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	14.0	15.3	14.7	16.1	14.8	14.7	16.0	14.5	14.6	16.2
悪性新生物： 新発患者数		454	503	548	553	465	445	423	403	447	519

○ H28.4～H29.3－初発がん統計トップ10（件数・平均在院日数）

疾患名	件数	平均在院日数
気管支および肺の悪性新生物	72	23
結腸の悪性新生物	49	15
乳房の悪性新生物	44	13
胃の悪性新生物	41	18
前立腺の悪性新生物	41	5
肝および肝内胆管の悪性新生物	27	16
卵巣の悪性新生物	24	15
びまん性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫	18	34
膀胱の悪性新生物	16	14
直腸の悪性新生物（C19直腸S状結腸移行部含む）	15	22

[診療情報管理室]



⑤ 診療科別・月別・死亡（剖検）患者数

診療科	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	兼 科 患者数	退 院 患者数	粗死亡率 (%)	精死亡率 (%)	剖検率 (%)
総数	死亡 剖検	217 (12)	20 (-)	24 (-)	11 (-)	16 (1)	16 (1)	15 (1)	13 (-)	24 (3)	21 (2)	21 (-)	14 (2)	22 (2)	33 (3)	7,573	217 189	12 5.5
循環器内科	死亡 剖検	19 (2)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (1)	1 (-)	2 (1)	2 (-)	1 (-)	2 (-)	4 (-)	2 (-)	- (-)	4 (1)	849	19 16	2 10.5
消化器内科	死亡 剖検	45 (-)	2 (-)	5 (-)	2 (-)	3 (-)	3 (-)	2 (-)	3 (-)	9 (-)	5 (-)	2 (-)	3 (-)	6 (-)	6 (-)	720	45 41	- -
総合内科	死亡 剖検	59 (5)	5 (-)	6 (-)	2 (-)	4 (-)	3 (-)	5 (-)	4 (-)	7 (2)	8 (-)	5 (-)	4 (1)	6 (2)	7 (1)	941	59 52	5 8.5
血液・ 化学療法内科	死亡 剖検	43 (4)	6 (-)	5 (-)	3 (-)	5 (-)	1 (-)	5 (-)	2 (-)	5 (1)	3 (2)	3 (-)	3 (1)	2 (-)	6 (-)	291	43 36	4 9.3
神経内科	死亡 剖検	5 (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	156	5 3	- -
腎臓内科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	56	- -	- -
消化器・ 一般外科	死亡 剖検	7 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	2 (-)	2 (-)	2 (-)	338	7 5	- -
呼吸器外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	54	- -	- -
乳腺外科	死亡 剖検	2 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	176	2 2	- -
産婦人科	死亡 剖検	8 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	3 (-)	1,650	8 8	- -
小児科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	476	- -	- -
神経科・ 精神科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	88	- -	- -
整形外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	287	- -	- -
皮膚科	死亡 剖検	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	263	1 1	- -
泌尿器科	死亡 剖検	10 (-)	3 (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	2 (-)	332	10 9	- -
耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	死亡 剖検	4 (1)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (1)	2 (1)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (1)	389	4 4	1 25.0
麻酔・ 緩和医療科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	8	- -	- -
救急診療 センター	死亡 剖検	14 (-)	2 (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	2 (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	498	14 12	- -

(注) 1. 粗死亡率 $\frac{\text{死亡患者数}}{\text{退院患者総数}} \times 100$

[診療情報管理室]

2. 精死亡率 $\frac{\text{入院48時間以後死亡数}}{\text{退院患者総数}} \times 100$

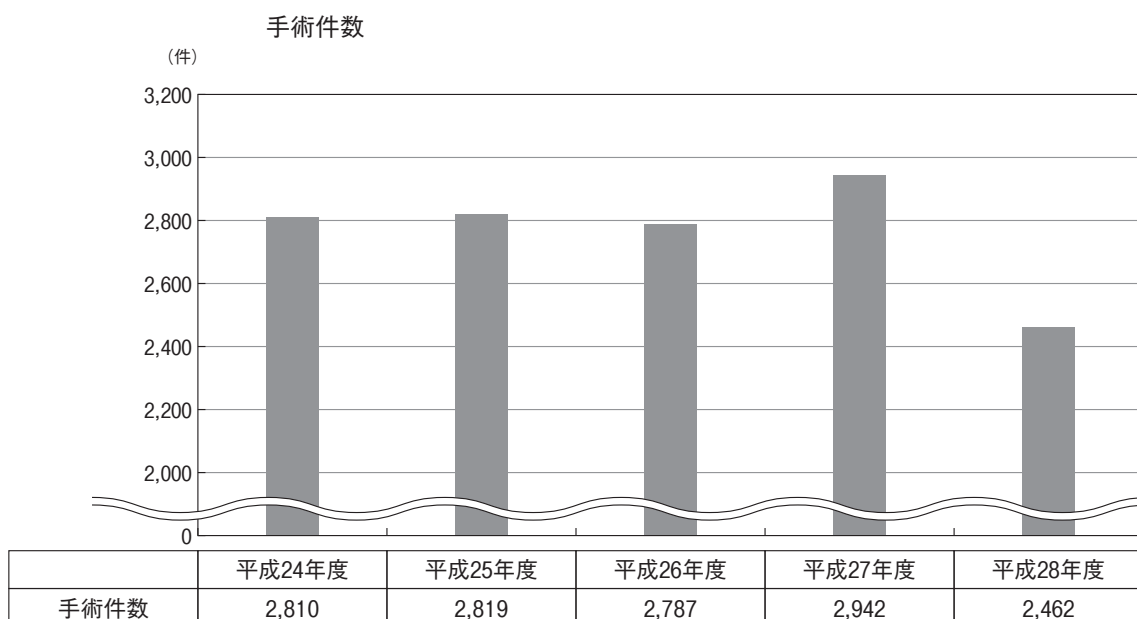
7 手術件数

① 診療科別・月別手術件数（中央手術室実施）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	28年度 合計	27年度 合計
循環器内科 (全麻)	1 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (1)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	5 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	21 (1)	23 (0)
消化器・一般外科 (全麻)	17 (12)	14 (11)	19 (16)	26 (21)	23 (21)	28 (25)	21 (15)	25 (22)	24 (23)	18 (15)	22 (18)	24 (22)	261 (221)	209 (157)
呼吸器外科 (全麻)	6 (6)	2 (2)	3 (3)	4 (4)	6 (6)	3 (3)	4 (4)	4 (4)	5 (5)	5 (5)	5 (4)	2 (2)	49 (48)	9 (9)
乳腺外科 (全麻)	4 (2)	15 (5)	7 (7)	4 (3)	3 (1)	5 (4)	5 (2)	4 (4)	7 (5)	4 (3)	8 (6)	5 (5)	71 (47)	108 (77)
産婦人科 (全麻)	85 (71)	70 (50)	97 (74)	96 (73)	107 (79)	84 (69)	99 (83)	92 (70)	80 (67)	95 (74)	83 (71)	98 (79)	1,086 (860)	1,105 (834)
整形外科 (全麻)	21 (12)	21 (18)	30 (16)	17 (10)	19 (16)	20 (12)	19 (11)	23 (12)	21 (16)	22 (15)	21 (10)	18 (13)	252 (161)	258 (45)
皮膚科 (全麻)	18 (0)	19 (0)	20 (0)	23 (0)	20 (0)	25 (0)	17 (0)	22 (0)	18 (0)	12 (0)	21 (0)	29 (0)	244 (0)	211 (0)
泌尿器科 (全麻)	16 (5)	11 (4)	14 (3)	22 (5)	26 (6)	20 (6)	22 (6)	16 (7)	16 (7)	22 (6)	13 (3)	21 (10)	219 (68)	241 (55)
耳鼻咽喉・頭頸部外科 (全麻)	26 (18)	28 (20)	22 (9)	13 (9)	26 (20)	26 (18)	21 (11)	20 (14)	19 (11)	18 (14)	18 (10)	15 (11)	252 (165)	293 (199)
麻酔・緩和医療科 (全麻)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (0)	3 (0)
合 計 (全麻)	195 (126)	185 (110)	214 (128)	208 (126)	234 (149)	211 (137)	208 (132)	209 (133)	195 (134)	196 (132)	193 (122)	214 (142)	2,462 (1,571)	2,942 (1,376)

中央手術室以外での手術、麻酔は含まれない。

[中央手術室]



② 診療科別・年間手術件数（総件数の内、上位のみ）

循環器内科

総件数	189
経皮的冠動脈ステント留置術(その他)	104
ペースメーカー移植術(経静脈電極)	15
経皮的冠動脈形成術(その他)	13
四肢の血管拡張術・血栓除去術	13
体外ペースメーカー移植術	12
経皮的冠動脈ステント留置術(不安定狭心症)	11
ペースメーカー交換術	6
経皮的冠動脈ステント留置術(急性心筋梗塞)	5

消化器内科

総件数	381
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 (長径 2 cm未満)	113
内視鏡的胆道ステント留置術	47
血管塞栓術(頭部、胸腔、腹腔内血管等) (選択的動脈化学塞栓術)	38
内視鏡的消化管止血術	38
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 (長径 2 cm以上)	24
内視鏡的乳頭切開術(乳頭括約筋切開のみ)	22
内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	13
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 (早期悪性腫瘍粘膜下層)	12
小腸結腸内視鏡的止血術	10

総合内科

総件数	4
創傷処理(筋肉、臓器に達しない) (長径 5 cm以上10cm未満)	2
創傷処理(筋肉、臓器に達する) (長径 5 cm未満)	2

血液・化学療法内科

総件数	4
造血幹細胞採取(末梢血幹細胞採取) (自家移植)	2
創傷処理(筋肉、臓器に達しない) (長径 5 cm以上10cm未満)	1
創傷処理(筋肉、臓器に達する) (長径 5 cm未満)	1

消化器・一般外科

総件数	263
腹腔鏡下胆嚢摘出術	48
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	36
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	27
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 (長径 2 cm未満)	16
腹腔鏡下虫垂切除術 (虫垂周囲膿瘍を伴うもの)	10
鼠径ヘルニア手術	7
腹腔鏡下虫垂切除術 (虫垂周囲膿瘍を伴わないもの)	7
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	6
痔核手術(脱肛を含む)(根治手術)	6
腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術)	6

呼吸器外科

総件数	50
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (肺葉切除又は 1 肺葉を超える)	20
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(部分切除)	8
胸腔鏡下肺切除術 (肺嚢胞手術(楔状部分切除))	8
肺悪性腫瘍手術 (肺葉切除又は 1 肺葉を超える)	4

乳腺外科

総件数	81
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)	17
乳腺腫瘍摘出術(長径 5 cm未満)	12
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術・胸筋切除を併施しない)	10
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術(腋窩部郭清を伴わない))	8
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わない))	8
乳腺腫瘍摘出術(長径 5 cm以上)	7
乳腺悪性腫瘍手術 (乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わない))	5
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴う))	4

産婦人科

総件数	1,165
子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(腹腔鏡)	232
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	218
腹腔鏡下子宮筋腫摘出(核出)術	186
子宮頸部(腔部)切除術	55
子宮内膜ポリープ切除術	43
子宮鏡下子宮筋腫摘出術	38
帝王切開術(緊急帝王切開)	36
卵管全摘除術(両側)(腹腔鏡)	32
帝王切開術(選択帝王切開)	31
膀胱脱手術(メッシュ使用)	31
子宮内膜搔爬術	23
鼻腔粘膜焼灼術	22
流産手術(妊娠11週まで)	21
腹腔鏡下試験開腹術	20

整形外科

総件数	282
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(椎弓切除)	40
骨折観血の手術(大腿)	29
超音波骨折治療法(一連につき)	22
人工関節置換術(膝)	19
骨折観血の手術(前腕)	16
人工骨頭挿入術(股)	16
骨折観血の手術(上腕)	14
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(後方椎体固定)	14
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(椎弓形成)	13
骨折観血の手術(下腿)	10

皮膚科

総件数	47
皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	10
皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外)(長径3cm以上6cm未満)	6
皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外)(長径6cm以上12cm未満)	6
皮膚切開術(長径10cm未満)	5
皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外)(長径3cm未満)	4

泌尿器科

総件数	238
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術(一連につき)	38
経尿道的尿管ステント留置術	28
膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(その他)	26
膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(電解質溶液利用)	20
内シヤント設置術	14
経尿道的前立腺手術(電解質溶液利用)	12
経尿道的尿路結石除去術(その他)	8
膀胱結石摘出術(経尿道的手術)	8

眼科

総件数	5
網膜光凝固術(通常)	2
隅角光凝固術	1
結膜結石除去術(少数)	1
後発白内障手術	1

耳鼻咽喉・頭頸部外科

総件数	350
口蓋扁桃手術(摘出)	111
リンパ節摘出術(長径3cm以上)	34
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型(選択的(複数洞)副鼻腔手術)	16
リンパ管腫摘出術(長径5cm未満)	13
耳下腺腫瘍摘出術(耳下腺浅葉摘出術)	13
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅳ型(汎副鼻腔手術)	13
扁桃周囲膿瘍切開術	13
声帯ポリープ切除術(直達喉頭鏡)	12

[診療情報管理室]

2. 医事統計

1 診療科別医療収入

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計
循環器内科	15,058	64,594	79,652	13,863	63,347	77,209	15,381	55,020	70,401	13,402	59,359	72,761	13,495	51,149	64,644	12,836	40,845	53,681	12,536	47,487	60,023
消化器内科	14,849	22,317	37,166	12,699	23,487	36,186	16,693	30,716	47,410	21,215	30,462	51,677	21,833	31,666	53,498	22,237	26,042	48,280	26,735	27,857	54,592
総合内科	46,807	49,102	95,909	42,214	51,692	93,906	48,842	56,631	105,473	43,176	53,397	96,572	44,896	51,186	96,083	52,154	56,852	109,006	43,944	56,164	100,109
血液・ 化学療法内科	29,240	48,147	77,387	32,168	41,070	73,238	28,116	44,454	72,571	24,463	50,767	75,230	31,871	35,781	67,651	22,060	42,162	64,221	26,758	40,730	67,488
神経内科	4,056	14,413	18,470	3,404	13,609	17,013	4,408	17,439	21,846	3,277	16,160	19,437	3,593	16,346	19,939	3,580	18,030	21,610	3,689	15,528	19,217
腎臓内科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	169	1,248	1,417	414	2,576	2,990	631	2,736	3,367	4,434	7,609	12,043
内科(計)	110,011	198,573	308,584	104,348	193,206	297,553	113,440	204,261	317,701	105,702	211,393	317,095	116,101	188,704	304,805	113,498	186,667	300,165	118,096	195,375	313,471
消化器・ 一般外科	4,772	15,797	20,569	6,158	14,838	20,996	6,576	24,783	31,359	8,166	24,620	32,787	6,219	29,094	35,313	7,084	29,048	36,131	7,091	25,197	32,288
呼吸器外科	200	10,786	10,986	146	3,914	4,060	358	5,797	6,155	362	5,492	5,854	258	8,992	9,250	369	4,810	5,178	415	6,378	6,793
乳腺外科	17,659	8,534	26,192	16,230	9,989	26,219	18,376	7,928	26,304	15,179	6,604	21,783	18,373	5,540	23,913	18,142	7,066	25,208	15,958	6,329	22,287
外科(計)	22,631	35,117	57,747	22,534	28,742	51,276	25,310	38,508	63,817	23,707	36,717	60,424	24,850	43,626	68,476	25,594	40,923	66,518	23,463	37,905	61,368
産婦人科	21,965	90,874	112,839	24,024	71,035	95,059	25,091	85,756	110,847	25,414	91,336	116,750	26,626	96,020	122,645	21,434	79,825	101,258	25,104	92,780	117,885
小児科	5,722	10,771	16,493	6,447	12,306	18,752	6,415	11,757	18,172	5,625	12,911	18,535	6,180	13,209	19,389	5,483	8,526	14,009	5,740	12,828	18,568
神経科・ 精神科	6,245	8,184	14,429	6,586	6,522	13,108	6,575	6,255	12,830	6,340	8,026	14,366	6,271	9,029	15,301	6,131	7,794	13,924	6,377	9,522	15,899
整形外科	7,739	30,972	38,711	10,047	34,157	44,205	8,693	41,086	49,778	7,488	37,528	45,016	7,858	29,107	36,965	7,841	32,960	40,801	7,744	33,025	40,769
皮膚科	25,020	10,936	35,956	26,901	9,810	36,710	29,204	15,813	45,017	24,763	10,599	35,362	30,678	10,633	41,311	26,068	6,973	33,041	25,088	7,534	32,622
泌尿器科	11,915	13,535	25,450	10,477	14,524	25,001	11,929	14,988	26,917	12,020	16,531	28,551	13,103	16,347	29,450	13,879	13,492	27,371	13,190	15,383	28,573
眼 科	3,996	33	4,029	3,827	26	3,853	4,413	109	4,522	3,976	16	3,992	3,781	55	3,836	3,961	66	4,027	3,684	305	3,989
耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	7,485	20,059	27,544	7,966	25,390	33,356	8,058	21,106	29,164	7,214	18,830	26,045	7,351	25,456	32,807	7,363	19,578	26,940	7,139	12,053	19,192
放射線科	6,695	632	7,327	4,550	1,785	6,335	4,460	3,161	7,622	3,982	2,759	6,741	6,591	1,893	8,484	5,624	1,636	7,260	4,321	2,412	6,733
麻酔・ 緩和医療科	124	956	1,080	109	878	988	148	1,139	1,287	99	1,276	1,375	239	2,157	2,397	189	1,581	1,769	149	1,342	1,491
救急診療 センター	4,788	16,321	21,110	4,517	14,153	18,670	5,056	8,754	13,810	4,960	17,710	22,670	5,777	18,419	24,196	5,126	16,127	21,254	5,832	15,314	21,146
糖尿病・ 内分泌センター	327	0	327	282	0	282	393	0	393	338	0	338	340	0	340	348	0	348	310	0	310
腎臓・透析 センター	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	26	0	26	21	0	21	34	0	34	30	0	30	45	0	45	36	0	36	29	0	29
計	234,688	436,965	671,653	234,688	412,535	647,223	249,219	452,692	701,911	231,658	465,632	697,290	255,791	454,655	710,446	242,574	416,147	658,722	246,267	435,778	682,045
百分率	35%	65%	100%	36%	64%	100%	36%	64%	100%	33%	67%	100%	36%	64%	100%	37%	63%	100%	36%	64%	100%

[単位：千円]

11月			12月			1月			2月			3月			累計			前年度 累 計	対前年 差 額
外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計		
11,994	44,109	56,104	14,113	54,967	69,080	13,389	47,047	60,436	14,694	46,199	60,893	13,859	51,701	65,560	164,620	625,824	790,444	847,211	▲ 56,767
26,962	30,300	57,262	25,598	32,089	57,687	23,609	33,247	56,856	33,207	31,249	64,456	34,715	30,889	65,604	280,353	350,322	630,674	442,342	188,332
45,276	58,800	104,077	48,050	57,347	105,397	47,561	60,542	108,102	40,753	50,423	91,176	47,912	50,120	98,032	551,586	652,256	1,203,842	1,073,000	130,842
23,282	29,098	52,380	24,610	35,437	60,047	22,808	32,102	54,910	22,455	38,842	61,297	23,454	42,482	65,936	311,285	481,071	792,356	927,317	▲ 134,961
3,519	12,951	16,470	3,300	15,072	18,372	3,277	11,638	14,914	3,298	13,929	17,227	4,100	16,382	20,482	43,500	181,497	224,996	215,142	9,854
949	10,452	11,401	1,248	4,828	6,076	1,084	5,712	6,796	1,319	10,314	11,633	1,332	6,448	7,780	11,580	51,923	63,503	-	63,503
111,982	185,711	297,694	116,920	199,739	316,659	111,727	190,287	302,014	115,726	190,955	306,681	125,372	198,021	323,394	1,362,923	2,342,894	3,705,816	3,505,012	200,804
8,050	30,346	38,396	5,926	31,713	37,639	6,639	26,564	33,203	6,212	33,534	39,746	7,048	31,673	38,721	79,941	317,208	397,149	336,465	60,684
329	5,577	5,906	216	6,851	7,066	379	7,204	7,583	428	7,574	8,002	446	4,677	5,123	3,906	78,052	81,958	13,422	13,422
16,253	5,718	21,971	16,398	7,821	24,219	14,131	5,022	19,153	15,906	8,433	24,338	13,980	7,021	21,002	196,583	86,006	282,589	304,944	▲ 22,355
24,632	41,641	66,273	22,540	46,385	68,925	21,149	38,791	59,940	22,547	49,540	72,086	21,474	43,371	64,846	280,430	481,265	761,696	654,380	107,316
22,927	77,698	100,626	24,662	79,928	104,590	21,360	93,309	114,669	20,437	83,785	104,222	22,319	94,622	116,941	281,364	1,036,968	1,318,332	1,386,662	▲ 68,330
6,064	10,047	16,112	5,308	10,644	15,952	4,432	9,751	14,183	4,298	13,809	18,107	4,940	12,988	17,928	66,653	139,546	206,199	217,800	▲ 11,601
6,453	8,679	15,132	6,587	6,719	13,306	6,219	8,536	14,755	5,733	11,171	16,904	6,674	10,287	16,961	76,192	100,724	176,916	181,943	▲ 5,027
8,197	37,252	45,450	7,559	42,013	49,572	8,525	37,633	46,158	7,434	32,774	40,208	8,984	28,954	37,938	98,109	417,462	515,572	498,529	17,043
25,582	6,361	31,943	27,439	7,964	35,403	28,286	9,059	37,345	24,333	8,534	32,867	32,405	10,143	42,548	325,768	114,358	440,126	415,901	24,225
13,065	13,312	26,378	13,650	12,888	26,539	14,816	15,277	30,093	13,670	19,288	32,958	14,505	18,585	33,090	156,218	184,152	340,370	337,419	2,951
3,787	41	3,828	3,482	11	3,493	3,071	9	3,080	3,294	26	3,320	3,351	24	3,375	44,623	721	45,345	240,852	▲ 195,507
7,285	15,401	22,687	7,511	13,099	20,610	5,946	14,987	20,933	6,548	9,343	15,891	6,660	11,336	17,996	86,528	206,637	293,165	320,140	▲ 26,975
4,920	1,125	6,046	4,431	1,188	5,619	5,322	1,617	6,939	5,811	2,142	7,953	6,518	2,488	9,005	63,226	22,839	86,065	89,386	▲ 3,321
200	1,212	1,412	203	2,153	2,356	219	1,019	1,238	204	1,164	1,367	241	1,609	1,850	2,124	16,485	18,609	12,475	6,134
5,426	13,319	18,744	5,771	13,743	19,515	5,682	13,061	18,743	4,990	9,246	14,236	4,538	12,033	16,571	62,463	168,200	230,663	196,793	33,870
337	0	337	358	0	358	341	0	341	335	0	335	354	0	354	4,063	0	4,063	2,814	4,063
243	0	243	346	0	346	277	0	277	265	0	265	514	0	514	1,644	0	1,644	-	1,644
43	0	43	36	0	36	29	0	29	48	0	48	42	0	42	418	0	418	306	112
241,146	411,801	652,948	246,803	436,474	683,276	237,401	433,337	670,738	235,671	431,776	667,447	258,892	444,462	703,354	2,912,746	5,232,252	8,144,998	8,060,862	84,136
37%	63%	100%	36%	64%	100%	35%	65%	100%	35%	65%	100%	37%	63%	100%	36%	64%	100%		

[医事サービス部]

2 医療行為別医療収入

① 外来

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差額
初診料	5,218	5,429	6,058	5,621	5,781	4,140	4,489	3,944	4,362	4,372	3,873	4,229	57,515	67,214	▲ 9,699
再診料	10,329	9,955	10,676	10,085	10,535	10,735	10,506	10,338	10,720	9,993	9,953	10,932	124,756	127,315	▲ 2,559
指導料	22,461	21,142	22,365	22,580	23,688	23,616	22,565	23,443	24,548	24,605	22,822	25,677	279,512	252,526	26,986
処方料	6,271	6,129	6,467	11,315	10,571	10,707	14,066	15,548	14,118	13,545	19,067	20,276	148,079	81,234	66,845
注射料	56,870	57,646	64,901	53,735	70,581	61,137	64,551	59,098	63,400	58,473	52,434	58,393	721,218	641,880	79,338
処置料	3,746	3,129	3,344	3,007	3,186	3,085	2,983	3,085	3,050	3,021	3,196	3,504	38,335	40,494	▲ 2,159
手術料	5,424	5,029	2,605	3,734	4,074	4,619	4,111	4,048	5,151	4,707	4,135	4,913	52,549	64,501	▲ 11,952
検体検査料	75,729	73,621	81,236	73,127	75,389	75,760	75,294	72,830	72,915	71,110	71,307	78,546	896,865	898,550	▲ 1,685
画像検査料	28,975	27,841	32,390	28,617	28,834	28,810	27,791	28,369	28,688	28,788	30,622	31,869	351,594	327,359	24,235
リハビリ その他	14,083	13,086	12,793	12,374	15,772	14,349	13,013	13,259	13,063	13,342	13,254	14,694	163,083	178,876	▲ 15,793
自費	5,583	9,629	6,385	7,463	7,380	5,616	6,899	7,184	6,788	5,445	5,009	5,859	79,240	97,655	▲ 18,415
計	234,688	232,635	249,219	231,658	255,791	242,574	246,267	241,146	246,803	237,401	235,671	258,892	2,912,746	2,777,604	135,142

[医事サービス部]

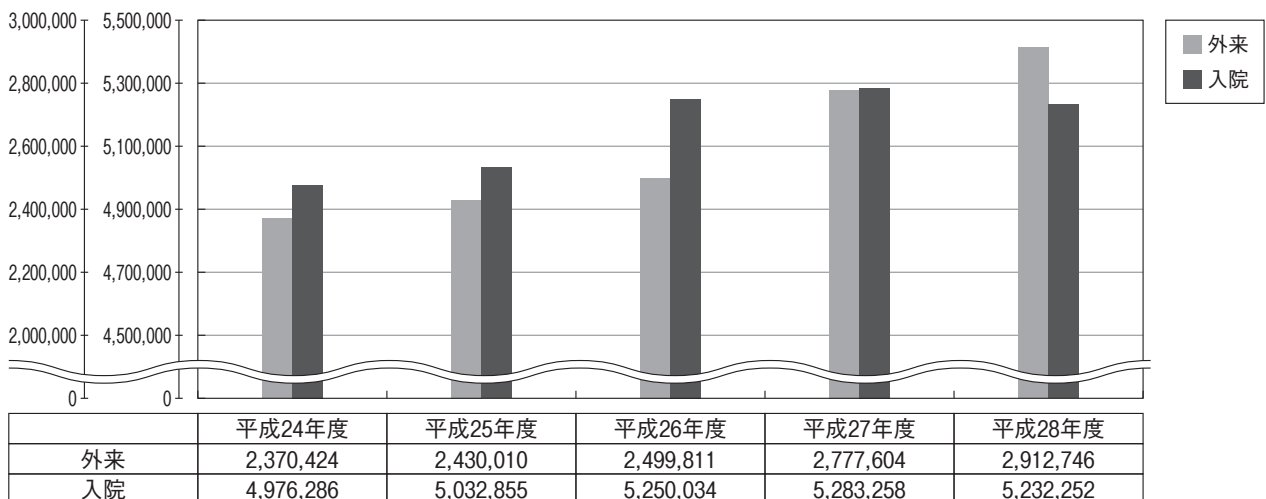
② 入院

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累 計	対前年 差 額
診察料	344	480	392	472	552	564	500	451	581	386	421	432	5,577	4,448	1,129
指導料	5,496	4,991	5,304	5,488	5,381	5,320	5,396	5,074	5,388	4,995	5,598	5,226	63,657	52,185	11,472
処方料	4,716	3,618	3,575	4,133	4,117	3,710	5,101	4,171	4,989	4,297	4,594	4,093	51,114	68,076	▲ 16,962
注射料	5,336	6,669	6,702	6,618	10,629	6,033	2,675	5,470	3,391	3,948	5,210	5,397	68,077	85,797	▲ 17,720
処置料	972	1,115	951	1,436	938	844	1,307	2,126	1,286	1,520	2,031	2,170	16,698	19,318	▲ 2,620
手術料	97,663	87,373	103,577	99,716	105,150	93,784	95,789	92,325	110,267	95,749	100,477	96,249	1,178,118	1,157,184	20,934
検体検査料	8,899	6,993	8,389	7,020	8,945	8,198	6,922	6,390	6,952	7,056	7,280	6,937	89,981	102,347	▲ 12,366
画像検査料	1,118	1,166	1,207	839	1,200	1,231	1,048	893	1,083	1,245	926	911	12,867	13,712	▲ 845
リハビリ その他	8,253	9,147	11,678	10,797	10,560	9,645	10,046	9,170	8,752	9,159	8,761	9,696	115,664	107,668	7,996
入院料	49,084	41,983	40,851	45,009	51,473	45,929	43,006	40,110	36,240	39,981	42,868	41,824	518,359	786,594	▲ 268,235
DPC	209,813	208,237	227,134	239,384	215,336	203,487	224,141	210,715	218,110	223,615	214,691	230,649	2,625,311	2,394,801	230,510
食事療養費	13,800	13,005	14,176	14,968	14,294	13,048	14,107	13,327	13,315	13,893	13,882	14,527	166,341	165,024	1,317
自費	31,473	27,758	28,755	29,752	26,082	24,355	25,738	21,579	26,119	27,491	25,037	26,350	320,489	326,105	▲ 5,616
計	436,965	402,149	452,692	465,632	454,655	416,147	435,778	411,801	436,474	433,337	431,776	444,462	5,232,252	5,250,034	▲ 17,782

[医事サービス部]

外来(千円) 入院(千円)



3. その他統計

1 病院従業員数（平成28年4月1日時点）

			職員	性別		専攻医	研修医	常勤嘱託	非常勤・パート
				男	女				
医 師		28年度	68名	57名	11名	11名	11名	2名	47名
		27年度	63	51	12	13	10	2	43
薬 剤 師		28年度	12	5	7				3
		27年度	12	5	7				3
放射線技師		28年度	13	9	4				
		27年度	12	9	3				
臨床検査技師		28年度	23	10	13				5
		27年度	22	10	12				3
理学療法士		28年度	10	8	2				
		27年度	8	6	2				2
作業療法士		28年度	1		1				
		27年度	1		1				
管理栄養士		28年度	1		1				2
		27年度	1		1				2
ケースワーカー		28年度	3		3				1
		27年度	3		3				1
視能訓練士・眼鏡士		28年度	2		2				4
		27年度	2		2				5
臨床心理士		28年度	0						1
		27年度	0						1
臨床工学技士		28年度	4	1	3				
		27年度	3	1	2				
看護師		28年度	291	7	284				17
		27年度	275	5	270				18
准看護師		28年度	0						7
		27年度	0						7
看護助手		28年度	0						8
		27年度	0						11
事務員		28年度	40	24	16				23
		27年度	41	25	16				13
一般技能労務職		28年度	1	1			1	3	
		27年度	2	1	1		1	3	
小 計		28年度	469	122	347	11	11	3	121
		27年度	445	113	332	13	10	3	112
ニッセイ予防医学センター	医 師	28年度	4	3	1			2	1
		27年度	5	3	2			1	1
	放射線技師	28年度	5	2	3				12
		27年度	5	2	3				8
	臨床検査技師	28年度	5		5				11
		27年度	5		5				11
	臨床心理士	28年度	0						2
		27年度	0						1
	看 護 師	28年度	6		6				7
		27年度	6		6				3
	事 務 員	28年度	10	5	5				21
		27年度	8	5	3				14
	一般技能労務職	28年度	1	1					
		27年度	1	1					
小 計		28年度	31	11	20	0	0	2	54
		27年度	30	11	19	0	0	1	38
訪問看護	看護師	28年度	7		7				6
		27年度	5		5				7
小 計		28年度	7		7				6
		27年度	5		5				7
総 計		28年度	508	134	374	11	11	5	181
		27年度	481	125	356	13	10	4	157

[総務人事G]

2 セカンドオピニオン外来件数（年間計）

消化器・一般外科 2 件、乳腺外科 1 件、泌尿器科 2 件、産婦人科 13 件

[あったかサポートセンター]

循環器内科

スタッフ 部 長：岡部太一
 担当部長：中川 厚
 副 部 長：徳岡孝仁
 医 長：村西寛美
 医 員：吉川秀人
 専 攻 医：不二樹五郎、魚田晃史（～6月）、西山祐輝（7～9月）

1. 診療内容

循環器内科では虚血性心疾患、心不全、各種弁膜症、高血圧症、脂質異常症、各種不整脈、閉塞性動脈硬化症、肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症等の診断・治療を行っている。

虚血性心疾患に対しては平成24年7月より冠動脈320列CTが導入され、被曝量の軽減や心房細動などの不整脈症例においても検査可能となり、冠動脈疾患の検出に役立っており、近隣施設よりの紹介も増加、導入当初の年約260件から近年は400件と前後で推移している。

所見読影については国立循環器病研究センター元院長である放射線科 内藤特任顧問と連携・協力、CT診断の精度を高めている。

冠動脈造影検査についても近年は年間600件前後、経皮的冠動脈形成術（PCI）も150件前後で推移、大きな合併症なく良好な成績を上げている。また急性心筋梗塞などの緊急カテーテル検査などの救急疾患についても積極的に対応、本年度は問い合わせや御紹介頂いたケース全例に対応、過去最高の36件の緊急CAG・PCI治療を行った。

また糖尿病患者や高齢患者の増加に伴い閉塞性動脈硬化症も増加しており、当院にても経皮的血管形成術（PTA）の件数は増加傾向にあり、特に腎臓内科の新設に伴い更なる増加が見込まれる。

不整脈治療について、頻脈性不整脈に対するカテーテル心筋症焼灼術）については心房粗動や上室性頻拍症など心房細動以外の不整脈に対しては大阪医科大学

循環器内科の協力のもと当院にてアブレーション治療を可能な体制を構築しているが、本年度は対象症例が無かった。徐脈性不整脈（洞不全症候群、房室ブロック）に対するペースメーカー治療（新規植込み・電池交換）についても村西医師の指導の下、平成27年6月よりより感染面を考慮しても手術に適した環下において手術室にて施行、実績を増やしている。

心不全や弁膜症に対しても平成24年12月より経食道心臓超音波検査を導入、これまでも感染性心内膜炎の診断や各種弁膜症の手術適応決定及び心原性脳塞栓症の原因となる左房内血栓の有無の評価に威力を発揮、当院では弁置換術は不可能であるが、弁膜症手術症例の適切な診断や脳塞栓症の原因診断に貢献している。

虚血性心疾患・心不全を中心に診療を行っているが、

常勤の循環器専門医3名の指導のもと循環器一般診療、総合内科専門医2名の指導のもと内科一般疾患に対しても幅広く診療を行っている。

循環器疾患以外にもそれに付随した関連疾患の診療も他科と協力しながら行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

3) 検査スケジュール（表3）

- ・心臓カテーテル検査・冠動脈形成術：放射線部
（火曜日全日、水曜・木曜・金曜 午前、尚、緊急時には適時対応）
- ・薬剤負荷心筋シンチ（金曜 午前）
- ・トレッドミル負荷心電図検査
（月曜・水曜・木曜 午後）
- ・経胸壁心臓超音波検査 頸動脈超音波検査
（月～金曜 全日）
- ・経食道心臓超音波検査（適時）
- ・下肢静脈超音波検査（月～金曜 午後）
- ・ホルター心電図検査（月～木曜、午前）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

2) 入院診療実績（表4、5）

3) 検査実績

心臓カテーテル検査件数：462件

PCI（冠動脈インターベンション治療）：150件
（内、緊急36件）

PTA（経皮的動脈形成術）：21件

ペースメーカー治療（新規/交換）：10/12件

ABL（カテーテル電気焼灼術）/EPS：0件

冠動脈CT：395件

心臓超音波検査：2,969件

経食道心臓超音波検査：16件

トレッドミル負荷心電図：150件

負荷心筋シンチ：94件

安静心筋シンチ：5件

ホルター心電図検査：179件

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医	5名
日本内科学会総合内科専門医	2名
循環器専門医	3名
日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医	1名

5. 業績

学会発表

1. 中川 厚, 不二樹五郎, 吉川秀人, 村西寛美, 徳岡孝仁, 岡部太一: Long-term Findings after implanted GRAFTMASTER by Optical Coherence Tomography(OCT) CCT2016 Best Imaging Conpetition, 10月, 2016, 神戸.
2. Muranishi H, Kyohei Yamaji, Yuhei Yamaji, Kenji Ando, Ohya Masanobu, Yasushi Fuku, Kazushige Kadota, Hirooki Higami, Daisuke Furukawa, Kazuya Kawai, Tomohisa Tada, Hiroki Sakamoto, Euihong Ko, Mamoru Toyofuku, Takashi Tamura, Takeshi Morimoto, Takeshi Kimura: Optimal duration of dual antiplatelet therapy after left main coronary artery stenting: A retrospective multicenter AOI LMCA stenting registry. TCT 2016 poster session, 10月, 2016, アメリカ, ワシントン.
3. 岡部太一, 大平百合子, 坂本彩弥, 松村寿美, 出口暁子: 心不全における栄養管理 当院における現状と今後, 第20回日本病態栄養学会年次集会, 1月, 2017, 京都.
4. 吉川秀人, 中川 厚, 不二樹五郎, 村西寛美, 徳岡孝仁, 岡部太一: 冠動脈ステント留置後の抗血小板薬選択におけるP2Y12 Reaction Units (PRU) 測定の有用性. 第215回日本内科学会近畿地方会, 3月, 2017, 神戸.

研究会発表

1. 徳岡孝仁, 不二樹五郎, 吉川秀人, 村西寛美, 中川 厚, 岡部太一: 当院での冠動脈中等度狭窄に対する機能的評価の試み, JMN循環器懇話会, 6月, 2016, 大阪.
2. 中川 厚, 不二樹五郎, 吉川秀人, 村西寛美, 徳岡孝仁, 岡部太一: PRU測定による抗血小板剤の血小板抑制効果の検討, JMN循環器懇話会, 6月, 2016, 大阪.
3. 吉川秀人, 不二樹五郎, 村西寛美, 徳岡孝仁, 中川 厚, 岡部太一: OFDIガイド下のPCI後急性冠閉塞を起こし難渋した症例. Biolimus A9-eluting Stent Focus Group Meeting-Optimize healing processes for the complex patient, 10月, 2016, 大阪.
4. 不二樹五郎, 吉川秀人, 村西寛美, 徳岡孝仁, 中川 厚, 岡部太一: 造影上中等度病変にiFR, FFRを用いて虚血評価を行った症例, PCIシンポジウム2016, 10月, 2016, 大阪.
5. 不二樹五郎, 吉川秀人, 村西寛美, 徳岡孝仁, 中川 厚, 岡部太一: 徐脈を繰り返した超高齢女性について. 第9回あわぎクリニカルカンファレンス, 11月, 2016, 大阪.
6. 吉川秀人, 中川 厚, 不二樹五郎, 村西寛美, 徳岡孝仁, 岡部太一: OFDIガイド下のPCI後急性冠閉塞を起こした1症例. JMN循環器懇話会, 11月, 2016, 大阪.
7. 岡部太一, 不二樹五郎, 吉川秀人, 村西寛美, 徳岡孝仁, 中川 厚: DOACの抗凝固作用とそのマーカーについて. JMN循環器懇話会, 11月, 2016, 大阪.
8. 中川 厚, 不二樹五郎, 吉川秀人, 村西寛美, 徳岡孝仁, 岡部太一: 抗血小板薬とPRU~Verify NOWの有用性~. JMN循環器懇話会, 11月, 2016, 大阪.
9. 中川 厚, 不二樹五郎, 吉川秀人, 村西寛美, 徳岡孝仁, 岡部太一: 心血管カテーテル治療の変遷と最近の話題. 高血圧フォーラム~心・腎Joint Seminar~, 11月, 2016, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診										吉川
2診	岡部	村西	岡部		岡部	岡部 (予約)	村西	交代 ※②	岡部	中川 (予約)
3診	中川	徳岡			長谷川 ※① ペースメーカー	吉川	濱田	中川	徳岡	不二樹

※①2・4週のみ ※②1・3・5週は不二樹、2・4週は徳岡

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	新入院患者紹介	新入院患者紹介 心臓カテーテル	新入院患者紹介 カンファレンス 心臓カテーテル	新入院患者紹介 心臓カテーテル	新入院患者紹介 心臓カテーテル
午後				部長回診 カンファレンス	

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
心エコー	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
頸動脈エコー	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
ホルター心電図	● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予			
末梢血管エコー		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予
トレッドミル		○ 診				○ 診		○ 診		
心臓カテーテル検査			○ 診	○ 診	○ 診		○ 診		○ 診	
負荷心筋シンチ									○ 診	

●: 紹介状・予約が必要 ○: 当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	21,156	13,965 ※	13,433	13,744	13,827
入院	16,420	11,229 ※	11,420	12,924	12,044

※H25.4~ 循環器内科・神経内科から神経内科を分離新設

表5 H28.4~H29.3 入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症および慢性虚血性心疾患	368	6
心不全	136	30
肺炎 (誤嚥性肺炎を含む)	27	27
アテローム<じゅく>粥状>硬化 (症)	22	11
心臓および血管の挿入物および移植片の存在	20	3
心房細動および粗動	19	21
体液量減少 (症)	17	13
急性心筋梗塞	17	24
睡眠障害	15	3
房室ブロックおよび左脚ブロック	12	19

スタッフ 部長：中村秀次（ニッセイ予防医学センター長）（～1月15日）、
有坂好史（1月16日～）
担当部長：湯川雅彦（消化器内視鏡センター長）
副部長：村本 理、田中敏雄
医 員：河田奈都子（～8月）、北田隆起

1. 診療内容

消化器癌の早期発見・適切な治療、患者さんにやさしい医療・全人的な医療をモットーとして、28年9月より内科外科の合同カンファレンスを開始し、外科・放射線科との連携のもと早期診断・最新の治療に努めている。上部内視鏡検査では、NBI拡大内視鏡、色素内視鏡を積極的に用いて診断精度の向上をはかっている。超音波内視鏡検査も開始し、膵腫瘍を中心として超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）も導入し、診断能の向上を図っている。大腸内視鏡検査においてもNBI拡大内視鏡、ピットパターン診断を取り入れて、高い診断精度を目指している。治療的手技としては、内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー、内視鏡的食道静脈瘤結紮術に加えて、胃・食道の粘膜下剥離術（ESD）も積極的に実施している。また、28年度より大腸のESD治療も開始した。膵・胆管疾患に対しては、内視鏡的逆行性膵胆道造影・内視鏡的乳頭切開術、胆管ステント留置術等を行っている。膵癌、胆管癌に対しては、TS-1, Gemcitabine, nab-PTXを中心とした化学療法を行い、進行胃癌に対しても積極的に全身化学療法を行っている。29年1月より有坂部長が着任され、特に胆膵領域での最先端の診断および治療を行っている。肝疾患に対しては、病診連携を通じて慢性肝炎の抗ウイルス治療を積極的に行っている。B型慢性肝炎に対してエンテカビル、テノホビル、TAF投与を行い、C型慢性肝炎に対してIFN-free DAA経口療法を積極的に実施している。肝硬変に対しては、肝癌の早期発見または発癌抑制も踏まえて、きめ細かな外来治療を実施している。分枝鎖アミノ酸製剤等の栄養療法、難治性腹水に対するCART療法を行い、肝硬変患者のQOLおよび生存率の向上を目指している。肝細胞癌に対しては、放射線科医との緊密な連携の元、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法（TACE）等の局所治療を実施するとともに、肝動注療法も適宜併用し、また局所コントロール不能例、TACE無効例、血管侵襲例、転移例に対しては分子標的治療薬を積極的に導入し、局所療法、分子標的治療、全身化学療法、肝動注療法による集学的治療を行いQOLおよび生存率の向上を目指している。

2. 診療体制

- 1) 外来診療スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定医	5名
日本内科学会認定指導医	2名
日本消化器病学会認定専門医	5名
日本消化器病学会認定指導医	3名
日本消化器内視鏡学会認定専門医	4名
日本消化器内視鏡学会認定指導医	3名
日本内科学会総合内科専門医	2名
日本内科学会総合内科指導医	2名
日本肝臓学会認定肝臓専門医	3名
日本肝臓学会認定指導医	1名
日本胆道学会認定指導医	1名
日本臨床腫瘍学会暫定指導医	1名
日本超音波医学会専門医	1名
日本がん治療認定医	1名

5. 業績

論文・著書

1. Yoh K, Nishikawa H, Enomoto H, Iwata Y, Kishino K, Shimono Y, Hasegawa K, Nakano C, Takata R, Nishimura T, Aizawa N, Sakai Y, Ikeda N, Takashima T, Ishii A, Iijima H, Matsunaga H, Nakamura H, Nishiguchi S. : Comparison of sleep disorders in chronic hepatitis C patients treated with interferon-based therapy and direct acting antivirals using actigraphy. Hepatol Res, 46(13) : 1358-1366, 2016.
2. Nishikawa H, Enomoto H, Iwata Y, Kishino K, Shimono Y, Hasegawa K, Nakano C, Takata R, Yoh K, Nishimura T, Aizawa N, Sakai Y, Ikeda N, Takashima T, Ishii A, Iijima H, Nakamura H, Nishiguchi S. : Clinical significance of serum Wisteria floribunda agglutinin positive Mac-2-binding protein level in non-alcoholic steatohepatitis. Hepatol Res, 46(12) : 1194-1202, 2016.
3. Kawada N, Uehara H, Nagata S, Tomita Y, Nakamura H. : Pancreatic juice cytology as sensitive test for detecting pancreatic malignancy in intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas without mural nodule. Pancreatol 2016 Sep-Oct ; 16(5) : 853-8.
4. Kawada N, Tanaka S. : Elastography for the pancreas : current status and future perspective. World J Gastroenterol 2016 Apr 14 ; 22(14) : 3712-24.
5. Kawada N, Uehara H, Nagata S, Tsuchishima M, Tsutsumi M, Tomita Y. : Mural nodule of 10 mm or larger as predictor of malignancy for intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas : Pathological and radiological evaluations. Pancreatol 2016 May-Jun ; 16(3) : 441-8.

- Kawada N, Tanaka S : Elastography for the pancreas : current status and future perspective. World J Gastroenterol, 22(14) : 3712-3724, 2016.
- 北田隆起, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本 理, 湯川雅彦, 中村秀次 : 直腸癌術後14年後に人工肛門より出血を来し, 虚血性腸炎の診断に至った1例, 日生医誌, (in press)

学会発表

- 中村秀次, 居平典久, 村本 理, 伊藤 翔 : 慢性肝障害患者におけるGlycated albumin/HbA1c ratioと血清肝線維化マーカーM2BPGiとの関連性, 第52回日本肝臓学会総会, 5月, 2016, 千葉.
- 中村秀次, 村本 理, 伊藤 翔, 居平典久 : 当院におけるC型慢性肝炎に対するDaclatasvir/Asunaprevir経口療法の抗ウイルス効果, 第52回日本肝臓学会総会, 5月, 2016, 千葉.
- Kawada N, Uehara H, Nagata S, Tsuchishima M, Tsutsumi M, Tomita Y : Mural nodule of 10 mm or larger as predictor of malignancy for intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas-Pathological and radiological validation-. IAP, 8月, 2016, 仙台.
- 中村秀次, 村本 理, 河田奈都子, 北田隆起, 田中敏雄, 居平典久 : 当院におけるC型慢性肝炎に対するSofosbuvir/Ledipasvir療法における抗ウイルス効果と肝線維化マーカーの推移, 第20回日本肝臓学会大会, 11月, 2016, 神戸.
- 北田隆起, 守口玲那, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本 理, 湯川雅彦, 中村秀次 : Churg-Strauss症候群に合併した急性膵炎の1例, 第106回日本消化器病学会近畿支部例会, 2月, 2017, 大阪.
- 北田隆起, 守口玲那, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本 理, 湯川雅彦, 中村秀次 : 健診における胃透視検査施行後にバリウムに被覆された硬便がS状結腸に嵌頓した1例, 第215回日本内科学会近畿地方会, 3月, 2017, 神戸.

研究会発表

- 田中敏雄 : 心膜炎を合併した潰瘍性大腸炎の症例, 第9回あわぎクリニカルカンファレンス, 11月, 2016, 大阪.
- 村本 理 : 肝細胞がんの診断と治療, 西部大阪肝疾患病診連携会 市民公開講座, 11月, 2016, 大阪.
- 中村秀次 : C型肝炎の最新治療とこれからの病診連携, あわぎ肝疾患病診連携懇話会, 1月, 2017, 大阪.
- 村本 理 : B型肝炎根絶に向けて～ワクチン定期接種開始への期待～, あわぎ肝疾患病診連携会, 1月, 2017, 大阪.
- 有坂好史 : 胆嚢ポリープの診断とマネジメント, ラジオNIKKEI第一放送医学講座(日本医師会企画), 1月, 2017, 大阪.
- 前田宗宏, 牧 大介, 河田奈津子, 中村秀次, 枝廣龍哉, 古結敦士, 三木俊治 : 脾臓破裂に対してセレスキュー片と金属コイルを併用して止血した2症例, 第62回関西Interventional Radiology研究会, 2月, 2017, 大阪.
- 有坂好史 : 膵癌早期診断up to date, 第2回まほろば消化器倶楽部, 2月, 2017, 生駒.
- 有坂好史 : 産業医が知っておきたい膵癌早期発見のための膵検診-膵検診に必要なIPMNの知識, 第13回ニッセイ産業医セミナー, 3月, 2017, 大阪.
- 田中敏夫 : 逆流性食管炎のマネジメント, あわぎ消化管病診連携懇話会, 3月, 2017, 大阪.
- 有坂好史 : 早期胆嚢癌の画像診断, あわぎ消化管病診連携懇話会, 3月, 2017, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
6診	北田		村本	北田※②	北田	村本	中村	中村	村本	
7診	有坂	湯川※①	田中敏		中村		湯川		田中敏	回診

※① 2・4週の初診のみ ※② 1・3・5週の初診のみ

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前		胃カメラ	胃カメラ		胃カメラ
午後	肝生検 大腸ファイバー	大腸ファイバー	肝生検 造影超音波検査 大腸ファイバー	ERCP RFA 16:30 カンファレンス 抄読会	大腸ファイバー 13:30 回診

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内視鏡 胃			●	紹・予	●	紹・予	●	紹・予	●	紹・予
内視鏡 大腸		○	○	○	○	○				○

● : 紹介状・予約が必要 ○ : 当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	14,297	14,165	14,044	14,908	15,255
入院	9,024	7,924	10,098	6,268	8,423

表5 H28.4～H29.3 入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	110	2
肝および肝内胆管の悪性新生物	76	13
胆石症	50	9
胃の悪性新生物	35	15
腸の憩室性疾患	31	5
脾の悪性新生物	28	16
結腸の悪性新生物	21	4
胆道のその他の疾患	17	11
感染症と推定される下痢および胃腸炎	15	14

表6 症例数 (H28.4～H29.3)

(1) 肝がん治療

	件数
TACE	38
RFA	3
Sorafenib	5

(2) 慢性肝炎の抗ウイルス療法

	件数
HBV IFN治療	1
核酸アナログ治療	13
HCV IFN-Free DAA治療	74

(3) 内視鏡件数

	件数	
上部消化管内視鏡	2,961	
下部消化管内視鏡	1,455	
超音波内視鏡 (EUS)	81	
EUS-FNA	14	
内視鏡的治療		
ESD	21	(胃17例、食道3例、大腸1例)
EMR、Polypectomy	204	(胃2例)
止血術	50	(胃33例)
EVL	14	
ERCP	84	
胃瘻造設術、その他	57	

スタッフ 部長：立花 功（副院長、内科統括）

担当部長：小瀬戸昌博（中央臨床検査部長兼任）

担当部長：住谷 哲（糖尿病・内分泌センター部長、ニッセイ予防医学センター
予防医療部担当部長兼任）

副部長：田村慶朗

医 長：宇都佳彦

副医長：二宮隆介

専攻医：大畔健太、西山祐輝（～6月、1月～）、枝廣龍哉（～9月）、
魚田晃史（10月～）、石川那智（10～12月）

兼 任：佐藤文三（名誉院長）、笠山宗正（院長）、三木俊治（救急診療センター長、臨床研修部長）

1. 診療内容

当科は内分泌・糖尿病、膠原病・リウマチ疾患・呼吸器疾患を対象に診療を行なっている。その内容は糖尿病の患者教育、経口薬やインスリンを初めとする注射薬による血糖コントロール、ケトシスや糖尿病合併症治療、クッシング症候群や甲状腺機能異常など内分泌疾患の診断・治療、SLE、強皮症、皮膚筋炎など膠原病の診断・治療、（生物学的製剤の使用を含む）慢性関節リウマチ治療、そして肺がんの診断・（分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬を含む）薬物療法・放射線治療・緩和治療、間質性肺炎、気管支喘息、COPDなどの診断・治療である。

平成29年1月より、宮武明彦医師（非常勤）による気管支喘息専門外来を開始した。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

内科外来1、7、10～13診察室で外来診療を行った。

2) 病棟体制（表2）

病床数は43～44、病棟担当医は研修医1～2名、専攻医2～3名、常勤医3名で、研修医または専攻医が担当医、専攻医または常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール（表3）

X線透視下気管支鏡検査：放射線部（水曜日午後）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

外来延べ患者数は平成24年度以降増加を続けており、平成27年度32,268人から平成28年度は33,616人と1,348人増加した。

2) 入院診療実績（表4、5）

入院延べ患者数も平成24年度以降増加を続けており、平成27年度15,679人から平成28年度は17,016人と1,337人増加した。

3) 検査実績

気管支鏡検査は全例短期の検査入院で施行している。検査数は平成27年度106件、平成28年度103件とほぼ横ばいであった。平成28年11月に、呼吸器内視鏡学会の関連認定施設から認定施設への格上げ認定を受けた。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医	9名
日本内科学会認定指導医	9名
日本内科学会総合内科専門医	5名
日本呼吸器学会専門医	3名
日本呼吸器学会指導医	1名
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医	1名
日本内分泌学会専門医・指導医	2名
日本内分泌学会内分泌代謝専門医・指導医	1名
日本糖尿病学会専門医・指導医	2名
日本高血圧学会指導医	1名
日本化学療法学会抗菌化学療法指導医	1名
日本リウマチ学会専門医	1名
日本アレルギー学会専門医・認定医・指導医	1名
日本人間ドック学会専門医・認定医・指導医	1名

5. 業績

論文・著書

1. Yanase T, Tajima T, Katabami T, Iwasaki Y, Tanahashi Y, Sugawara A, Hasegawa T, Mune T, Oki Y, Nakagawa Y, Miyamura N, Shimizu C, Otsuki M, Nomura M, Akehi Y, Tanabe M, Kasayama S : Diagnosis and treatment of adrenal insufficiency including adrenal crisis : a Japan Endocrine Society clinical practice guideline. Endocrine J, 63 : 765-784, 2016.
2. Otsuki M, Kitamura T, Tamada D, Tabuchi Y, Mukai K, Morita S, Kasayama S, Shimomura I, Koga M : Incompatibility between fasting and postprandial plasma glucose in patients with Cushing's syndrome. Endocrine J, 63 : 1017-1023, 2016.
3. Koga M, Inada S, Nakao T, Kawamori R, Kasayama S. The glycated albumin (GA) to HbA1c ratio reflects shorter

glycemic control status more than GA : analysis of patients with fulminant type 1 diabetes. J Clin Lab Anal, 31 : 1-6, 2017.

4. 佐藤文三：日本の医療肥厚像と医師会活動. 西区医師会報, 104 : 5-9, 2016.
5. 仁科周平, 笠山宗正：Bongiovanni症候群. 小児科診療, 79 : 239-239, 2016.
6. 石井誠剛, 仁科周平, 宇都佳彦, 鈴木真優美, 田村慶朗, 小瀬戸昌博, 住谷 哲, 立花 功：右肺上葉に厚壁空洞病変を伴う20代女性に発症したMycobacterium kasasii症の1例. 日生医誌, 44 : 31-34, 2016.
7. 石川那智, 枝廣龍哉, 西山祐揮, 大畔健太, 古結敦士, 二宮隆介, 宇都佳彦, 田村慶朗, 住谷 哲, 小瀬戸昌博, 立花 功, 笠山宗正, 佐藤文三：嘔吐・下痢に伴う低カリウム血症を契機に診断に至った原発性アルドステロン症の1例. 日生医誌, 44 : 35-40, 2016.

学会発表

1. 田淵優希子, 大月道夫, 笠山宗正, 小杉圭右, 橋本久仁彦, 山本恒彦, 津川真美子, 嶺尾郁夫, 山田祐也, 紅林昌吾, 大橋誠, 馬屋原豊, 幸原晴彦, 中村正, 瀧秀樹, 松岡孝昭, 今川彰久, 船橋徹, 下村伊一郎：副腎偶発腫の頻度, 病因, 臨床経過に関する研究調査-大阪内分泌代謝学クリニカルカンファレンス(OEMCC)共同研究. 第89回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2016, 京都.
2. 仁科周平, 大畔健太, 古結敦士, 石井誠剛, 宇都佳彦, 佐藤文三, 住谷 哲, 立花 功, 笠山宗正, 北野昌彦：中等用量のステロイド薬の継続投与を必要としたリンパ球性汎下垂体炎に対するシクロスポリン併用療法の試み. 第89回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2016, 京都.
3. 大畔健太, 住谷 哲, 仁科周平, 古結敦士, 石井誠剛, 宇都佳彦, 三木俊治, 立花 功, 笠山宗正, 細野研二, 赤羽 誉, 城光寺 龍：診断12年後の甲状腺機能に変化を認めなかった中毒性多結節性甲状腺腫による潜在性甲状腺機能亢進症の一例. 第89回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2016, 京都.
4. 住谷 哲, 仁科周平, 大畔健太, 宇都佳彦, 古結敦士, 石井誠剛, 立花 功, 笠山宗正：初回治療2型糖尿病患者に対するメトホルミン投与と生活習慣介入の5年間にわたる有効性の検討(EMINENT Study : 第7報. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2016, 京都.
5. 仁科周平, 住谷 哲, 大畔健太, 古結敦士, 宇都佳彦, 石井誠剛, 田村慶郎, 立花 功, 佐藤文三, 笠山宗正：当院におけるメトホルミン投与量に関連する因子についての検討. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2016, 京都.
6. 大畔健太, 住谷 哲, 仁科周平, 古結敦士, 石井誠剛, 田中庸弘, 宇都佳彦, 三木俊治, 立花 功, 佐藤文三, 笠山宗正：メトホルミン投与中の2型糖尿病患者に対するSGLT2阻害薬の有効性についての検討. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2016, 京都.
7. 倉本訓子, 水口洋一, 住谷 哲, 宇都佳彦, 仁科周平, 大畔健太, 小瀬戸昌博, 中川雅史, 浅野彰彦, 仁科拓也, 三木俊治, 立花 功, 笠山宗正, 宮崎彩子, 古賀正史：HbA1cの偽高値を契機に診断した異常ヘモグロビン症(Hb Andrew-Minneapolis)の1例. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2016, 京都.
8. Edahiro R, Nishina S, Tamura Y, Utsu Y, Ishii S, Kogetsu A, Okuro K, Suzuki M, Koseto M, Sumitani S, Sato B, Kasayama S, Tachibana I : Non-hyperinflated lungs in COPD patients with diabetes mellitus. American Thoracic Society 2016 international conference, 5月, 2016, アメリカ, サンフランシスコ.
9. 牧 大介, 前田宗宏, 合田晴一, 三谷 尚, 大畔健太, 住谷 哲, 立花 功, 佐藤幸彦：著名なnidusの拡張を伴う骨盤動脈叢奇形の2症例. 第45回日本IVR学会総会, 5月, 2016, 名古屋.
10. 石川那智, 佐藤文三, 笠山宗正, 立花 功, 住谷 哲, 田村慶朗, 宇都佳彦, 二宮隆介, 大畔健太, 古結敦士：当院における閉塞性換気障害を示す非喫煙・非喘息患者の特徴. 第87回日本呼吸器学会近畿地方会, 7月, 2016, 大阪.
11. 魚田晃史, 大畔健太, 宇都佳彦, 古結敦士, 住谷 哲, 立花 功, 笠山宗正, 徳田好勇：続発性副腎皮質機能低下症を認めず意識障害と著明な低Na血症を示したラトケ嚢胞1例. 第17回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 10月, 2016, 和歌山.
12. Suzuki S, Furuya A, Tanahashi Y, Azuma H, Bando Y, Kasayama S, Koga M : Glycemic control indicators levels at diagnosis of neonatal diabetes mellitus : Comparison with other types of insulin-dependent diabetes mellitus. The 9th Biennial Scientific Meeting of the Asia Pacific Paediatric Endocrine Society, 11月, 2016, 東京.
13. 大畔健太, 住谷 哲, 古結敦士, 魚田晃史, 宇都佳彦, 三木俊治, 立花 功, 笠山宗正：エキセナチド週1回製剤の投与により著明な体重減少を認めた若年2型糖尿病の1例. 第53回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2016, 大阪.
14. 魚田晃史, 古結敦士, 大畔健太, 宇都佳彦, 住谷 哲, 立花 功, 笠山宗正, 乾 俊彦：糖尿病末梢神経障害と診断されていた脊髄腫瘍の1例. 第53回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2016, 大阪.
15. 角南ちえ子, 松村寿美, 高山由美子, 出口咲子, 大畔健太, 住谷 哲, 笠山宗正：多職種のコラボレーションにより患者が疾患を受容し行動変容に至った1型糖尿病の1例. 第53回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2016, 大阪.
16. 児玉貴之, 二宮隆介, 田村慶朗, 宇都佳彦, 枝廣龍哉, 古結敦士, 大畔健太, 住谷 哲, 小瀬戸昌博, 立花 功, 笠山宗正, 佐藤文三, 前田 元, 城光寺 龍：胸腔ドレナージで軽快しえなかった月経随伴性気胸に対して胸腔ドレナージを施行した1例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 12月, 2016, 京都.
17. 大畔健太, 住谷 哲, 古結敦士, 石川那智, 魚田晃史, 佐藤文三, 宇都佳彦, 立花 功, 笠山宗正：IgG4関連硬化性胆肝炎に合併したACTH分泌低下症の一例. 第27回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2月, 2017, 東京.
18. 魚田晃史, 大畔健太, 宇都佳彦, 古結敦士, 住谷 哲, 立花 功, 笠山宗正, 徳田好勇：短期間のステロイド療法後に低Na血症が寛解したラトケ嚢胞の症例. 第27回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2月, 2017, 東京.

研究会発表

1. 佐藤文三：血液検査の診方. 大阪ロータリークラブ 健康を守る会, 5月, 2016, 大阪.
2. 佐藤文三：がん増殖の仕組みと分子標的薬-日本人のがん研究者先駆者たち血液検査の診方. 大和田高等学校特別授業, 5月, 2016, 大阪.
3. 大畔健太, 仁科周平, 魚田晃史, 古結敦士, 宇都佳彦, 立花 功, 住谷 哲, 佐藤文三, 笠山宗正：緩解と増悪を繰り返すリンパ球性汎下垂体炎に対してシクロスポリン併用療法を試みた1例. 第10回大阪内分泌・代謝学クリニカルカンファレンス(OEMCC), 6月, 2016, 大阪.
4. 佐藤文三：がんと向き合う. 大阪医専特別授業, 7月, 2016, 大阪.
5. 笠山宗正：パネルディスカッション「地域医療のあり方」. 第20回多根総合病院開放型登録医総会, 7月, 2016, 大阪.
6. 小瀬戸昌博：最近のリウマチ治療について. 大阪西部リウマチ勉強会, 7月, 2016, 大阪.
7. 魚田晃史, 大畔健太, 宇都佳彦, 古結敦士, 枝廣龍哉, 住谷 哲, 立花 功, 笠山宗正：神経伝導検査(NCS)による糖尿病性多発神経障害のNCS重症度分類(馬場試案2013)と糖尿病慢性合併症との関連について. 平成28年度糖尿病性神経障害を考える会. 9月, 2016, 東京.
8. 枝廣龍哉, 田村慶朗, 古結敦士, 大畔健太, 二宮隆介, 宇都佳彦, 小瀬戸昌博, 立花 功：肺悪性リンパ腫に対して化学放射線療法施行10年後に放射線照射領域に浸潤影を認めた1例. 肺がん, 9月, 2016, 大阪.
9. 笠山宗正：健康寿命を延ばすための秘訣. 奈良西ライオンズクラブ例会, 10月, 2016, 奈良.

10. 住谷 哲：健康寿命と糖尿病～その深い関係を考える、平成28年度西区民健康セミナー、10月、2016、大阪。
11. 立花 功：併存症側からみたCOPD、Respiratory Forum 2016、10月、2016、大阪。
12. 松本隆作、古賀正史、笠山宗正、福岡秀規、井口元三、小武由紀子、吉田健一、坂東弘教、隅田健太郎、西沢 衡、小川 渉、高橋 裕：健常人における血中IGF-I濃度を規定する因子の検討、第26回臨床内分泌代謝Update、11月、2016、大宮。
13. 立花 功：COPDと糖尿病、大阪市西区医師会学術講演会、11月、2016、大阪。
14. 二宮隆介：難治性気胸に対して胸腔鏡下右上葉、横隔膜部分切除した症例について、第9回あわぎクリニカルカンファレンス、11月、2016、大阪。
15. 枝廣龍哉：COPD患者における併存疾患と肺過膨張像の関係、呼吸器内科レジデント・若手医師懇話会、11月、2016、大阪。
16. 佐藤文三：医師(医療従事者)に求められるもの、花乃井中学校 特別授業、2月、2017、大阪。
17. 佐藤文三：がん予防と早期発見、大阪ロータリークラブ 健康を守る会、2月、2017、大阪。
18. 前田宗宏、牧 大介、河田奈津子、中村秀次、枝廣龍哉、古結敦士、三木俊治：脾臓破裂に対してセレスキュー片と金属コイルを併用して止血した2症例、第62回関西Interventional Radiology研究会、2月、2017、大阪。
19. 魚田晃史：糖尿病治療の選択と留意点、あわぎ糖尿病 医・薬連携カンファレンス、3月、2017、大阪。
20. 魚田晃史：糖尿病治療の選択と留意点、あわぎ糖尿病 医・薬連携カンファレンス、3月、2017、大阪。
21. 立花 功：呼吸生理と COPD の診断・治療について、第8回北大阪呼吸リハビリテーション講習会、3月、2017、兵庫。
22. 立花 功：長引く咳の診療、北河内高齢者疾患フォーラム 2017、3月、2017、大阪。
23. 大畔健太：ダバグリフロジンとメトホルミンの併用によりインスリン投与から離脱し得た2型糖尿病の1例、第10回大阪ベイサイド糖尿病ケアセミナー、3月、2017、大阪。

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診				宮武 ※②	森田		立花	宮武	古結	
7診			田村	二宮 ※③						
10診	住谷	住谷 ※①			小瀬戸	小瀬戸	宇都	田村		
11診	宇都		三木	大畔	立花	立花	三木	魚田/ 石川那 (隔週)	住谷	二宮
12診	小瀬戸	小瀬戸	佐藤文	佐藤文	佐藤文	佐藤文	住谷	住谷	小瀬戸	
13診	立花	立花	笠山		笠山		笠山	笠山		佐藤文 (予約)

※① 1・3・5週は初診 ※② 14：30から ※③ 2・4週は初診

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス
午後		抄読会	気管支鏡検査	症例検討会	病棟回診

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
気管支鏡						○ 診				

○：当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	27,590	28,967	30,388	32,268	33,616
入院	12,352	15,203	15,224	15,679	17,016

表5 H28.4～H29.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
2型糖尿病	158	12
気管支および肺の悪性新生物	150	22
肺炎（誤嚥性肺炎を含む）	102	18
その他の間質性肺疾患	45	20
疾病および病態の疑いに対する 医学的観察および評価	35	4
下垂体疾患（下垂体機能低下症、 クッシング病、先端巨大症など）	31	4
全身性結合組織疾患	24	34
その他の慢性閉塞性肺疾患	19	15
尿路系のその他の障害	15	24
アルドステロン症	14	4

血液・化学療法内科

スタッフ 部長：川上 学

副部長：石河 純（～9月）、加藤るり

常勤嘱託：竹本雅子

専攻医：石川那智（7～9月）、西山祐輝（10～12月）、枝廣龍哉（1～3月）

1. 診療内容

急性白血病・慢性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・骨髄異形成症候群などの血液悪性疾患と、溶血性貧血・再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病などの良性疾患まで、血液疾患を全般的に診療している。特に、再発・難治性悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対する自己末梢血幹細胞移植は20年以上の実績、97例（のべ104回）の症例経験を有する。その他、悪性リンパ腫を疑われ、生検の結果上皮性と判明した原発不明癌などの悪性腫瘍に対しての化学療法も行い、腫瘍内科としての診療も並行して行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

主として内科外来8・10診で外来診療を行った。そのほか適宜必要に応じ、外来化学療法や骨髄穿刺・生検・輸血などの診療も外来化学療法室や内科処置室において行われた。

2) 病棟体制（表2）

部長含め4名の常勤医（10月以降は3名）及び7月以降は1名の専攻医にて診療を行った。当科が開催および参加したカンファレンスのスケジュールを表2に示す。

3) 検査スケジュール

骨髄穿刺・骨髄生検は、内科外来処置室および入院病床で行われ、主治医が検鏡診断するとともに必要時検討会にて判定された。

4) 外来化学療法

多くの化学療法レジメンは、入院治療に引き続き外来通院でも継続され、外来化学療法室スタッフや薬剤師との協力のもと施行された。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数はのべ6,622名（昨年度比－617）であった。

外来化学療法数は、862件（昨年度比－131）であった。

2) 入院診療実績（表3, 4）

入院延べ数8,328（昨年比－1,603）であった。疾患の内訳を表4に示す。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会総合内科専門医 3名

日本内科学会認定内科医 1名

日本血液学会専門医 4名

5. 業績

論文・著書

- Oji Y, Hashimoto N, Tsuboi A, Murakami Y, Iwai M, Kagawa N, Chiba Y, Izumoto S, Elisseeva O, Ichinohasama R, Sakamoto J, Morita S, Nakajima H, Takashima S, Nakae Y, Nakata J, Kawakami M, Nishida S, Hosen N, Fujiki F, Morimoto S, Adachi M, Iwamoto M, Oka Y, Yoshimine T, Sugiyama H: Association of WT1 IgG antibody against WT1 peptide with prolonged survival in glioblastoma multiforme patients vaccinated with WT1 peptide. Int J Cancer. 139: 1391-401, 2016.

学会発表

- 西山祐輝, 石川那智, 竹本雅子, 加藤るり, 川上 学, 城光寺龍: Bリンパ芽球性白血病と骨髄異形成症候群を同時に診断した一例, 日本内科学会第215回近畿地方会, 3月, 2017, 神戸.

研究会発表

- 川上 学: 白血球増多を来した2例, 阿波座クリニカルカンファレンス, 11月, 2016, 大阪.
- 竹本雅子: 48歳女性, 再生不良性貧血患者の治療方針, 第22回 血液三都物語若手の会, 11月, 2016, 大阪.

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
8診	加藤	竹本	竹本		川上	川上	加藤		川上	川上
10診			川上 (予約)	川上 (予約)						

表 2 カンファレンススケジュール

・症例検討会	(週 1 回)
・抄読会	(月 2 回)
・血液標本検討会	(適 宜)
・内科合同カンファレンス	(月 1 回)
・内科・地域合同症例検討会	(年 1 回)

表 3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	6,365	6,355	6,830	7,239	6,622
入院	8,168	9,843	9,791	9,931	8,328

表 4 H28.4～H29.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
悪性リンパ腫	105	30
骨髄異形成症候群	28	25
骨髄性白血病	26	37
多発性骨髄腫 および悪性形質細胞性新生物	23	22
リンパ性白血病	20	57
紫斑病およびその他の出血性病態	14	22
ホジキン＜Hodgkin＞病	9	22
その他の無形成性貧血	9	41
悪性免疫増殖性疾患	7	10
後天性溶血性貧血	5	24

神 経 内 科

スタッフ 部 長：浅野彰彦
副部長：仁科拓也、佐藤智彦

1. 診療内容

神経内科部門は平成25年4月より循環器・神経内科から分離独立し医師二名で発足したが、同年6月より佐藤智彦が加わり3名体制で運営している。

めまいや痺れといった身近な症状の相談から、脳梗塞をはじめとする脳血管障害やパーキンソン病等の変性疾患に至るまで、様々な疾患の診断と治療に対応してきたが、入院対象となったのは脳梗塞が最も多く、次にパーキンソン病関連疾患となっている。

脳梗塞後遺症や難病疾患（パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症など）の在宅療養においては、地域の先生による往診での訪問診療や訪問看護スタッフと連携を密にして、病状の変化に柔軟に対応してきたが、今後ともより一層努力していく所存である。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

日勤帯のどの時間帯も神経内科医師が対応できるように分担している。当科の佐藤医師は救急診療センターも兼務となっており、救急要請に対しても柔軟に対応している。

2) 病棟体制

特に曜日・時間帯による担当医は決めていないが、三名の医師が互いをカバーする仕組みと、治療方針などについては三名の合議によってチームとして対応している。

3) 検査スケジュール

神経内科医師が単独で担当する予約検査は特に定めていないが、神経伝導検査・針筋電図など必要な検査は中央臨床検査部と各病棟などと連携して、適宜施行している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

循環器・神経内科の一部門として計算した時期が長く、神経内科単独のデータはまだ四年目であるが、延べ外来患者数は順調に増加している。また診療内容も一般内科疾患の割合が減少し、より神経内科疾患に特化した状況に変化している。

2) 入院診療実績（表2、3）

順調に新規入院患者数は増加し、平均在院日数はほぼ横ばいで延べ入院患者数も増加している。

3) 検査実績

CT・MRA・RIなど各種検査は部門別の統計となっており、当科単独の実績としては計算していない。

4. 認定医・専門医など

日本神経学会の教育機関としての認定を受けている。

日本内科学会認定医	1名
日本内科学会総合内科専門医	1名
日本神経学会専門医	1名
日本循環器学会専門医	1名

5. 業績

論文・著書

1. 佐藤智彦, 仁科拓也, 浅野彰彦, 中嶋秀人, 木村文治: 抗甲状腺抗体陽性であったGerstmann-Straussler-Scheinker病の一例, 内科, 117: 163-167, 2016.
2. 飛田哲史, 佐藤智彦, 仁科拓也, 浅野彰彦: 高アンモニア血症による意識障害を来した菌血症の一例, 日生医誌, 45, (in press)

学会発表

1. 飛田哲史, 佐藤智彦, 仁科拓也, 浅野彰彦: 高アンモニア血症による意識障害を来した菌血症の一例, 日本内科学会 第213回近畿地方会, 9月, 2016, 大阪.
2. 仁科拓也, 佐藤智彦, 浅野彰彦: 左片麻痺で発症した再発性神経梅毒の一例, 日本神経学会 第107回近畿地方会, 3月, 2017, 大阪.

研究会発表

1. 飛田哲史, 佐藤智彦, 仁科拓也, 浅野彰彦: 重症筋無力症の診断と治療, あわぎクリニカルカンファレンス, 11月, 2016, 大阪.
2. 浅野彰彦: 脳卒中の診断と治療, 日生病院市民講座, 11月, 2016, 大阪.
3. 上森麻美, 仁科拓也, 佐藤智彦, 浅野彰彦: 進行性の左片麻痺で発症した再発性神経梅毒の一例, 第52回北摂臨床懇話会, 2月, 2017, 大阪.

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
5診	佐藤	仁科		仁科	仁科	佐藤智彦	浅野	佐藤智彦	浅野	浅野

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	(21,156)	6,180※	6,053	6,641	6,313
入院	(16,420)	5,010※	5,879	5,055	5,353

※H25.4～神経内科を循環器内科・神経内科から分離新設

表3 H28.4～H29.3一入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
脳梗塞	35	32
パーキンソン＜Parkinson＞病	14	40
肺炎（誤嚥性肺炎を含む）	11	74
一過性脳虚血発作および関連症候群	9	11
神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	7	47
前庭機能障害	5	32
脳血管疾患の続発・後遺症	5	14
体液量減少（症）	4	22
てんかん	4	31
尿路系のその他の障害	4	27
めまい＜眩暈＞感およびよろめき感	4	48

スタッフ 部長：宇津 貴（7月～）

1. 診療内容

急性腎不全などの急性腎疾患、慢性糸球体腎炎やネフローゼ症候群などの慢性腎疾患から末期腎不全に至るまで、腎疾患全てを対象にした専門外来を平成28年7月より開始した。

末期腎不全に対しては適切な時期に透析療法（血液透析、腹膜透析療法など）への導入を行うとともに、慢性透析療法による血管合併症の検査・治療を行い予後の改善に努めている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2、3）

4. 専門医・指導医など

日本内科学会認定医・総合内科専門医	1名
日本腎臓学会専門医・指導医	1名
日本糖尿病学会専門医	1名
日本高血圧学会専門医・指導医	1名
日本透析医学会専門医・指導医	1名

5. 業績

論文・著書

1. Kume S, Kondo M, Maeda S, Nishio Y, Yanagimachi T, Fujita Y, Haneda M, Kondo K, Sekine A, Araki SI, Araki H, Chin-Kanasaki M, Ugi S, Koya D, Kitahara S, Maeda K, Kashiwagi A, Uzu T, Maegawa H, Hypothalamic AMP-Activated Protein Kinase Regulates Biphasic Insulin Secretion from Pancreatic β Cells during Fasting and in Type 2 Diabetes., *EBioMedicine*, 13 : 168-180, 2016.
2. Iwai T, Kume S, Chin-Kanasaki M, Kuwagata S, Araki H, Takeda N, Sugaya T, Uzu T, Maegawa H, Araki SI., Stearoyl-CoA Desaturase-1 Protects Cells against Lipotoxicity-Mediated Apoptosis in Proximal Tubular Cells., *Int J Mol Sci*. 9 : 17(11), 2016.
3. Uzu T, Araki SI, Kashiwagi A, Haneda M, Koya D, Yokoyama H, Kida Y, Ikebuchi M, Nakamura T, Nishimura M, Takahara N, Obata T, Omichi N, Sakamoto K, Shingu R, Taki H, Nagai Y, Tokuda H, Kitada M, Misawa M, Nishiyama A, Kobori H, Maegawa H ; Shiga Committee for Preventing Diabetic Nephropathy., Comparative Effects of Direct Renin Inhibitor and Angiotensin Receptor Blocker on Albuminuria in Hypertensive Patients with Type 2 Diabetes. A Randomized Controlled Trial., *PLoS*

One., 2016 Dec 29 ; 11(12) : e0164936

4. Kuwagata S, Kume S, Chin-Kanasaki M, Araki H, Araki S, Nakazawa J, Sugaya T, Koya D, Haneda M, Maegawa H, Uzu T : MicroRNA148b-3p inhibits mTORC1-dependent apoptosis in diabetes by repressing TNFR2 in proximal tubular cells., MicroRNA148b-3p inhibits mTORC1-dependent apoptosis in diabetes by repressing TNFR2 in proximal tubular cells., *Kidney Int*, 90(6) : 1211-1225, 2016.
5. Uzu T, Salt and hypertension in diabetes, *Diabetology International*, (in press)
6. Koide H, Hira D, Tsujimoto M, Katsube Y, Minegaki T, Uzu T, Ikeda Y, Morita S, Nishiguchi K, Terada T, Previous dosage of allopurinol is a strong determinant of febuxostat efficacy, *BIOL PHARM BULL*, (in press)
7. 宇津 貴, デバイス治療の将来展望, *循環器内科*, 79, 5 : 448-453, 2016.
8. 加太美保, 加藤 威, 藤本徳毅, 一色啓二, 宇津 貴, 田中俊宏 : 積極的なデブリードマンおよびLDL-アフェレーシスを施行し治療しえたcalciphylaxisの1例. *皮膚病診療*, 38 : 7, 699-702, 2016.
9. 宇津 貴, 合併症を考えた高血圧診療, *糖尿病合併症*, 31巻1号, (in press)
10. 宇津 貴, 慢性腎臓病 病気と薬2017 薬局(増刊号), 68, 1168-1174, 2017.

学会発表

1. Uzu T, COMPARATIVE EFFECTS OF DIRECT RENIN INHIBITOR AND ANGIOTENSIN RECEPTOR BLOCKER ON ALBUMINURIA IN HYPERTENSIVE PATIENTS WITH TYPE 2 DIABETES, *European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection*, 6月, 2016, フランス, パリ.
2. 宇津 貴 : 糖尿病性/透析性重症虚血肢に対する取り組み第2回日本下肢救済・足病学会関西地方学術集会, 10月, 2016, 大阪.
3. 宇津 貴 : 合併症を考えた高血圧診療, 第31回日本糖尿病合併症学会・第22回日本糖尿病眼学会, 10月, 2016, 仙台.
4. 宇津 貴 : 食塩誘発高血圧に体液過剰は必須か? 食塩誘発性高血圧は体液過剰にて生じるものではない, 第39回日本高血圧学会総会, 10月, 2016, 仙台.
5. 大畔健太, 魚田晃史, 宇都佳彦, 古結敦士, 枝廣龍哉, 石川那智, 西山祐輝, 立花 功, 宇津 貴 : 低Na血症による意識障害を呈したANCA関連血管炎の1例, *日本内科学会近畿地方会*, 3月, 2017, 神戸.

研究会発表

1. 宇津 貴 : CKD連携診療のすすめ, *大津市薬剤師会講演会*, 9月, 2016, 大津.
2. 宇津 貴 : これからの糖尿病腎症抑制対策, 第5回北神DMカンファレンス, 10月, 2016, 神戸.
3. 宇津 貴 : 超高齢化社会における腎症抑制戦略, 第53回東京糖尿病性腎症セミナー, 10月, 2016, 東京.
4. 宇津 貴 : 糖尿病性腎症の今とこれから, あわぎ糖尿病病診連携懇話会, 10月, 2016, 大阪.

5. 宇津 貴：慢性腎臓病の食事指導のために～エビデンスを知ろう～, 大阪病院給食研究会, 10月, 2016, 大阪.
6. 宇津 貴：糖尿病性腎症を抑制するために, Diabets1 Innovation Confereanve, 10月, 2016, 大阪.
7. 宇津 貴：CKD連携診療のすすめ～この症例, 腎臓専門医はどう診るのか～第一回あわぎCKD病診連携勉強会, 11月, 2016, 大阪.
8. 宇津 貴：慢性腎臓病(CKD)の診療と指導のポイント, ニッセイ医学セミナーUpDate, 11月, 2016, 大阪.
9. 宇津 貴：変わりゆく糖尿病性腎症の診療, 尾張北CKD対策セミナー, 12月, 2016, 江南.
10. 宇津 貴：腎臓に関わる高血圧の課題, 高血圧フォーラム心・腎ジョイントセミナー, 12月, 2016, 大阪.
11. 宇津 貴：高齢化社会における腎症対策の実際, 糖尿病治療戦略を考える会, 12月, 2016宇治.
12. 宇津 貴：合併症を考えた血糖・血圧管理の実際, 第143回内眼糖のつどい, 1月, 2017, 大阪.
13. 宇津 貴：CKDマネジメントのポイント いつ専門医に紹介するのか, あわぎ腎臓病病診連携懇話会, 2月, 2017, 大阪.
14. 宇津 貴：連携診療におけるCKD対策の実際, 第7回大阪南東地区CKD談話会, 2月, 2017, 大阪.
15. 宇津 貴：健康長寿を目指す糖尿病診療, プライマリーケアセミナー, 3月, 2017, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	宇津		宇津							
7診										宇津

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成28年度
外来	675
入院	1,072

※H28.7 腎臓内科を新設

表3 H28.7～H29.3ー入院患者の疾患

疾患名	件数	平均在院日数
腎生検目的	23	-
透析導入	15	-
2型糖尿病	18	12
慢性腎不全	15	19
後天性溶血性貧血	3	30
慢性腎炎症候群	3	6
全身性結合組織疾患	2	43
反復性および持続性血尿	2	6
ネフローゼ症候群	2	27
急性腎不全	2	12

スタッフ 部長：水野 均
副部長：生島裕文、山下晋也
医 長：原 譲次
兼 任：小関萬里（特任顧問、外科統括）

1. 診療内容

当科は、消化器外科ならびに一般外科の手術治療を中心に診療を行っている。平成28年4月から小関、水野、生島が赴任し、上部消化管、下部消化管、肝胆膵の消化器外科のすべての領域の疾患に対応できる体制が整った。頻度の多い疾患としては、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌などの悪性疾患、胆石症や単径ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患などである。手術は腹腔鏡手術を積極的に導入しており、虫垂炎や胆石症のみならず、食道癌、胃癌、大腸癌等の悪性疾患や鼠径ヘルニアに対しても腹腔鏡手術を第一選択として行っている。

手術以外には、緩和治療、消化器癌化学療法にも積極的に取り組んでおり、皮下埋め込み型中心静脈リザーバーを用いた外来化学療法や終末期の栄養療法を行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外科外来1～3診で、表のような予定で外来診療を行っている。院内/院外からの時間内の緊急診療の依頼には原則、断らない対応をしている。

2) 病棟体制（表2）

表2の通りである。

研修医1名と常勤医5名が病棟診療を担当している。緊急の業務は、外来診察、検査、手術などの担当でない者が病棟代理として対応している。

3) 検査スケジュール（表3）

上部内視鏡検査：毎週月曜日、木曜日の午前
下部内視鏡検査：毎週月曜日、水曜日の午後

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

外来患者数は表4の通りである。

2) 入院診療実績（表4、5）

入院患者数は表4の通りである。

手術症例は306例で、そのうち全身麻酔が225例であった。鏡視下手術は167例であり、全身麻酔症例の74.2%が鏡視下手術であった。

主な悪性腫瘍切除手術は、食道癌3例（全例が鏡視下手術）、胃癌16例（内8例が腹腔鏡手術）、結腸癌42例（内34例が腹腔鏡手術）、肝癌、肝転移6例であった。

主な良性疾患手術は、胆嚢摘出術が59例（内51例が腹腔鏡手術）、ヘルニア手術（単径、大腿、腹壁瘻痕、閉鎖孔）50例（内42例が腹腔鏡手術）、虫垂炎18例（内17例が腹腔鏡手術）であった。良性疾患の手術では、患者さんの希望などにより細径鉗子を用いた手術や、単孔式手術を取り入れ、より低侵襲の手術を行っている。

3) 検査実績

上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査を行っている。

4. 専門医・指導医など

日本外科学会専門医	5名
日本外科学会指導医	1名
日本消化器外科学会専門医	2名
日本消化器外科学会指導医	2名
日本消化器病学会専門医	3名
日本大腸肛門病学会専門医	1名
日本がん治療認定医機構がん治療認定医	3名
日本内視鏡外科学会技術認定医	1名

5. 業績

論文・著書

- 水野 均, 畑中信良, 森本芳和, 平尾隆文, 山崎芳郎：膵体尾部脂肪置換を伴った膵胆管合流異常の1例. 日本臨床外科学会雑誌, 77巻5号：1229-1235, 2016.
- 水野 均, 畑中信良, 森本芳和, 平尾隆文, 山崎芳郎：上腸間膜動脈狭窄にステント留置を先行し切除した十二指腸乳頭部癌の1例. 日本臨床外科学会雑誌, 77巻6号：1446-1451, 2016.

学会発表

- Yamashita S, Tanemura M, Shimizu Y, Kuwai T, Urata Y, Hatanaka N, Taniyama K：Impact of Endoscopic Stent Insertion on Detection of viable Circulating Tumor Cells for Obstructing Colon Cancer. America Association for Cancer Research Annual Meeting 2016, 4月, 2016年, アメリカ, ニューオリンズ.
- 山下晋也, 原 譲次, 井上雅史, 清水洋祐, 藤井 眞, 道清勉：Three cases of appendiceal diverticulitis performed laparoscopic surgery. 第71回日本消化器外科学会, 7月, 2016年, 徳島.
- 山下晋也, 水野 均：術中透視下に出血部位を同定した小腸出血の一例. 第71回日本大腸肛門病学会, 11月, 2016年, 三重.
- 生島裕文, 原 譲次, 山下晋也, 水野均, 小関萬里：胃軸捻転症に対し腹腔鏡下固定術を施行した1例. 第78回日本臨床外科学会総会, 11月, 2016年, 東京.

研究会発表

1. 水野 均, 進行大腸癌に対する腹腔鏡下手術. 第17回あわぎフォーラム, 7月, 2016年, 大阪.
2. 飛田哲志, 原穰次, 山下晋也, 生島裕文, 水野均, 小関萬里: 腸間膜脂肪肉腫の一切除例. 第612回大阪外科集談会, 7月, 2016年, 大阪.
3. 小関萬里: 膵臓がんとうがん予防について. ニッセイ医学セミナーUpdate, 8月, 2016, 大阪.
4. 水野 均: 大腸癌の手術と化学療法. ニッセイ医学セミナーUpdate, 9月, 2016, 大阪.
5. 生島裕文: 胃癌に対する最新治療. ニッセイ医学セミナーUpdate, 12月, 2016, 大阪.
6. 守口怜那, 水野 均, 生島裕文, 山下晋也, 原 穰次, 小関萬里: 単孔式腹腔鏡手術で摘出した脳室腹腔シャントチューブ腹腔内迷入の一例. 第615回大阪外科集談会, 1月, 2017年, 大阪.
7. 水野 均: 再発例から学ぶ, 再発させないための手術の注意点. 第5回i-TAPP meeting, 2月, 2017年, 大阪.

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	水野	水野	手術	手術		手術			手術	
2診	生島	生島	交代	交代	※②	検査		回診	小関	小関
3診	小関 ※①				山下	交代	原	交代		

※① 11:00まで ※② 1・3・5週は南、2・4週は水野

表 2 診療体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝術後回診	早朝術後回診	早朝術後回診		早朝術後回診
午後				部長回診、 術前術後症例検討	

表 3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
上部内視鏡	○ 紹・予						○ 紹・予			
下部内視鏡		○ 紹・予				○ 紹・予				

○: 当院診察が必要

表 4 外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	5,088	4,729	4,327	3,776	3,446
入院	7,578	5,869	5,639	4,106	4,778

表 5 H28.4~H29.3 入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件 数	平均在院日数
結腸の悪性新生物	49	14
そけいく巣径>ヘルニア	41	7
胆石症	38	8
胃の悪性新生物	22	25
直腸の悪性新生物	21	17
急性虫垂炎	21	7
消化器系のその他および部位不明確の 良性新生物	18	9
結腸、直腸、肛門および肛門管の 良性新生物	17	4
小腸の悪性新生物	12	11
消化器系の処置後障害、 他に分類されないもの	10	17

結腸の悪性新生物

疾患名	件 数	平均在院日数
S状結腸の悪性新生物	25	13
下行結腸の悪性新生物	8	13
横行結腸の悪性新生物	7	16
上行結腸の悪性新生物	6	15
盲腸の悪性新生物	2	16
左結腸曲<脾弯曲>の悪性新生物	1	18

直腸の悪性新生物

疾患名	件 数	平均在院日数
直腸の悪性新生物	18	16
直腸S状結腸移行部の悪性新生物	3	24

スタッフ 部長：前田 元（特任副院長）

1. 診療内容

平成28年1月より診療を開始した。現在1名体制であり、手術時には大阪大学呼吸器外科教室より応援医師の派遣を依頼している。

対象疾患としては肺癌が最も多く、総合内科で診断および病期判定を行った後に紹介されるケースがほとんどである。その他の疾患としては、自然気胸、転移性肺腫瘍、肺真菌症、縦隔腫瘍、膿胸などである。胸腔鏡下手術を主体に行っている。

病棟回診やカンファレンスは消化器・一般外科と合同で行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

4. 専門医・指導医など

日本外科学会指導医・専門医	1名
日本胸部外科学会指導医	1名
日本呼吸器外科学会指導医・専門医	1名

5. 業績

論文・著書

- Ose N, Maeda H, Takeuchi Y, Susaki Y, Kobori Y, Taniiguchi S, Maekura R : Solitary pulmonary nodules due to non-tuberculous mycobacteriosis among 28 resected cases. Int J Tuberc Lung Dis 20 : 1125-9, 2016.
- Nojiri T, Hamasaki T, Inoue M, Shintani Y, Takeuchi Y, Maeda H, Okumura M : Long-term impact of postoperative complications in cancer recurrence following lung cancer surgery. Ann Surg Oncol DOI 10.1245/s10434-016-5655-8, 2016. <e-pub>
- Ose N, Kobori Y, Takeuchi Y, Susaki Y, Taniguchi S, Maeda H : Carvenous hemangioma in the thymus : a case report. Surg Case Rep 2 : 10, 2016.
- Hayashi A, Susaki Y, Ose N, Takeuchi Y, Maeda H : Colopleural fistula caused by aspergillus : an extremely rare complication after lung resection - case report. Surg

Case Rep 2 : 40, 2016.

- 前田 元：第V章 肺の非腫瘍性疾患 1. 肺感染症の外科 D. 寄生虫疾患 E. 気管支拡張症 F. 肺放線菌症 G. 肺膿瘍, 日本呼吸器外科学会/呼吸器外科専門医合同委員会編, 呼吸器外科学テキスト～外科専門医・呼吸器外科専門医をめざす人のために～, 179-182, 南江堂, 東京, 2016.
- 平社亜沙子, 前田 元, 城光寺 龍：縦隔原発ホジキンリンパ腫の1例. 日産医誌 44 : 41-6, 2016.
- 竹内幸康, 谷口聖治, 須崎剛行, 大瀬尚子, 林 明男, 前田 元：腎癌と気胸を同時発見されたBirt-Hogg-Dubé症候群の1例. 日呼外会誌 30 : 472-5, 2016.

学会発表

- 大瀬尚子, 竹内幸康, 須崎剛行, 小堀優子, 谷口聖治, 前田 元：非結核性抗酸菌症の外科治療成績. 第33回日本呼吸器外科学会総会, 5月, 2016, 京都.
- 須崎剛行, 谷口聖治, 小堀優子, 大瀬尚子, 竹内幸康, 前田 元：当院における病理病期IIIA期N2非小細胞肺癌の治療成績について. 第33回日本呼吸器外科学会総会, 5月, 2016, 京都.
- 谷口聖治, 竹内幸康, 須崎剛行, 大瀬尚子, 小堀優子, 前田 元：EGFR-TKI投与前に活性型EGFR遺伝子変異とEGFR-TKI耐性遺伝子変異を検出した上皮内腺癌(AIS)の1切除例. 第33回日本呼吸器外科学会総会, 5月, 2016年, 京都.
- 竹内幸康, 大瀬尚子, 須崎剛行, 小堀優子, 谷口聖治, 前田 元：完全胸腔鏡下肺癌手術の教育システムにおける「タブレット版手術の手引き」の有用性. 第33回日本呼吸器外科学会総会, 5月, 2016, 京都.
- Ose N, Maeda H, Inoue M, Morii E, Shintani Y, Tada H, Matsui H, Tokunaga T, Sakamaki Y, Katsura H, Iwasaki T, Fukuhara K, Takeuchi Y, Okumura M : Results of surgical intervention for thymic neuroendocrine tumors : A multicenter clinicopathological study. 7th International Thymic Malignancy Interest Group Annual Meeting, 9月, 2016年, アメリカ, サンフランシスコ.
- Inoue M, Maeda H, Takeuchi Y, Fukuhara K, Shintani Y, Funakoshi Y, Funaki S, Nojiri T, Kusu T, Kusumoto H, Kimura T, Okumura M : Individualized Adjuvant Chemotherapy for Resected Lung Cancer According to Collagen Gel Droplet-Embedded Culture Drug Sensitivity Test(CD-DST). 17th World Conference on Lung Cancer, 12月, 2016年, オーストラリア, ウィーン.
- 井上匡美, 前田 元, 新谷 康, 舟木壮一郎, 野尻 崇, 楠本英則, 木村 亨, 竹内幸康, 大瀬尚子, 福原謙二郎, 富田栄美子, 武田伸一, 船越康信, 楠 貴志, 奥村明之進：抗癌剤感受性試験CD-DST法に基づいた肺癌術後補助療法の試み. 第57回日本肺癌学会総会, 12月, 2016, 福岡.

研究会発表

- 前田 元：肺癌治療における最近の話題. ニッセイ医学セミナーUpDate, 6月, 2016, 大阪.
- 前田 元：呼吸器外科の診療について－胸腔鏡下肺癌手術の実際－. 第17回あわぎフォーラム, 7月, 2016, 大阪.

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
2診		前田					前田			

表 2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前		手術	手術		
午後		手術	手術	病棟回診 カンファレンス	

表 3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成27年度	平成28年度
外来	45	303
入院	133	680

※H28.1 呼吸器外科を新設

表 4 H28.4～H29.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
気管支および肺の悪性新生物	27	14
気胸	9	11
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	7	13
胸腺の悪性新生物	2	25
良性縦隔腫瘍	2	10
その他	7	7

乳 腺 外 科

スタッフ 部 長：西田幸弘
常勤嘱託：中内千暁
専 攻 医：重里昌子（～2月）

1. 診療内容

乳癌検診に関しては、マンモグラフィと超音波検査を初診当日に施行し即日結果を出すことで、正常の方は1日で診察終了となる。腫瘍のある方は当日中に細胞診等を施行し1週間後には結果を出すシステムである。治療に関しては、専任のがん化学療法看護認定看護師常駐の外来化学療法センターにて、術前・術後ともに通院での外来化学療法を行う。専任医師による放射線療法は、温存療法後、再発、転移すべてに対応する。手術に関しては術前化学療法が必要かの判断後、乳房温存術、全摘術を施行し、必要に応じて再建術にも対応する。再建術は大阪大学形成外科医局の協力のもと医員を得て一期的同時再建を施行している。RI+色素法によるセンチネルリンパ節生検でより確実な診断を目指す。診断部門では微細な石灰化に対する診断としてマンモトーム生検も実施している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

3) 統計

2016年の外来化学・分子標的療法は80～100例/月、超音波・マンモグラフィは約160例/月、手術数は138例（うち再建術5例）、ステレオガイド下マンモトーム生検は19例/年。

4. 認定医・専門医など

日本乳癌学会専門医	1名
日本乳癌学会認定医	1名
がん治療認定医	1名
日本消化器外科学会認定医	1名
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	
マンモグラフィ読影認定医	2名
日本外科学会専門医	2名

5. 業績

学会発表

1. Nakauchi C, Tsunashima R, Naoi Y : Development of a prediction model for lymph node metastasis in each subtype breast cancer. 5th Okayama Translational Research Summit, 4月, 2016, 岡山.
2. 西田幸弘, 中内千暁, 重里昌子, 畠山明子, 大畠千春, 水越梓 : 当院での乳癌晩期再発症例の検討, 第24回日本乳癌学会学術総会, 6月, 2016, 東京.
3. 中内千暁, 加々良尚文, 島津研三, 下村 淳, 直居靖人, 金昇晋, 重里昌子, 西田幸弘, 野口眞三郎 : 再発転移乳癌患者における血中循環腫瘍DNAのTP53, 第24回日本乳癌学会学術総会, 6月, 2016, 東京.
4. 重里昌子, 中内千暁, 西田幸弘, 畠山明子, 大畠千春, 水越梓 : 当院における乳癌家族歴の有無と臨床病理学的所見・術前化学療法の効果との関連性の検討, 第24回日本乳癌学会学術総会, 6月, 2016, 東京.

研究会発表

1. 重里昌子 : ERI投与方法の工夫, EKB2, 5月, 2016, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	手術	手術	西田	西田	中内	中内 (検査・手術)	中内	中内	西田	西田

表2 外来・病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	手術				
午後	手術		検査 超音波・ステレオ ガイド下吸引生検	回診 検討会 抄読会	

表3 外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	4,573	4,766	4,222	4,737	4,978
入院	1,587	2,094	1,781	1,834	1,374

表4 H28.4～H29.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
乳房の悪性新生物	138	9
乳房の良性新生物	16	3
乳房の画像診断における異常所見	9	2
乳房のその他の障害	3	2
乳房腫瘍	2	2

スタッフ 部 長：藤田征巳（副院長）
 担当部長：佐伯典厚
 副 部 長：大塚博文、尾崎公章
 医 長：吉見佳奈、高山敬範、八田幸治、矢野悠子
 副 医 長：尾上昌世
 常勤嘱託：増田公美（1月～）
 専 攻 医：田中雄介
 兼 任：船渡孝郎（中央手術管理部長、女性骨盤底センター長、
 地域医療総合窓口あったかサポートセンター長、ニッセイ予防医学センター顧問）

1. 診療内容

婦人科は、良性腫瘍に対する内視鏡手術（腹腔鏡下手術・子宮鏡手術）を主として行っており、婦人科手術の5割を占めている。

婦人科悪性腫瘍についても、後腹膜リンパ節郭清を含む根治手術、化学療法、術後放射線治療を行っている。

先進医療については平成23年1月：腹腔鏡下子宮体がん根治術、平成25年5月1日：腹腔鏡下仙骨腫固定術（骨盤臓器脱）の認可を近畿厚生局から受け、最先端の医療を提供している。

周産期においては、自然分娩を基本としている。また助産師外来・母乳育児相談・マタニティビクス・ヨガなどを取り入れている。また妊婦の方に安心して出産していただけるように産科医療補償制度に加入している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

当科は主治医（受け持ち医）制を引いている。

3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

2) 入院診療実績（表4、5）

H28年度

・分娩数：395件

・総手術総数：1,165件

腹腔鏡下手術

腹腔鏡下子宮附属器腫瘍摘出術 232件

腹腔鏡下腔式子宮全摘術 218件

腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術 186件

腹腔鏡下卵管切除術 32件

子宮鏡下手術

子宮内膜ポリープ切除術 43件

子宮鏡下子宮筋腫摘出術 38件

開腹手術

帝王切開術 67件

腹式子宮附属器悪性腫瘍手術（卵巣癌）18件

開腹単純子宮全摘術 13件

骨盤臓器脱

膀胱脱手術（メッシュ使用）33件

子宮脱手術（腔壁形成手術及び子宮全摘術）

（腔式、腹式）18件

腹腔鏡下仙骨腫固定術 14件

腔閉鎖 11件

その他骨盤臓器脱手術 4件

腹圧性尿失禁

中部尿道スリング手術（TOT手術）5件

4. 認定医・専門医など

日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医 4名

日本内視鏡外科学会技術認定医 2名

日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 1名

日本産科婦人科学会専門医 11名

日本性感染症学会専門医 1名

母体保護法指定医 6名

日本がん治療認定医機構 日本がん治療認定医 1名

麻酔標榜医 2名

5. 業績

論文・著書

1. 増田公美, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：当院での子宮腺筋症病巣摘出術の現状, 産婦人科の進歩, 68：354-358, 2016.

2. 矢野悠子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：当院における後期高齢者（75歳以上）に対する腹腔鏡下手術の検討, 産婦人科の実践, 65：433-437, 2016.

3. 矢野悠子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：当院における後期高齢者（75歳以上）に対する産婦人科腹腔鏡下手術の検討, 日産誌, 44：6-10, 2016.

4. 増田公美, 橋本奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：妊娠19週の卵巣嚢腫茎捻転に対し, 腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出術を施行した症例, 日産誌, 44：27-30, 2016.

学会発表

- 橋本奈美子[矢田], 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 八田幸治, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎: 子宮内膜症性嚢胞の術後再発予防を考える前方視的ランダム化比較試験. 第68回日本産科婦人科学会 4月, 2016, 東京.
- 八田幸治, 田中雄介, 増田公美, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子[矢田], 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 当院における全腹腔鏡下子宮全摘出術の手術成績. 第68回日本産科婦人科学会 4月, 2016, 東京.
- 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 卵巣卵巣膿瘍に子宮筋層内膿瘍を合併し, 膿瘍破裂を来したが腹腔鏡下手術で治癒した1例. 第134回近畿産科婦人科学会, 6月, 2016, 京都.
- 高山敬範, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 吉見佳奈, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 子宮頸部付近に大型筋腫を認める症例に対する全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH). 第56回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2016, 長崎.
- 八田幸治, 田中雄介, 増田公美, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 卵巣膿瘍に及ぶ非典型的な多発広範囲内発育子宮筋腫に対する腹腔鏡下子宮筋腫核出術(LM)を行った1例. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2016, 長崎.
- 矢野悠子, 田中雄介, 増田公美, 尾上昌世, 高山敬範, 八田幸治, 吉見佳奈, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 腹腔鏡下手術で診断に至った原発性卵管癌の一例. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2016, 長崎.
- 尾上昌世, 田中雄介, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術における術中大量出血に対しUAEを行い, さらに術後感染に対し経皮的ドレナージを要した1例. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2016, 長崎.
- 吉見佳奈, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 子宮頸部の粘膜下筋腫に対する腹腔鏡下手術および術後管理. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2016, 長崎.
- 高山敬範, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 吉見佳奈, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 頸部筋腫や広範囲内筋腫に対する全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)のアプローチ. 第39回日本産婦人科手術学会, 11月, 2016, 仙台.
- 八田幸治, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 子宮筋層内膿瘍を合併した 卵巣卵管膿瘍に対して腹腔鏡下手術で治療しえた一例. 第39回日本産婦人科手術学会, 11月, 2016, 仙台.
- 高山敬範, 大塚博文, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 吉見佳奈, 尾崎公章, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)における術式定型化の意義ー手術の安全性確保と若手医師の教育. 第29回日本内視鏡外科学会, 12月, 2016, 横浜.

研究会発表

- 矢野悠子: 月経困難症の稀少症例について. 第5回あわぎ産婦人科病診連携懇話会, 6月, 2016, 大阪.
- 藤田征巳: 日生病院における 婦人科がん治療の取り組み. 第5回あわぎ産婦人科病診連携懇話会, 6月, 2016, 大阪.
- 尾上昌世: 子宮内膜症における病診連携～子宮内膜症地域連携パス作成の取り組み～. 第10回子宮内膜症セミナー, 11月, 2016, 大阪.
- 尾上昌世: 当科で行った子宮内膜症性嚢胞の術後再発予防に対する前方視的ランダム化比較試験. 第6回プロゲスチン研究会, 2月, 2017 東京.

表 1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	藤田	藤田	佐伯	佐伯	藤田	藤田	船渡	船渡	佐伯	佐伯
2診	尾上	尾上	矢野	矢野	吉見	吉見			田中雄	田中雄
3診	大塚	大塚	八田	八田	高山	高山	奥野	奥野	尾崎	尾崎
4診	増田	増田			尾崎					
	手術	手術	手術	手術	手術		手術	手術	手術	回診

表 2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	抄読会		周産期カンファレンス		
午後				術前カンファレンス	部長回診 画像カンファ

表 3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
子宮鏡検査		○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予				○ 紹・予

○: 当院診察が必要

表 4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	17,371	21,069	21,883	23,187	21,677
入院	12,201	11,909	12,532	13,381	12,624

表 5 H28.4～H29.3ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	423	8
単胎自然分娩	293	7
卵巣の良性新生物	137	7
子宮内膜症	122	7
女性性器脱	77	11
女性性器のポリープ	55	3
子宮頸(部)の異形成	47	3
卵巣の悪性新生物	43	14
卵管炎および卵巣炎	41	8
偽陣痛	34	9

小 児 科

スタッフ 部 長：赤木幹弘
副部長：石川依子

1. 診療内容

当科では感染症や気管支喘息等を中心とした急性期・慢性期の一般小児科診療と院内出生児の診療を行っている。各医師の専門性から、小児神経・代謝疾患、小児内分泌疾患、アレルギー疾患を中心に診療してきた。

平成28年度は赤木部長と石川副部長の二人体制で、部長は一般小児科診療と専門外来を、副部長は新生児の診療をおもに担当した。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

平成28年4月以降の外来診療スケジュールを表1に示した。

2) 病棟体制

病床数は一般病棟9床、新生児病棟7床である。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

外来患者数は7,434人と前年度から1,222人減であった。

2) 入院診療実績（表2、3、4）

入院患者数は3,553人と前年度から292人増であった。過去6年間では最高である。表にはでていないが、ネフローゼ症候群、IgA血管炎、自己免疫性好中球減少症、自己免疫性肝炎、敗血症等の診療実績がある。

4. 認定医・専門医など

日本小児科学会専門医 1名
日本小児神経学会専門医 1名
日本感染症学会専門医・指導医 1名
I C D 1名

5. 業績

論文・著書

1. 赤木幹弘：巨大軸索ニューロパチー，日生医誌，44：1-5，2016.
2. 西嶋知子，山野則子，赤木幹弘，上野山加代子：地域に根ざした子育て・子育てを展望する，地域福祉研究，45：54-69，2017.

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	赤木	石川依 (予約) (乳幼児 健診)	赤木	池原 (予約) (予防 注射)	池原		赤木	池原 (予約) (アレルギー)	赤木	交代 (予約) (1ヶ月 健診)
2診	石川依		石川依		赤木		石川依	赤木 (予約) (神経 代謝・ 内分泌)	石川依	

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	10,092	8,902	8,008	8,656	7,434
入院	1,762	780	1,787	3,261	3,553

表3 H28.4～H29.3－小児科入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
肺炎	103	7
不明熱	18	6
部位不明のウイルス感染症	17	7
急性細気管支炎	17	7
喘息発作重積状態	11	6
川崎病および全身性結合組織疾患	11	14
喘息	10	6
皮膚および粘膜病変を特徴とするその他のウイルス感染症、他に分類されないもの	9	5
急性鼻咽頭炎[かぜ]＜感冒＞	9	6
ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	8	6
急性気管支炎	8	6
尿路系のその他の障害	8	7

表4 H28.4～H29.3－新生児入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
周産期に発生したその他の呼吸器疾患	47	7
新生児の呼吸窮＜促＞迫	34	8
その他および詳細不明の原因による新生児黄疸	28	4
周産期に特異的なその他の感染症	16	4
出産時仮死	7	6
周産期に発生した間質性気腫および関連病態	7	1
新生児吸引症候群	4	5
新生児の哺乳上の問題	4	5
その他の分娩合併症により影響を受けた胎児および新生児	3	11
妊娠期間短縮および低出生体重に関連する障害、他に分類されないもの	3	15
心（臓）中隔の先天奇形	3	5

スタッフ 部長：高橋 励
医長：青木保典

1. 診療内容

平成28年度は、専門外来診療「認知症」、産業精神医学分野において、より院外との連携に関連する業務が増えた。

「認知症」は向後の当科の重要な業務といえ、3名の常勤医・非常勤医（高橋・青木・木藤）と1名の心理士（丸山）が協力し、西部地区の診療所からの紹介診療にあたった。また認知症懇話会・認知症市民セミナーの開催・医師会セミナーでの講演も続いている。これらを通して大阪市西部地区を中心に日生病院を中心とする診療所とのネットワークづくりを進め、症例の活発な紹介・逆紹介につながっている。

産業精神医学では、平成28年度から全国レベルで各企業にストレスチェックが義務付けられ、高橋・青木が関連企業の一つのストレスチェック面談にあたった。高橋はその結果を数理統計的に分析し、労務管理への応用可能性がある新しいデータ解析法を開発しつつある。

各病院主催の緩和ケア研修会の精神・心理部門への協力を引き続き行っている。

従来の主な機能たる外来診療、入院診療、院内他科との連携については概ね従来通りである。

一般外来診療では、(1) うつ病・パニック障害などうつ病圏、(2) 全般的な不安障害など神経症圏、(3) 適応障害などストレス関連疾患の、院内他科・院外の診療所からの紹介例が多い。近年は社会背景を反映して(3)の割合が増大しているため、当科が伝統的に大切にしてきた人格特性の把握・適切な心理教育など個別的な対応スキルの意義が高まっている。

専門外来診療は一般診療の枠内で時間を確保して行っている。(4)「慢性疲労（症候群）」（高橋）では、慢性疲労・一部の慢性疼痛など心身症（身体表現性障害）の紹介を受けている。これらは身体症状のみを訴え明らかな精神症状を呈さぬため、精神科では対応が難しいとされがちである。この対応スキルを有する当科は数少ない紹介先として機能しており、総合病院・大学病院からの紹介例もある。

入院診療は一般医療法に基づき、他科との混合病棟形式で行っている。このため受け入れ得る症例は、

ADLが概ね自立し行動制限の必要が無いことが前提である。昨今は総合病院精神科の入院病床が減少し、精神科病院が主であるため、前者への入院が望ましい症例の紹介先として機能している。前述の(1)うつ病圏、(2)神経症圏、(3)適応障害、一部の認知症の他、てんかん、軽症の統合失調症などの加療実績がある。

院内他科との連携には、まず前述の(4)心身症が疑われ、心身の問題を一元的に特定できない症例の併診がある。他科入院患者が従来合併する精神疾患・新たに発症したせん妄・適応障害などへの対応（すなわち、コンサルテーション・リエゾン＝サービス、CLS）、さらに緩和ケアでの相談（コンサルテーション）・直接診療（リエゾン）等の業務も多い。

2. 診療体制

常勤は2名（高橋 励（部長）、青木保典）で、定数の3名に回復していない。

1) 外来診療スケジュール（表1）

2診（必要に応じて3診）での完全予約制で行っている。初診患者様の受け入れは、あったかサポートセンターを経由する紹介を前提にお願いしている。当科診察は過密化する一方であり、診療時間の効率的な運用がますます重要になりつつあるためである。さらに治療の質向上のため、心理士によるカウンセリング・認知機能検査を行う症例もある。

2) 検査体制（表2）

当科独自の検査としては心理検査、脳波検査などがある。

まず心理検査では、一般分野では重症度（うつ状態など）の半定量的評価、性格・人格特性の定性的評価を引き続き行っている。認知症分野では、スクリーニング（認知症が疑われる症例の発見）から病態の特定（例としてアルツハイマー病と脳血管認知症を鑑別するための診断補助）へと検査の意義が進化し、検査バッテリーも充実し業務が増大している。

次に脳波検査は、従来に引き続いててんかん診療、他科連携における症候性・器質性病態の推定にお

いて有用である。難しい認知症の初期診断には、青木が独自に開発した脳波分析手法を臨床で利用を開始した。

その他、認知症の病態検査法として、従来脳血流SPECTが頻用されている他、頭部MRIの定量的計算法の導入を準備している。またアルツハイマー病のリスクファクターが生活習慣病のそれと大きく重なることから、初期認知症や軽度認知障害(MCI)の認知機能マネジメントのために生活習慣病モニタリング検査も活用している。また別に、当科では以前より認知機能低下の生理学的評価を積極的に行っている(例として、鑑別診断としてのパルスオキシメトリーの援用、注意機能を測定するソフトウエアの開発など)。

このように、多重的・総合的に認知症の診断精度を高める体制づくりを進めている。

3) 病棟体制

非常勤医を除き、外来診療担当医が入院加療をも受け持つ。2名の入院担当医が概ね10人前後の入院加療を行っている。

4) CLSおよび緩和ケア業務

現在は青木が中心になり、緩和ケア業務はCLS中を含めて行っている。心理士による「無菌室化学療法カウンセリング」も続けている。

5) 心理士業務体制

一般カウンセリング、一般検査、緩和ケア業務に加えて、認知症病態検査、認知症介護者に対するカウンセリングの準備など、質・量両面にわたり業務が著明で増大しており、まもなく増員の必要性が見込まれる。

6) 教育体制の診療体制への包含

①大阪大学医学部学生の臨床実習を続けている。これは実際の業務(外来診療・専門外来診療・入院診療・院内他科連携・心理検査・脳波検査)について、常勤医・非常勤医・心理士の4名が各自の専門分野を分担して解説・講義を行った。

②当院における精神科前期研修には、従来最終レポート作成の過程にかかわり、やや手薄ともいえるが、本来この過程は研修協力病院(水間病院・藍野病院)で行われるのが建前であるためである。さらに、新専門医制度の整備に際し、学会による以下の施設認定を予定通りに取得した。

③精神科を専門とする医師のための、日本精神神経学会専門医研修認定施設(協力型)。

④神経精神医学(精神医学のうち身体的問題が大きく関与する分野)のサブスペシャリティを目指す、さらに上級の精神科医師のための、日本総合病院精神医学会特定研修施設。

3. 診療実績

1) 外来診療実績(表3)

平成26年7月の部員変更に伴い外来患者が一旦減少した後、患者数は反跳したが、非常勤医(江川)の異動にともない平成29年1月に再度、他診療所への患者数移動が生じた。

2) 入院診療実績(表3、4)

入院数は昨年度以上の数値で維持されているが、総合病院精神科入院病床が著減し、貴重である現在、診療所とのさらなる連携強化による患者増が望ましいと考えている。

4. 認定医・専門医など

精神神経学会専門医(かつ指導医)	1名
日本総合病院精神医学会特定指導医	1名
精神保健指定医	1名
日本医師会認定産業医	1名

5. 業績

論文・著書

- Canuet L, Aoki Y, Ishii R, Maestú F: The Role of Functional Networks in Neuropsychiatric Disorders. Multimodal Oscillation-based Connectivity Theory (eds) Satu Palva Springer International Publishing, pp.123-147, 2016.
- 青木保典, 数井裕光, 石井良平, 吉山顕次, 鐘本英輝, 鈴木由希子, 佐藤俊介, 東 眞吾, 末廣 聖, 松本拓也, 武者利光, 松崎晴康, 今城 郁, 畑 真弘, 池田俊一郎, 岩瀬真生, 池田学: 特発性正常圧水頭症における髄液シャント術の脳波NPV解析による効果予測. 老年精神医学雑誌, 27: 1176-1182, 2016.

学会発表

- 青木保典, 数井裕光, Roberto D. Pascual-Marqui, 石井良平, 吉山賢次, 鐘本英輝, 佐藤俊介, 鈴木由希子, 東 眞吾, 末廣聖, 松本拓也, 畑 真弘, 今城 郁, 松崎晴康, 武者利光, 岩瀬真生, 池田学シンポジウム3 LORETA の精神医学への応用: 特発性正常圧水頭症における安静時皮質回路活動量とその認知歩行機能との関連性. 第46回日本臨床神経生理学会, 10月, 2016, 郡山.

研究会発表

- 高橋 励: 不眠症の治療手順を整理してみる. 地域医療連携フォーラム「不眠症治療」, 6月, 2016, 大阪.
- 高橋 励: 新しく始まったストレスチェック制度について. ニッセイ・ニュークリエーション安全衛生委員会主催セミナー, 10月, 2016, 大阪.
- 高橋 励: 講義と演習「気持ちのつらさ「コミュニケーション」」. 大手前病院緩和ケア研修会, 11月, 2016, 大阪.
- 高橋 励: 講義と演習「せん妄」「コミュニケーション」. 大阪大学医学部附属病院緩和ケア研修会, 12月, 2016, 大阪.
- 木藤友実子: 認知症を理解する. 西区認知症等高齢者支援地域連携事業, 3月, 2017, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	高橋		木藤		高橋		江川		高橋	高橋
2診	青木		青木	青木	木藤	木藤	木藤		青木	

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
脳波	○診	○診	○診	○診	○診	○診	○診	○診		
心理テスト	○診	○診			○診	○診	○診	○診	○診	○診

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	15,708	15,618	15,008	15,568	15,073
入院	5,049	6,661	5,267	4,072	3,749

表4 H28.4～H29.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
うつ病エピソード	51	41
双極性感情障害＜躁うつ病＞	11	49
その他の不安障害	9	28
統合失調症	2	49
解離性〔転換性〕障害	2	29
アルツハイマー＜Alzheimer＞病	2	33
てんかん	2	5
薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒	2	45

整 形 外 科

スタッフ 部 長：松井 稔（リハビリテーション室長） ※ H29年4月～部長：毛利年一
副部長：行方雅人
副医長：高橋和孝、平井幸雄

1. 診療内容

当科は、関節外科・骨折外傷を2本柱として診療を行ってきた。

関節外科では膝およびまた関節の関節症や関節リウマチに対して人工関節手術や外来での保存両方をおこなってきた。特に人工関節の進歩はめざましく、耐用性にすぐれたセラミックやクロスリンクポリエチレンなどを最小侵襲手術などを取り入れ患者様の負担を最低限にしている。

外傷では高齢者の骨折が以前として増加しており、手術だけでなく圧迫骨折の入院加療にも対応してきた。ロコモティブシンドロームが世間に徐々に認知されつつあり、この領域の診療は今後必要不可欠で力を入れていくべき分野だと考えられる。

また、当科はリハビリテーション室と密接に連携して早期退院・早期社会復帰を目標に治療に当たっている。そのため、手術患者に対しては手術前からリハビリテーションを行うだけでなく、術後もできるかぎり早期から集中して運動療法を行ってきた。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

整形外科1、2診で外科治療を行った。

2) 病棟体制（表2）

病床数は30、常勤医4名が担当し診療を行った。

3) 検査スケジュール（表3）

脊椎造影（金曜日午後）

関節造影（木曜日午後）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

スタッフのがんばりもあり、外来患者数は微増した。

2) 入院診療実績（表4、5）

スタッフが一度に入れ替わり、その影響で入院患者数は減少した。

4. 認定医・専門医など

日本整形外科学会認定リウマチ医 1名
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション認定医 1名
日本整形外科学会認定整形外科専門医 1名

5. 業績

論文・著書

- 高橋和孝, 米谷泰一, 阪田晃佑, 衣笠和孝, 濱田雅之：剣道中に受傷した脛骨内果深脛距靭帯裂離骨折の1例, 中部日本整形外科災害外科学会雑誌, 59：1193-1194, 2016.
- 平井幸雄, 岡 久仁洋, 田邊 誠：母指CM関節症に対しZipTightを用いてsuspensionplastyを施行した2例, 中部日本整形外科災害外科学会雑誌, 59：1121-1122, 2016.
- 平井幸雄, 平尾 真, 蛭名耕介, 田邊 誠, 吉川秀樹：人工足関節置換術後に外反母趾矯正が必要となった関節リウマチの1例, 整形外科, 68：42-45, 2017.

学会発表

- 高橋和孝, 米谷泰一, 阪田晃佑, 衣笠和孝, 濱田雅之：剣道中に受傷した脛骨内果深脛距靭帯裂離骨折の1例, 中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 4月 2016, 浜松.
- 平井幸雄, 岡 久仁洋, 田邊 誠：母指CM関節症に対しZipTightを用いてsuspensionplastyを施行した2例, 中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 4月 2016, 浜松.
- 高橋和孝, 米谷泰一, 阪田晃佑, 衣笠和孝, 濱田雅之：剣道中に受傷した脛骨内果深脛距靭帯裂離骨折の1例, 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS), 7月 2016, 福岡.

研究会発表

- 行方雅人：腰椎変性疾患の診断と治療, 企業社内研修, 7月, 2016, 大阪.
- 行方雅人：腰椎変性疾患の診断と治療, ニッセイ医学セミナーUpDate, 1月, 2017, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	行方 (初診)		松井 (初診)		交代 (初診)		行方 (再診)	特 診 脊椎外来	松井 (再診)	
2診	高橋 (再診)	手術	平井	特 診 関節外来 松井 (予約)		手術	高橋 (初診)	行方 (予約)	平井 (初診)	
リハ診	交代		交代		交代		交代		交代	

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前			術前カンファ		
午後				部長回診	

表 3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
脊椎造影										○
関節造影								○		

表 4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	17,031	14,359	12,257	12,548	13,965
入院	10,041	9,009	10,255	9,379	8,533

表 5 H28.4～H29.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
脊柱障害	80	24
大腿骨骨折	43	54
肩および上腕の骨折	21	17
膝関節症[膝の関節症]	16	41
腰椎および骨盤の骨折	15	25
下腿の骨折、足首を含む	15	25
前腕の骨折	13	8
整形外科的経過観察ケア	12	8
多部位の骨折	9	26
股関節症[股関節部の関節症]	7	42
体内整形外科的プロステシス、挿入物および移植片の合併症	7	28

スタッフ 主任部長：東山真里（眼科部長代行）
副 医 長：西本知子（～5月、2月～）
専 攻 医：横井一範、伊賀佐紀（～1月）

西区では数少ない重症皮膚疾患の入院治療が可能な施設である。乾癬やアトピー性皮膚炎、結節性痒疹、円形脱毛症、尋常性白斑、強皮症などの難治性疾患、皮膚外科、小児皮膚疾患、高齢者皮膚疾患、分子標的抗ガン剤による皮膚障害及び皮膚疾患全般について質の高い医療の提供を目指す。大阪大学皮膚科学教室や、その関連病院と密な連携をとり病院間及び病診連携を重視している。皮膚疾患患者のQOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。11月11日に「皮膚の日の催し」として患者対象の学習会を皮膚科医師と看護師で開催。外用剤の塗り方・かゆみの診断・治療などにつき講演した。

医療設備：薬浴室（外来、病棟とも）、全身型紫外線照射装置（UVA、UVB、ナローバンドUVB）、エキシマライト、凍結療法（スプレー式）、表在超音波装置

1. 診療内容

専門外来：【乾癬外来】月平均新患数は10名で再診は延べ300名余り。(1) 1. 外用療法 2. 光線療法（入浴PUVA療法またはナローバンドUVB照射-全身型、エキシマライト 3. 内服療法（レチノイド、シクロスポリンA） 4. 生物学的製剤も導入。これらより個々の患者に最適な治療を選択（2）扁桃炎・高脂血症・糖尿病など乾癬を悪化要因や心血管系イベントを含む併存症につき精査。（3）重症、難治例にはアダリムマブ、インフリキシマブ、ウスティヌマブ、セクキヌマブなどの生物学的製剤を積極的に導入し特に乾癬性関節炎にも奏効。入院、外来とも可能。乾癬に関する臨床試験や臨床研究も実施。（4）乾癬性関節炎は整形外科医と診断・治療につき連携。2013年より関節エコーを用い早期診断の向上をはかっている。（5）療養を支援する場として大阪大学皮膚科学教室と協力して大阪乾癬患者友の会の事務局も務める。定期的に学習会も開催。【アトピー外来】重症例では光線療法やシクロスポリン療法も併用。悪化原因の精査、スキンケア指導、関連科との連絡を密に総合的に診療を行う。QOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。【エキシマ治療】308nmのエキシマライトを用いて難治な爪乾癬・尋常性乾癬・アトピー性皮膚炎・尋常性白斑・環状肉芽腫などの治療を行い良好な結果を得ている。【皮膚外科外来】良性悪性腫瘍、ケロイド、褥瘡、糖尿病性壊疽などは形成外科医と協力し治療。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

外来診療 主治医制で再診は予約制。

原則3診体制で診療。初診外来あり（月、水曜は東山担当）。再診外来は月～金（午前）。専門外来：乾癬外来は火（午前・午後）、木（午前・午後）、全予約制（初診原則としてあったかサポート経由以外は予約不可）。アトピー外来は木・金（午前）。外来患者数105名/日

手術：水曜午前は局所麻酔、金曜午後は形成外科医の協力のもと全麻・腰麻を含む手術

2) 病棟体制（表3、4）

病棟担当医は常勤医3名で、主治医となって診療を行った。新入院患者数は22名/月、入院のべ患者数は3,296名、1日平均10名で、帯状疱疹、重症乾癬、アトピー性皮膚炎、蜂窩織炎、薬疹、多型紅斑、丹毒、皮膚良性腫瘍/悪性腫瘍、下腿潰瘍、自己免疫性水疱症など

3) 検査スケジュール（表2）

月曜・水曜の午後にパッチテスト・光線テスト・皮膚生検などを行っている。

表在エコー検査は随時。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

平成27年度の外来延べ患者数25,725名、1日平均105名。

紹介患者数 53名/月。

年間手術件数240件（全身、腰椎、麻酔手術含む）

2) 入院診療実績（表3、4）

3) 検査実績

皮膚生検数 300件/年

4. 専門医など

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医 1名

5. 業績

論文・著書

- 大川たをり, 東山真里, 岡田みどり, 高橋玲子, 小澤健太郎：ケロイドとして加療されていた富細胞性神経炎腫。皮膚病診療 38：379-382, 2016.
- 東山真里：エキシマライトによる掌蹠膿疱症及び手足の尋常性乾癬の治療。皮膚病診療38：903-906, 2016.
- 東山 真里：コラム「専門医取得その後」, ひふか春夏秋冬 vol4, 2016, 4月, マルホ株式会社.
- 岡田みどり, 大川たをり, 高橋玲子, 東山真里：Hperkeratotic Ccpillary-venous Malforamationの1例・皮膚臨床 59：400-

401, 2017.

5. 横井一範, 伊賀佐紀, 西本知子, 東山眞里, (総合内科)古結敦史, 小瀬戸昌博: 顔面に紫斑を生じた血管炎・皮膚病診療 39: 271-274, 2017.

学会発表

1. 東山眞里: 乾癬性関節炎-乾癬の皮膚症状の診察のポイント第60回日本リウマチ学会, イブニングセミナー, 4月, 2016, 横浜.
2. 東山眞里, 河合修三, 山田秀和, 磯ノ上正明, 寺尾祐一, 平山公三: 乾癬治療に関するアンケート調査-2009年と2014年の比較検討, 第32回日本臨床皮膚科医会総会, 4月, 2016, 岡山.
3. 横井一範, 伊賀佐紀, 西本知子, 東山眞里, 細野研二, 赤羽 誉, 辻成佳: 当院における掌蹠膿疱症の臨床的解析と扁桃摘出術における皮膚症状・関節症状に対する効果の検討, 第115回日本皮膚科学会総会, 6月, 2016, 京都.
4. 伊賀佐紀, 横井一範, 西本知子, 東山眞里, 仁科周平, 小瀬戸昌博: 当院で診断されたIgA血管炎27例における消化器症状と病勢マーカーCRP, D-dimer, FDPの相関関係の検討, 第115回日本皮膚科学会総会, 6月, 2016, 京都.
5. 東山眞里, 川田 暁, 片山一朗, 松田洋昌, 山岡俊文, 室田浩之, 岡本祐之, 山崎文和, 鶴田大輔, 森脇真一, 戸田憲一, 庄田裕紀子, 辻成佳, 樽谷勝仁: アダリムマブ投与下における乾癬患者のメタボリック症候群関連危険因子の変動評価一, 大阪地区における多施設共同研究, 第31回日本乾癬学会, 9月, 2016, 宇都宮.
6. 東山眞里, 伊賀佐紀, 横井一範, 西本知子: 当科で経験したエルロチニブによるアナフィラクトイド紫斑様皮疹の重症例, 第67回日本皮膚科学会中部支部総会, 10月, 2016, 大阪.
7. 太田朝子, 金田真理・片山一朗・東山眞里・中野 創: 頭皮びらん症状を伴うRapp-Hodgkin syndromeの1例, 第67回日本皮膚科学会中部支部総会, 10月, 2016, 大阪.
8. 東山眞里: 乾癬治療のKey-チーム医療と患者会の重要性, 第68回日本皮膚科学会西部支部総会ランチョンセミナー, 11月, 2016, 米子.
9. 東山眞里: QOL向上をめざした乾癬診療-心のケアと信頼関係の構築の重要性, 第7回日本皮膚科心身医学会・ランチョンセミナー, 1月, 2017, 京都.

研究会発表

1. 東山眞里: QOLの向上をめざした乾癬治療-外用療法から生物学的製剤まで北摂エリア乾癬ワークショップ, 5月, 2016, 吹田.
2. 東山眞里: QOLの向上をめざした乾癬治療-外用療法から生物学的製剤まで, 神戸ドボペット軟膏発売2周年記念講演, 5月, 2016, 神戸.
3. 横井一範, 伊賀佐紀, 西本知子, 東山眞里: 結節状強皮症の2例, 第217回大阪皮膚科症例検討会, 5月, 2016, 大阪.
4. 東山眞里: QOLの向上をめざした乾癬治療-外用療法から生物学的製剤まで, 第10回高知よさこい皮膚アレルギー研究会, 6月, 2016, 高知.
5. 伊賀佐紀, 横井一範, 西本知子, 東山眞里, 井上貴子, 今村文夫: アレクチニブによる播種状紅斑丘疹型薬疹, 第109回近畿皮膚科集談会, 7月, 2016, 神戸.
6. 東山眞里: 乾癬外用療法の提案-アドヒアランス向上のために, 2016年乾癬学術フォーラム in 大阪, 7月, 2016, 大阪.
7. 東山眞里: 重症度は生物学的製剤の適応を満たすが導入まで時間を要した症例, Psoriasis expert meeting, 7月, 2016, 大阪.
8. 東山眞里: QOLの向上をめざした乾癬診療-治療の進歩とともに歩んで, 24th Doctor's Career Café in OKAYAMA, 11th D+Muscat 8月, 2016, 岡山.
9. 東山眞里: 軽症~中等症の治療選択としての外用療法-アドヒアランスの向上のために 乾癬 Total Care Lecture 9月, 2016, 大阪.
10. 東山眞里: 乾癬治療のピットフォール乾癬 治療フォーラム in OKAYAMA, 10月, 2016, 岡山.
11. 東山眞里: 乾癬の外用療法アドヒアランスの向上のために・中濃・東濃尋常性 乾癬 フォーラム, 11月, 2016, 多治見.
12. 東山眞里: GPPのシクロスポリン療法からセクシマブへの

切り替え使用経験, 2016. Expert Meeting, 11月, 2016, 大阪.

13. 東山眞里: QOL向上をめざした乾癬治療-外用療法から生物学的製剤まで-病診連携の重要性~, 第35回島根皮膚疾患治療 フォーラム, 12月, 2016, 出雲.
14. 東山眞里: 皮疹に有効な乾癬の治療, 大阪乾癬患者友の会学習会, 12月, 2016, 大阪.
15. 東山眞里: 褥瘡の外用療法, 褥瘡対策委員会主催勉強会, 1月, 2017, 大阪.
16. 東山眞里: 当科におけるウステキスマブによる乾癬治療-適応症例, 増量や長期継続例など・Psoriasis Meeting in Toyama, 2月, 2017, 富山.
17. 東山眞里: 乾癬はどんな病気?病態と治療, 三重県乾癬の会学習会, 2月, 2017, 四日市.
18. 東山眞里: 当科におけるレミケード増量経験について-乾癬・乾癬性関節炎の症例呈示, レミケード最適使用研究会, 3月, 2017, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	甲斐		辻真紀 (初診)		アレルギー 外来 西本		溝口		西本	手術 (形成外科DR)
2診	東山 (初診)	検査 パッチテスト 生検等 (回診)		乾癬 外来 西本	東山 (初診)	検査 光線 テスト 生検	乾癬 外来 西本	乾癬 外来 東山	トビ-外来 東山	藤山/ 西本 (1・3週)
3診	横井		平野 ※②	褥瘡 回診 1・3週 15:30~	林		横井		溝口 ※①	藤原/ 横井 (2・4週)
外来 処置	溝口 ※①		乾癬外来 東山		局麻手術 平野・ 横井				横井	

※① 9:30から開始 ※② 10:00から開始

表2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
パッチテスト 皮内テスト 光線テスト 皮膚生検		○ 診								

○: 当院診察が必要

表3 外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	27,556	27,548	26,570	26,005	25,726
入院	3,593	3,576	3,226	3,821	3,296

表4 H28.4~H29.3-入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
帯状疱疹[带状疱疹]	79	9
蜂巣炎<蜂窩織炎>	47	14
乾せん<癬>	27	18
摂取物質による皮膚炎	12	15
良性脂肪腫性新生物(脂肪腫を含む)	11	5
丹毒	8	10
類天疱瘡	7	26
アトピー性皮膚炎	7	13
有害作用、他に分類されないもの	7	6
皮膚のその他の悪性新生物	6	8
皮膚および皮下組織の毛包のうく囊>胞	5	7
下肢の潰瘍、他に分類されないもの	5	38

スタッフ 部長：福井辰成
医長：福本 亮、金光俊行

1. 診療内容

当科は泌尿器疾患および男性生殖器疾患を対象に診療を行った。

泌尿生殖器悪性腫瘍に対する外科的治療、抗がん化学療法、放射線治療、前立腺肥大症に対する外科的治療、薬物療法、過活動膀胱、神経因性膀胱に対する薬物療法、運動療法、生活指導、尿路結石に対する薬物療法、低侵襲手術などを行った。

近年は、人口の高齢化とともに前立腺癌患者が増え、当科でも、前立腺癌の診断および治療に診療全体に占める割合が高くなっている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

泌尿器科外来 1～2 診で外来診療を行った。

2) 病棟体制

病床数は10～20、病棟担当医は、常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール（表2）

膀胱鏡検査：泌尿器科膀胱鏡検査室（月～金曜日）

尿流検査：泌尿器科検査室（月～金曜日）

膀胱内圧測定、尿道抵抗測定：泌尿器科検査室（火・木曜日）

逆行性尿路造影、尿道膀胱造影、排尿時膀胱造影（火曜日）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は延べ11,007人であった。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院患者は延べ3,467人であった。

3) 治療実績

膀胱癌に対する外科的治療は、経尿道的電気切除術47例、根治的膀胱全摘除術1例（自排尿型代用膀胱形成術0例・回腸導管造設術1例）に対して行った。膀胱癌の治療あるいは膀胱内再発予防として、再発しやすい癌に対してBCG膀胱内注入療法を施行した。膀胱固有筋層に浸潤する膀胱癌に

対しては、再発した場合致命的となる実験的な膀胱温存療法ではなく、標準的治療である根治的膀胱全摘除術を行い、尿路変向としてQOLの良い自排尿式代用膀胱形成術を多く行うようにしている。前立腺肥大症に対する外科的治療として、経尿道的な前立腺切除術（経尿道的核出術を含む）15例、前立腺被膜下摘除術2例を行った。腫大が高度な場合には、バイポーラ電気メスを用いた経尿道的核出術（TUEB）を主に行っている

経直腸的前立腺生検術は62例に対して行った。去勢抵抗性前立腺癌に対しては2014年より認可されたエンザルタミドやアピラテロンを使用することで治療の幅を広げ良好な治療成績を納め、また患者数も着実に増加している。また去勢抵抗性前立腺癌骨転移に対し塩化ラジウム（Ra-223）を用いた治療を5例に行った。

腹腔鏡下手術は腎、副腎、腎盂尿管疾患、前立腺癌その他18例に行った。根治的腎全摘除術3例、腎部分切除術4例、副腎摘除術6例、腎尿管全摘除術1例、前立腺全摘除術3例、その他1例である。手術時間はやや延長するが、開腹手術に比べて術後の鎮痛剤の投与量が著しく減量でき、患者様のQOLが良好で、術後の回復期間が短く、在院日数も短縮できる。

尿路結石（腎結石、尿管結石）に対して体外衝撃波碎石術（ESWL）を行ったのが、初回43例、外来通院で延べ54例に行っている。経尿道的膀胱碎石術を10例に、経尿道的尿管碎石術を9例に行った。慢性腎不全症例に対して血液透析を行った。18例に内シャントを造設し、血液透析療法の導入を行った。

4. 認定医・専門医など

日本泌尿器科学会専門医	3名
日本泌尿器科学会指導医	2名
日本がん治療認定医機構認定医	3名
日本医師会認定産業医	2名

5. 業績

学会発表

1. 福本 亮, 金光俊行, 福井辰成: テガレリクスは初回投与80mgで去勢域を達成できるか. 第104回日本泌尿器科学会総会, 4月, 2016年, 仙台.
2. 金光俊行, 福本 亮, 福井辰成, 黒田昌男: 当院での去勢抵抗性前立腺癌に対するエンザルタミドの使用経験. 第68回西日本泌尿器科学会総会, 11月, 2016年, 山口.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	福井	福井	黒田	回診	交代	手術	福井	特殊検査	藤田昌※	福井
2診	福本	特殊検査	金光	特殊検査			福本	福本	金光	手術

※2・4週は福井

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
膀胱内圧測定 尿流検査 前立腺エコー 逆行性腎盂造影		○診		○診				○診		

○: 当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	12,535	12,201	12,114	11,518	11,007
入院	4,574	3,759	3,751	3,462	3,467

表4 H28.4～H29.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	55	9
膀胱の悪性新生物	48	12
腎結石および尿管結石	36	4
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	23	3
閉塞性尿路疾患および逆流性尿路疾患	22	3
前立腺肥大（症）	22	11
腎盂を除く腎の悪性新生物	13	24
急性腎盂腎炎	13	9
その他の膀胱障害	10	12
下部尿路結石	10	4

眼 科

スタッフ 部長代行：東山真里 ※ H29年 8 月～ 部長：谷井啓一

当科は日本眼科学会の研修指定病院で、大阪大学眼科学教室と連携し、白内障・緑内障・角結膜疾患・糖尿病網膜症を中心に、地域の基幹病院としての立場から眼科疾患全般に対応できるよう努めている。デジタル画像ファイリングシステム、眼底造影検査機器、各種レーザー機器、OCT（前眼部・後眼部）、視野計などの最新の設備を誇り、質の高い医療の提供と患者様に満足していただける説明・啓蒙を診療指針に掲げている。また病診連携を積極的に進めており、患者様の眼科かかりつけ医との連絡を密に取っており、かかりつけ医よりの紹介→当科での手術等の急性期治療→かかりつけ医への逆紹介という基本方針で、診療を行っている。

ただし、今年度は大阪大学眼科学教室からの非常勤医師による外来診療のみ行った。

1. 診療内容

一般的な眼科疾患の診断・治療、特に白内障手術、緑内障手術、網膜硝子体手術、角膜移植手術など幅広く行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診療スケジュール（表1）
- 2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3）

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	駒井		中江		佐藤		駒井		大浦	
2診	橋田		渡辺 1・3・5週		渡辺		若林		阿部	
3診	三浦		西山 2・4週		外山					

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
光凝固 YAG	○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予	

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	14,381	13,947	13,766	14,122	8,146
入院	2,074	2,416	1,513	1,213	0

スタッフ 主任部長：藤田信哉（7月～）

部長代行：赤羽 誉

副 部 長：金澤成典、細野研二、岡安 唯（～6月）

1. 診療内容

急性炎症疾患（咽喉頭炎、扁桃炎、中耳炎など）、慢性疾患（副鼻腔炎、めまい、難聴など）、頭頸部腫瘍に対する集学的治療（手術、放射線治療、抗がん剤治療）を行い、最近では耳科領域の手術では、従来からの慢性中耳炎に対する手術に加え、メニエル病に対する内リンパ嚢開放術にも取り組んでいる。頭頸部がん診療では、抗EGFRモノクローナル抗体（セツキシマブ）を放射線治療や抗がん剤治療に併用することで、従来では治療が困難な症例に対しても積極的に取り組んでいる。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

一般診療：月～金曜日am

（火：手術日のため初診のみ）

専門診療：頭頸部腫瘍外来（木pm：赤羽）

補聴器外来（第1・3木pm、金pm：細野）

めまい外来（水pm：藤田）

各医師の専門性も重視し、初診の段階から疾患群に応じて、より適した医師が診療担当する方針としている。

2) 病棟体制

病床数10（4東主病棟、3西副病棟）を基本に入院診療を行った。

外来診療担当医が、引き続き入院診療も主治医として診療を行っている。重症例については、複数の医師で、または上級医の指導の下、治療を行っている。

3) 検査スケジュール（表2）

- ・めまい・平衡機能検査：月・火・水曜日午後
- ・ABR検査：適宜
- ・補聴器適合検査：木・金曜日午後（補聴器外来）
- ・超音波検査、鼻咽頭内視鏡検査：外来診療の一貫で施行
- ・嚥下造影検査：放射線科との調整で適宜施行

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

最近数年間は横ばいとなっている。一般診療が減少している中で、めまい診療、頭頸部癌（口腔癌、咽喉頭癌、甲状腺癌など）診療、補聴器相談、その他の重症疾患の対応が増えた結果、外来診療に要する時間は増加傾向である。積極的に診療所からの紹介患者の受入、また逆紹介も行うことで、地域医療支援の観点からも西区基幹病院としての役割を果たしていると思われる。

2) 入院診療実績（表3、4）

手術例を主に、急性炎症疾患（扁桃炎、急性喉頭蓋炎など）、鼻出血、めまい、急性感音難聴、顔面麻痺、頭頸部癌の放射線治療や抗がん剤治療などを行った。

手術については、近年では年間280件（人）近い症例に対応している。

入院人数については、年間延べ4,500人前後で推移しているが、その内訳は、軽症例の入院に比べ、中～重症例の比率が増加している。

3) 検査実績

めまい検査

頸部超音波検査

鼻咽頭内視鏡検査

嚥下造影検査

4. 認定医・専門医など

日本耳鼻咽喉科学会専門医 3名

日耳鼻認定補聴器相談医 2名

補聴器適合検査認定医 1名

頭頸部がん暫定指導医 1名

日本東洋医学会漢方認定医 1名

身体障害者福祉法指定医 2名

（聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく機能障害）

5. 業績

論文・著書

1. 藤田信哉：めまいと気象－メニエル病について－. Equilibrium Res. Vol. 76(1)1-7, 2017.

学会発表

- 1. 藤田信哉, 尾崎大輔, 堀中昭良, 岡本倫朋, 山中敏彰, 北原 紉: 末梢性めまいで始まった中枢性症例について. 第337回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会, 6月, 2016, 大阪.
- 2. 藤田信哉, 山中敏彰, 北原 紉: 末梢性めまいで始まった中枢性めまい症例の検討. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会, 6月, 2016, 鹿児島.
- 3. 細野研二, 赤羽 誉, 岡安 唯, 大山寛毅: 当科における扁桃病巣皮膚疾患症例の検討. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会, 6月, 2016, 鹿児島.
- 4. 藤田信哉, 山中敏彰, 岡本英之, 松村八千代, 北原 紉: 小児めまい症例の対応について(第2報). 第75回日本めまい平衡医学会, 10月, 2016, 大阪.
- 5. 藤田信哉, 細野研二, 金澤成典, 赤羽 誉, 尾崎大輔, 成尾一彦, 山中敏彰, 北原 紉: 小児めまい症例の特徴と対応について(第2報). 第339回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会, 12月, 2016, 大阪.
- 6. 細野研二, 赤羽 誉, 金澤成典, 藤田信哉: 当科における穿刺吸引細胞診の検討. 第339回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会, 12月, 2016, 大阪.

研究会発表

- 1. 藤田信哉: もしも“めまい”が起こったら. 奈良県総合医療センター公開講座, 5月, 2016, 奈良.
- 2. 藤田信哉: メニエール病とは何か?. ニッセイ医学セミナー UpDate, 10月, 2016, 大阪.
- 3. 藤田信哉: もしもめまいが起こったら. ニッセイ市民健康セミナー, 11月, 2016, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	藤田信 (初診・再診)	手術	交代 (初診)	手術	藤田信 (初診・再診)	藤田信 (めまい)	細野 (再診)	細野 (再診)	藤田信 (再診)	
2診	細野 (初診・再診)							補聴器 外来 (1・3・5週)		細野 (補聴器)
3診	赤羽 (初診・再診)				赤羽 (再診)	赤羽 (再診)	赤羽 (初診・再診)	赤羽 (腫瘍)	細野 (初診・再診)	

表2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
顔面機能検査 聴力検査 平衡機能検査 味覚検査、嗅覚検査 鼻腔通気検査	○ 診		○ 診		○ 診		○ 診		○ 診	
聴性脳幹反応				○ 診						○ 診

○: 当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	15,076	13,924	13,417	13,327	11,618
入院	4,845	4,835	5,533	4,603	4,436

表4 H28.4~H29.3ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	50	7
前庭機能障害	38	7
その他の難聴	32	5
急性扁桃炎	23	6
慢性副鼻腔炎	21	9
扁桃周囲膿瘍	17	5
大唾液腺の良性新生物	15	9
顔面神経障害	14	4
喉頭の悪性新生物	12	47
睡眠障害	12	4

スタッフ 部長：前田宗宏
副部長：牧 大介
兼 任：内藤博昭（特任顧問）

1. 診療内容・体制

各種画像診断（CT、MRI、単純X線、マンモグラフィ、消化管造影、排泄性尿路造影、血管造影など）、各種IVR（肝細胞癌に対する塞栓・動注、消化管出血や産科出血などの止血、B-RTO、胆道穿刺・ドレナージ、膿瘍穿刺・ドレナージ、ラジオ波焼灼術、生検など）、核医学診断（骨、脳血流、心筋、甲状腺、副腎、換気・血流、腎など）、放射線治療（リニアック照射）を行っている。平成28年4月から内藤特任顧問（兼任）が加わって常勤の放射線科医が3名となり、大阪大学ならびに大阪市立大学の放射線科とその関連施設の専門医（非常勤医）の支援も得て、質の高い画像診断が迅速に行える体制となった。

2. 診療実績

- 1) 画像診断CT 11,634例、MRI 5,112例、単純X線 25,786例、マンモグラフィ 1,571例、消化管造影（DICを含む）60例、排泄性尿路造影 98例
- 2) 血管系IVR 63例
動注・塞栓術（肝腫瘍、腎癌）45例、止血術（消化管、脾破裂、膝関節）10例、子宮動脈塞栓術 2例、透析シャントPTA 2例、（胃静脈瘤）、その他（B-RTO、副腎静脈採血、上大静脈ステント留置など）4例
- 3) 非血管系IVR 48例
生検 21例、膿瘍・膿瘍穿刺・ドレナージ18例、経皮経肝胆道ドレナージ7例、その他（神経ブロックなど）2例
- 4) RI検査 640例
- 5) 放射線治療 139例（内訳：頭頸部 15例、乳癌 28例、肺・縦隔 10例、食道・胃 2例、肝・胆道系 3例、前立腺癌 17例、悪性リンパ腫・血液悪性疾患 10例、子宮・卵巣 5例、腎・膀胱・尿路 1例、転移性腫瘍、その他 48例）

3. 認定医・専門医など

日本医学放射線学会放射線診断専門医 3名
日本IVR学会専門医 1名

4. 業績

論文・著書

1. 内藤博昭：透明性と説明性が医療安全の基本スタンスー医療安全室長経験を持つ（前）病院長の立場から。患者安全推進ジャーナル、46：24-27, 2016.

学会発表

1. Maeda M, Maki D, Gouda S, Kimura Y, Mitani T, Kisimoto H, Tukaguchi I: Percutaneous puncture of inflow vein for rectal and stomal variceal bleeding. 第75回日本医学放射線学会総会, 4月, 2016, 横浜.
2. 内藤博昭：循環器病のCTとMRI－過去から未来へ－. 第18回放射線医学講演会, 4月, 2016年, 吹田.
3. 前田宗宏, 牧 大介, 合田晴一, 栗生明博, 岸本陽督, 塚口功,

三谷 尚, 橋本達：腎動脈にコイル塞栓術を施行した6例の検討. 第45回日本IVR学会総会, 5月, 2016, 名古屋.

4. 牧 大介, 前田宗宏, 合田晴一, 三谷 尚, 大畔健太, 住谷 哲, 立花 功, 佐藤幸彦：著名なnidusの拡張を伴う骨盤動脈奇形の2症例. 第45回日本IVR学会総会, 5月, 2016, 名古屋.
5. Naito H, Maeda M, Maki D, Nagasawa K, Higashi M, Tomiyama N, Muranishi H, Nakagawa A, Okabe T: Radiological staging of coronary atherosclerosis by using CT angiography: usefulness of biphasic postcontrast scanning. ECR2017, 3月, 2017, オーストリア, ウィーン.

研究会発表

1. 内藤博昭：循環器画像診断の最新情報-CTとMRI- ニッセイ医学セミナーUpdate, 7月, 2016, 大阪.
2. 牧 大介, 前田宗宏：悪性リンパ腫放射線治療後に発生した両肺未分化癌の1例. 第30回 胸部放射線研究会, 9月, 2016, 東京.
3. 内藤博昭：循環器画像診断の最前線-血管病の画像診断. 大阪医専スペシャル・ゼミ, 11月, 2016年, 大阪.
4. 内藤博昭, 東 将浩, 前田宗宏, 牧 大介, 長澤浩造, 中川 厚, 岡部太一：CTAによる冠動脈硬化症の壁性状タイプング. 第84回日本心臓血管放射線研究会, 1月, 2017, 津.
5. 牧 大介, 前田宗宏：高度な異常血管増生を認めた後天性至急AVMの1例. 第62回関西Interventional Radiology研究会, 2月, 2017, 大阪.
6. 前田宗宏, 牧 大介, 河田奈津子, 中村秀次, 枝廣龍哉, 古結敦士, 三木俊治：脾臓破裂に対してセレスキュー片と金属コイルを併用して止血した2症例. 第62回関西Interventional Radiology研究会, 2月, 2017, 大阪.

表1 外来診療スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
放射線治療						香川 (初診)				和田 (再診)

放射線科（診断）は毎日、IVRは月・木・金の午後に前田、牧が実施

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
単純撮影	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹
CT(単・造)	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
MRI(単・造)	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
骨塩定量	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
乳房撮影	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
リニアック						○ 診				
腹部エコー	● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予	

●：紹介状・予約が必要 ★：紹介状のみにて検査可 ○：当院診察が必要

表3 年度別外来延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	3,892	4,902	3,922	4,586	4,244

スタッフ 部長代行：花田留美
副 部 長：玉井 裕
医 長：鈴木史子

1. 診療内容

手術時の麻酔を担当している。全身麻酔はもちろん脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・ブロック等も行い、重症患者の場合局所麻酔でも全身管理に携わることもある。術中管理を行うにあたり、予定手術においては、術前診察・術後診察を麻酔科外来で行っている。術前診察では問診・検査結果の評価・診察を行って患者さんの全身状態の評価を行い、当該患者さんや手術に適した麻酔法を選択する。そして、麻酔法およびその合併症について患者さんに理解・承諾していただき、信頼関係を確立するためにも術前診察は非常に重要であり、時間をかけている。

術前に問題点をしっかり把握することで、できる限りのリスク軽減を目指し、できるだけベストな状態で手術に臨めるように他部門とも連携している。術後の肺合併症などのリスクを減らすための呼吸器リハビリ、栄養科への術前体重コントロールのための栄養指導、薬剤部へは入院前の内服薬の把握などを依頼し、周術期合併症のリスク軽減につとめている。

術後疼痛管理も積極的に行っており、PCA（Patient Controlled Analgesia）装置を用いて鎮痛薬を持続投与の上、疼痛時に患者さんがボタンを押して鎮痛薬を追加投与する方法を使用している。術後診察を麻酔科外来で行い鎮痛効果を評価し、硬膜外チューブ抜去まで行う。

ペインクリニックも行っている。ペインクリニック外来は週3日おこなっており、本年は麻酔科スタッフが1名増えたためペインクリニック外来も週3日に増やすことができた。

癌性疼痛管理にも携わり、緩和医療にも積極的に取り組んでいる。外来通院での麻薬の処方も行っており、痛みを和らげ日常生活に返すことに力を入れている。痛みを取るだけでなく一歩踏み込んで患者さんが生活をエンジョイすることを積極的にサポートすることを目標としている。平成20年2月より緩和ケアチームが発足し、回診とカンファレンスを開始した。緩和ケアの確立にも麻酔科は積極的に関わっており、副主治医として緩和ケアチーム依頼患者に対応し、主に身体症状の軽減に携わっている。

教育の面では、平成16年より研修医制度がスタートしているが、当院のプログラムでは初期研修中の1年

目の1～2ヶ月は麻酔科を研修する。そこで私たちも麻酔業務の傍ら、研修医を教育している。常に1人から2人の研修医を預かるのはなかなか大変であるが、彼らの初期研修中に到達すべき行動目標としての「医療人として必要な基本姿勢や態度」を指導することはもとより、経験目標としての基本的手技のうち、気道確保、静脈ルート確保、腰椎穿刺、気管挿管の技術に関しては、当科にて確実に身につけさせるように指導している。ICLS講習会にも参加してもらっている。一般病院で育つ医師像を模索しつつ、研修終了時に目標に到達できているように教育活動を続けていきたいと考えている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制

麻酔科は手術室業務が主なため病棟体制はとっていない。外来日以外は手術室にて麻酔業務に従事している。

3. 診療実績

手術件数はここ数年増加傾向で平成28年度は総手術件数2,462件、うち麻酔科管理手術件数1,732件となった。また、平成28年4月より整形外科の脊椎専門開設に伴う腹臥位手術や呼吸器外科の分離肺換気などの特殊な麻酔症例数の割合も増加している。この手術件数を維持するだけでも麻酔科医の負担は顕著だが、最近では90歳を超える超高齢患者のみならず、肝不全などの重症例の全身麻酔管理など専門性を要する麻酔科医のニーズが高まっているのは全国的で、マンパワーが不足している。

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2）

麻酔業務の傍ら緩和ケアチームの診療に従事している。

4. 専門医・指導医など

日本麻酔科学会指導医	1人
日本麻酔科学会専門医	3人
麻酔科標榜医	3人

5. 業績

論文・著書

1. 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子アセトミノフェン注射薬投与後に意識障害をきたした末期がん患者の1例. 日本ペインクリニック学会誌 vol. 23(2016)No. 2 121-123.

学会発表

1. 鈴木史子, 橘 一也, 竹内宗之, 小児集中治療室における死の迎え方(mode of death)の実態, 第63回日本麻酔科学会学術集会, 5月, 2016年, 福岡.
2. Suzuki F, Takeuchi M, Tachibana K, Isaka K, Kinouchi K, Mode of death in a Japanese pediatric intensive care unit, IARS 2016 Annual Meeting and International Science Symposium, 5月, 2016, アメリカ, サンフランシスコ.
3. 川原玲子, 横道直佑, 花田留美, 玉井裕, 小山佐知子, 三木和美, 加藤千尋, 森雅紀, 白土明美, 森田達也, CART治療の有効性と安全性の検討日本緩和医療学会学術大会, 6月, 2016年, 京都.
4. 川原玲子, 花田留美, 玉井 裕: 漢方薬とプレガバリンで電激痛が改善した椎間板炎の1例, 第29回疼痛漢方研究会学術集会, 7月, 2016, 東京.

研究会発表

1. 玉井 裕: CTガイド下内臓神経ブロック直後に心停止となった1症例, 疼痛勉強会 9月, 2016年, 大阪.
2. 鈴木史子: 体位保持困難な大腿骨病的骨折患者に対して脊髄クモ膜下麻酔後に硬膜外カテーテル留置を行った一例, 疼痛勉強会 3月, 2017年, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	戸崎 (術前)	戸崎 (術前)	玉井 (ペイン)	玉井 (術前)	鈴木 (ペイン)	鈴木 (術前)	玉井/ 花田 (隔週 術前)		花田 (ペイン)	花田 (術前)
2診			山本 (術前)	山本 (術前)	戸崎/ 玉井 (隔週 術前)	戸崎/ 玉井 (隔週 術前)			鈴木 (術前)	鈴木 (術前)

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	5,777	5,640	5,342	4,393	4,849
入院	200	224	241	0	38

病 理 診 断 科

スタッフ 部長代行：城光寺 龍

1. 診療内容

組織診断・細胞診断・病理解剖が当科の主な業務である。

日本病理学会認定登録病院、日本臨床細胞学会認定病院を取得している。病理学的診断を正確に行うために、臨床各科との密な情報交換を行い、臨床医が正確な診断と最適な治療法の選択ができるようにしている。またCPCを開催し、臨床医だけでなく研修医の教育・研修の質の向上にも取り組んでいる。

診断および検査精度の向上を図るために、日本臨床細胞学会及び日本臨床衛生検査技師会の外部精度管理に参加、更に免疫組織学的および遺伝子検査手法を積極的に取り入れて、病理学的診断を正確に行うように努めている。

診療体制としては、病理診断管理加算Ⅰの算定おこなっているほか、病理部門システム（松波ガラスPathwindow）にて、標本作製過程へのバーコード導入により検体取り違い防止のための機構を導入しているほか、デジタル画像の報告書への添付も行っている。

新規診療内容としては、液状化細胞診（Thinprep）を非婦人科以外の材料へ広げ、標本作製の標準化および省力化を行っている。

一部医療機関との間で検査（免疫染色）の受託を行っている。

また診療上必要と思われる検査に関しても順次導入を行っている。

2. 診療体制

部長代行：城光寺 龍

（病理専門医、細胞診専門医、臨床研修指導医）

非常勤医師 2名（大阪大学より）

臨床検査技師（中央検査部兼任）：4名（細胞検査士3名）

検査助手：1名

事務職員（中央検査部兼任）：1名

3. 診療実績

検査実績（表1）

組織診断：4,128件

細胞診断：8,584件

術中迅速診断：111件

病理解剖：14件（内科系12件、剖検率5.5%）

表1 検査実績

	組織診件数	細胞診件数 (うち予防医学センター)	術中迅速	剖検
H24	3,580	9,705 (2,496)	121	12
H25	3,806	9,618 (2,688)	123	19
H26	3,986	10,245 (2,929)	90	14
H27	4,067	10,795 (3,490)	127	16
H28	4,128	8,584 (1,746)	111	14

平成28年度はCPCの開催は9回行われ、内容は下記の如くであった。

- 第260回 4月19日：小腸T細胞性リンパ腫（血液内科）
- 第261回 4月19日：びまん性大細胞性リンパ腫（血液内科）
- 第262回 6月24日：腹膜炎（血液内科）
- 第263回 6月24日：前立腺癌疑い（血液内科）
- 第264回 7月29日：多発性骨髄腫（血液内科）
- 第265回 7月29日：再生不良性貧血（血液内科）
- 第266回 8月2日：肺腺癌（総合内科）
- 第267回 12月15日：気管支肺炎（循環器内科）
- 第268回 2月16日：骨髄増殖性疾患（総合内科）

4. 業績

学会発表

1. 城光寺 龍, 池田純一郎, 辻本正彦, 森井英一：鼻腔に発生したCD34陰性Solitary fibrous tumorの一例. 第105回日本病理学会学術集会, 5月, 2016年, 仙台.
2. 城光寺 龍, 池田純一郎, 辻本正彦, 森井英一：Swyer症候群の一例. 第74回日本病理学会近畿支部学術集会, 9月, 2016年, 大阪.

研究会発表

1. 城光寺 龍：Lung Cancer Experts Symposium, 3月, 2017年, 大阪.

がん治療センター

スタッフ センター長：川上 学 部長：谷口史朗（予防医学センター）
 部長補佐：小山佐知子（看護部）
 花田留美、玉井 裕、鈴木史子（以上麻酔・緩和医療科）、
 田中敏雄（消化器内科）、立花 功、田村慶朗、二宮隆介（以上総合内科）、
 高橋 励（神経科・精神科）、水野 均（消化器・一般外科）、
 前田 元（呼吸器外科）、西田幸弘（乳腺外科）、赤羽 誉（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）、
 前田宗宏（放射線科）、高島周志（予防医学センター）、
 大島千春、佐々木直美、里井景子、阪井理恵、水越 梓、村上弘子、松田智子（以上看護部）、
 宮 麻紀子（薬剤部）、大西 龍（中央臨床検査部）、新谷泰正（中央放射線部）、
 田中 孝（リハビリテーション室）、本家裕子（あったかサポートセンター）、
 丸山加奈（神経科・精神科）、出口暁子（栄養管理室）、
 上村慶子（予防医学センター）、岩本愛佑美（医事サービス部）

1. 診療内容

「大阪府がん診療拠点病院」として、引き続き各領域で内容の充実に取り組んだ。

【主たる業務】

- 1) がんに関する集学的治療の充実
- 2) 緩和ケアチームの運営、緩和ケアに関する教育研修
- 3) がん治療に関する相談対応、情報提供
- 4) がん登録の推進

【具体的内容】

1) 集学的治療

- ①多診療科・多職種が参加するがんセンター・ボードを月1回の頻度で開催した。当番診療科（表参照）の経験症例を中心に、それ以外の診療科における症例や緩和ケアチームが介入した症例に関する診断・治療方針の検討を行った。また、免疫チェックポイント阻害剤使用後に発生する免疫関連副作用などに関して情報共有を行った。

②レジメン登録

化学療法運営委員会と連携し、レジメンの審査を行い、化学療法の安全確実な実施体制を構築した。

- ③免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン
 リツキシマブや抗がん剤、免疫抑制剤などを使用した際に、B型肝炎ウイルス（HBV）再活性化に伴って発症するB型肝炎の早期発見・早期治療を目的として院内のガイドラインを作成し、電子カルテ初画面に掲載した。

2) 緩和ケア

- ①緩和ケアチームによる介入、週1回の回診とカンファレンスの開催、月2回の各職種による定例勉強会・症例検討会の開催を行なった。
- ②全職員及び近隣医療機関職員を対象とした、緩和ケア講演会を開催し、67名が参加した。

開催日：平成29年3月10日

講師：愛生会山科病院 外科 荒木英樹先生

演題：終末期の栄養療法を考える

- ③がん対策推進基本計画に定められているPEACEに基づく「日生病院緩和ケア研修会」については、日生病院では開催しなかったが、他施設で開催された研修会への参加を推進し、2名が参加した。

3) 相談支援

①がん患者指導管理料1の算定

がんの診断を受けた患者に対して、PEACE研修会を受講した医師と有資格看護師（がん看護専門看護師、がん性疼痛看護認定看護師）とが共同して指導した場合に算定できるものであるが、207件に対して行った。

②がん患者指導管理料2の算定

がん患者の心理的不安を軽減するための指導を119件に対して行った。

4) がん登録

がん登録を行い、大阪府がん登録事業に参加した。

表 キャンサー・ボード

開催月	当番診療科	参加人数
平成28年		
4月	泌尿器科	31名
5月	麻酔・緩和医療科	31名
6月	耳鼻咽喉・頭頸部外科	28名
7月	消化器内科	29名
8月	呼吸器外科	32名
9月	消化器・一般外科	25名
10月	放射線科	32名
11月	血液・化学療法内科	30名
12月	総合内科	35名
平成29年		
1月	産婦人科	29名
2月	乳腺外科	28名
3月	リハビリテーション室	36名

女性骨盤底センター

スタッフ センター長：船渡孝郎

吉見佳奈、高山敬範、八田幸治、矢野悠子、尾上昌世、増田公美（以上産婦人科）、
福井辰成（泌尿器科）、横田ひろみ、吉村恵利子、本田 愛（以上看護師）、
藤本玲奈、鍋本美穂（以上助産師）、古久保有希子（薬剤部）、
藤岡栄悟、安達幸恵（以上リハビリテーション室）、出口暁子（栄養管理室）、
藤田育子（中央臨床検査部）、山田純子（中央放射線部）、津野百合香（医事サービス部）

1. 診療内容

今般日本の高齢化はますます増加傾向にあり、女性の平均寿命は86歳と先進諸国の中でも上位に位置している。それに伴い様々な疾患も増加しつつある。婦人科疾患領域では骨盤内臓器脱がその最たる疾患で、軽症まで含めると50歳以上の女性の約半数が罹患すると言われ、米国では女性の11%が手術を受けている。

骨盤内臓器脱は直接的死因にはならないが、QOL（生活の質）をひどく低下させる疾患である。罹患の特徴として、婦人科または泌尿器科のどちらを受診するかを迷い、治療が遅れるという現状がある。また、腹圧性尿失禁も、比較的侵襲の低い手術によって著明に改善するものの、受診をためらう女性が多いとされている。

当センターは、その疾患を治療しより良い社会生活を再び過ごすことができるよう、サポートするために設立された。

1) 治療部門

<外科的治療>

- ・骨盤内臓器脱（膀胱瘤・子宮脱・直腸瘤・小腸瘤・肛門脱）：腹腔鏡下仙骨靱帯固定術（LSC手術）、TVM手術、腔式子宮全摘術、マッコール術（腔式または腹腔鏡下）、腔壁形成術、会陰形成術、マンチェスター術、ル・フォー腔閉鎖術 等
- ・腹圧性尿失禁：中部尿道スリング手術（TOT手術、TVT手術）

●TVM手術について

現在、日本ではTVMが適性かつ安全に施行されるために「骨盤臓器脱に対する経腔メッシュ手術施行に関する指針」が定められており、この中では学会の主催する講習会の受講が必須条件とされている。当院では4名がすでに受講済み。

●LSC手術について

平成28年度診療報酬改定により、4月よりLSC手術が保険診療可能となった。当院は平成25年5月に全国で2番目にLSCの先進医療を取得し、現在は施設基準を満たしているため、保険診療で手術を行っている。

【平成28年度 入院手術件数】

TVM	33件
LSC	14件
VT、腔壁形成などNTR	18件
腔閉鎖	11件
その他	4件
TOT	5件
合計	85件

<保存的治療>

- ・リハビリ指導（骨盤底筋体操）
- ・栄養指導（肥満等食事指導）
- ・切迫性尿失禁、過活動性膀胱（OAB）に対する薬物治療
- ・産褥尿漏れ（助産師外来）
- ・ペッサリー修復・指導

【平成28年度 栄養指導件数】

合計57件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	3	4	3	5	1	4
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	9	8	4	4	5	7

【平成28年度 リハビリ：骨盤底筋運動指導件数】 合計96件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	8	6	10	4	8	7
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	7	13	10	9	3	11

2) 広報（サービス）部門

総合受付、健康管理センターでのパンフレット配布

2. 業績

論文・著書

1. 矢野悠子, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：当院における後期高齢者(75歳以上)に対する産婦人科腹腔鏡下手術の検討, 日生医誌, 44：6-10, 2016.
2. 増田公美, 橋本奈美子, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳：妊娠19週の卵巣嚢腫捻転に対し、腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出術を施行した症例, 日生医誌, 44：27-30, 2016.

3. 増田公美, 田中雄介, 尾上昌世, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 当院での子宮腺筋症病巣摘出術の現状, 産婦人科の進歩, 68: 354-358, 2016.

学会発表

1. 橋本奈美子[矢田], 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 八田幸治, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎: 子宮内膜症性嚢胞の術後再発予防を考える前方視的ランダム化比較試験. 第68回日本産科婦人科学会4月, 2016, 東京.
2. 橋本奈美子[矢田], 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 八田幸治, 吉見佳奈, 大塚博文, 佐伯典厚, 藤田征巳, 船渡孝郎: 子宮内膜症性嚢胞の術後再発予防を考える前方視的ランダム化比較試験. 第68回日本産科婦人科学会4月, 2016, 東京.
3. 八田幸治, 田中雄介, 増田公美, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子[矢田], 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 当院における全腹腔鏡下子宮全摘出術の手術成績. 第68回日本産科婦人科学会4月, 2016, 東京.
4. 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 卵管卵巣膿瘍に子宮筋層内膿瘍を合併し, 膿瘍破裂を来したが腹腔鏡下手術で治癒した1例. 第134回近畿産科婦人科学会, 6月, 2016, 京都.
5. 高山敬範, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 吉見佳奈, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 子宮頸部付近に大型筋腫を認める症例に対する全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH). 第56回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2016, 長崎.
6. 八田幸治, 田中雄介, 増田公美, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 卵巣提索に及ぶ非典型的な多発広靱帯内発育子宮筋腫に対する腹腔鏡下子宮筋腫核出術(LM)を行った1例. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2016, 長崎.
7. 矢野悠子, 田中雄介, 増田公美, 尾上昌世, 高山敬範, 八田幸治, 吉見佳奈, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 腹腔鏡下手術で診断に至った原発性卵管癌の一例. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2016, 長崎.
8. 尾上昌世, 田中雄介, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術における術中大量出血に対しUAEを行い, さらに術後感染に対し経皮的ドレナージを要した1例. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2016, 長崎.
9. 吉見佳奈, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 子宮頸部の粘膜下筋腫に対する腹腔鏡下手術および後管理. 第56回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 9月, 2016, 長崎.
10. 高山敬範, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 吉見佳奈, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 頸部筋腫や広靱帯内筋腫に対する全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)のアプローチ. 第39回日本産婦人科手術学会, 11月, 2016, 仙台.
11. 八田幸治, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 尾崎公章, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 子宮筋層内膿瘍を合併した 卵巣卵管膿瘍に対して腹腔鏡下手術で治療しえた一例. 第39回日本産婦人科手術学会, 11月, 2016, 仙台.
12. 高山敬範, 大塚博文, 田中雄介, 尾上昌世, 増田公美, 矢野悠子, 八田幸治, 吉見佳奈, 尾崎公章, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 藤田征巳: 全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)における術式定型化の意義—手術の安全性確保と若手医師の教育. 第29回日本内視鏡外科学会, 12月, 2016, 横浜.

研究会発表

1. 船渡孝郎: 輝く女性のための健康セミナー, 日本生命主催, 8月, 2016, 大阪.
2. 船渡孝郎: 輝く女性のための健康セミナー, 日本生命主催, 9月, 2016, 津山.
3. 船渡孝郎: 輝く女性のための健康セミナー, 日本生命主催, 9月, 2016, 岡山.
4. 船渡孝郎: 女性の人生設計を応援する 心と体の健康セミナー, 日本生命主催, 2月, 2017, 大津.

糖 尿 病 ・ 内 分 泌 セ ン タ ー

スタッフ センター長：笠山宗正 ※ H29年4月～センター長代行：住谷 哲
部 長：住谷 哲
部 長 補 佐：角南ちえ子(看護部)、麦田盛穂(リハビリテーション室)
中川 厚(循環器内科)、魚田晃史(～6月循環器内科、7～9月救急診療
センター、10月～総合内科)、宇都佳彦、大畔健太(以上総合内科)、
福井辰成(泌尿器科)、横井一範(皮膚科)、細野研二(耳鼻咽喉・頭頸部外科)、
高山由美子、川瀬俊子、金藤奈緒子、濱野沙穂、中村綾乃、出口公志、
片岡愛子、濱川茂子、片岡郁子、石井泉美(以上看護部)、
野村浩英(薬剤部)、倉本訓子(中央臨床検査部)、在津裕明(中央放射線部)、出口暁子(栄養管理室)、
徳山由佳(予防医学センター)、中尾信一(総合企画部)、木下奈美(医事サービス部)

1. 診療内容

平成26年度より引き続き院内の各診療科医師および各部署のスタッフからなる糖尿病・内分泌センターのもとで活動を継続している。

2. 診療体制

糖尿病・内分泌センターでは、糖尿病患者および過食・運動不足などの生活習慣が関与する肥満・脂質異常症・高尿酸血症・高血圧症などの患者を中心に多職種スタッフによる診療を行っている。患者の日常の代謝動態や生活習慣上の問題点を把握し、疾病の進行や合併症の発症・進行を抑制することを目的としている。

1) 外来診察スケジュール

毎週月～木曜日の4日間、糖尿病看護認定看護師や管理栄養士を含む糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが中心となり、病態の評価および指導を行った。

2) 病棟体制

入院中の糖尿病患者を対象に、総合内科・看護部・栄養管理室・リハビリテーション室・中央臨床検査部・薬剤部の協力を得て、糖尿病に関する集団指導(糖尿病ふれあい教室)を週4日実施した。またDMT(Diabetes Management Team)回診を毎週水曜午後に行った。

3. 診療実績

1) 外来診療実績

①オーダーメイド糖尿病診療

30分枠の完全予約制で、患者の安静時代謝量・摂取エネルギー量・運動エネルギー量・身体能力を測定・評価し、患者毎の病態と生活習慣に応じた個別の栄養指導・運動指導・生活習慣指導を実施した。これらの指導は患者の病態や治療効果を考慮し複数回実施している。平成28年度に当センターを受診した患者数は延べ1,436名(平成27年度

は1,261名)であった。

②糖尿病合併症の管理

糖尿病足病変のハイリスク患者を対象として糖尿病神経障害の評価と診断、足ケア、潰瘍・壊疽防止のための指導を実施した(糖尿病合併症管理)。平成28年度における実施件数は119件(平成27年度は97件)であった。

また、糖尿病腎症患者を対象に、医師・看護師・管理栄養士による透析予防のための指導も実施した(糖尿病透析予防指導管理)。平成28年度における実施件数は332件(平成27年度は239件)であった。

2) 入院患者の診療

①糖尿病集団指導

＜糖尿病ふれあい教室講師＞

宇都佳彦(総合内科)、大畔健太(総合内科兼任)、角南ちえ子、川瀬俊子、高山由美子(看護部)、野村浩英、乾 有希子、瀧川奈央(薬剤部)、片岡宏一郎、廣田将史(リハビリテーション室)、水口洋一、倉本訓子(中央臨床検査部)、出口暁子、松村寿美、大平百合子(栄養管理室)

糖尿病ふれあい教室の参加患者数は延べ583名(平成27年度は642名)であった。

3) 活動

①日生病院糖尿病フェアの開催

糖尿病の発症と進行抑止のために有益な情報提供を行うため、世界糖尿病デーにあわせて糖尿病に関する正しい理解のための啓発活動を実施した。当センターのスタッフを中心に、血糖測定、HbA1c測定、頸動脈エコー、医療相談などを実施した。

＜日時＞平成28年11月18日(金) 11:30～13:30

＜場所＞日生病院外来玄関ホール

＜内容＞

- ・血糖測定・HbA1c測定
- ・筋肉量・握力測定

- ・お薬相談
- ・栄養相談、カードバイキング
- ・簡易医療相談
- ・頸動脈エコー体験など

②公開セミナーの開催

患者および一般市民を対象に公開セミナーを開催した。

(1)『平成28年度第2回ニッセイ市民健康セミナー』

＜日時＞平成28年6月11日（土）14：00～16：00

＜場所＞日生病院別館講堂

＜内容＞

第1部

講演1

「糖尿病腎症と透析治療について」
（泌尿器科部長 福井辰成）

講演2

「透析治療とならいたために今すべきこと」
（糖尿病看護認定看護師 角南ちえ子）

第2部『アマチュア落語』3席

桂文喬主宰落語研究会のみなさん

(2)『ニッセイ糖尿病ランチ&セミナー』

＜日時＞平成29年1月27日（金）12：00～14：00

＜場所＞日生病院別館講堂

＜内容＞

第1部

ヘルシー弁当の試食会「ヘルシー和食弁当を試食してみよう～食物繊維を味方につけよう～」

第2部

講演1

「糖尿病検査の豆知識」
（中央臨床検査部 検査技師 玉川雄一）

講演2

「糖尿病の最近の話題」
（糖尿病・内分泌センター部長 住谷 哲）

講演3

「低カロリー甘味料について」
（株式会社H+Bライフサイエンス）

③糖尿病患者友の会「錦会」に対する支援活動

糖尿病患者会の関連行事に対して支援活動を行った。

(1)『第43回錦会総会』

＜日時＞平成28年11月25日（金）12：00～15：00

＜場所＞日生病院別館講堂

＜内容＞

第1部

糖尿病宅配食の試食会

『ヘルシー和風弁当の試食』

第2部

講演：糖尿病・内分泌センター 部長 住谷 哲

(2) 糖尿病ウォークラリー

＜日時＞平成28年10月23日（日）

＜場所＞鶴見緑地公園（5キロコース参加）

4. 業績

論文・著書

1. Sumitani S, Utsu Y, Nishina S, Okuro K, Kogetsu A, Ishii S, Deguchi A, Sato B, Tachibana I, Kasayama S, Koga M : Carbohydrate Intake is Correlated with the Glycated Albumin to Glycated Hemoglobin Ratio in Drug-naïve Patients with Type 2 Diabetes. Journal of Diabetes Mellitus DOI : 10. 4236/jdm. 2016. 61002, 2016.

学会発表

1. 牧 大介, 前田宗宏, 合田晴一, 三谷 尚, 大畔健太, 住谷 哲, 立花 功, 佐藤幸彦：著名なnidusの拡張を伴う骨盤動静脈奇形の2症例. 第45回日本IVR学会総会, 5月, 2016, 名古屋.
2. 住谷 哲, 仁科周平, 大畔健太, 宇都佳彦, 古結敦士, 石井誠剛, 立花 功, 笠山宗正：初回治療2型糖尿病患者に対するメトホルミン投与と生活習慣介入の5年間にわたる有効性の検討(EMINENT Study：第7報. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2016, 京都.
3. 住谷 哲, 仁科周平, 大畔健太, 宇都佳彦, 古結敦士, 石井誠剛, 立花 功, 笠山宗正：初回治療2型糖尿病患者に対するメトホルミン投与と生活習慣介入の5年間にわたる有効性の検討(EMINENT Study：第7報), 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2016, 京都.

消化器内視鏡センター

スタッフ センター長：湯川雅彦

有坂好史（1月～）、村本 理、田中敏雄、河田奈都子、
北田隆起、中村秀次（以上消化器内科）、
水野 均、生島裕文、山下晋也、原 譲次（以上消化器・一般外科）、
渡邊大輔、増田充弘（以上神戸大非常勤）、
芳賀宣子、村上真紀、榎本知奈美（以上看護部）、
篠田和子、南谷美樹、馬場里映（以上予防医学センター）、
加藤千尋（中央臨床検査部）、森本洋子（あったかサポートセンター）

1. 診療内容

消化器内視鏡センターは、日生病院内視鏡室、ニッセイ予防医学センター内視鏡室、消化器内科、消化器・一般外科を有機的に連携することにより消化器内視鏡関連業務の質の向上を目指している。消化器内科、消化器・一般外科の連携により消化器癌の早期発見、早期治療をめざしている。また胆膵の専門家集団の参加により、全国最先端レベルのERCP、EUSを施行している。予防医学センターでの人間ドック、企業健診で要検査となられた方を対象に、日生病院での検査、加療を行っている。また、安全、安心な苦痛の少ない内視鏡検査を心がけ、内視鏡検査のトレーニングを希望する医師を指導している。地域医療連携室経由で、上部内視鏡検査を直接予約いただける便宜をはかり、日本消化器内視鏡指導施設、日本胆道学会指導施設の役割を果たしていく。

a. 検査・治療部門

上部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術（EMR）

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）

内視鏡的胃瘻造設術（PEG）

超音波内視鏡（EUS）

胆道系内視鏡

内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）

内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）

内視鏡的採石・碎石術

内視鏡的ステント挿入術（ENBD・ERBD tube）

超音波内視鏡（EUS）

管腔内超音波検査法（IDUS）

下部消化管内視鏡

軸保持短縮挿入法・診断・治療

超音波内視鏡（EUS）

上部胃内視鏡検査：2,791件

下部内視鏡検査：1,455件

予防医学センター内視鏡室 上部内視鏡検査：3,980件

下部内視鏡検査：97件

b. 学術部門

研修医・コメディカル対象：カンファレンス

内視鏡室の通年での研修医への開放

c. 広報（サービス）部門

地域医療連携室経由での内視鏡業務開放

腎 臓 ・ 透 析 セ ン タ ー

スタッフ センター長：宇津 貴

副センター長：福井辰成

吉川秀人（循環器内科）、大畔健太、枝廣達哉（以上総合内科）、

福本亮、金光俊行（以上泌尿器科）、

河村理香、高山由美子、田村千穂（以上看護部）、

池田久雄（薬剤部）、加藤千尋（中央臨床検査部）、

出口暁子（栄養管理室）、山田国持（医事サービス部）

1. 診療内容

腎臓内科・泌尿器科の医師スタッフ、看護部、ME部門、薬剤部、栄養管理部などの他職種が共同して診療を行うことを特徴としている。これまで、入院患者の血液透析を中心とした診療を行ってきたが、2018年の新病院移転に向け外来透析を開始した。現在は透析ベッド3症のみで運営を行っているため、医療安全上から患者受け入れに制約があるが、時間外・休日など可能な限り対応を行っている。

2. 診療実績

血液透析件数（図1）は、血液透析導入症例が増加したこと、透析患者の冠動脈などの精査・加療が当院での透析導入症例増加に伴い増加してきたこと、外来透析を開始したこと、などの要因で増加している。

3. 専門医・指導医など

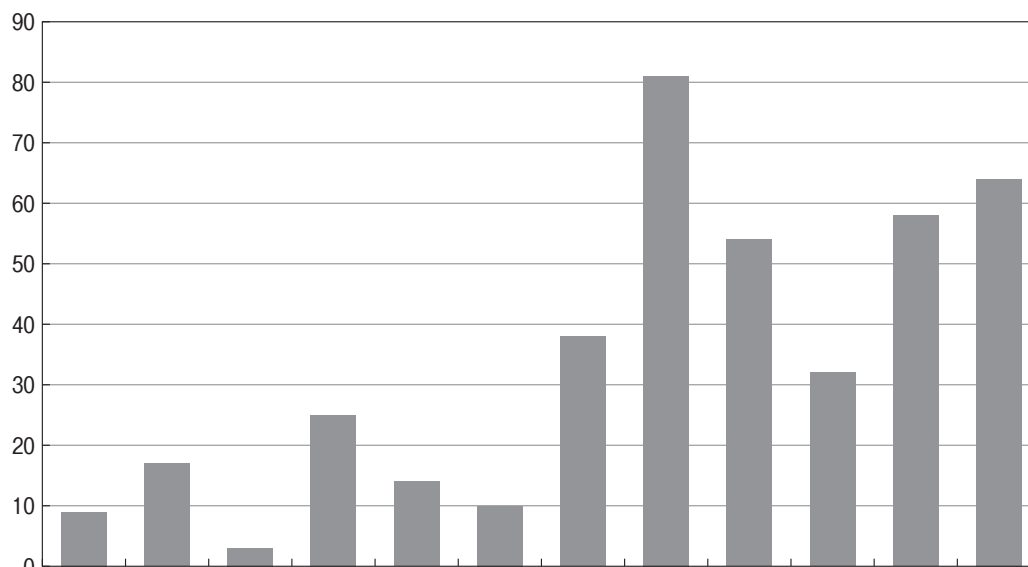
日本透析医学会専門医・指導医 1名

4. 業績

研究会発表

1. 宇津 貴：慢性腎臓病（CKD）の診療と指導のポイント、ニッセイ医学セミナーUpdate, 11月, 2016, 大阪.

図1 H28年度 月別血液透析延べ件数



4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間累計
9	17	3	25	14	10	38	81	54	32	58	64	405

救 急 診 療 セ ン タ ー

スタッフ センター長：三木俊治 ※ H29年4月～ センター長：岸 正司
 部長代理：中川 厚
 専攻医：古結敦士、石川那智（～6月、1月～）、魚田晃史（7～9月）、枝廣達哉（10～12月）
 〈兼任〉
 村西寛美（循環器内科）、宇都佳彦（総合内科）、佐藤智彦（神経内科）、生島裕文（消化器・一般外科）、
 行方雅人（整形外科）
 専攻医：不二樹五郎（循環器内科）、魚田晃史（～6月循環器内科、10月～総合内科）、
 西山祐輝（～6月総合内科、7～9月循環器内科、10～12月血液・化学療法内科、1月～総合内科）、
 大畔健太（総合内科）、枝廣達哉（～9月総合内科、1月～血液・化学療法内科）、
 重里昌子（～2月乳腺外科）、横井一範（皮膚科）、伊賀佐紀（～1月皮膚科）、田中雄介（産婦人科）、
 石川那智（7～9月血液・化学療法内科、10～12月総合内科）
 新部里美、河合洋子、景山志帆、松本愛美、濱野真由子、木村祐貴、姉川友里恵、川上奈緒美、
 佐々木理恵（以上看護部）
 吉岡 亮（薬剤部）、古川浩司（中央臨床検査部）、長澤浩造（中央放射線部）、出口暁子（栄養管理室）、
 宮本浩樹（診療情報管理室）
 〈初期研修医1年目〉
 上森麻美、加藤更紗、飛田哲志、永井麻衣、守口怜那、中山明子、児玉貴之

1. 診療内容

内科初診患者の診察に加え、救急車にて来院された患者の初期対応を行い、必要に応じて各専門分野診療科や他院への紹介を行う。内科専攻医および、初期研修医のプライマリケア、内科2次救急に対する診療能力の向上を目指した研修プログラムの一環となっている。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2）

4. 認定医・専門医など

日本内科学会総合内科専門医 1名
 日本循環器学会専門医 1名
 日本心血管インターベンション治療学会専門医 1名
 日本内科学会認定内科医 2名
 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医 1名

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
三木	三木	枝廣	石川那	古結	三木	石川那	古結	魚田	三木

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来	2,274	3,525	4,139	4,106	6,182
入院	58	946	2,331	3,756	3,939

※H26.4 救急診療科から救急診療センターへ

臨床研修部

スタッフ 部長：三木俊治 ※ H29年4月～ 部長：立花 功
部長代理：中川 厚

初期研修医：2年目 青山礼華、竹本有花、藤井裕美、藤本 雷
1年目 上森麻美、加藤更紗、飛田哲志、永井麻衣、守口玲那、
中山明子、児玉貴之

平成16年度から開始された新研修制度が始まり、初期研修2年間は各診療科に所属することなく各診療科を異動し、診療にあたることとなり、研修内容などを病院として一括して行う必要が生じたため、平成17年度より臨床研修部ができた。各年度当院単独型での定員5名に加え、大阪大学、神戸大学からの1年目たすき掛け研修医にて構成される。

研修：月1回 EBMに関する抄読会

1. 実績

A. 病院見学学生

男性42名、女性31名：計73名

B. マッチング試験受験

男性13名 女性7名：計20名

C. 病院説明会への参加

平成28年6月19日

：レジフェア ATCホール

ブース訪問学生：6年生：1名、5年生：26名、
4年生以下：28名 合計55名

平成29年2月18日

：近畿厚生局主催近畿地区臨床研修病院説明会

ホテル大阪ベイトワース

ブース訪問学生：5年生8名、4年生以下1名
合計9名

平成29年3月4日

：大阪大学医学部講義棟

ブース訪問学生：20名

2. 業績

論文・著書

1. 飛田哲史, 佐藤智彦, 仁科拓也, 浅野彰彦：高アンモニア血症による意識障害を来した菌血症の一例. 日生医誌, 45, (in press)

学会発表

1. 飛田哲史, 佐藤智彦, 仁科拓也, 浅野彰彦：高アンモニア血症による意識障害を来した菌血症の一例. 日本内科学会第213回近畿地方会, 9月, 2016, 大阪.
2. 児玉貴之, 二宮隆介, 田村慶朗, 宇都佳彦, 枝廣龍哉, 古結敦士, 大坪健太, 住谷 哲, 小瀬戸昌博, 立花 功, 笠山宗正, 佐藤文三, 前田 元, 城光寺 龍：胸腔ドレナージで軽快しえなかった月経随伴性気胸に対して胸腔ドレナージを施行した1例. 第88回日本呼吸器学会近畿地方会, 12月, 2016, 京都.
3. 北田隆起, 守口玲那, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本 理, 湯川雅彦, 中村秀次：Churg-Strauss症候群に合併した急性膵炎の1例, 第106回日本消化器病学会近畿支部例会, 2月, 2017, 大阪.
4. 北田隆起, 守口玲那, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本 理, 湯川雅彦, 中村秀次：健診における胃透視検査施行後にバリウムに被覆された硬便がS状結腸に嵌頓した1例, 第215回日本内科学会近畿地方会, 3月, 2017, 神戸.

研究会発表

1. 飛田哲志, 原 穰次, 山下晋也, 生島裕文, 水野 均, 小関萬里：腸間膜脂肪肉腫の一切除例. 第612回大阪外科集談会, 7月, 2016年, 大阪.
2. 飛田哲史, 佐藤智彦, 仁科拓也, 浅野彰彦：重症筋無力症の診断と治療. あわぎクリニカルカンファレンス, 11月, 2016, 大阪.
3. 守口玲那, 水野 均, 生島裕文, 山下晋也, 原 穰次, 小関萬里：単孔式腹腔鏡手術で摘出した脳室腹腔シャントチューブ腹腔内迷入の一例. 第615回大阪外科集談会, 1月, 2017年, 大阪.
4. 上森麻美, 仁科拓也, 佐藤智彦, 浅野彰彦：進行性の左片麻痺で発症した再発性神経梅毒の一例, 第52回北摂臨床懇話会, 2月, 2017, 大阪.

スタッフ 室長：川上 学
内野高裕（中央臨床検査部）

1. 診療内容

輸血管理室では、病院内で行われる輸血業務の全般を行い、管理している。業務は、厚生労働省が策定した「輸血療法の実施に関する指針」（改訂版）及び「血液製剤の使用指針」（改訂版）に基づいて行っている。

2. 診療体制

1) 輸血の管理体制

①担当技師

認定輸血検査技師である内野が担当技師として輸血検査業務の指導を行っている。時間外・休日は、検査技師が24時間体制で輸血検査を行っているが、必要に応じて担当技師がバックアップをしている。

②責任医師

川上が責任医師として、輸血副作用や輸血業務に関するコンサルテーションに応じている。

③輸血療法委員会

院内の各職種（医師、看護師、薬剤師、検査技師、医事担当）からなる委員会を2ヶ月に1回開催し、血液の使用状況調査、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握などを含め、輸血業務の効率化・安全性向上のための対策などについて検討している。

3. 診療実績

1) 血液製剤の使用状況

①赤血球液（RBC）	2,230単位
自己血	54単位
②新鮮凍結血漿（FFP）	394単位
③血漿交換療法におけるFFP	140単位
④アルブミン	1,716.3単位
濃厚血小板	7,935単位

*FFPおよびアルブミンの使用量は、適正とされる基準

$$\text{FFP/RBC比} = (\text{②} - \text{③}) / \text{①} = 0.18 < 0.54$$

$$\text{アルブミン/RCC比} = \text{④} / \text{①} = 0.77 < 2$$

を満たしていた。

2) 血液製剤の廃棄状況

RBC 58単位、FFP 6単位、PC 30単位

3) 平成28年度における変更点

①院内における輸血副作用

平成28年4月から院内で発生した輸血副作用の事例について、輸血療法委員会において共有・検討することとした。平成29年1月以降、その内容を院内グループウェアで配信する運用を開始した。

②輸血関連情報の周知

輸血療法委員会の際に日本赤十字血液センターから提供された輸血関連情報を、平成28年5月から院内グループウェアで配信する運用を開始した。

③アルブミン製剤の輸血管理室における管理

平成29年春からアルブミン製剤の在庫管理・出庫を行う部門を薬剤部から輸血管理室に変更するべく準備をした。

4) 今後の予定

末梢血幹細胞の保存・出庫を、電子カルテのオーダーリングシステムを用いて管理する。

4. その他

1) 輸血教育講演会（年1回）

平成29年1月20日（金）に、「輸血療法の歩み～副作用とその対策～」との演題で、泌尿器科 福井辰成による輸血療法講演会を開催した。

2) IVナース育成プログラムの講義

平成29年2月13日に「日生病院・IVナース講義 輸血の基本」の演題で、血液・化学療法内科 川上 学による講義を行った。

化 学 療 法 室

スタッフ 室 長：川上 学

大島千春（がん化学療法看護認定看護師）、國友実加、里井景子（以上看護部）

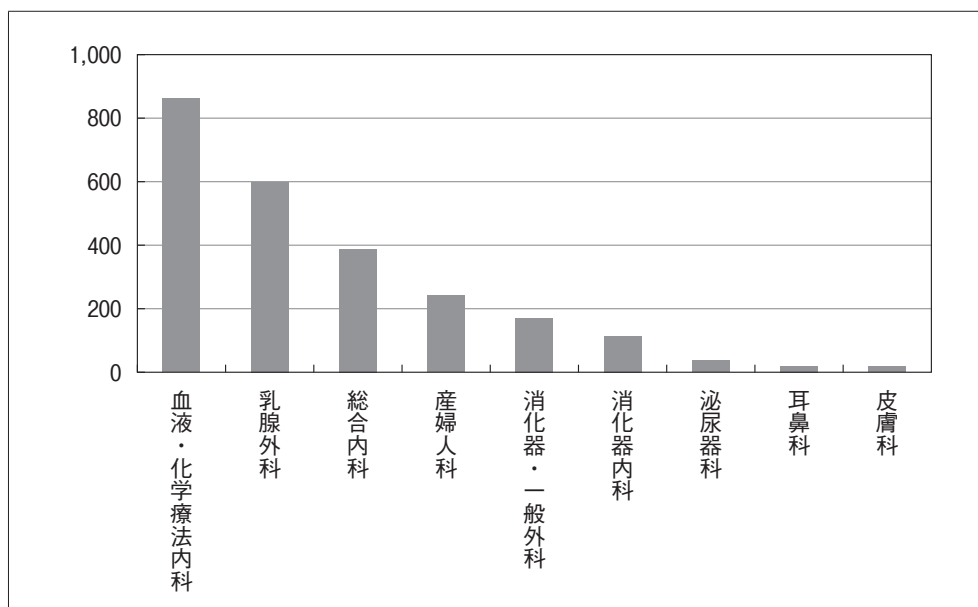
1. 診療内容

外来通院での抗がん剤治療、抗がん作用を期待してのホルモン剤投与、骨転移に対するビスフォスホネート投与、関節リウマチなどの膠原病や乾癬などの自己免疫疾患に対する生物学的製剤投与などの専用治療室として運用、外来化学療法加算を算定している。特に、消化器・一般外科、乳腺外科、産婦人科の症例は、がん化学療法看護認定看護師が化学療法開始前にカウンセリングを主体とする面談を行い、患者及び家族の治療に関する疑問や不安の軽減に努めている。また、入院から外来移行時にオリエンテーションを行い、滞りない外来治療への移行をサポートしている。治療中は、患者及び家族に副作用のセルフモニタリングを指導し、自宅で起こった副作用の対処は随時電話相談を受けながら、速やかに対応できる体制を整えている。

2. 診療実績

化学療法室利用者件数は総数で3,277件（前年度比+92）で、その内化学療法加算の算定（点滴抗がん剤の投与）件数は2,454件（前年度比+121）で、診療科別の内訳は図1の通りであった。尚、総合内科、皮膚科の集計には、関節リウマチや乾癬に対する生物学的製剤の投与が含まれている。また、ホルモン剤の投与は823件（前年度比-29）であった。

図1 平成28年度 診療科別化学療法加算算定件数



リハビリテーション室

スタッフ 室 長：松井 稔 ※ H29年4月～室長：平林伸治
理学療法士：片岡宏一郎、麦田盛穂、廣田将史、田中 孝、藤岡栄吾、
白川 桂、向井 葵、安達幸恵、岸本 大、泉本亮二
作業療法士：杉本扶美

1. 診療内容

各診療科からのリハビリ依頼に対し、身体機能の向上を目標に理学療法士と作業療法士が連携し合いながら最良のリハビリテーション医療を提供してきた。リハビリテーションの内容は、急性期の運動器疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患・悪性疾患・循環器疾患の患者さんなどを中心に実施し、それぞれの疾患に対応した個別のプログラムを実践してきた。運動器疾患は関節の変性や炎症疾患、体幹・上・下肢の外傷や骨折、熱傷瘢痕による関節拘縮、高齢者の方の運動器不安定症などの患者さんが対象となり、平成28年度は15,359件の実績があった。脳血管疾患は脳梗塞、脳出血、ギランバレー症候群等、多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症）、末梢神経障害、皮膚筋炎、多発性筋炎などの脳血管リハの患者さんを対象とし、2,705件の実績があった。呼吸器疾患は肺炎、無気肺、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、全身麻酔手術をする患者さんの手術前後の呼吸機能訓練を要するなど呼吸器疾患の患者さんを対象とし、931件の実績があった。がんリハビリテーションは消化器疾患、呼吸器疾患、血液疾患、乳がんなどの患者さんに対し治療により生じた疼痛、筋力低下、障害等に対して二次的障害を予防し、運動機能の低下や生活機能の低下予防・改善を目的とし、1,109件の実績があった。循環器疾患は、心筋梗塞、心不全、不安定狭心症、閉塞性動脈硬化症、ペースメーカ植え込み術などの患者さんに対し、心臓リハビリテーションを7月から立ち上げ、724件の実績を上げた。

外科の開腹開胸手術、泌尿器科手術、婦人科手術後の廃用予防、嚥下障害、脱水症、皮膚疾患、胆のう炎などの廃用症候群の患者さんなど亜急性期患者さんに対しても継続的にリハを行い、724件の実績があった。

休日リハを継続的に実施し、早期リハ対象患者さんを中心に、ベットサイドでの早期離床を促した。

退院後の生活について不安を抱いている入院患者さんに対しては退院前に自宅を訪問し、手すりなどの環境確認や整備などの退院前訪問指導を行い、退院がスムーズに行えるよう支援し、地域連携を目的に在宅患

者さんの訪問リハを行い、在宅での運動指導やADLの状況を確認した上で家屋調整などを行いながら、高いQOLの保持に努めた。

予防領域におけるリハの重要性を積極的に啓蒙し、糖尿病・内分泌センターからの患者さんに対する運動機能評価を行い、糖尿病精査入院では個々に応じたオーダーメイドの運動指導を行った。予防医学センターからはサルコペニアに該当する方の運動指導を行いその予防普及に努めた。

チーム医療においては、リハビリカンファレンスの定期的な開催や緩和ケアカンファレンスへの参加、糖尿病ふれあい教室での「運動療法について」のセッション担当、女性骨盤底センターからの骨盤底筋運動の指導を行い、他職種との連携を図りながらリハの専門性を発揮した。

リハビリの質向上においては、NST回診や糖尿病回診に同行したり、勉強会にも参加し、最新の情報収集を行いながら知識向上に努めた。

院外での講習会や研修会にも自主的に参加し、会得した技能や知識を病院内で伝達講習してスタッフ間で共有した。

学術活動においては以上項目について発表し情報発信を行った。

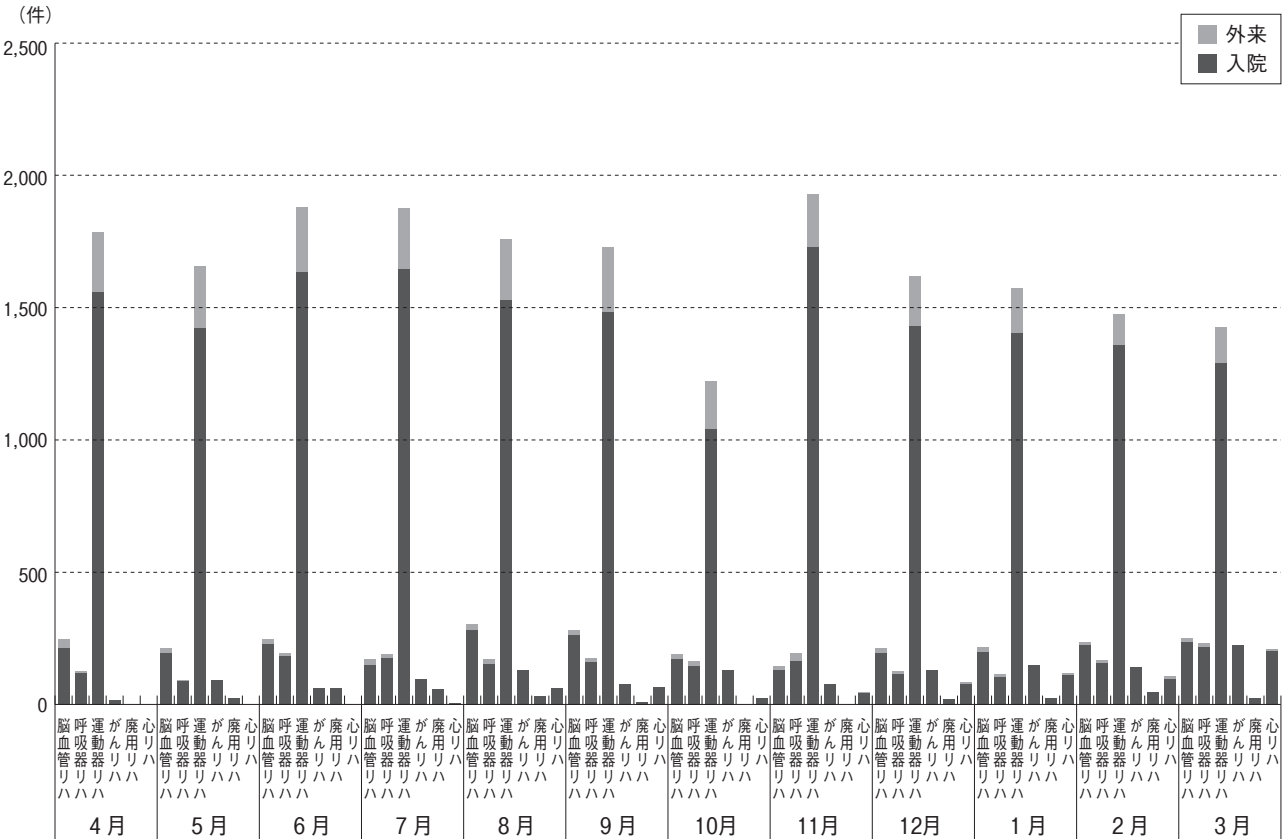
リハ教育分野においては、リハビリテーション関連学科の大学や専門学校から学生を積極的に受け入れ、臨床での実習教育体制を整備した。

日本生命グループ各社・財団による社会貢献イベントである「ジャパンウオーク in TOKYO」や「ニッセイ夏休み自由研究フェス!」などに協力し、身体機能の仕組みや運動の実践方法などについての情報を提供した。

2. 施設基準

- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅱ）

図1 平成28年度 月別脳血管リハ・呼吸器リハ・運動器リハ・がんリハ・廃用リハ・心リハ件数



	4月						5月						6月					
	脳血管 リハ	呼吸器 リハ	運動器 リハ	がん リハ	廃用 リハ	心 リハ	脳血管 リハ	呼吸器 リハ	運動器 リハ	がん リハ	廃用 リハ	心 リハ	脳血管 リハ	呼吸器 リハ	運動器 リハ	がん リハ	廃用 リハ	心 リハ
入院	214	118	1560	18	0	0	197	90	1424	92	23	0	230	184	1636	63	64	0
外来	31	7	223	0	0	0	15	4	231	0	0	0	18	9	243	0	0	0

	7月						8月						9月					
	脳血管 リハ	呼吸器 リハ	運動器 リハ	がん リハ	廃用 リハ	心 リハ	脳血管 リハ	呼吸器 リハ	運動器 リハ	がん リハ	廃用 リハ	心 リハ	脳血管 リハ	呼吸器 リハ	運動器 リハ	がん リハ	廃用 リハ	心 リハ
入院	150	175	1648	95	60	6	283	152	1529	131	33	64	265	160	1485	77	8	66
外来	20	14	229	0	0	0	21	18	228	0	0	0	16	14	243	0	0	0

	10月						11月						12月					
	脳血管 リハ	呼吸器 リハ	運動器 リハ	がん リハ	廃用 リハ	心 リハ	脳血管 リハ	呼吸器 リハ	運動器 リハ	がん リハ	廃用 リハ	心 リハ	脳血管 リハ	呼吸器 リハ	運動器 リハ	がん リハ	廃用 リハ	心 リハ
入院	172	148	1041	132	0	23	133	167	1730	77	0	46	197	116	1433	131	19	81
外来	16	15	180	0	0	0	11	27	198	0	0	2	15	10	185	0	0	3

	1月						2月						3月					
	脳血管 リハ	呼吸器 リハ	運動器 リハ	がん リハ	廃用 リハ	心 リハ	脳血管 リハ	呼吸器 リハ	運動器 リハ	がん リハ	廃用 リハ	心 リハ	脳血管 リハ	呼吸器 リハ	運動器 リハ	がん リハ	廃用 リハ	心 リハ
入院	202	104	1404	149	25	113	224	157	1359	142	46	97	237	218	1291	225	23	202
外来	15	11	168	0	0	6	10	10	116	0	0	10	13	13	133	0	0	5

中央手術管理部

スタッフ 部 長：船渡孝郎
部長代理：水野 均（消化器・一般外科）、花田留美（麻酔・緩和医療科）
医 師：前田 元（呼吸器外科）、西田幸弘（乳腺外科）、
松井 稔（整形外科）、東山真里（皮膚科）、福本 亮（泌尿器科）、
大塚博文（産婦人科）、赤羽 誉（耳鼻咽喉・頭頸部外科）、
薬剤 部：野村浩英
看護 師：木下園子、下山優子、二井千里
医療技能職：三木和美
事 務：三井田誠一、小林 力、寺野純一

1. 概要

平成27年4月1日より急性期病院として重要な手術についてニーズに対応した手術枠運営、安全で質が高く、かつ効率的な手術室運営等を実現する観点から診療支援部門に手術室をマネジメントする「中央手術管理部」が新設され、平成28年度は手術件数：2,462例、全身麻酔症例数：1,570例の手術を施行した。

2. 診療内容

＜主たる業務＞

- 1) 医療機器、手術材料、薬剤並びに手術枠等、手術室全般の適切な運営管理
- 2) 安全で質が高くかつ効率的な手術室運営の企画実施
- 3) 新病院に向けた手術室の方向性の検討

3. 診療実績

- 1) 毎月第2週月曜日「中央手術管理部定例会」の定期開催を開始しており、毎月定例化を行うことにより、手術枠を現状に即した枠変更を柔軟に行うことが出来ている。また、手術室で発生したインシデントの共有を行う事により、更に安全な手術室運営を目指している。その他、各科の担当者に

より新規購入物品のプレゼンテーションを行い、手術室内にある物品に対して共通の認識を持つ為の取り組みを行い、コスト削減、効率的な運用を行っている。

- 2) システム部門との協働で「手術申込状況共有システム」を構築し、手術枠で「見える化」する事により、PC画面上でいつでも誰もが手術申込状況を確認することが出来る様になった。

また、手術の予約を枠単位から時間単位に変更し、当該科の医師への意識付けを行う事で全麻手術の効率化に繋がり、その結果、割り当てられた手術枠に対しての占有率は約87～94%である。（前年度は約85%）

- 3) 当手術室に平成27年7月、手術看護認定看護師が1名誕生した。平成28年1月より術前看護外来を開設し、術前からの看護介入に取り組み始めた。また、平成27年11月よりWHO安全な手術のためのガイドラインで推奨されている手術安全チェックリストを導入し、主治医や麻酔科医師との協働により安全な手術を実施するためのシステム作りを行っている。

中央臨床検査部

スタッフ 部長：小瀬戸昌博、専門部長：箭野文秀、技師長：水口洋一

- (1) 検体Ⅰ部門〔責任者：倉本訓子〕：生化学・免疫、血液・凝固、輸血
倉本訓子、吉田隆則、天野精子、内野高裕、玉川雄一、福田志穂美、
若原達哉、高橋信明（11月～）、池田久美
- (2) 検体Ⅱ部門〔責任者：藤田育子〕：細菌、病理、外来（一般）
水口洋一、藤田育子、角田道久、松谷憲一、小林美香、古川浩司、大嶽雄也、
中辻果林、見瀬愛里（～8月）
- (3) 生理部門〔責任者：大西 龍〕：循環器、超音波、肺機能、脳波、筋電図、耳鼻科
大西 龍、藤井ゆう子、森本 梓、大澤由布子（～11月）、山添直子、渡辺温子、
中尾やす子（～12月）、相馬容子（～10月）、吉岡 睦（～10月）
予防医学センター配属：篠田和子、上村慶子、徳山由佳、柳川友加、南谷美樹
- (4) 臨床工学部門〔責任者：加藤千尋〕
加藤千尋、三木和美、岡崎浩也、田中恵介、高山理恵

1. 診療体制

中央臨床検査部は臨床検査部門と臨床工学部門を有し、下記各部門に編成し業務の共有化、効率化に取り組んでいる。

●臨床検査部門

- 検体Ⅰ部門【生化学、免疫、血液、凝固、（輸血）】
- 検体Ⅱ部門【細菌、病理、外来（一般）】
- 生理部門【超音波、循環器、肺機能、脳波、筋電図、耳鼻科】

臨床検査部門では、全体で宿日直、採血を担当し、また各種チーム医療にも参加している。

●臨床工学部門

- 臨床工学部門【機器管理、透析、心カテ、手術室、他】

2. 診療実績

質の高い検査結果を得るための精度管理に力を注ぎ、日本医師会・大阪府医師会・日本臨床衛生検査技師会の精度管理調査に40年間にわたり参加し、常に優秀な成績を収め続けている。

検査の迅速報告に対しても、検体到着後30分以内（生化学検査）での結果報告を目指し取り組んでいる。また、24時間検査体制にも対応し、時間外緊急検査の充実に取り組んでいる。

輸血検査から血液製剤管理までの輸血業務を安全かつ迅速に行う輸血管理体制にも対応している。

3. 業績

論文・著書

1. 若原達哉, 玉川雄一, 内野高裕, 天野精子, 池田久美, 吉田隆則, 倉本訓子, 水口洋一, 小瀬戸昌博: 心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP) 迅速定量測定試薬「ラビッドチップ H-FABP」の基礎的検討, 日生病院医学誌, 44: 11-16, 2016.

学会発表

1. 倉本訓子, 水口洋一, 住谷 哲, 宇都佳彦, 仁科周平, 大畔健太, 小瀬戸昌博, 中川雅史, 浅野彰彦, 仁科拓也, 立花 功, 笠山宗正, 宮崎彩子, 古賀正史: HbA1cの偽高値を契機に診断した異常ヘモグロビン症 (Hb Andrew-Minneapolis) の1例, 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2016, 京都.

研究会発表

1. 小瀬戸昌博: 自己免疫疾患治療の変遷. ニッセイ医学セミナーUpDate, 5月, 2016, 大阪.
2. 小瀬戸昌博: リウマチ治療の最近の課題. 大阪西部リウマチ勉強会, 7月, 2016, 大阪.

H28年度 検体検査件数

検査項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来検査	尿	2,803	2,735	2,866	2,721	2,917	2,815	2,813	2,674	2,880	2,794	2,693	3,078	33,789
	便	1,519	1,840	2,154	1,927	2,307	1,951	2,183	1,917	1,997	1,539	1,964	1,962	23,260
	迅速抗原	229	205	216	173	136	123	205	188	305	531	459	267	3,037
	計	4,551 (4,492)	4,780 (4,134)	5,236 (4,879)	4,821 (4,904)	5,360 (4,727)	4,889 (4,470)	5,201 (4,910)	4,779 (4,443)	5,182 (4,945)	4,864 (3,901)	5,116 (5,015)	5,307 (5,208)	60,086 (56,028)
化学検査	生化学	206,061	199,679	219,546	207,348	221,141	215,761	216,651	209,653	214,328	215,434	205,559	226,125	2,557,286
	輸血	205	163	170	231	157	202	200	158	188	188	193	236	2,291
	止血	3,242	3,139	3,709	3,707	3,333	3,370	3,052	2,910	3,035	3,193	3,040	3,258	38,988
	計	209,508 (207,462)	202,981 (186,814)	223,425 (204,105)	211,286 (207,212)	224,631 (200,388)	219,333 (198,486)	219,903 (211,391)	212,721 (194,004)	217,551 (203,578)	218,815 (200,516)	208,792 (202,680)	229,619 (223,420)	2,598,565 (2,440,056)
細菌検査	一般細菌	797	752	813	786	844	760	891	716	824	820	703	826	9,532
	抗酸菌	142	131	166	146	163	159	142	115	149	119	115	117	1,664
	迅速	96	81	58	54	74	45	67	81	61	31	44	50	742
	計	1,035 (1,010)	964 (899)	1,037 (909)	986 (911)	1,081 (912)	964 (943)	1,100 (926)	912 (890)	1,034 (917)	970 (788)	862 (839)	993 (1,076)	11,938 (11,020)
血液検査	一般検血	18,467	17,882	19,603	19,041	19,848	18,492	18,514	17,529	18,059	17,875	17,520	19,157	221,987
	その他	16	13	19	26	22	19	16	17	14	15	8	15	200
	計	18,483 (18,492)	17,895 (16,788)	19,622 (18,365)	19,067 (18,898)	19,870 (18,475)	18,511 (17,679)	18,530 (18,707)	17,546 (17,373)	18,073 (17,933)	17,890 (17,370)	17,528 (17,826)	19,172 (20,050)	222,187 (217,956)
合 計		233,577 (231,456)	226,620 (208,635)	249,320 (228,258)	236,160 (231,925)	250,942 (224,502)	243,697 (221,578)	244,734 (235,934)	235,958 (216,710)	241,840 (227,373)	242,539 (222,575)	232,298 (226,360)	255,091 (249,754)	2,892,776 (2,725,060)

(注) () 内は前年同月

H28年度 生理検査件数

A. 超音波生理検査

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
心電図	912	788	970	811	810	829	818	755	847	835	868	1,006	10,249
トレッドミル	16	19	10	13	13	10	8	16	13	8	6	12	144
負荷心筋シンチ	11	9	11	10	9	8	3	3	5	6	10	7	92
持続心電図	22	14	19	14	13	12	9	13	12	13	24	29	194
PWV/ABI	131	115	147	107	108	148	114	133	164	164	176	166	1,673
心エコー	259	262	279	226	246	260	232	241	248	244	265	268	3,030
腹部エコー	261	259	317	251	272	275	290	274	265	258	261	322	3,305
下肢エコー	49	50	54	47	40	42	54	44	45	44	59	57	585
その他エコー	180	181	180	154	138	152	165	152	175	126	143	206	1,952
脳波検査	23	20	32	25	28	25	22	11	19	24	22	17	268
筋電図その他	9	8	6	2	6	5	8	9	7	4	7	9	80
計	1,873	1,725	2,025	1,660	1,683	1,766	1,723	1,651	1,800	1,726	1,841	2,099	21,572

B. 平衡機能検査

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
平衡機能検査	63	80	67	21	144	108	77	37	34	50	71	80	832
聴力機能検査	148	155	170	130	114	109	97	93	85	90	90	98	1,379
その他	0	0	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	5
計	211 (248)	235 (180)	239 (253)	152 (223)	258 (234)	219 (189)	174 (220)	130 (214)	119 (230)	140 (181)	161 (249)	178 (244)	2,216 (2,665)

[耳鼻咽喉・頭頸部外科]

(注) () 内は前年同月

中 央 放 射 線 部

スタッフ 部 長：前田宗宏

担当部長：在津裕明（技師長）

石垣直也、村川靖弘、森本光雄、川畑孝司、長澤浩造、新谷泰正、

藤丸泰一、山田純子、中農智絵、伊泉希望、芝 瑞貴

1. 診療内容

質の高い検査・治療の提供にスタッフ全員で取り組んでいる。また、24時間検査体制にも対応し、緊急検査の充実に取り組んでいる。

2. 診療体制（機器）

CT 2台（320列・16列）
 MRI 1台（1.5T）
 RI 2台
 リニアック 1台
 一般撮影 2台
 X線TV 2台
 乳房撮影 1台
 骨塩定量 1台
 アンギオ 1台
 結石破碎 1台
 ポータブル 2台
 外科用イメージ 2台

4. その他

1) 取得資格

第1種放射線取扱主任者	1名
健診マンモグラフィ認定技師	4名
核医学専門技師	1名
放射線管理士	2名
放射線機器管理士	2名
X線CT認定技師	1名
臨床実習指導教員	1名
診療放射線技師実習施設指導者	11名

3. 診療実績（平成28年度 検査件数）

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
CT	925	894	1,033	901	972	1,003	960	947	1,007	1,065	1,008	1,094	11,809
MRI	403	391	451	412	436	395	405	433	433	404	431	479	5,073
RI	58	49	58	47	49	55	45	49	45	48	64	44	611
単純X線	2,150	2,066	2,297	2,115	2,042	2,113	2,189	2,010	2,144	2,212	2,121	2,348	25,807
MMG	89	116	144	156	127	165	135	132	137	118	137	115	1,571
リニアック(新患)	11	10	10	10	14	10	10	8	11	15	14	17	140

血管系IVR 63例・非血管系IVR 48例

栄 養 管 理 室

スタッフ 室 長：笠山宗正（院長） ※ H29年4月～室長：宇津 貴
副 部 長：出口暁子
管 理 栄 養 士：松村寿美、大平百合子（～5月）、坂本彩弥（7月～）
＊栄養サポートチーム（NST）：水野 均、大野典子、小山佐知子、田中敬子、
片岡宏一郎、千原亜紀子、出口暁子

1. 診療内容

糖尿病、腎臓病、心臓病、脂質異常症など食事療法を必要とする患者に対する個別食指導及び集団食事指導を実施している。

また、入院患者には、栄養管理計画書を作成し、栄養管理によって疾患の治療に貢献できるように努めている。栄養サポートチーム（NST）を通して、必要な患者に対して低栄養の改善、食事内容の見直し、栄養補給法についてのアドバイスを行っている。

2. 診療体制

1) 指導スケジュール（表1）

栄養指導室で入院個別食事指導および外来個別食事指導を、糖尿病・内分泌センターと同診察室で外来個別食事指導と集団食事指導を実施している。

2) 病棟体制（表2）

病棟を担当制として、受け持ち病棟の対象患者を中心に食事指導を行った。

3. 診療実績

各診療科への食事指導依頼を行い件数増加に繋がった。

1) 外来個別食事指導の実績（表3）

糖尿病・内分泌センターでの指導件数を含む外来個別食事指導件数は、前年度に比して約27件/月増加した。

2) 入院個別食事指導の実績（表3）

入院個別食事指導件数は、前年度に比して約10件/月増加した。

3) 集団食事指導の実績（表3）

糖尿病教育入院などの患者を対象に実施した。前年度に比してやや減少した。

4) 診療科別個別指導の実績（表5）

前年度に比して腎臓内科、総合内科、循環器内科、消化器・一般外科の指導依頼が増加した。

5) 入院食事提供の実績（表6）

特別食の依頼は前年度より増加した。

6) NST活動実績（ラウンド回数：41回）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人	19	20	23	21	22	8	11	7	29	15	11	26	212

・主治医のほか病棟、医療スタッフからの依頼があり対応した。

・NST勉強会：平成28年10月19日
「経腸栄養食の種類と使い分け」

講師：水野消化器・一般外科部長（NST担当）

参加者：45名

7) 新しい取り組み

癌化学療法治療者のQOL改善のために、昼食・夕食において特別選択食の導入を行なった。

＊がん化学療法患者向け特別選択食の件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
食	276	191	167	208	164	188	180	133	187	105	161	203	2,163

8) 患者を対象とした活動

糖尿病・内分泌センター及び糖尿病患者会（錦会）と共同で実施した。

平成28年6月11日

平成28年度第1回ニッセイ市民健康セミナー

（糖尿病腎症と透析治療について）

平成28年11月13日 ニッセイ糖尿病フェア

（栄養相談とカードバイキング）

平成28年11月25日 錦会総会及び糖尿病食試食会

（和食弁当）

平成29年1月27日 糖尿病ランチ&セミナー

25名参加（食物繊維たっぷり和食弁当）

9) イベント食の提供とメッセージカードの新設

・暦行事食に加え、食育イベント食を新規に提供した。

・季節に合わせて、食生活に関するメッセージを記したカードを、月3回配布した。

4. その他

1) 所属学会

日本病態栄養学会 1名

日本静脈経腸栄養学会 1名

日本褥瘡学会 1名

日本栄養改善学会 1名

日本栄養士会 3名

2) 取得資格

日本糖尿病療養指導士 1名

大阪糖尿病療養指導士 1名

介護支援専門員 1名

健康運動指導士 1名

調理師 1名

5. 業績

学会発表

- 岡部太一, 大平百合子, 坂本彩弥, 松村寿美, 出口暁子: 心不全における栄養管理 当院における現状と今後, 第20回日本病態栄養学会年次集塊 合同パネルディスカッション, 1月, 2017, 京都.

研究会発表

- 出口暁子, 松村寿美: 個別食事指導の件数増への取り組み, 第21回大阪府栄養士会研究発表会, 3月, 2017, 大阪.

院外活動、その他

- 松村寿美: 食べ方の工夫! 食物繊維を味方につけよう, 第33回糖尿病患者対象料理教室指導 大阪糖尿病協会顧問栄養士会, 10月, 2016, 大阪.

表1 個別食事指導スケジュール

	月	火	水	木	金
指導室	松村	出口	松村	坂本	出口
診察室	坂本	松村	坂本	出口	坂本 松村
糖尿病・内分泌 センター	出口	坂本	出口	松村	

表2 担当病棟

	3階	4階西	4階東	5階西	5階東	6階西	6階東
担当	松村	坂本	坂本	松村	出口	出口	出口

表3 個別・集団栄養指導実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年度累計	平均
外来個別	73	75	70	85	81	86	77	71	86	65	83	96	948	79	764	64
DMセンター 外来個別	88	66	89	87	85	88	73	83	79	71	82	85	976	81	925	77
DM透析予防	22	26	33	18	29	27	29	26	33	29	29	32	333	28	239	20
入院個別	83	76	81	70	87	108	98	94	117	92	98	111	1,115	93	996	83
集団	3	9	14	11	6	8	9	6	12	7	9	11	105	9	129	11
合計	269	252	287	271	288	317	286	280	327	264	301	335	3,477	290	3,053	255

表4 疾患別個別栄養指導実績（集団指導含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年度累計	平均
胃腸病	7	6	6	4	4	10	15	5	12	8	7	10	94	7.8	45	3.8
肝臓病	4	4	3	7	4	10	5	6	11	10	11	7	82	6.8	70	5.8
糖尿病	44	62	60	56	52	77	55	65	80	57	70	68	746	62.2	711	59.3
腎臓病	14	11	12	12	16	13	18	16	23	11	17	23	186	15.5	102	8.5
高血・心臓・ 高脂血症	80	63	58	59	74	71	74	61	67	65	69	85	826	68.8	728	60.7
肥満症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1	7	0.6
術後食	2	0	1	5	4	2	0	1	1	0	0	0	16	1.3	21	1.8
療養食	4	4	8	11	7	8	6	11	7	6	5	13	90	7.5	52	4.3
その他	0	1	3	1	7	3	2	0	2	0	2	1	22	1.8	24	2
計	156	151	151	155	168	194	175	165	203	157	181	207	2,063	171.8	1,760	146.8

表5 診療科別個別栄養指導実績（DMセンター・集団含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均
循環器内科	28	26	31	25	41	30	37	28	40	33	31	35	385	32.1
消化器内科	15	16	14	22	13	16	12	20	23	22	23	17	213	17.8
総合内科	36	51	39	34	42	59	33	43	58	47	52	50	544	45.3
血液内科	1	4	1	1	2	2	5	3	1	2	2	2	26	2.2
精神・神経科	4	0	0	5	4	3	3	1	2	1	1	3	27	2.3
消化器・ 一般外科	9	5	12	13	13	20	13	13	14	9	8	19	148	12.3
整形外科	1	3	4	5	3	5	4	7	5	2	5	6	50	4.2
皮膚科	11	6	13	8	10	11	13	8	12	12	14	14	132	11
泌尿器科	2	6	5	6	2	10	4	4	3	2	2	5	51	4.3
産婦人科	26	18	19	19	15	20	24	22	21	14	25	38	261	21.8
眼科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	4	1	1	1	1	2	0	0	0	3	1	1	15	1.3
神経内科	6	4	3	6	4	4	7	4	7	3	5	3	56	4.7
腎臓内科	0	0	0	1	2	3	6	3	10	5	8	11	49	4.1
その他	13	11	9	8	16	9	14	9	7	2	4	3	105	8.8
合計	156	151	151	155	168	194	175	165	203	157	181	207	2,063	171.9

表6 患者給食数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年度累計	平均
常食	7,100	6,804	7,790	8,062	7,368	6,520	7,207	5,933	6,441	6,835	6,497	6,796	83,353	6,946	92,256	7,688
軟菜食	4,782	7,993	4,329	5,140	4,861	4,517	4,393	4,043	4,088	4,546	4,628	5,017	58,337	4,861	54,881	4,573
特食	8,759	4,677	9,117	9,268	9,178	8,463	9,419	9,769	9,223	9,254	9,478	9,851	106,456	8,871	100,397	8,366
合計	20,641	19,474	21,236	22,470	21,407	19,500	21,019	19,745	19,752	20,635	20,603	21,664	248,146	20,678	246,534	20,627
特食加算率	42	41	43	40	42	43	44	49	47	45	46	45	527	44	489	41
調乳本数	3,196	2,388	2,212	2,602	2,512	1,966	2,058	1,932	2,312	2,598	2,382	1,950	28,108	2,342	28,288	2,357

薬 剤 部

スタッフ 部 長：野村浩英

副 部 長：足立充司（2月～）

専門主任：池田久雄、乾 有希子

薬 剤 師：吉岡 亮、平田貴宏、宮 麻紀子、瀧川奈央、
六車裕一、千原亜紀子、京 由美子、辻 亜紀、森岡浩子、
辻 俊美、中野静香、松元麻美（～12月）

1. 診療内容

当薬剤部は調剤、病棟業務を主とし、医薬品の適正使用、チーム医療へ参画に取り組んできた。昨年に引き続き1病棟に1薬剤師を配置し週20時間以上の病棟業務を行った。院内の医薬品について医薬品安全管理責任者を配置し院内での医薬品安全管理の講演を行い、DIニュースを定期的に発行するなど薬剤の適正使用を図っている。糖尿病、ICT、NST、緩和ケア、褥瘡対策などチーム医療にも参加し医薬品の安全使用を図った。

経済効果の取り組みとしてジェネリック（GE）薬品の導入を推進し数量ベースで80%の使用率を目標とした。結果・H28/10-H29/3（平均）のGE占率は85.8%であった。引き続きGE薬品使用率について注視していく。

癌化学療法レジメンの登録と円滑な運用を行った。新規申請15レジメンの承認審査並びに登録、オーダ内容の確認・承認、抗癌剤の調製、被曝・拡散防止などにより安全性や適正使用の更なる向上に努めている。

製剤は院内特殊製剤の調製、供給に取り組んでいる。申請のあった特殊製剤について倫理委員会に諮り使用についての安全性を確認している。製造物責任法に対応するため、日本病院薬剤師会より公示された指標に従って院内製剤の倫理上の検討も行った。

薬品管理上、採用薬品、削除薬品の審議を薬事管理委員会に諮り、採用品目数は前年度並で推移している。

薬品購入金額は新たな分子標的薬や新規C型肝炎治療薬など高額薬剤の使用もあり、対前年比114%、14,500万円の増額となった。

医療外業務として薬学部学生の病院実務実習を受け入れた。期間・人数は、1期3ヶ月間に2～4名、3期で合計9名の受け入れ実績であった。

2. 診療体制

1) 人員配置

人員：薬剤師15名（パート3名を含む）、事務員1名
配置：調剤・製剤業務7名、薬剤管理指導業務7名
DI（薬品情報室） 1名
臨床研究管理室（事務局） 1名
薬品管理 事務員 1名

2) 病棟体制

薬剤師7名を配置。

手術予定患者の入院前持参薬の確認を開始。薬剤

管理指導（服薬指導）、保険診療に定められた病棟業務を実施し、適正かつ、安心・安全な薬物療法に努めた。

3. 診療実績

1) 日常業務

外来処方箋枚数	150枚/日（外来注射処方を含む）
入院処方箋枚数	178枚/日
入院注射処方箋枚数	658枚/日
服薬指導件数	712件/月（薬剤管理指導業務）
抗癌剤調製件数	285件/月

2) 院内学術活動（講演）

医療安全講演会・医薬品の安全管理講習会
「子供による誤飲事故防止について」
「医薬品管理WG、院内疑義照会事例の共有」

3) 院内広報活動

医薬品情報（安全性情報）	12通
DSU（医薬品安全対策情報）	12通
新規採用薬情報	4通
薬ニュース	1通

4. 認定薬剤師など

日本医療薬学会認定薬剤師	3名
がん薬物療法認定薬剤師	3名
感染制御認定薬剤師	1名
抗菌化学療法認定薬剤師	1名
妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師	1名
日本糖尿病療養指導士	3名
日本緩和医療薬学会麻薬教育認定薬剤師	1名
認定実務実習指導薬剤師	4名

（平成29年3月31日現在）

5. 業績

学会発表

- 辻 亜紀、池田久雄、乾 有希子、吉岡 亮、野村浩英：当院における高齢者に対する酸化マグネシウム製剤の適正使用状況調査、平成28年度第26回日本医療薬学会年会、9月、2016年、京都。
- 宅和真由美、水本恵梨花、森のどか、橋本亜月、三宅麻文、脇條靖治、平井三保子、宮麻紀子、基成、野村浩英、平田敦宏、尾上雅英：がん化学療法によるB型肝炎再活性化対策における多施設での取り組み調査報告、平成28年度第26回日本医療薬学会年会、9月、2016年、京都。

研究会発表

- 乾 有希子：「病棟業務や保険薬局での患者指導とその記録」「産婦人科領域で薬剤師に求められること 一歩踏み込んだ情報とその伝え方」，関西POS薬剤研究会公開講座 第64回公開講座，9月，2016，大阪。

薬剤関係件数

摘 要				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
処方箋	外来	枚数	枚数	2,992	2,972	3,067	3,050	3,450	3,077	3,282	3,052	3,194	3,094	2,882	3,038	37,150	34,686
			件数	4,185	4,262	4,387	4,071	5,630	4,314	4,463	4,304	4,455	4,305	4,047	4,224	52,647	48,132
		1日当り	枚数	150	156	139	153	157	154	153	153	160	155	144	138	1,810	1,719
			件数	209	224	199	204	256	216	223	215	223	215	202	192	2,579	2,395
	入院	総数	枚数	5,233	4,711	5,477	5,552	5,626	5,345	5,489	5,197	5,487	5,604	5,277	5,894	64,892	66,002
			件数	9,750	8,667	10,161	10,532	10,320	9,705	10,225	9,790	10,111	10,298	9,914	11,382	120,855	117,336
		1日当り	枚数	174	152	183	179	181	178	177	173	177	181	188	190	2,134	2,176
			件数	325	280	339	340	333	324	341	326	326	332	354	367	3,986	3,849
注射	入院	総数	枚数	18,849	19,520	21,320	20,972	18,884	20,434	19,111	17,710	20,184	21,027	20,019	21,990	240,020	232,019
		1日当り	枚数	628	630	711	677	609	681	616	590	651	678	715	709	7,896	7,611

摘 要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
薬剤管理指導業務算定	700	642	771	701	749	684	756	724	680	703	689	750	8,549	7,479
抗癌剤混合調剤件数 (外来化学療法)	188	200	199	162	218	179	196	205	187	175	169	170	2,248	1,946
(入院化学療法)	82	91	96	108	90	118	90	105	95	101	91	111	1,178	938
TPN調製件数	0	8	6	0	0	14	11	21	1	32	20	4	117	346

摘 要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
麻薬処方箋	外来	内 用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	7
		外 用	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	7
		注 射	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	内 用	65	50	73	48	80	90	64	65	76	130	878	652
		外 用	19	36	50	20	35	31	20	27	20	33	329	167
		注 射	286	252	286	275	307	279	258	289	275	284	3,417	2,830

製剤室

摘 要		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
製 剤	件数	531	227	464	372	331	325	353	109	87	241	134	64	3,238	4,391
無菌製剤	件数	181	143	211	146	194	147	188	123	82	43	109	147	1,714	2,559

[薬剤部]

臨床研究管理室

スタッフ 室長：立花 功 ※ H29年4月～室長：東山眞里

CRC（臨床研究コーディネーター）：谷口真理子（看護師）、

水越由佳子（看護師・兼任）

村崎由紀子（臨床検査技師）

事務局：瀧川奈央（薬剤師）、橋本由美（事務）

1. 活動内容

臨床研究管理室では、治験審査委員会・倫理委員会の事務局として治験、臨床研究、製造販売後調査の窓口業務を行っており、各診療科へ治験受託可能な疾患を調査し治験依頼者（製薬会社）への打診を行いながら案件を受託している。日常業務では、安全で質の高い治験・臨床研究が提供できるよう被験者対応、治験依頼者対応、治験責任医師・分担医師への対応をし、院内各部署との調整を行う。また事務局マニュアル、CRC業務マニュアル、外部CRC対応マニュアルの改訂も行っている。

2. 活動実績

1. 治験審査委員会（IRB） 13回開催
倫理委員会 11回開催
2. 年間治験実施件数 19件（前年度からの継続実施 13件、平成28年度新規受託 6件）
3. 製造販売後調査 新規契約 33件
4. 臨床研究 実施件数 40件

平成28年度、治験管理室は臨床研究管理室と改称した。年間治験実施件数は19件と、前年度と比べ1件増加した。平成25年からの4年間をみるとほぼ横ばいであり、安定した治験受託を続けている。臨床研究実施件数は前年と比べ18件減少した。（図1）。臨床開発モニター（CRA）との対応時間は652.75時間と、前年度583.25時間と比べやや増加した（図2）。これは前年度に比べ治験実施件数が1件増加したためであると思われる、モニター1人あたりの対応時間は0.7～0.8時間とほぼ変わっていない。治験依頼者からのRBM（Risk-Based Monitoring、リスクベースドモニタリング）導入件数が増加してきており、治験リスクの低い実施医療機関として活動できていると考える。

平成28年度は、函館稜北病院の川口篤也先生を講師に招き、3月24日に「多職種で立ち止まって考える臨床倫理」というテーマで全職員対象の研修会を企画・運営した。

3. 認定

日本臨床薬理学会認定CRC 1名

図1 治験・臨床研究等実施状況

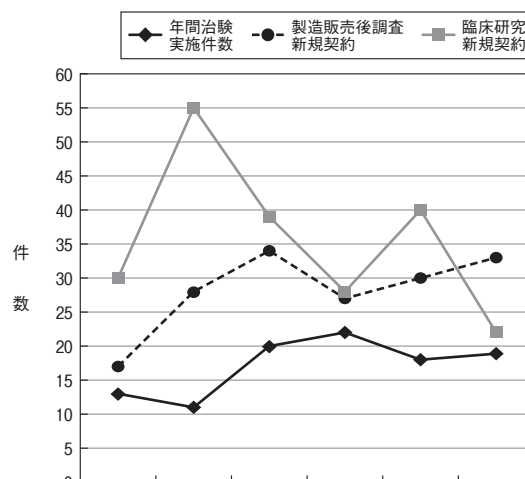
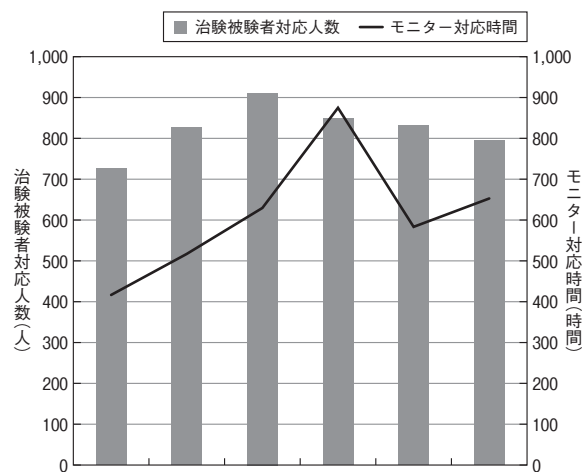


図2 治験被験者対応人数・モニター対応時間



4. 業績

学会発表

1. 加藤美和, 榎本恭子, 岡田正彦, 熊田明子, 佐野敬子, 竹澤正行, 竹本哲史, 谷口真理子, 中林正祥, 兵頭紀子, 堀部祐介：実施医療機関におけるRBM受入のためのリスク抽出とアセスメントシートの作成に向けて（第1報）－実施医療機関/治験依頼者連携治験の効率向上プロジェクト（ISEI-PJ）－, 第38回日本臨床薬理学会学術総会, 12月, 2016年, 鳥取。

スタッフ 室 長：藤田征巳（副院長、産婦人科部長）
副室長：町田恵子（医療安全管理者）
近石克也（医事サービス部長）

※ H29年4月～室長：前田 元

1. 概要

平成18年医療法、薬事法の改正により、病院に対し医療安全対策の充実が求められた。

平成27年10月1日、医療事故の再発防止により医療の安全を確保することを目的とした医療事故調査制度が、改正医療法の「医療の安全の確保」の章に位置づけられた。

当院は、平成12年「医療安全管理委員会」が組織され、本委員会が中心となり、質の高い医療の提供を目指し、日常診療の点検、インシデント・アクシデント事例の共有と対策の立案を行ってきた。また、「医療安全管理マニュアル」を作成し、医療安全に対する意識の向上に努め、専従の医療安全管理者を配置し、組織横断的に活動することで、医療安全管理の組織風土醸成に寄与してきた。

平成28年2月機能評価受審を機に、医療安全管理マニュアルを全面改定した。さらに、多職種によるワーキング活動（医薬品・医療機器の安全管理）を積極的に行うことで、医療安全に対する意識の向上を図ることができた。

2. 活動計画

- 1) 患者中心の医療の実践
 - ・ICの基準を明確にし、医療安全管理マニュアルの改定、看護師のIC同席を周知徹底する。
- 2) 医薬品・医療機器の安全管理のワーキング活動を積極的に行う。
- 3) インシデント・アクシデントレポートの提出件数を上げる。
- 4) インシデント・アクシデントレポートを分析、共有し、具体的対策に繋げる。
- 5) 医療安全研修の参加率を上げる。

3. 活動実績

- 1) 患者中心の医療の実践
 - ・ハイリスクな診療行為のICは1人で行わないことを原則とし、同意書に同席者サインの欄を設け標準化した。
- 2) 医薬品・医療機器の安全管理のワーキング活動を積極的に行うことができた。
医薬品の安全管理については、①医薬品安全管理ワーキングと糖尿病・内分泌センターに検討依頼しインスリンの指示標準化と管理方法の見直しと

定期的チェックを進めている。

- 3) インシデント・アクシデントレポートの提出件数を上げる。

例年、1,000件を下回る件数であったが、平成28年度は、目標の1,750件には及ばないものの、初めて1,590件と大きく提出件数が上がった。また、医師からのレポート件数も増加し、86件であった。

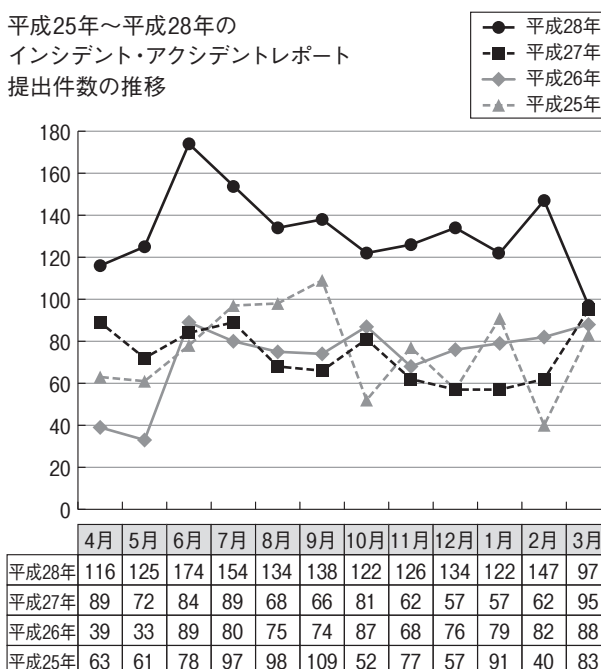
- 4) インシデント・アクシデントレポートを分析、共有し、具体的対策に繋げる。

- ・休日、夜間当直帯の検査体制の整備・強化
- ・術前休薬の項目にピルを入れ、全診療科問診票の見直しを図った。
- ・大口病院点滴異物混入事件を受け、病棟に上げる点滴・注射薬を二日分から一日分に変更した。また、毎朝病棟に上げた点滴の破損等ないか、薬剤師と看護師でダブルチェックを行っている。さらに、夜間においては、施錠管理し医薬品の安全管理に努めている。

- 5) 医療安全研修の参加率を上げる。

- ・ポスターの掲示を増やし、朝のミーティングでもアナウンスを繰り返した。参加出来なかった職員に対してはDVDを回覧し研修参加率の増加に努めた。また、研修内容は現場のニーズに沿った内容で構成するように努め、参加率の増加を図った。

平成25年～平成28年の
インシデント・アクシデントレポート
提出件数の推移



4. 医療安全研修の実績

全職員対象の研修会は3回企画、運営した。

【第1回】

平成28年7月8日（金）17：15～18：30

テーマ：「患者の権利と義務」

～医療従事者だって、人間ですよ!!～

講師：長谷部 圭司先生

弁護士・医師

参加者総数221名、研修に対する評価、研修の成果ともに、非常に満足、満足が70%～80%で大変好評であった。

事例に沿った構成で、非常に解りやすかったとの声が多くあった。また、患者の権利と義務の両面からの見方を分かりやすく説明頂き、臨床の現場で迷うことがあったが、基本的考え方として参考になったとの声も多く見られた。

【第2回】

平成28年9月16日（金）17：30～18：30

テーマ：「苦情対応におけるコードホワイトの活用」

～大阪警察病院のシステムについて～

講師：大阪警察病院 副院長 呼吸器内科部長

医療安全センター長

小牟田 清先生

当院においても日々発生する病院に対する苦情は、接遇の問題に留まらず、ケースによっては病院の危機管理の問題として捉えるべき必要性を痛感している。今回は、職員が遭遇する身近な問題の取り組みのひとつとして、大阪警察病院での事例の紹介を頂く講演会を倫理委員会・医療安全管理委員会・教育委員会で企画共催した。

参加者総数129名、研修に対する評価は、非常に満足、満足で60%～70%と好評であった。研修受講者の声

の中には、「現状に沿った解りやすい講演だった。」や、「自分を守るためにも記録の重要性を理解できた。」等、今後に活かせる研修であったと考える。一方では、当院の医療安全体制の未成熟な点が明確になり、今後の取り組みが急務と考える。

【第3回】

平成28年2月17日（金）17：30～18：30

1.テーマ：「子供による医薬品誤飲事故防止」

「医薬品管理WG・院内疑義照会事例の共有」

講師：野村浩英 薬剤部部長

2.テーマ：「医療安全ME機器ラウンド結果報告」

講師：三木和美 臨床工学技士

参加者総数151名、非常に満足が少なく、満足が大半の50%であった。医薬品の安全管理については、大変難しいとの声が多かった。医療機器ラウンドの結果報告については、「医療機器のコンセントに対する意識が変わった。」や、「医療機器の知識不足を感じた。」等、学習の必要性を認識した研修であった。

今後の研修企画において、基本的な知識・技術の確認とトピックスを織り交ぜた内容の検討を図っていききたい。また、患者からの苦情、クレームが減らない中、コミュニケーションスキルアップ研修も引き続き必要と考える。チーム医療では、各職種がもつ複雑な技術が集約されて行われている。各々の職種の志向性の違いや、職域のすき間もしくは重なり、集団特性等によって、リスクやエラーを検出・指摘・訂正できない場合がある。

安全や質を担保するためには、コミュニケーションやリーダーシップ、意思決定、状況認識などの「ノンテクニカルスキル」の向上が重要となる。職種や経験の壁を越え、チームの一員としてこれらの能力を強化し、実践することが必要と考え企画・運営していきたい。

スタッフ 室 長：小瀬戸昌博
薬 剤 師：池田久雄
検査技師：藤田育子
看 護 師：大野典子（感染症看護専門看護師）

1. 活動内容

感染対策室は日々感染症の予防につとめ、感染が発生した場合でも可能な限り拡大を防止するよう活動している。感染対策室では病院の理念に基づき最良の医療サービス、安全な医療の提供を目標に、感染対策のみならず感染症の診断治療の支援にも取り組んでいる。適切な抗菌薬使用、安全な患者への医療の提供を目標に院内の感染症発生や耐性菌検出を早期に察知し、各部門と連携し適正な治療と安全な療養環境が提供できるよう活動している。中でも本年度は平成27年度から継続している薬剤耐性菌アクションプランにおける抗菌薬耐性菌の拡大防止に向けた取り組みに重点を置いて活動を行った。

具体的活動はICTカンファレンスを週1回開催し、感染症診療時の抗菌薬や検出微生物に関する情報を提供する。また、ICTラウンドを開催し（1回/週）、標準予防策や感染発生時の感染経路別予防策の実施状況の確認を行った。また、感染対策加算Ⅰ認定施設として他病院と連携し情報交換や感染発生時に相互に協力しあい、感染対策加算Ⅱ認定施設とも同様に支援を行っている。

2. 活動体制

感染対策室には専従者が在籍するため、常時感染症診療や感染防止に関する相談を受け、医師、薬剤師、細菌検査技師、事務職員などから構成するICTメンバーに連携し速やかに支援できる体制をとっている。また、看護部が組織する感染リンクナースは患者の最も近くで感染のリスクを評価し、異常時は感染対策室へ報告し速やかに支援が開始できる体制をとっている。

ICTや感染リンクナースでは対応が困難と判断した場合は、院内感染対策委員会の臨時開催や、特定の部門に限定した問題であれば当該部門を含めた拡大院内感染対策委員会を開催するなど組織として早急に対応できるような体制をとっている。

3. 活動実績

平成28年度感染対策室への相談件数169件であった（表1）。

表1 各職種別相談件数（年間）（感染症診療支援除く）

職種	医師 (研修医)	看護師	その他 専門職	事務	他院・ その他
件数	68	56	5	22	18

【感染症診療の支援】

ICTの介入件数は288件（平均24件/月）であり、前年度と比較し月平均5～6件の増加となった。介入内容は届け出抗菌薬の長期使用、治療における抗菌薬の選択と効果判定、感染対策に関すること等であった。

【感染予防と発生時の対応】

平成28年度は季節性インフルエンザが地域で流行し、当院でも一時感染者が増え院内感染と思われるアウトブレイクが発生したが、拡大することなく最小限にとどめることができた。

【標準予防策徹底への取り組み】

手指衛生徹底への取り組みとして、感染リンクナースと協同し各部署へ手指衛生材料の使用実績を情報提供した（図1）。

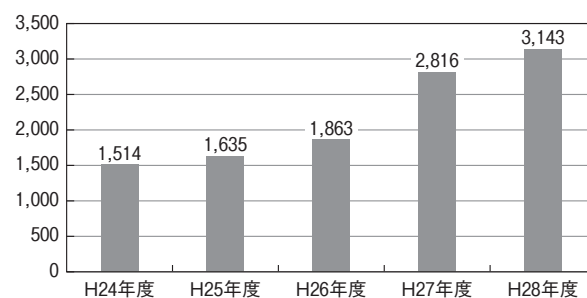


図1 擦式手指消毒剤年間購入量

【地域連携施設における取り組み】

地域連携カンファレンスの開催（4回/年）相互ラウンド1回/年を実施し、今年度より連携Ⅱの施設へのラウンドを開始した。連携施設からは院内の見直しの良い機会になると評価を受けている。

【耐性菌検出抑制に対する取り組み】

AMRに関するグローバルアクションプランへの取り組み

を強化することを目的に昨年度から作成したアンチバイオグラムをもとに感染症診療院内ガイドラインを作成した。

カルバペネム系抗菌薬100床／1日当たりの使用量は2015年度1.18gから1.63gに増加したが、第三世代セフェム系抗菌薬の使用量は3.48gから2.93gへと減少、フルオロキノロン系抗菌薬は0.44gから0.42gと微減した（図2）。

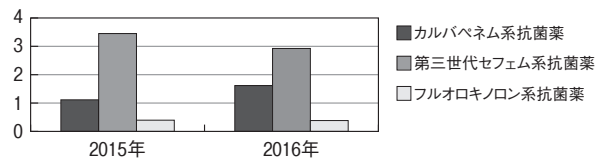


図2 100床/日あたり抗菌薬使用量

【職員教育】

第31回院内感染対策教育講演

「医療従事者が必要な感染対策」参加率90.2%

第32回院内感染対策教育講演

「感染経路を理解する」参加率89.0%

第33回院内感染対策教育講演

「プライマリ・ケアの現場での抗菌薬適正使用」参加者76名

4. 業績

論文・著書

- 古結敦士, 小林美香, 角田道久, 藤田育子, 大野典子, 佐藤智彦, 赤木幹弘, 浅野彰彦, 平田貴弘, 池田久雄, 小瀬戸昌博：当院におけるアンチバイオグラム（2015年10月～2016年3月）, 日生病院医学雑誌, 44：47-56, 2016.

学会発表

- 大野典子：血液培養検査結果から評価した点滴刺入部観察記録の効果. 第32回日本環境感染学会総会・学術集会, 2月, 2017, 神戸.

あったかサポートセンター

スタッフ センター長：船渡孝郎

部長：近石克也、谷口史朗 担当部長：澤田康夫

(1) 地域医療サービスグループ

看護師：瓜本恵美子

事務員：西岡千幸、岡部由利、谷田和美、森本洋子、高名礼子、渡辺喜代美、岩切綾子

(2) 入退院支援センター（7月～）

センター長：高鳥郁子 看護師：川瀬俊子、小溝翔子 事務員：小谷五月、上村亜友子

(3) 医療福祉相談グループ（入退院支援センター兼務）

医療ソーシャルワーカー：本家裕子（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）、

（Medical Social Worker: MSW）松榮優子（社会福祉士、介護支援専門員）、

福庭加奈（社会福祉士、精神保健福祉士）、

清水美紗（社会福祉士、介護支援専門員）

※患者様サポートスタッフ：松本満康、圓田久美子

1. 地域医療サービスグループの活動内容

1) 医療連携

- 地域の医療機関からの診療・検査予約
- あったかサポートセンター経由の紹介患者受付
- 紹介患者の受診結果報告
- 病診連携フォーラム・懇話会等の開催、開催協力
- 登録医、緊急時入院受入医療機関、在宅患者緊急時入院希望の登録・契約手続き
- 開放型病院登録医の共同診療時の対応
- 人間ドック、健診後受診患者および企業健診後受診患者の診療・検査予約、受付

2) サービス広報

- 医療機関向け診療案内の発行
- 登録医への診療日程案内・情報提供
- 患者向け広報誌「あったかサポートセンター通信 Saisei Rimin」の発行
- 市民健康セミナー等の開催、開催協力
- 地域医療機関等の情報収集・調査
- 院内イベント企画・開催、開催協力
- 図書・情報コーナーの管理
- ボランティアの受付・調整

■ H28.4～H29.3

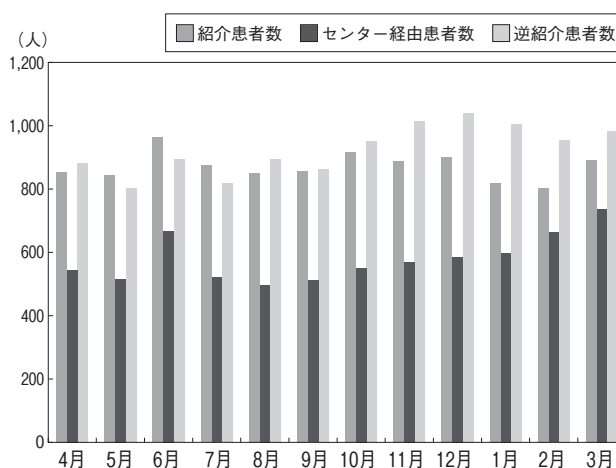
診療科別紹介数、あったかサポートセンター経由患者数

〈年間〉

科 別	紹介患者数* (救急車搬入患者含む)	センター 経由患者数	逆紹介 患者数
循環器内科	551	372	972
消化器内科	764	604	709
総合内科	1,152	1,237	1,176
血液・化学療法内科	221	148	286
神経内科	212	152	242
腎臓内科	48	43	103
神経科・精神科	158	160	345
小児科	293	165	296
消化器・一般外科	154	99	226
呼吸器外科	18	15	41
乳腺外科	174	109	230
整形外科	580	312	551
皮膚科	631	471	709
泌尿器科	257	156	303
産婦人科	1,778	1,163	2,329
眼科	12	17	327
耳鼻咽喉・頭頸部外科	788	393	680
救急診療センター	1,646	141	431
放射線科	1,009	1,187	1,132
麻酔・緩和医療科	17	18	20
合計	10,463	6,962	11,108

※紹介患者数は初診算定数。

〈月別〉



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数	853	844	963	874	851	856	918	889	901	819	804	891
センター経由患者数	545	515	668	521	497	511	550	569	586	599	663	738
逆紹介患者数	883	802	893	818	896	864	950	1,016	1,041	1,006	956	983

2. 入退院支援センターの活動内容

平成28年7月14日より入退院支援センターを開設した。入退院支援センターは、入院決定時から各職種が連携して安心して入院生活が送れるよう支援すること、入院時から退院後の生活をふまえた退院支援を早期から実践し、より質の高い医療サービスを提供することを目的とする。

1) 業務内容

a. 医事部門・入院受付

- ①入院申し込み・入院当日の入院手続き
- ②無料低額診療事業等の紹介

b. 看護師

- ①病棟病長：入院時間調整
- ②病棟看護師：入院時基礎情報収集・SGAシート・退院支援スクリーニング
- ③外来看護師：術前オリエンテーション・クリニカルパスの説明
- ④退院支援専従看護師：退院調整

c. 薬剤師

- ①術前内服確認、医師指示による休薬指導

d. MSW

①退院調整

②ソーシャルワーク業務

2) 活動実績

7月14日から稼働したセンターでは、センター看護師が入院された患者の問診や入院による不安等を聴取し、病棟看護師に連携した。7月から3月までのセンター看護師による月平均介入数は322.8人であり、時間内入院実数の70.9%を占めている。また、薬剤師による術前服薬確認数は月平均65.6人であり、外来看護師によるオリエンテーションの月平均数は109.3人であった。

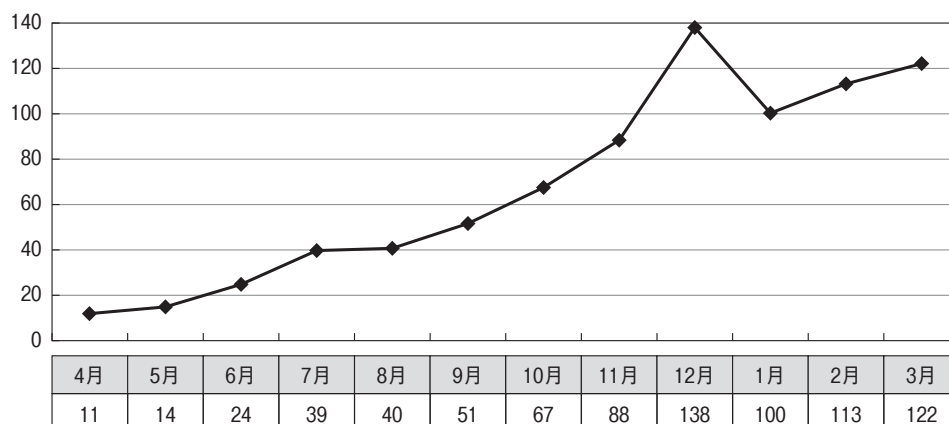
センター稼働後の退院時アンケートでは、「入院前の説明で希望を聞いてもらえるのはありがたい」、「病室に入る前に連絡されていてスムーズに事が運びプライバシーも守られて良かった」等のご意見があった。

退院支援加算算定件数は、センターでの看護師の聞き取りや病棟・退院支援専従看護師との連携で着実に増加し、12月には138件と最高値を示し、以後も100件を超える結果となっている。

■入退院支援センターの活動実績

月	時間内 入院実数 (8:30~17:00)	センター看護師					薬剤師 術前服薬確認	外来看護師 オリエンテーション	退院支援加算 算定数
		介入総数	介入割合 (%)	予定分 (再掲)	緊急 (再掲)	要退院支援 抽出数			
4月									11
5月									14
6月									24
7月 (7/14~)	230	139	60.4	126	13	9	28		39
8月	528	371	70.3	306	65	40	68		40
9月	459	354	77.1	281	73	29	79	144	51
10月	507	365	72.0	288	77	32	77	107	67
11月	443	341	77.0	261	80	28	77	85	88
12月	448	311	69.4	254	57	23	64	106	138
1月	509	351	70.0	303	68	19	68	107	100
2月	455	332	73.0	267	65	22	66	107	113
3月	494	341	69.0	264	77	17	63	109	122
平均	452.6	322.8	70.9	261.1	63.9	24.3	65.6	109.3	67.3

平成28年度 退院支援加算算定数



3. 医療福祉相談グループの活動内容

1) 相談援助

a. 相談援助総件数

平成28年度は、総数10,816件（1日平均44.3件、月平均901.3件）の相談を受けた。

b. 新規相談

平成28年度の新規相談は3,086件（昨年は2,694件）であった。紹介経路別にみると、看護師（817件）、医師（324件）およびその他の職員を含め、院内スタッフからの支援依頼が39.6%（昨年は41.0%）を占め、本人（726件）と家族（666件）からの相談が45.1%（昨年は41.7%）であった。

c. 相談援助内容

相談内容は、退院への援助（在宅へ向けての療養環境整備の援助および転院・施設入所先の選

定援助）が38.5%と最も多く、次いで無料・低額診療に関する相談援助（25.7%）、介護保険、身体障害者手帳、特定疾患、精神保健等の諸制度に関する説明や申請援助（16.2%）、受診・受療に関する問題調整（8.1%）となった。

2) 地域活動

- 近隣施設（医療機関、介護老人保健施設等）への訪問等による連携の促進
- 西区地域支援調整チーム高齢者支援専門部会および西区障がい者・高齢者虐待防止専門部会へ参画による地域の高齢者施策等への貢献
- 西区在宅医療・介護連携推進会議等に参加し、地域の在宅医療の普及を推進
- 日生ケアプランセンターにて介護支援専門員（ケアマネジャー）を兼務し、在宅生活を支援

■医療福祉相談グループ

〈相談取り扱い件数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
循環器内科	119	103	113	100	122	88	61	113	137	46	103	101	1,206	1,072
神経内科	49	107	121	74	100	90	85	44	99	77	61	89	996	881
消化器内科	52	46	61	60	68	54	50	76	74	54	65	88	748	739
総合内科	158	148	232	194	197	161	165	190	176	206	206	188	2,221	1,926
腎臓内科				3	3	3	9	26	12	16	36	37	145	
血液・化学療法内科	85	68	66	84	94	69	51	64	41	49	32	57	760	656
神経科・精神科	45	36	28	28	35	36	33	49	17	26	17	28	378	435
小児科	18	20	3	13	38	59	43	54	28	36	26	31	369	399
消化器・一般外科	30	36	66	29	38	25	30	7	33	27	40	38	399	262
呼吸器外科	1	2	0	0	1	1	2	0	1	1	4	1	14	1
乳腺外科	12	10	12	4	11	13	23	16	9	22	15	27	174	118
整形外科	71	60	90	57	84	63	72	88	100	98	117	89	989	1,036
皮膚科	18	28	16	24	31	17	16	20	24	16	31	42	283	215
泌尿器科	20	7	34	33	45	20	15	20	8	18	44	41	305	275
産婦人科	26	10	11	13	21	37	39	33	34	34	46	62	366	264
眼科	1	3	4	4	2	4	4	4	4	3	5	5	43	89
耳鼻咽喉・頭頸部外科	16	21	30	15	15	39	18	17	31	25	12	11	250	239
放射線科	2	4	0	0	4	0	4	6	0	1	0	0	21	10
麻酔・緩和医療科	0	0	1	2	6	2	0	4	1	1	2	1	20	1
救急診療センター	53	58	31	36	64	32	65	51	26	24	33	28	501	649
その他	39	37	19	52	66	51	63	60	53	68	59	61	628	605
合計	815	804	938	825	1,045	864	848	942	908	848	954	1,025	10,816	9,872

〈新規ケース紹介経路〉

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	32	11	0	29	20	0	31	17	0	58	23	0	71	15	2	43	17	2	40	16	1	54	15	1
家族	31	21	1	21	13	1	11	27	1	43	16	0	54	23	1	38	20	1	36	14	1	51	23	1
医師	8	14	0	9	11	0	15	16	0	6	14	0	23	11	0	10	15	0	13	12	0	14	14	0
看護師	14	58	1	14	48	0	13	79	1	13	33	0	12	60	0	8	50	0	15	61	0	15	72	0
その他院内職員	3	7	0	4	2	0	3	1	1	2	6	0	3	5	0	6	6	0	3	3	0	2	1	0
保健福祉関係機関	6	5	1	4	6	2	2	9	0	3	9	0	3	8	2	2	8	0	4	14	0	6	8	1
医療機関	3	2	1	3	2	0	5	1	0	4	0	1	6	0	0	3	1	1	2	5	1	2	3	0
福祉施設	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護保険施設・事業所	4	2	0	12	10	1	12	6	0	11	9	0	6	7	0	9	8	0	8	4	0	16	7	0
その他	0	0	0	3	1	0	1	1	1	2	0	1	1	2	2	0	1	0	3	1	0	0	1	1
小計	101	120	4	99	113	4	94	157	4	142	110	2	180	131	7	119	126	4	124	130	3	160	144	4
総合計	225			216			255			254			318			249			257			308		

	12月			1月			2月			3月			累計			前年度累計		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	47	15	0	32	15	0	43	16	1	39	17	3	519	197	10	428	131	14
家族	40	17	0	19	23	0	26	24	1	35	30	2	405	251	10	373	170	8
医師	10	8	0	11	17	0	17	21	0	21	14	0	157	167	0	109	166	1
看護師	13	69	0	14	58	0	6	37	0	11	41	1	148	666	3	159	604	0
その他院内職員	2	3	1	4	1	0	3	4	0	6	1	0	41	40	2	32	31	2
保健福祉関係機関	1	10	0	3	7	1	3	9	0	4	10	2	41	103	9	46	84	10
医療機関	2	1	0	6	4	1	9	2	0	6	7	0	51	28	5	58	15	9
福祉施設	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
介護保険施設・事業所	9	6	0	7	10	0	7	7	0	9	6	0	110	82	1	107	109	5
その他	3	0	0	0	2	1	0	1	1	4	2	0	17	12	7	11	8	4
小計	127	129	1	97	137	3	115	121	3	135	128	8	1,493	1,546	47	1,323	1,318	53
総合計	257			237			239			271			3,086			2,694		

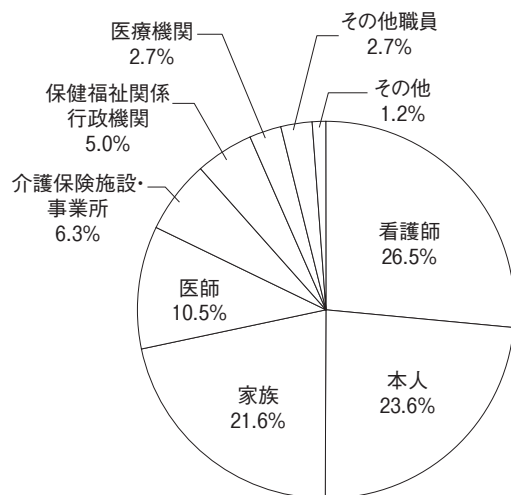
〈相談援助総件数（延べ数）〉

	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度
循環器内科	1,206	1,072	740	917	1,526	1,545
神経内科	996	881	1,039	665	※1	※1
消化器内科	748	739	924	715	397	262
総合内科	2,221	1,926	1,741	1,951	1,303	1,107
腎臓内科 ※3	145					
血液・化学療法内科	760	656	663	606	493	369
神経科・精神科	378	435	683	666	540	409
小児科	369	399	318	553	221	28
消化器・一般外科	399	262	364	286	573	287
呼吸器外科 ※2	14	1				
乳腺外科	174	118	41	118	50	30
整形外科	989	1,036	978	934	1,078	993
皮膚科	283	215	182	229	184	134
泌尿器科	305	275	296	515	279	278
産婦人科	366	264	213	260	370	49
眼科	43	89	58	40	38	41
耳鼻咽喉・頭頸部外科	250	239	355	299	174	239
放射線科	21	10	10	12	4	0
麻酔・緩和医療科	20	1	3	8	26	2
救急診療センター	501	649	277	134		
不明・その他	628	605	557	453	225	69
合計	10,816	9,872	9,442	9,361	7,481	5,842

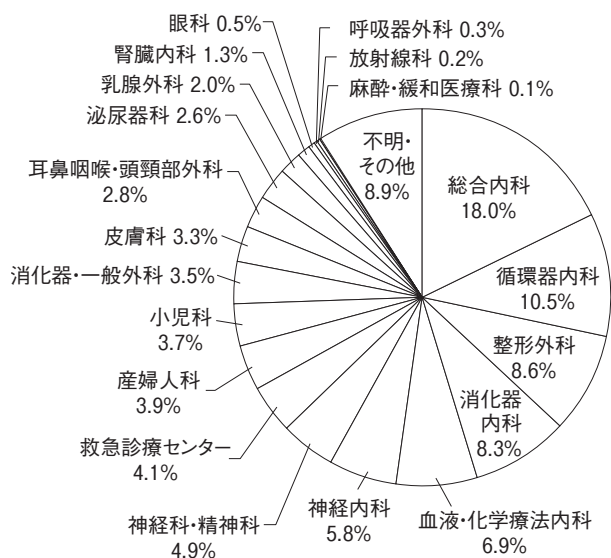
※1. 平成22年度～24年度の神経内科は循環器内科に含む

※2. 平成27年1月～ ※3. 平成28年7月～

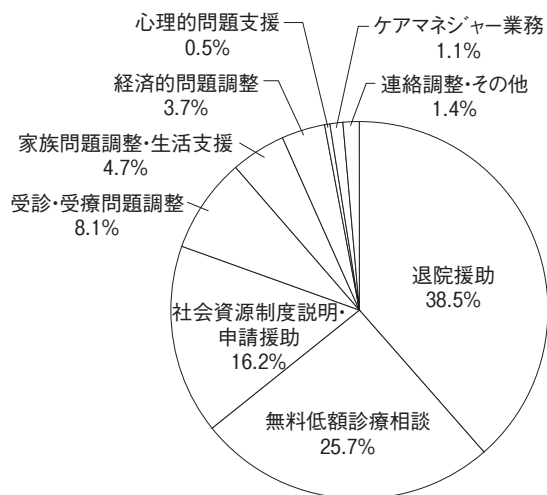
〈新規相談（紹介経路別）〉



〈新規相談（診療科別）〉



〈相談援助内容〉



登録医一覧(422名)

[敬称略] (H29.3.31現在)

西 区	(医)天野医院	天野 良男
	(医)治生会 石村クリニック	石村 順治
	いとう消化器クリニック	伊藤 裕之
	いぬい小児科	乾 一郎
	井上外科	井上 俊明
	近江眼科クリニック	近江 源次郎
	大谷クリニック	大谷 遷
	勝瀬クリニック	勝瀬 健
	耳鼻咽喉科 岸本医院	岸本 勝
	北川医院	北川 久能
	くとか内科	久徳 均
	九間クリニック	九間 祥一
	河野外科	河野 実
	(医)佐々医院	佐々 成紀
	佐々木内科クリニック	佐々木 敏作
	下條内科クリニック	下條 信雄
	杉本眼科	杉本 英之
	坪井眼科	坪井 俊児
	ながお医院	永尾 尚子
	(医)敬詢会 永田医院	永田 昌敬
	(医)丹生医院	丹生 純一
	(医)長谷川耳鼻咽喉科	長谷川 進
	新町クリニック	濱田 和哉
	平山眼科クリニック	平山 優子
	(医)フジイ内科クリニック	藤井 繁樹
	阿波座診療所	藤井 省治
	藤田外科・胃腸科	藤田 宗行
	(医)弘清会 四ツ橋診療所	安井 潔
	(医)弘清会 四ツ橋診療所	安井 浩一
	やまもとクリニック	山本 忍
	うつば診療所	横松 泰夫
	京町堀整形外科	牧野 正
	さかざきこどもクリニック	坂崎 弘美
	健クリニック	三木 基子
	木下皮フ科クリニック	木下 香里
	(医)ほのぼの会さかいクリニック	坂井 貴子
	なかむら皮フ科	中村 敏明
	藤野歯科医院	藤野 明
	ほりかわ泌尿器科	堀川 直樹
	(医)三慧会 IVFなんばクリニック	森本 義晴
	奥町内科	奥町 富久丸
	かおるレディースクリニック	岡本 薫
	島野医院	島野 直人
	松浦内科クリニック	松浦 良和
	はらだこどもクリニック	原田 由利香
	渋谷内科クリニック	渋谷 孝裕
	藤本クリニック	藤本 聡
	くらち皮フ科クリニック	倉知 貴志郎
	医療法人天方会 AMA Clinic	天方 義人
	西長堀医院	則武 正三
	王内科胃腸科クリニック	王 康義
	(医)天野医院	天野 祥子
	(医)名山会 上杉医院	上杉 雄二
	(医)優昌会 本城整形外科	本城 昌
	ISクリニック	糸原 房宣

西 区	みやざきクリニック	宮崎 裕子
	慶生会クリニック大阪	栗田 隆
	(医)佐々医院	佐々 成太郎
	(医)佐々医院	佐々 仁美
	大阪さつがわ医療福祉生活協同組合医療生協ながほり通り診療所	蒲生 健
	耳鼻咽喉科 さとうクリニック	佐藤 一雄
	整形外科 おうクリニック	王 正道
	福中クリニック	福中 道男
	上嶋内科消化器科クリニック	上嶋 弾
	えのもとクリニック	榎本 準
	すぎた内科クリニック	杉田 潔
	(医)丹生医院	丹生 真理子
港 区	四ツ橋 腎泌尿器科 こじまクリニック	児島 康行
	生野内科クリニック	生野 善康
	大沢診療所	大澤 理
	大塚医院	大塚 頴宏
	香山医院	香山 仁志
	(医)誠昌会整形外科くにしげクリニック	國重 昌彦
	塩見医院	塩見 啓二
	(医)鈴木医院	鈴木 稔也
	(医)龍神堂会 龍神堂医院	谷内 幹弘
	土田クリニック	土田 茂
	(医)三愛会 中山整形外科	中山 明
	(医)天斗会 中山医院	中山 富雄
	(医)前田診療所	前田 勉
	やながクリニック	彌永 邦彦
	(医)大和医院	大和 直久
	(医)聖愛会山村耳鼻咽喉科	山村 聖眞
	古林内科	古林 芳範
	宮岡クリニック	宮岡 哲郎
	(医)西診療所	西 紀
	いはら内科	井原 義二
	笹尾医院	出雲谷 剛
	金谷内科医院	金谷 英夫
	北代診療所	北代 勇夫
	北代診療所	北代 修司
	松浦診療所	新井 孝和
	(医)緑龍会 内藤医院	内藤 龍彦
	北村医院	北村 雅哉
	坂元内科クリニック	坂元 一夫
	(医)ほのぼの会にいつクリニック	新津 建樹
	(医)頼医院	頼 明信
	義元診療所	義元 徳祥
	(医)喜馬外科	喜馬 秀樹
	野洲クリニック	野洲 武司
	(医)小嶋整形外科	小嶋 博司
	島崎診療所	島崎 久美子
	(医)大奈会 やすだ耳鼻咽喉科	安田 大作
	(医)堀井耳鼻咽喉科	堀井 睦
	谷内医院	石井 登志枝
	(医)信愛会大和診療所	大和 宗久
	西山眼科	西山 和夫
	みなと生協診療所	倉澤 高志
	金田クリニック	金田 眞一
	太田整形外科クリニック	太田 信彦
	大阪医院	大阪 正視
	やぎクリニック	八木 隆

港 区	賀来医院	賀来 清高
	喜多クリニック 弁天町クリニック	喜多 紀人
	しらはま内科クリニック	白浜 健太郎
	岸医院	岸 良治
	溝口内科	溝口 理映子
	山田医院	山田 卓
	徳寿会 金山記念クリニック	津久井 優
	しん眼科クリニック	秦 尚修
	社会福祉法人秀生会ザイオン診療所	中山 洋子
	(医)尚信会 整形外科 河村医院	河村 禎人
	医療法人社団悠久会 辻クリニック朝潮橋分院	辻 孝教
	(医)銀杏会 常松診療所	常松 静也
	(医)隆明会 やぎ眼科クリニック	八木 明恵
	大塚医院	大塚 欣敏
	澤田内科クリニック	澤田 光孝
	かもめクリニック	木下 啓太
	かもめクリニック	石本 英之
	かもめクリニック	中濱 瑛太郎
	歆義堂 小林医院	小林 紀男
	(医)光風会 江口医院	江口 隆
	石村整形外科	石村 俊信
	柿原医院	柿原 幸司
	(医)邦明会 榎原クリニック	榎原 秀一
	小正医院	小正 尚裕
	寒川医院	寒川 通洋
	(医)健人会 弘田医院	弘田 俊行
	藤吉医院	藤吉 庸雅
	(医)松原皮膚科医院	松原 爲明
	荘田診療所	荘田 静
	荘田診療所	荘田 容志
	(医)得伊会中山診療所	中山 秀雄
	横山医院	横山 正博
	にしもと耳鼻咽喉科	西幹 二郎
	西平診療所	西平 守也
	西平診療所	西平 香代
	北新会 藤原耳鼻咽喉科医院	藤原 隆行
大 正 区	(医)良仁会 西村外科	西村 良彦
	船井医院	船井 俊彦
	加納レディースクリニック	加納 英男
	金城外科脳神経外科	金城 康夫
	五味クリニック	五味 正裕
	(医)明友会 安井整形外科クリニック	安井 明
	本山耳鼻咽喉科	本山 壮一
	(医)田辺耳鼻咽喉科医院	田邊 修一
	佐々木耳鼻咽喉科(休診)	佐々木 隆晴
	一ノ名医院	一ノ名 正
	(医)久志会 黒川眼科	志水 一夫
	ひらいけ内科	平池 豊
	足立医院	足立 俊之
	本山診療所	本山 忠
	(医)秀盛会 さくらクリニック	小松 重幸
	中川耳鼻咽喉科クリニック	中川 浩伸
	山北内科クリニック	山北 哲也
	山北内科クリニック	山北 直子
	中村医院	中村 義弥
	しまもとクリニック	島本 敬三
	しまもとクリニック	島本 里絵

大 正 区	(医)北村診療所	北村 彰英
	ほんしょう内科クリニック	本庄 尚謙
	アダチ眼科医院	郡 千栄
	大正ファミリークリニック	瓦林 佳子
	マツオ整形外科	松尾 澄治
	大阪きづわ医療福祉生活協同組合 たいしょう生協診療所	鈴木 昇平
	よしむら整形外科	吉村 弘治
	山北整形外科	山北 真也
	竹中医院	竹中 秀裕
	(医)徳田クリニック	徳田 修
浪 速 区	(医)徳田クリニック	徳田 好勇
	橋村医院	橋村 直隆
	(医)檜山診療所	桧山 寛市
	本田クリニック	本田 秀明
	(医)薫鳳会 落合耳鼻咽喉科	落合 薫
	(医)菱川クリニック	菱川 秀夫
	(医)佐藤会 佐藤医院	工藤 俊次郎
	沢井眼科	澤井 貞子
	佐久間医院	佐久間 靖博
	かねだクリニック	金田 高次
	小池クリニック	小池 洋志
	有田医院	有田 繁広
	木田内科消化器科クリニック	木田 徹
	えびす診療所	久保田 泰弘
	耳鼻咽喉科中村クリニック	中村 泰久
	桜川よしえクリニック	金子 良恵
	(医)泰仁会 森川クリニック	山口 貴也
	おおの耳鼻咽喉科	大野 聡史
	(医)入野医院	入野 宏昭
	笹岡医院	笹岡 英明
	(医)理秀会 なんば南藤吉医院	藤吉 理夫
	川田医院	川田 信哉
	なんば山田クリニック	山田 郁子
	(医)岡藤会 岡藤クリニック	岡藤 龍正
	(医)瑠香会 あーべいんクリニック	池田 秀博
	中村クリニック	山本 昌弘
福 島 区	江頭医院	江頭 明盛
	クダラ医院	百済 尊彦
	猿渡レディスクリニック	猿渡 善治
	田仲循環器科・内科医院	田仲 輝光
	林クリニック	林 為仁
	松下医院	松下 正幸
	森山眼科	森山 穂積
	ちもりメディカルクリニック	千森 弘子
	よこいクリニック	横井 秀保
	あおやま医院	青山 晃子
	福島アイクリニック	桑山 泰明
	泌尿器科 やまなかクリニック	山中 幹基
	愛クリニック	上地 正雄
	(医)桜峰会本場診療所	八尾 宜明
	野田診療所	小濱 譲次
	(医)成基会 相坂クリニック	相坂 章爾
	中村クリニック	中村 幸生
	まさこレディースクリニック	霞 雅子
	くまだ内科・小児科クリニック	木野戸 えみ
	東口クリニック	東口 等
住 之 江 区	岡村クリニック	岡村 弘光

住之江区	中島クリニック	中島 静一
	長谷川内科	長谷川 精一
中央区(東)	長谷川内科	長谷川 浩司
	はなのまちファミリークリニック	杉本 匡弘
中央区(東)	(財)洪庵記念会産婦人科クリニックにおがた	緒方 高志
	かただクリニック	堅田 明浩
中央区(東)	ながわ 中之島クリニック	中川 晶
	(医)西川婦人科内科クリニック	西川 吉伸
中央区(東)	岩間クリニック	岩間 令道
	大阪婦人子供既製服健保組合 健康管理室	間島 行春
中央区(東)	船場森野クリニック	森野 高晴
	うづら医院	卯津羅 祥子
中央区(東)	(財)大阪府結核予防会 相談診療所	増田 國次
	大林組大阪診療所	森島 豊彦
中央区(東)	日本生命健康管理所	石神 真人
	(医)政明会 春次医院	春次 智三郎
中央区(東)	塩野義製薬本社診療所	秋岡 壽
	大阪ニッソ健康保険組合保健医療センター	藤井 宏
中央区(東)	柴田耳鼻咽喉科	柴田 重太郎
	医療法人 清樹会 清樹会クリニック	柏木 宗憲
中央区(東)	トミタクリニック	富田 忠宏
	(医)ラ・クオール本町クリニック	瀧野 敏子
中央区(東)	(医)アクア アクアメディカルクリニック	石黒 伸
	しもむら本町レディースクリニック	下村 陽祐
中央区(東)	(医)紀映会 レディースクリニック北浜	奥 裕嗣
	(医)高折医院	高折 和男
中央区(東)	たがや内科	多賀谷 昌史
	藤井耳鼻咽喉科	藤井 春生
中央区(東)	本町 林クリニック	林 宏明
	こうむら女性クリニック	甲村 弘子
中央区(東)	山口あきこクリニック	山口 晶子
	大織診療所	藤原 大美
中央区(東)	前久保クリニック	前久保 邦昭
	森ノ宮胃腸内視鏡ふじたクリニック	藤田 実
中央区(東)	浅田診療所	浅田 洋造
	ウィメンズクリニック本町	藤野 祐司
中央区(南)	(医)今川医院	今川 得之亮
	岩佐クリニック	岩佐 厚
中央区(南)	イワサキ眼科医院	岩崎 直樹
	大島内科医院	大島 久明
中央区(南)	大須賀内科	大須賀 康文
	小島クリニック	小島 昭重
中央区(南)	川崎皮膚科医院	川崎 紀彦
	さとう皮フ科クリニック	佐藤 誠紀
中央区(南)	さとう皮フ科クリニック	瀧北 知子
	(医)田中小児科医院	田中 祥介
中央区(南)	寺内クリニック	寺内 陽
	廣田整形外科皮膚科内科クリニック	廣田 龍二
中央区(南)	益田クリニック	益田 元子
	(医)山田医院	山田 隆造
中央区(南)	(医)岩佐診療所	岩佐 真人
	(医)福丸耳鼻咽喉科	福丸 昌宏
中央区(南)	松澤呼吸器クリニック	松澤 邦明
	みつもとレディースクリニック	光本 隆吉
中央区(南)	ふじたクリニック	藤田 富雄
	(医)松本内科クリニック	松本 淳

中央区(南)	すとうレディースクリニック	周藤 雄二
	(医)聖和会 早川クリニック	早川 謙一
中央区(南)	(医)聖和会 早川クリニック	早川 潤
	(医)大生會 さくま診療所	佐久間 航
中央区(南)	(医)大生會 さくま診療所	佐久間 知子
	安田クリニック	安田 光隆
中央区(南)	春木レディースクリニック	春木 篤
	寺内クリニック	寺内 勇
中央区(南)	河合皮フ科医院	河合 公子
	(医)東迎会 東迎クリニック	東迎 高意
中央区(南)	谷口レディースクリニック	谷口 幸一
	きむ医療連携クリニック	金 永進
中央区(南)	心斎橋いぬい皮フ科	乾 重樹
	うつのみやクリニック	宇都宮 健弘
中央区(南)	梅寄クリニック	梅寄 圭吾
	医療法人清水会 森小路清水会クリニック	左古 昌蔵
中央区(南)	(医)湖崎会 湖崎眼科	湖崎 亮
	(医)柏蔭会 柏原医院	柏原 紀美
中央区(南)	レディースクリニックさわだ	澤田 益臣
	れいこ眼科クリニック	杉本 麗子
中央区(南)	岸田内科	岸田 泰弘
	(医)協同診療所	稲次 征人
中央区(南)	医療法人祐星会桃クリニック	森田 哲史
	医療法人祐星会桃クリニック	後藤 克子
中央区(南)	鈴木クリニック	鈴木 隆男
	(医)湖崎会 湖崎眼科アクティ大阪分院	湖崎 亮
中央区(南)	(医)ケイズ会 茶屋町レディースクリニック	出田 和久
	南森町レディースクリニック	平井 光三
中央区(南)	小西統合医療内科	小西 康弘
	北中レディースクリニック	北中 孝司
中央区(南)	(医)裕弘会 堂山レディースクリニック	本間 裕朗
	志村ウィメンズクリニック	志村 研太郎
中央区(南)	(医)三慧会 HORACグランフロント大阪クリニック	森本 義晴
	(医)聖授会フェスティバルタワークリニック	八木 美佐子
中央区(南)	天神橋ゆかこレディースクリニック	頼 裕佳子
	(医)豊仁会 荻野レディースクリニック	荻野 瑠美
中央区(南)	本出診療所	本出 肇
	田中内科	田中 裕也
中央区(南)	(有)阪神労働衛生コンサルタント 堂島サテライトオフィス	廣部 一彦
	(医)奥見診療所	奥見 敏彦
中央区(南)	栗栖医院	栗栖 孝臣
	(医)小山医院	小山 貴子
中央区(南)	(医)小山医院	小山 高澄
	(医)木本会 鈴木産婦人科	鈴木 勲
中央区(南)	(医)板東医院	板東 博志
	松井クリニック	松井 清明
中央区(南)	(医)徹生会 村上内科	村上 毅
	栗栖クリニック	栗栖 孝一
中央区(南)	谷本医院	谷本 尚穂
	はやしだ診療所	林田 嘉彦
中央区(南)	(医)森内科	森 滋喜
	大庭眼科医院	大庭 省三
中央区(南)	牧野レディースクリニック	牧野 滋
	柳本産婦人科医院	柳本 時廣
中央区(南)	(医)良純会朝日橋胃腸科内科小児科診療所	木下 隆弘
	こじまクリニック	小島 研太郎

城東区	(医)金井産婦人科	金井 万里子
	医療法人よつば会 クローバークリニック	荒木 良守
住吉区	桂診療所	桂 勇人
天王寺区	おおつかレディースクリニック	大塚 志郎
	夕陽丘 佐藤クリニック	佐藤 利彦
	ちかえレディースクリニック	田所 千加枝
	上本町ヒロミレディースクリニック	橋本 弘美
	おおさき内科クリニック	大崎 匡
	(医)池田クリニック	池田 光慶
	小出内科神経科	小出 泰道
	東産婦人科 眼科	東 芳賢
	宮原レディースクリニック	宮原 義良
	遠藤クリニック	遠藤 友一郎
西成区	(医)瑞穂会 ともの木クリニック	三浦 一浩
	腎・泌尿器科安本クリニック	安本 亮二
	(医)純和会 竹本診療所	八木 純
西淀川区	イワタ医院	岩田 以津子
	高岡診療所	高岡 均
	辻診療所	辻 勝弘
	北野クリニック	北野 英基
	大和田診療所	藤原 久義
	いせき整形外科	井石 聡
	(医)福田診療所	福田 弥一郎
東住吉区	山口クリニック	山口 時雄
	山田医院	山田 和彦
	にしかわクリニック	西河 潤
東成区	古武診療所	古武 敏彦
	大谷透内科	大谷 透
	切通眼科	切通 彰
	山崎診療所	連 美知子
	(医)いなぎレディースクリニック	稲垣 実
	中山医院	津久井 幾奴子
	中山医院	津久井 伸一
東淀川区	タツミ医院	巽 壽一
平野区	元林産婦人科内科	元林 和彦
	日野レディースクリニック	日野 晃治
都島区	祐クリニック	道清 勉
淀川区	(医)医誠会 新大阪医誠会クリニック	谷 幸治
	希咲クリニック	山分ネルソン祥興
	かわばたレディースクリニック	河端 良一
	なかにしキッズクリニック	中西 康詞

大阪府内

池田市	やまだクリニック	山田 祥晴
	松崎産婦人科クリニック	松崎 昇
茨木市	大河内医院	大河内 寿一
	秋岡・西代医院	秋岡 壽
	(医)中尾内科クリニック	中尾 誠
	マキレディースクリニック	田中 善章
柏原市	益弘産婦人科クリニック	益弘 和雄
吹田市	たてかわ内科クリニック	立川 豊吏
豊中市	(医)槇野クリニック	槇野 淑子
	(医)上宮医院	上宮 正直
	(医)直原ウィメンズクリニック	直原 廣明
	ふなこし呼吸器内科	船越 俊幹
東大阪市	(医)由仁会 岡本眼科	岡本 仁史
	(医)近藤医院	近藤 和秀
	永井医院	山崎 章子
	田路医院	田路 秀明
	西岡ファミリークリニック	西岡 宏彰
	医療法人三慧会 IVF大阪クリニック	福田 愛作
	西岡医院	西岡 良泰
	森産婦人科	森 政雄
藤井寺市	数尾診療所	数尾 展
	(医)平成会 平松産婦人科クリニック	平松 恵三
松原市	きただ女性クリニック	北田 衣代
	(医)光仁幸会 西本産婦人科	西本 関男
八尾市	きくちレディースクリニック	菊池 知之
	萩原クリニック	萩原 正久
	なかじまレディースクリニック	中嶋 康雄
	小野産婦人科	小野 晃範
堺市	典子エンジェルクリニック	船越 典子
	清水レディースクリニック	清水 千賀子
	(医)俊仁会 きららファミリークリニック	吉良 俊彦
寝屋川市	森田医院	森田 真也
大東市	松下診療所	松下 和広
大塚市	たかはしクリニック	高橋 徹
高槻市	なかにし産婦人科クリニック	中西 一吉

大阪府外

奈良県	(医)久産婦人科・内科	久 靖男
	宇山内科クリニック	宇山 宏和
	(医)久産婦人科・内科	久 裕
	(医)田中泌尿器科医院	田中 雅登
兵庫県	(医)社団 ふかみレディースクリニック	深見 和之
	黒田医院	黒田 昌男
	玉田クリニック	玉田 大介
	玉田クリニック	北村 哲宏

日生訪問看護ステーション

スタッフ 副看護部長：水上洋子（保健師、介護支援専門員）

常勤看護師：丸山洋子（介護支援専門員）、酒井希代子（リンパ浮腫療法士）、

吉井好夏、山内祐子、小森奈緒子、渡部美沙

非常勤看護師：永田悦子、笹内 舞、久間田久美、加世田香代子、

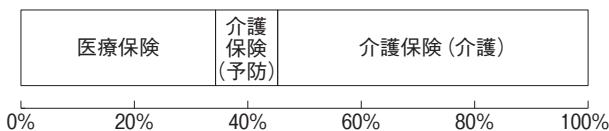
巽 陽子、青木絵里子

1. 活動内容

「地域に、予防・治療・在宅までの一貫した総合的な医療を提供する」公益財団法人立の訪問看護ステーションとして、効率的に医療と介護を繋ぐ質の高い訪問看護提供し、地域の人々の健康維持への貢献に努めた。

小児から高齢者まで、すべての年齢層を対象とし、医療依存度の高い利用者や、がん・非がんの終末期、精神疾患など重度化・多様化・複雑化するニーズに対応するために、訪問看護師と、訪問リハビリテーションが協働してケアの提供に努めた。月平均利用者数は137名、月平均訪問件数は、991件（リハビリテーション15件）であった。（図1）

図1 保険種別利用人数（n=137）



指示書を受けている医療機関は日生病院が月平均65名、他医療機関は73名であった。日生病院を主体としつつ、西区を中心とした「重点地域」において他の医療機関や居宅介護支援事業所と連携を取り、多職種と協働しながら医療・介護の拠点としての機能を発揮している。（図2,3,4）

入院前から退院後の在宅ケアまでの一連のプロセスが安心で安全な療養生活になるよう予防的ケアを含め、病院内看護師等と連携を取りながら、在宅療養場面をイメージできるよう助言するなど退院支援を行っている。また、在宅療養を継続する過程で利用者や家族が意思決定を迫られる場面や、指示の確認が必要な場合には必要時に受診同行を行うなどの援助により、住み慣れた地域で自分らしく生活ができるよう支援している。

安心して在宅療養が継続できるよう緊急時及び24時間対応体制の充実を図り、在宅療養支援診療所との連携、日生病院における後方支援病院の契約等により療養環境

を整備した。24時間対応は約45%の利用者（月平均62.8名）が契約をしており、日生病院との後方支援契約は6名／年であった。また、在宅での看取りは15名／年であった。

2. 訪問体制

1) 営業日及び営業時間

月曜日～金曜日：午前9時～午後4時（但し、国民の祝日、12月30日～1月4日までは除く）

また状況に応じて、主治医の指示に基づき、営業日・時間以外も対応している。電話等により24時間常時電話連絡が可能な体制を整備し、24時間対応体制または緊急時連絡体制の契約者には、事業所の携帯電話2台で対応している。

2) 通常の実施地域

大阪市西区、浪速区、港区、大正区、中央区、福島区、此花区

概ね事業所より、半径3km圏内

3. 訪問看護の普及及び教育機関としての活動

地域包括ケアシステムの構築に向け、教育機能・住民啓発・多職種連携機能に尽力した。

1) 教育機能

- ①看護学生の在宅看護実習受け入れ：森ノ宮医療大学、大阪保健福祉専門学校、大阪医専
- ②日生病院看護部退院支援研修：講義及び訪問看護実習
- ③大阪府訪問看護ステーション連絡会市西ブロック教育ステーションの実習協力

2) 住民啓発

- ①認知症高齢者等高齢者支援地域連携事業「認知症講演会」に参加

3) 多職種連携

- ①西区在宅医療連絡会、西区在宅医療介護多職種研修会、西区認知症等高齢者地域連携事業への参画による地域の高齢者施策への貢献

図2 住居地別割合

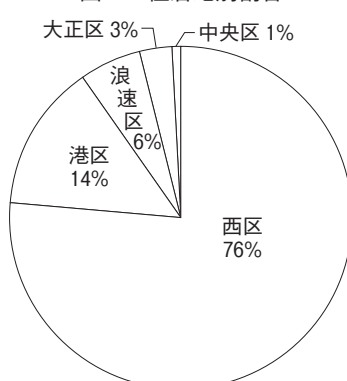


図3 新規依頼経路

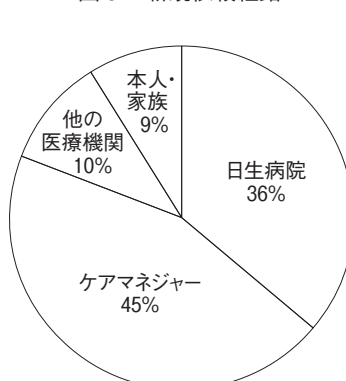
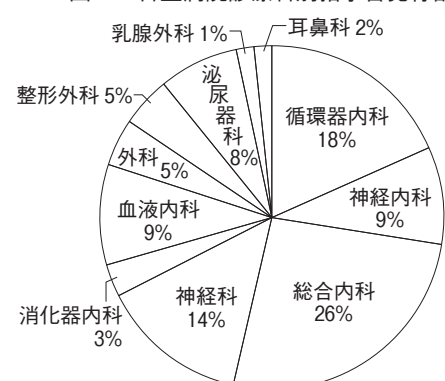


図4 日生病院診療科別指示書発行割合



日生ケアプランセンター

スタッフ 副看護部長：水上洋子（保健師、介護支援専門員）

常勤スタッフ：本家裕子（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）

松榮優子（社会福祉士、介護支援専門員）

急性期病院併設の施設として医療ニーズの高い利用者への医療と介護と福祉の連携強化ができるよう地域の居宅介護支援事業所との連携を図り、「自立支援」と「尊厳の保持」を尊重し、要介護状態の悪化の予防と維持改善を図るケアプランの立案を行っている。

1. 活動内容

①がん末期や長期入院患者の在宅復帰や医療依存度の高いケースを引き続き担当し、ケアプラン契約者は月平均2名、ケアプラン立案件数は月平均2件であった。

新規の相談に対し、対応困難な場合には、医療依存度及び在宅での生活状況に応じ、公平・中立性の高い適切な居宅介護支援事業所を選択し紹介した。

②入院から在宅療養へ円滑に移行できるよう、退院指導への関与や、「生活」を見据えた援助ができるよう病院看護師への退院支援の継続的な研修会を開催した。

③2ヶ月に1回の西区の居宅介護支援事業所連絡会への参加や、地域ケア会議、認知症高齢者の多職種連絡会への出席により、地域・施設内での情報の共有を図った。

看護部

スタッフ 看護部長：芦田亨子（副院長）	※ H29年4月～看護部顧問：芦田亨子
副看護部長：町田恵子、高鳥郁子	看護部長：高鳥郁子
統括看護師長：中西三季、前川明子	副看護部長：中西三季、前川明子
3階病棟看護師長：森 エミ	
4階西病棟看護師長：久留明子	4階東病棟看護師長：田畑文子
5階西病棟看護師長：鈴木八枝子	5階東病棟看護師長：酒井亜紀子
6階西病棟看護師長：岩本真澄	6階東病棟看護師長：阿部恭子
手術室看護師長：木下園子	外来看護師長：八尾みゆき

1. 看護部の理念

日本生命済生会の基本理念『済生利民』に従い、一人ひとりの状態と立場と気持ちに沿った看護を提供します。

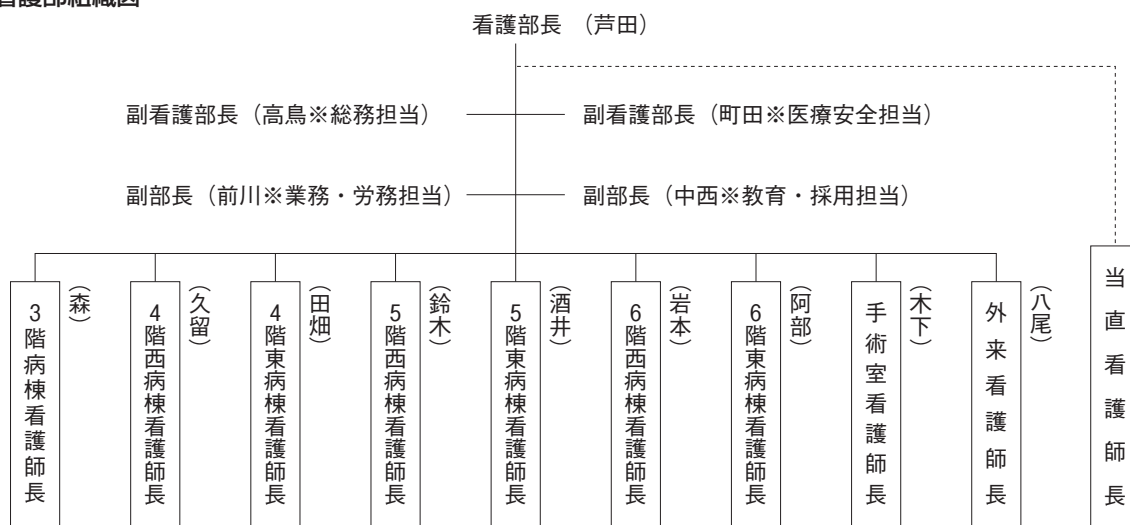
2. 看護部基本方針

- 1) 患者様の生命の尊厳と人権を尊重し、心のこもった看護を提供します。
- 2) 患者様の生活環境を整え、安全で確実な看護を提供します。

供します。

- 3) 患者様の視点に立って業務改善や効率化をはかり、個々の職務満足度を高めるよう努めます。
- 4) 専門職としての自己研さんに努め看護職の責務を果たします。
- 5) 地域医療に貢献する急性期病院としての役割を担い、地域住民から信頼される看護サービスの向上を目指します。

3. 看護部組織図



4. 平成28年度看護部目標

平成28年度は、4つの目標を掲げ、看護部委員会、看護師長会、次席師長会が中心となって活動した。目標及び計画立案にあたっては、前年度の活動の振り返り後、病院・看護部を取り巻く環境の変化等を考慮した。スタッフへの周知のために、SWOT分析を用いて整理した。また、個々の目標の達成基準、責任者（委員会）を明確にし、計画立案、中間報告、期末報告を通して達成状況を共有し、目標達成に向けて取り組んだ。

平成28年度看護部目標

1. 7：1算定要件を維持し、健全な病院運営に参画する
- 1) 重症度の高い患者受け入れを促進するための体制を整備する

- 2) あったかサポートセンターとの連携により、円滑な入退院支援を行う
2. 安全・安心、質の高い看護を提供し、患者と職員の満足度を高める
 - 1) 各種看護基準・手順類を見直し、定着を促進する
 - 2) 倫理事例・インシデント事例の分析・共有を促進し、クレームや3b以上のアクシデントを減らす
 - 3) 看護の質の客観的評価を進め、さらに改善する（Dinql 退院時アンケート）
 - 4) 相互ラウンドを定例化し、掲示物・環境整備・接遇の標準化を図る
3. 他職種との連携を促進し、働きやすい職場環境を作る
 - 1) 他職種との連携を強化し、お互いの専門性を尊重し、発揮する体制を作る

- 2) 固定チームナースング・ペア体制を定着させ、PNSマインドを醸成する
- 3) 目標管理、人事考課システム構築に参画し、適正な評価基準を作成する
- 4) 防災訓練を定例化し、マニュアルの定着を促進する
4. 診療機能拡大の方針に沿った人材の育成
- 1) e-ラーニングと参加型研修を推進し、看護実践力を高める
- 2) 院内認定制度を拡大し、看護実践能力のスキルアップをめざす(IV・心電図他)
- 3) 看護過程に沿った根拠ある看護実践と開示に耐える記録の適正化を進める
- 4) クリティカルシンキングを深め、専門領域の看護を活性化する

5. 看護部の概要

施設基準：入院基本料7：1

看護体制：二交代制（夜勤時間15時間）

看護方式：固定チームナースング

継続受け持ち制（ペアナース制）

6. 看護職員数（平成28年4月1日現在）

看護師：257名

助産師：25名

看護助手：21名

7. 研修参加状況

- 1) 院内研修（別表）
- 2) 院外研修（別表）
 - ・大阪府看護協会短期研修会 12名
 - ・大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会 2名

- 3) 学会発表 日本看護協会主催等 9名

8. 看護学生実習受け入れ

- ・大阪医専（4年課程）98名
5月～3月（基礎・成人・老年看護学・統合）
- ・大阪保健福祉専門学校（3年課程）20名
5月～9月（母性看護学）
- ・大阪府病院協会看護専門学校（3年課程）20名
5月～3月（母性・成人看護学）33名
- ・甲南女子大学（4年課程）90名
5月～1月（母性看護学・成人看護学・総合実習）
- ・梅花女子大学（4年課程）32名
8月～9月（基礎看護学）
- ・森之宮医療大学（4年課程）22名
4月～3月（母性看護学・主題実習）
- ・関西医療大学（4年課程）8名
11月（母性看護学）

9. 看護体験受入れ

- ・大阪府主催一日看護体験 高校生6名
- ・大阪府看護協会主催ふれあい看護体験 高校生2名

10. 看護フェア

5月12日 60名参加

- ・身体測定、看護相談、アロマ・マッサージ、専門・認定看護師活動状況のポスター提示

11. 日生看護研究会

- ・11月19日 50名参加（院外16名）

12. 病棟状況

	定床	平成28年度 患者数	病床利用率	平均在院日数	平成28年度 看護師配置数	勤務人員			平均夜勤回数
						深	日	準	
3階	60	44	74.0%	8.0	31	4	14	4	3.64
4西	60	47	79.1%	18.0	31	3	14	3	3.62
4東	51	41	81.3%	13.5	26	3	11	3	3.94
5西	44	38	86.6%	23.6	26	3	11	3	3.51
5東	49	44	84.4%	16.8	26	3	11	3	3.50
6西	42	37	80.8%	14.3	26	3	11	3	3.59
	小 10	7							
6東	27	24	82.4%	6.1	26	3	11	3	4.10
	小 7	4							
外来					39	バ	19		
手術					18				
管理					7				
計	350	281	80.4%	12.6	256				3.70

13. 専門・認定看護師活動報告

1. 感染症看護専門看護師 大野典子

今年度の目標は外来での手指消毒剤の使用量を増加させることとし、外来・検査部門でのラウンドを強化した。また、病棟中心となりがちだった手指衛生使用量のデータ報告は各科外来・検査部門に向けて報告することを意識した。その結果外来での手指消毒剤納入量は474本（平成27年度401本）となった。このことは手指消毒剤の使用量を増加させただけでなく、リンクナースの自主的な活動への契機につながったと思われる。

<院外活動>

- 1) 血液培養検査結果から評価した点滴刺入部観察記録の効果、第32回日本環境感染学会総会・学術集会, 2017, 東
- 2) 大阪教育センター附属高校 HIV/AIDS予防教育
- 3) 那智勝浦町立（和歌山県）太田小学校 感染症のお話（保健） 特別授業講師
- 4) 大阪府看護協会短期研修講師
- 5) 大学院CNSコース学生実習受け入れ（大阪府立大学大学院、山梨県立大学大学院）
- 6) 大学院修士課程講師 大阪府立大学大学院、大阪市立大学大学院

2. がん性疼痛看護認定看護師 小山佐知子

がんの告知の際に同席し支援する体制を構築し医師や外来看護師からの依頼増加、その結果がん患者指導管理料1・2算定は292件で昨年度より増加した。あったかサポートセンターにあるがん支援センターでは、がん看護相談（電話もしくは面談）を行っており、件数は44件であった。今後は診療科との連携、乳がん、緩和ケア、化学療法などなど曜日別に外来を確保するなど柔軟に対応できる仕組みづくりが必要である。

緩和ケアチーム介入件数は、139名で前年度より増加している。うちがん134名（96%）非がん5名（4%）であった。昨年度から緩和ケア介入事例（困難事例など）はキャンサーボードで共有をしていくようにした。また、主治医との連携、患者の希望を最優先にして早期に情報共有を行い、在宅、ホスピスなど望んだ場所で過ごせるよう調整を行った。

<院外活動>

- 1) 2016年9月 大阪府看護協会「がん症状緩和」講師
- 2) 学会一般参加 2016年6月 第21回日本緩和医療学会学術大会
- 3) 2017年2月 第19回日本がん看護学会学術大会

[院内活動]

1. 緩和ケアリンクナースの会
2. 院内研修 がん看護 アドバンスコース がん患者の症状緩和
院内研修 新人研修 がん看護

3. 乳がん看護認定看護師 水越 梓

病棟看護師として勤務し、その中で入院患者の必要としているケアを実践・スタッフへの指導を行っている。リンパ郭清を行った術後の患者に対して、病棟でリンパ浮腫予防指導を行った。病棟でのリンパ浮腫予防指導管理料の算定は10件であった。指導を行った患者が退院後に再度指導・支援を受けられるようにリンパ浮腫セラピストと連携を図った。

今年度は病棟・外来ともにがんの診断時の告知場面の同席し意思決定支援を行った。がん患者指導管理料1の算定は35件であった。

<院外活動>

- 2016年8月 HANSHIN健康メッセ がんセルフチェック指導コーナー指導看護師
学会参加（一般参加）
2016年6月 第24回日本乳癌学会学術集会
2017年2月 第31回日本がん看護学会学術集会

4. 手術看護認定看護師 二井千里

平成28年1月より術前看護外来を開設し、今年度は83件実施した。患者の意志決定支援や不安の軽減、術前指導を中心に活動を行った。入院支援センターでは外来看護師が術前情報収集や術前指導を実施できるよう、パンフレット等の準備や指導を行った。毎週月曜日に行っている麻酔科カンファレンスでは患者情報を共有し、周術期管理の充実に努めている。院外では手術室におけるポジショニングや災害時対応について、看護師を対象に指導を行った。

5. 皮膚・排泄ケア認定看護師 田中敬子

今年度の褥瘡推定発生率は0.9%と昨年度より0.31%上昇し、踵部の発生が増えたためポジショニング枕の補充とポジショニング指導を行った。また、NPPVマスクによる医療関連機器圧迫創傷の予防にも取り組んだ。その他、乳腺外科8件、婦人科2件、泌尿器科1件から術後離開創の相談を受け、陰圧閉鎖療法の導入、精神的支援を行い、9件創閉鎖した。ストーマケアにおいては、当院でのストーマ造設術は12件、ストーマサイトマーキングやセルフケア獲得に向けた指導を行い、今年度はストーマ・スキンケア外来を開設し、退院後も継続した社会復帰支援を66件行った。

<院外活動>

- 1) 第38回関西ストーマケア講習会（大阪、奈良、和歌山ブロック）のボランティア
- 2) (株) 大黒ヘルスケアサービス主催、(社) 日本オストミー協会共催「第3回ストーマケアセミナー」のインストラクター
- 3) 大阪市立介護老人保健施設おとしよりすこやかセンター南部花園館「ストーマケアの基礎」について講義

<学会発表>

2017年 2月 第34回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会
「PICO®創傷治療システムが創傷管理における自己効力感を高める一助となった症例」

6. がん化学療法看護認定看護師 大島千春

平成27年 6月にがん化学療法看護認定看護師の資格を取得した。資格取得後は、外来化学療法室で勤務し、がん化学療法を受ける患者の症状マネジメントやセルフケア支援などを実践している。また、抗がん剤の曝露対策に取り組み、勉強会を計7回実施し90%以上の理解を得た。その後、抗がん剤曝露予防のための閉鎖式輸液システムを導入した。IVナース認定制度の調整役として教育委員と共に活動した。経口抗癌薬については、薬剤師と協働し外来での薬剤指導を開始した。診断時の病名告知や治療方針変更の場面では告知に同席し、意思決定支援を行った。がん患者指導管理料の算定はⅠが32件、Ⅱが28件、Ⅲの抗がん剤補足説明が65件であった。

<院外活動>

学会参加（一般参加）

2016年 6月 第24回 日本乳癌学会学術集会
2016年10月 第54回 日本癌治療学会学術集会
2016年12月 第57回 日本肺癌学会学術集会
2017年 2月 第31回 日本がん看護学会学術集会

14. 看護部委員会活動

1. 記録委員会委員長 鈴木八枝子

<年度目標>

- 1) 看護基準計画の作成
- 2) 電子カルテシステムの効率的な運用
- 3) 看護記録の適正化と院内教育への参画

<活動内容>

- 1) 看護基準に則った疾患別看護基準計画の作成を行い、看護師長会の承認を経て、年度末で5事例のマスター登録を行った。次年度も各部署2事例の承認を目標として検討を重ねる。
- 2) 「救急外来用記録」および「入院時記録」をテンプレート化し、記録されるべき内容を標準化した。また、入院センターで記入する「入院時基礎情報」についての運用の主旨を、記録委員会を通して周知徹底した。
- 3) 記録委員により記録監査率を把握し、病棟平均48.8%の結果であった。今後は部署ごとの格差を是正し、50%の目標に向けて努力するよう監査方法の見直しを喚起した。院内研修では新人に対して、入職時に基礎的な看護記録の知識と当院の電子カルテの操作について、また、10月には「看護記録の正しい書き方」「看護過程」について実事例を用いて研修を行った。3年目研修では看護過程・看

護診断について事例を用いてグループワークを行い、現場では記録委員による個別な記録監査を通して記録の質向上に努めた。また、復職支援セミナーにおいては記録委員会メンバーが参画し、医療安全を踏まえた看護記録の書き方を研修生に講義した。

2. 看護部経営改善委員会 酒井亜紀子

<平成28年度目標>

- 1) 平成28年度以降の「重症度、医療・看護必要度」を正しく理解できるよう周知していく
- 2) 診療報酬点数表のうち、看護師の実践で算定できる項目の洗い出しと算定漏れをなくすための方策を実施する。

<活動内容>

- 1) 「重症度、医療・看護必要度」の周知について

(1) 病院職員、評価者への研修

- ① 5月13日16日20日にeラーニングにて「16' 重症度、医療・看護必要度」の研修を医師36名看護師55名コメディカル26名事務37名に実施。
- ② 6月6日13日16日にeラーニングにて「看護必要度評価と記録」研修を看護師113名に実施。

(2) 委員会メンバーの研修聴講及び伝達

- ① 7月24日「16' 重症度、医療・看護必要度評価者指導者研修」へ委員7名参加聴講。
- ② 7月26日、28日、29日、8月2日、8月4日「重症度、医療・看護必要度評価者研修」を病棟看護師191名、外来看護師13名、医師62名、コ・メディカル26名に研修実施、
- ③ 8月30日新人看護師21名に対して「看護必要度研修」を実施。

(3) 定期的監査の実施：平成28年度版8月以降

各病棟の監査888件中、適切な評価は535件（60.2%）不適切な評価は353件（39.7%）であった。

委員会の監査は40件中適切な評価は16件（40%）不適切な評価は24件（60%）であった。

平成28年度の重症者の占める割合は29～35%で推移した。

2) 診療報酬の理解の促進について

看護師の実践で算定できる項目について、委員を通じて示し、算定できた件数をフォローした。

3. 看護の質改善委員会 阿部恭子

<平成28年度目標>

- 1) 退院時アンケート、DiNQLへの参加を継続し、看護の質の可視化及び看護の質改善に生かす。
- 2) 看護業務量調査により、現状を把握し、改善する。

<活動内容>

1) 退院時アンケートについて

平成27年6月から退院時アンケートを開始し、2年目となった。

アンケート結果は毎月集計し、師長会及び委員会

にて共有した。回収率、感謝のお言葉とご意見の数、項目毎の得点の推移（全病棟・月別、病棟別）、感謝とご意見の内容（看護、環境・設備、清掃、食事、その他の項目に分類して集計）について集計した。

1か月の回収数は303件～400件、回収率は72.4%～83.4%で若干昨年度を上回った。感謝・おほめの言葉は93～140件（27.5%～35.5%）、ご意見は43～83件（12.6～21.2%）であった。点数の高かった項目は「身だしなみがよい」「交替時に挨拶する」「礼儀正しく親切」、低かった項目は、「看護師同士連絡できていた」「身体の状態を理解」「手続きがスムーズだった」であった。また、病棟間で点数に差が大きかった項目は「看護師同士連絡できていた」「手続きがスムーズだった」「知識・技術がある」「身体の状態を理解」であった。平成27年度と28年度の各項目の平均値を比較すると18項目の内15項目の平均値がわずかではあるが高くなった。看護に関するご意見については、各病棟でカンファレンスを開催し、看護の質の改善につなげるように働きかけた。環境・設備、清掃、食事、その他の項目については、病院管理診療会議のメンバー及び栄養課長へ報告し、連携している。毎月のアンケート結果を患者向けに各病棟及び各フロアの掲示板に掲示している。

2) 看護の質評価に関するデータの明確化

平成27年度から日本看護協会主催のDiNQLへ参加した。データ収集・入力十分には出来ておらず、可視化・共有・分析には至っていない。今後の課題とする。

3) 看護業務量についての調査

平成29年1月17日の日勤帯に全病棟で、看護師のスタッフステーションの滞在時間及び薬剤業務に関与した時間を測定した。
スタッフステーションの滞在時間は一人あたり平均149分、薬剤業務に関与した時間は一病棟あたり平均256分であった。

4. 看護業務基準・手順委員会 森 エミ

<平成28年度目標>

- 1) 看護業務基準・手順の修正、周知
- 2) 基準・手順の利用実態の調査と評価

<活動内容>

1) 基準・手順の修正・周知について

昨年に引き続き、看護基準・手順の全体を見直した。特に、内容の適切性、用語の統一、看護ケアが強化できるものになっているかという視点で見直した。7月からの入院センター稼動に伴い、「入院時の受け入れ手順」を修正し、各病棟の看護師がスムーズに入院センターの業務ができ、患者様に安心して入院して頂けることを目指した。また、新たに、「重曹療法」「腎生検」「介達牽引」等の看護

手順を作成し、治療処置に伴う看護の充実を目指した。

2) 利用実態の調査と評価

6月と1月の2回、看護基準・手順の利用実態についてアンケート調査をした。27年度より「疾患別看護基準」を利用している割合が8倍以上増加した。また「未経験の看護技術」「未経験の検査前」「侵襲度の高い処置前」には必ず看護手順を見るという看護師も85%～96%を占めるようになった。

5. 現任教育委員会 木下園子

<平成28年度目標>

- 1) 院内認定（IVナースレベル3、心電図等）の研修の計画と実施
- 2) クリニカルラダーレベルⅡの認定プロセスの完成と実施
- 3) 参加型研修を推進して中堅看護師の看護実践力を高める

<活動内容>

1) 院内研修

「経年別・役割別研修」として10コース（新人、2年目、3年目、4年目、5年目、臨地実習指導者、プリセプター、管理者、中途採用者、看護助手）、および「領域別研修」として8コース（糖尿病看護、感染看護、がん看護ベーシック、がん看護アドバンス、循環器看護、救急看護、女性骨盤底、地域連携）の合計18コースを企画運営した。

2) 院外研修

看護協会や各学会等主催の専門性の高い研修や学会の紹介・諸手続き支援を通し、院外研修や関連学会への参加を促進した。

また、看護部活動の充実を図る目的で、看護部のリーダー層（師長・次席・委員会メンバー等）を対象に「看護補助者の活用」「認知症」等の院外研修への参加を企画し、諸手続き支援を行った。研修後は看護師長会、次席会、各委員会、各看護単位で伝達会をもち、知識・情報を共有した。

15. 業績

学会発表

1. 政重木保, 伊藤絵梨香, 赤地実保, 賀戸ひとみ, 久留明子: 人工股関節全置換術, 人工骨頭置換術を受ける患者に対する生活背景を踏まえた介入方法の検討. 第47回 日本看護学会 急性期看護, 7月, 2016, 沖縄県宜野湾市.
2. 角南ちえ子, 高山由美子 他: 多職種のサポートにより患者は疾患を受容し行動変容に至った1型糖尿病の1例. 第53回 日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2016, 大阪.
3. 池上由希子, 上嶋沙也加, 片岡郁子, 渡邊美幸, 阿部恭子: 新生児の消毒に対する不安の軽減を目指した臍処置方法の検討. 第4回 大阪府看護協会, 12月, 2016, 大阪.
4. 澤山 曜, 松田智子, 鹿崎裕佳, 田中千登勢, 濱川茂子, 神谷香里, 岩本真澄: 高齢者の転倒転落予防における介入方法～2事例からの振り返り～. 第4回 大阪府看護協会, 12月, 2016, 大阪.
5. 岩崎由希子, 田中敬子: PICOR創傷治療システムが創傷管

理における自己効力感を高める一助となった症例. 第34回
日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2月,
2017, 愛知, 名古屋.

研究会発表

1. 高島郁子: 他施設の取り組みから学ぶ医療の質評価. ニッ
セイ医学セミナーUpDate, 3月, 2017, 大阪.

H28年度 看護部継続教育実績 (院内)

研修会名	日程	内容	参加者人数 (看護師)
新人	4月1日 4月4日	オリエンテーション	23名
	4月5日	医療安全、看護記録研修	23名
	4月6日	感染指針 感染予防 感染経路防止対策	23名
	4月7日	看護基準・手順 教育について	23名
	4月8日	看護技術 採血演習 口腔ケア	23名
	4月11日 4月12日	宿泊研修 ロッジ舞洲	23名
	4月13日	看護技術 注射演習 安全な薬剤管理	23名
	4月14日	スキンケア・褥瘡の基礎知識 浣腸・排便、移乗移送ポジ ショニング	23名
	4月15日	部署別オリエンテーション	23名
	4月18日 4月19日	チーム作り研修	23名
	4月26日	医療ガス 阿倍野防災センター	23名
	5月18日	酸素療法、吸引吸入演習 導尿・膀胱留置カテーテル 演習 1か月振り返り	23名
	6月15日	インスリン療法、輸液ポンプ・ シリンジポンプ 心電図の読み方	23名
	7月13日	急変時の対応、BLS、救急 薬品 3か月振り返り	23名
	8月30日	重症度・医療・看護必要度	22名
	9月14日	恐れずに多重課題に取り組 もう ベッドサイドの看護倫理、スト レスマネジメント 6か月振り返り	20名
	10月5日	看護記録 輸血時の看護	20名
	11月10日	基礎から学ぶ人工呼吸器 管理、看護 気管内挿管の準備と介助、 医療安全KYT	20名

研修会名	日程	内容	参加者人数 (看護師)
新人	12月7日	麻薬の主作用・副作用 がん 看護 がん化学療法と看護、PCA の取り扱い	20名
	2月8日	1年の振り返りとまとめ	20名
2年目	5月25日	メンバーシップ	21名
	7月6日	わかりやすく相手に伝える 手法～SBAR	20名
	9月21日	看護過程事例発表	19名
	11月2日	医療安全 危険予知トレーニング	17名
	12月6日	フィジカルアセスメント	18名
	1月11日	1年の振り返り	18名
3年目	5月11日	職場における自己の役割と 責任 リーダーシップ	10名
	6月8日	看護過程・看護記録	10名
	8月10日	KYT	10名
	1月12日	新人・後輩指導に必要な コミュニケーション	9名
4年目 5年目	7月20日	QC活動	24名
	11月14日	QC活動発表会	25名
	1月18日	ディベート	23名
5年目	5月27日	継続看護 講義	13名
	8月平日	継続看護(訪問看護研修)	
プリセプ ターの会	3月29日	プリセプター制度 オリエンテーション	22名
	6月7日	第1回 交流会	21名
	10月6日	プリセプター、サポートナース 合同報告会	28名
	12月9日	第2回 交流会	21名
	1月25日	プリセプターを経験しての学 び 発表	21名
臨地実習 指導者	7月27日	指導者って何だろう 臨地実習の原理と実際、 指導者の役割	12名
	8月17日	現代の若者気質とコミュニ ケーション 事例を通しての効果的な指導	12名
	12月14日	指導観 発表	
中途 採用者	7月11日	中途採用者研修①	4名
	8月8日	中途採用者研修②	3名
	10月19日	中途採用者研修③	2名
	12月8日	中途採用者研修④	2名

研修会名	日程	内容	参加者人数 (看護師)
糖尿病 看護	6月1日	セルフケア支援	29名
	8月24日	e-ラーニング 糖尿病の合併症 フットケア	42名
	11月30日	1型糖尿病の看護、治療、CGM CSII	25名
がん看護 (ベーシック)	6月22日	がん医療と薬理	35名
	7月13日	がんの特性化学療法の副作用、診断・治療	37名
がん看護 (アドバンス)	10月11日	がん性疼痛、消火器症状のマネジメント	30名
	11月29日	乳がんの基礎知識と乳がんケアの特徴	39名
	12月22日	経口抗がん剤の服薬アドヒアランスと皮膚障害のセルフケア支援	33名
看護研究	4月21日	看護研究の基礎、進め方	32名
	6月4日	テーマの絞り込み	41名
	8月6日	看護研究計画書発表会	80名
	12月3日	分析について	33名
	2月18日	看護研究発表会	120名
看護助手 e-ラーニング	5月9日 または 5月23日	医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解 医療チームとしての看護補助業務の理解	19名
	6月6日 または 6月27日	守秘義務・個人情報の保護 患者・家族への関わり方	19名
	7月4日 または 7月25日	災害時の対応－チーム働くために－	18名
	8月8日 8月22日	労働安全衛生の基礎知識 移動のお世話 －歩行、車いす、ストレッチャー、スライディングシート	18名
看護助手 e-ラーニング	9月5日 または 9月26日	日常業務の中での腰痛予防策 －腰痛体操－	18名
	10月17日 または 10月24日	環境整備－環境整備・ベッドメイキング、 －リネン交換－	18名
	11月7日 または 11月21日	医療安全－事故防止の基本的な心構え 事故発生時の対応、KYT トレーニング 安全な患者の確認の方法	20名
	12月5日 または 12月21日	感染予防 －手洗い、標準予防策－	21名
	1月16日 または 1月23日	清潔のお世話－入浴、 清拭、洗髪、身だしなみ	21名

研修会名	日程	内容	参加者人数 (看護師)
看護助手 e-ラーニング	2月13日 または 2月27日	看護助手の業務に関する説明 事前アンケートの結果	21名
	3月6日 または 3月20日	全体研修 排泄のお世話 医療従事者に必要な感染対策の基礎知識 感染経路を理解する	22名
管理者 研修	7月12日	目標管理と人事考課制度について	33名
	7月16日	福井大学PNS研修伝達講習 スタッフがいきいきと働くために －やる気ある人材づくり－	34名
	11月17日	新病院に向けてのロードマップ(看護部)	27名
	12月5日	12・15看護補助者の活用 推進のための看護管理者 研修 SWOT分析・クロス 分析の手法と活用	28名
	12月15日		32名
	1月19日	患者の生活を支える排泄ケア おむつフitterの資格を活かした活動紹介 「尊厳を重視した個別性の高い排泄ケアに向けて」 看護管理者としての取り組み	24名

H28年度 看護部継続教育実施状況(院外)

研修会名	日程	内容	参加者数
共通 (大阪府看護協会)	5月	共通7 一般病棟におけるクリティカルケア	1
研究 (大阪府看護協会)	5月	看護研究2 看護研究と論文作成支援①	1
地域 (大阪府看護協会)	6月	地域看護1 病棟看護師として できる退院支援・調整	1
糖尿病 (大阪府看護協会)	6月	糖尿病看護1 糖尿病療養指導の基本的知識	1
指導者 (大阪府看護協会)	6月	指導者5 新人看護職員教育 担当者研修	1
災害 (大阪看護協会)	7月	災害支援ナースに基礎知識 ～災害看護の第1歩～ ネット配信	1
老年 (大阪看護協会)	8月	老年看護1 高齢者の理解と 認知症患者の看護①	1
管理 (大阪看護協会)	8月	看護管理1 人材育成とコミュニケーション	1
管理 (大阪看護協会)	8月	みんなで取り組む業務カイゼン～ ポジティブマネジメントで チームの強みを活かす	1
管理 (大阪看護協会)	8月	看護管理Ⅲ 看護と交渉術	1
成人 (大阪看護協会)	9月	摂食・嚥下障害のある患者の 看護の基礎と実際を学ぶ②	2

看護部 長期及びその他の研修

主催	日程	研修会名	受講者
大阪府看護協会	5～7月	2016年度 第1回 大阪府保健師 助産師看護師 実習指導者研修講習会	高熊敏恵 大西まゆり
大阪府看護協会	8月10～26日 9月12～23日 10月11～21日 11月7～15日	2016年度 大阪府看護協会 認定看護管理者教育 課程「サードレベル」	高鳥郁子
大阪府看護協会	9月29日 ～12月22日	2017年度 大阪府看護協会 認定看護管理者教育 課程「セカンドレベル」	木下園子
福井県立 大学病院 PNS見学研修	5月16～18日	PNS研修	長瀬恵麗 久留明子 松野香織 井上真紀子 宇垣政江 酒井亜紀子 川上奈緒美 市川 恵 町田恵子
福井県立 大学病院 PNS見学研修	6月6～8日	PNS研修	高崎かおり 木下園子 森 エミ 田中弥紀 西臺真子
福井県立 大学病院 PNS見学研修	6月13～15日	PNS研修	野口夕香子 戸田陽子 青地美香 高鳥郁子
公益財団法人 大阪府 看護協会	7月8～9日	インターネット配信研修 リアルタイム 「認知症高齢者の看護 実践に必要な知識①」 研修	森蘭佑子 賀戸ひとみ 井上真紀子 依田恵美 大藤弘美 川端千里 湯浅賀容子 高山由美子 神谷香里

主催	日程	研修会名	受講者
公益財団法人 大阪府 看護協会 一般社団法人 大阪府 助産師 合同研修	7月9日	CLoCMiPレベルⅢ認 証取得のための 客観的試験攻略研修 「助産業務ガイドライン」 からみた妊婦・新生児 のアセスメントポイント	池上由希子 上久保沙友里 佐伯翔子 片岡郁子 栳田憲子
厚生労働省 近畿厚生局 健康福祉部	8月16日	看護師の特定行為研 修に関する説明会	芦田亨子 高鳥郁子 中西三季 木村由美
大阪府 看護協会	8月30日	新入会に対する研修会	新人21名
公益財団法人 大阪府 看護協会 地域包括ケア 事業部 研修会	9月15日	「働く人のメンタルヘルス ケアについて」	八尾みゆき
大阪府 看護協会	10月13～14日	インターネット配信研修 リアルタイム 「認知症高齢者の看護 実践に必要な知識②」 研修	島津庸子 六車御幸 鄭恩愛 姉川友里恵 鶴田知里 佐々木理恵
大阪府 看護協会	12月3日	労働環境支援委員会 研修「看護補助者の 活用推進のための管 理者研修」	前川明子 神谷香里
大阪府 看護協会	1月23日 2月15日 3月7日	大阪府看護職員認知 症対応力向上研修	三好由紀子 三好優子
大阪府 看護連盟	3月11日	H28年度 大阪府看護 連盟「トップセミナー」 ナイチンゲール思想か ら看護管理の神髄を 考える	久留明子 田畑文子 鈴木八枝子 岩本真澄 神谷香里 三好由紀子 町田恵子

スタッフ センター長：中村秀次

副センター長：湯川雅彦

予防医療部担当部長：住谷 哲

常勤医師：泉 由紀子、高島周志、藤岡滋典（特任顧問）、小豆澤深雪、平井 翠

佐藤文三（特別顧問）、船渡孝郎（顧問）、尾上昌世（産婦人科）

1. 診療内容

人間ドック受診者総数は12,703名に達し、引き続き大きな伸びを示した（表1）。定期健診受診者も34,507名と前年度より着実に増加した。健診受診後のフォロー強化に取り組み、1か月後フォロー体制を確立するとともに、3か月フォローのデータベース化を開始した。日生病院各診療科への紹介数も着実に増加し、健診精査内科受診者数1,692名も含めて、3,560名となった。

健診の質および快適な受診環境の維持・向上を目指して、専門医師による診察、読影、診断、およびダブルチェック体制を維持し、看護師による専門的なケア、保健師による指導、専門技師による検査を徹底するとともに、接遇の改善と受診当日の運営体制の改良を随時行っている。また人間ドックの午前3診体制を週2日実施するとともに、協会けんぽを対象とした午後健診を週3日、婦人科健診も週5日実施している。更に、繁忙期の人間ドック運営体制を強化し、土曜日2診運営を5～8月は月一回実施するとともに、8～12月は平日3診運営を週3回に増やし、需要増に対応した。胃カメラのニーズ増大に対して、内視鏡センターとの連携を強化し、病院での検査枠を拡大し、鎮静下内視鏡枠も増やした。当センターの特徴である女性に優しい健診施設としての特色をより充実させるため女性医師による婦人科健診の週4日体制、月2回のレディースデイ2診体制を維持し、9～10月には午後の女性検診（乳房、子宮）を実施した。メンタルヘルスサポート事業では、新たな解析ソフトを導入してサービスの向上を図るとともに、精神科医師によるコンサルテーションも実施し、メンタルサポート体制を強化した。ストレスチェック義務化の初年度として、産業医受託企業を中心に34社、9,328名のストレスチェックを実施し、解析報告した。また、人間ドック、健診結果を分析した「健康経営サポート情報」の主要な産業医受託企業への提供を開始した。受診者アンケートを毎日実施し、結果を毎週検討し、待ち時間の短縮とCSの向上に常に努めている。受診者のリピート率の向上を目指しており、28年度は76.1%で前年度より約9%上昇した。

社会福祉事業として、児童福祉施設を中心として25施設、入所者約2,334名を対象として無料低額健診を継続実施した。また、8月に母子家庭に対する公募方式による無料乳がん検診を引き続き実施し、31名の方が受診された。巡回健診の対応を強化するため胸部デジ

タル検診車を29年1月より導入した。

第13回「ニッセイ産業医セミナー」を開催した（開催日3月4日、特別講師：大阪がん循環器病予防センター 田中幸子所長）。学会活動として人間ドック学会に1題発表した。更に、各医師が専門領域の学会（消化器病学会、肝臓学会、糖尿病学会、内分泌学会等）でも発表した。

28年度人間ドック受診者の解析結果を以下に示す。人間ドック受診者の要治療率、要精密検査率は総計で12.9%、55.9%であった。年代別、性別の要治療率、要精密検査率を表2に示す。28年度は男性より女性でやや高い傾向であり、40歳未満では要治療は10%未満であるが、40歳以上では13%以上となり、50歳代では15%を示した。特に50歳代の女性では要治療は17.4%であった。要精密では男性では40歳以下では50%未満であったが、40歳以上では5割を超え、60歳以上で64.4%に達した。女性では要精密は40歳未満でも5割を超え、60歳以上では60.7%であった。要治療（治療中を含む）、要精密検査項目の男女別の上位5項目を表3に示す。要治療では、男性はTop5すべてが生活習慣病であり、1位は高血圧で21.3%であった。一方、女性では、Top3は生活習慣病であり、1位は脂質異常症で14.6%であり、4位に貧血が入り、糖尿病は5位で3.5%であった。要精密検査では、男女ともに第1位は眼科疾患であり、肝機能異常が男性では2位の17.2%であった。女性では、潜血尿が大部分を占める腎尿路系が16.4%で2位となり、婦人科疾患、乳腺疾患が3位、4位を占め、女性特有の疾患の異常は約23.4%に認められた。

精度の高い健診に努め、悪性疾患の発見は35名（0.28%）であった。乳がん9例、胃がん7例、前立腺がん5例、大腸がん4例、肺がん3例、膵がん、膀胱がん2例、食道がん、腎がん、卵巣がん各1例であった。あったかサポートセンターとの連携強化により、D1、D2判定者で健診精査内科および日生病院各診療科に紹介された患者は大幅に増加し、3,560名に達した（表4）。健診精査内科以外では、消化器内科、眼科、乳腺外科、婦人科、総合内科が上位を占めた。院外も含めた再検率は32.9%と、昨年よりわずかに低下した。精密検査の確実な実施を含めたD1、D2フォロー体制を強化するため、1か月後フォローの実施と3か月フォローの複数回勧奨を定着させ、要治療要精検者の把握と再検率の向上を図っている。

2. 業績

論文・著書

1. 高島周志, 小豆澤深雪, 鈴木真優美, 泉由紀子, 住谷 哲, 藤岡滋典, 湯川雅彦, 佐藤文三, 中村秀次: 健診における大腸癌スクリーニングとしての便ヘモグロビン定量値の有用性. 人間ドック学会雑誌, 31(1): 34-38, 2016.

学会発表

1. 高島周志, 小豆澤深雪, 鈴木真優美, 泉由紀子, 住谷 哲, 藤岡滋典, 湯川雅彦, 佐藤文三, 中村秀次: 大腸癌スクリーニングとしての便ヘモグロビン値の有用性. 第113回日本内科学会総会, 4月, 2016, 東京.
2. 泉由紀子, 小豆澤深雪, 高島周志, 住谷 哲, 網野信行, 藤岡滋典, 笠山宗正, 佐藤文三, 中村秀次: 人間ドックのTSH低値より発見されたバセドウ病と考えられた5例の検討. 第57回人間ドック学会学術大会, 7月, 2016, 松本.

表1 人間ドック・定期健康診断受診者数

	H28年度	対前年	備考
人間ドック	12,703人	109%	
日帰り	7,110人	102%	標準コースの人間ドック
生活習慣病	5,464人	118%	協会けんぽなどの簡易ドック
専門ドック (脳・肺ドック)	129人	96%	
定期健康診断	34,507人	101%	

表2 日帰り人間ドック受診者の年齢別、性別の要治療項目と要精密検査項目の頻度

	要治療項目 (D1)					
	男		女		全体	
39歳以下	6.5%	24人	7.6%	26人	7.1%	50人
40～49歳	12.2%	139人	13.8%	160人	13.0%	299人
50～59歳	13.0%	169人	17.4%	181人	15.0%	350人
60歳以上	11.4%	113人	13.7%	99人	12.4%	212人
総計	11.8%	445人	14.3%	466人	12.9%	911人

表3 性別による要治療・要精密検査の上位5項目 (日帰り人間ドック受診者)

男性 要治療項目 (D1)				男性 要精密検査項目 (D2)			
1	高血圧	21.3%	808人	1	眼科疾患	29.5%	1,108人
2	脂質異常症	15.5%	602人	2	肝機能疾患	17.2%	651人
3	高中性脂肪	12.5%	474人	3	腎・尿路疾患	8.7%	331人
4	糖尿病	10.0%	377人	4	大腸疾患	5.2%	191人
5	高尿酸	9.9%	375人	5	食道・胃疾患	4.6%	162人

女性 要治療項目 (D1)				女性 要精密検査項目 (D2)			
1	脂質異常症	14.6%	476人	1	眼科疾患	22.6%	717人
2	高血圧	9.8%	318人	2	腎・尿路疾患	16.4%	534人
3	高中性脂肪	9.1%	294人	3	婦人科疾患	12.6%	294人
4	血液疾患	4.1%	135人	4	乳房疾患	10.8%	272人
5	糖尿病	3.5%	113人	5	大腸疾患	7.0%	218人

※各検査項目の数値・判定より抽出 (センター医師による判断)

要治療・要精密検査検査項目は治療中Eを含む

%は各検査要治療受診者数/各検査受診者数*100 %は各検査要精密受診者数/各検査受診者数*100

表4 要治療・要精密検査判定者の紹介先 (日生病院への紹介人数)

消化器内科	453人	循環器内科	95人
消化器内視鏡センター	52人	泌尿器科	76人
眼科	361人	血液内科	2人
健診精査内科	359人	呼吸器内科	1人
乳腺外科	162人	整形外科	1人
産婦人科	141人	腎臓内科	1人
総合内科	132人		

※健診システム (タック) より日帰り人間ドックコースのみ、判定D1 (要治療)、D2 (要精密検査) を抽出

%は年齢別要治療・要精密検査数/年齢別全受診者数*100

総計の%は性別総計数/全受診者数*100

1. 診療科別教育

部(科)名	教育・研修項目	
循環器内科	新入院患者紹介	週5回
	症例検討会	週1回
	勉強会	1回/1~2週
	内科合同カンファレンス	月1回
	内科・地域合同症例検討会	年1回
	3病院合同勉強会 (大阪鉄道・南大阪・日生病院)	年2回
消化器内科	症例検討会	週1回
	消内・放射線科合同カンファレンス	週1回
	消内・外科合同カンファレンス	月2回
	内視鏡カンファレンス	月2回
	勉強会	月4回
	内科合同カンファレンス	月1回
	内科・地域合同症例検討会	年1回
総合内科	症例検討会・抄読会	週各1回
	内科合同カンファレンス	月1回
	糖尿病療養指導チーム勉強会	月1回
	糖尿病ケアカンファレンス	月1回
	OIDカンファレンス	年2回
	肺覧会	年1回
	内科・地域合同症例検討会	年1回
血液・ 化学療法内科	症例検討会	週1回
	抄読会	月2回
	血液標本検討会	随時
	内科合同カンファレンス	月1回
	内科・地域合同症例検討会	年1回
神経内科	新入院患者紹介	週1回
	症例検討会・抄読会	週1回
	内科合同カンファレンス	月1回
	内科・地域合同症例検討会	年1回
腎臓内科	内科合同カンファレンス	月1回
	症例検討会	月1回
	内科・地域合同症例検討会	年1回
	腎組織検討会	随時
神経科・ 精神科	薬物療法勉強会	週1回
	大阪中央症例検討会	随時
	病院精神科医・産業医メンタルケア研究会	年2回
	あわぎ神経精神科病診連携懇話会	年3回
	大阪地区精神医学研究会	年1回
小児科	勉強会	週1回程度
	入院症例検討会	平日
	小児科外来勉強会	年数回
	周産期カンファレンス	週1回
	新生児管理カンファレンス	月1回
消化器・ 一般外科	症例検討会	週1回
	抄読会	月1回
	消内・外科合同カンファレンス	月2回
	死亡症例検討会	随時
	学会報告会	随時
呼吸器外科	症例検討会	週1回
	抄読会	月1回
	死亡症例検討会	随時
	学会報告会	随時
乳腺外科	症例検討会	週1回
	乳腺外科ケアカンファレンス	週1回
	抄読会	月1回
	手術統計	年1回
	死亡症例検討会	随時
	学会報告・CPC	随時
	NST勉強会・抄読会	随時
整形外科	手術症例検討会	週1回
	抄読会	月1回
	リハビリ検討会	月2回
	整形病棟勉強会	年2~3回
	リサーチカンファ、及び学会報告会	年数回

部(科)名	教育・研修項目	
皮膚科	症例検討会	週1回
	抄読会	月3回
	3病院合同症例検討会 (日生・住友・大阪厚生年金病院)	月1回
	大阪西、中部地区皮膚科症例検討会	年1回
泌尿器科	症例検討会	週1回
	抄読会	週1～2回
	海外学術集会検討会	年数回
産婦人科	症例検討会・抄読会	週1回
	ケアカンファレンス・ モーニングカンファレンス	週1回
	画像カンファレンス 周産期カンファレンス	週1回
	ニッセイ内視鏡研究会	年1回
	あわぎ病診連携懇話会	年1回
眼科	外来勉強会	年4回
	病棟勉強会	年1回
	西区病診連携の会	年1回
	あわぎ病診連携懇話会	年1回
	日生・住友病院合同勉強会	年4回
耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	術前カンファレンス	週1回
	西区病診連携の会	年2回
	勉強会	年数回
放射線科	産婦人科画像カンファレンス	週1回
	消化器科画像・IVRカンファレンス	週1回
	研修医画像勉強会	不定期
麻酔・ 緩和医療科	疼痛勉強会	年2回
	麻酔症例検討会	週1回
	緩和ケアカンファレンス	週1回
病理診断科	外科術後カンファレンス	週1回
	CPC	月1回
	大阪病理研究会	年2回
	日本病理学会近畿支部学術集会	年4回
がん治療センター	キャンサー・ボード	月1回
女性骨盤底 センター	手術カンファレンス	週1回
	合同カンファレンス	月1回
	あわぎ病診連携懇話会	年1回
救急診療センター	救急カンファレンス	週1回
臨床研修部	抄読会	月1回
化学療法室	キャンサー・ボード	月1回
リハビリテー ション室	リハビリ検討会	月1回
	糖尿病療養指導チーム勉強会	月1回
	医療技能職勉強会	年1回
中央臨床 検査部	中検勉強会	月1回
	医療技能職勉強会	年1回
栄養管理室	厨房内ミーティング及教育	毎日
	栄養士勉強会	月1回
	献立勉強会	月1回
	栄養管理室ミーティング	月1回
	糖尿病QOL向上勉強会	年4回
	大阪病院給食研究会	月1回
薬剤部	新薬説明会	週1回
	薬剤部研修会	月1回
	部内有害事象検討会	年4回
	患者支援カンファレンス	週1回
あったか サポート センター	患者支援カンファレンス	週1回
	緩和ケアカンファレンス	週1回
	医療福祉施設MSW研修会	年5回
	医療技能職勉強会	年1回
診療情報管理室	診療情報管理室勉強会	年数回
医事サービス部	保険診療に関する勉強会	年2回
予防医学 センター	予防医学センター勉強会	月2回
	あわぎ産業医セミナー	年1回

2. 全体教育

日本医師会生涯教育講座カリキュラム

〈総合内科〉

日 程	時 間	場 所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
平成28年11月8日	15時00分～16時00分	別館4階 役員会議室	胸部単純X線の読影	田村慶朗 (総合内科)

〈消化器・一般外科〉

日 程	時 間	場 所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
平成28年11月17日	14時00分～15時00分	別館2階 会議室	腹腔鏡下ソケイヘルニア手術の実際 (術式の解説とハンズオン)	水野 均 生島裕文 (消化器・一般外科)

〈整形外科〉

日 程	時 間	場 所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
平成28年11月17日	14時00分～15時00分	別館4階 役員会議室	腰椎変性疾患の診断と治療	行方雅人 (整形外科)

ニッセイ医学セミナーUpdate

日 程	テ ー マ	講 師		参加人数
平成28年5月20日	自己免疫疾患治療の変遷	中央臨床検査部 部長	小瀬戸昌博	68名
平成28年6月3日	肺癌診療における最近の話題	特任副院長 呼吸器外科 部長	前田 元	116名
平成28年7月1日	循環器画像診断の最近情報	特任顧問	内藤博昭	91名
平成28年8月5日	膵臓がんとうがん予防について	特任顧問	小関萬里	87名
平成28年9月2日	大腸癌の手術と化学療法	消化器・一般外科 部長	水野 均	106名
平成28年10月14日	メニエール病とはなにか	耳鼻咽喉・頭頸部外科 主任部長	藤田信哉	58名
平成28年11月4日	慢性腎臓病(CKD)の診療と指導のポイント	腎臓内科 部長	宇津 貴	95名
平成28年12月2日	胃癌に対する最新治療法	消化器・一般外科 副部長	生島裕文	55名
平成29年1月6日	腰椎変性疾患の診断と治療	整形外科 副部長	行方雅人	80名
平成29年2月3日	精神疾患における脳波解析の有用性と展望	神経科・精神科 医長	青木保典	60名
平成29年3月3日	他施設の取り組みから学ぶ医療の質評価 ～QI・DiNQL～	看護部 副看護部長	高鳥郁子	81名

1 年目研修医オリエンテーション

日 程	依頼項目	講 師
平成28年 4 月 1 日	講話、研修医の就業規則、入会書類説明、その他	笠山院長、総務人事G
	研修説明	臨床研修部 三木部長
平成28年 4 月 2 日	大阪府医師会ウェルカムパーティー	大阪府医師会
平成28年 4 月 4 日	電子カルテ基本操作	事務管理部情報システムG
	ローテーション決定、その他	臨床研修部 三木部長
平成28年 4 月 5 日	看護部の研修に参加	看護部
	ローテーション科で研修開始	各診療科
平成28年 4 月 6 日	感染防止	感染症看護専門看護師 大野
平成28年 4 月 7 日	ローテーション科で研修	各診療科
	クリティカルパスについて	看護部
平成28年 4 月 8 日	採血、採尿など	看護部
	ローテーション科で研修	各診療科
平成28年 4 月11～12日	看護部と宿泊研修（舞洲研修）	
平成28年 4 月13日	注射、点滴など	看護部
平成28年 4 月14日	ローテーション科で研修	各診療科
	レセプト、医療費など	医事サービス部医事業務G
	薬剤処方	薬剤部
	病診連携	あったかサポートセンター 地域医療サービスG
	カルテ記載、病歴管理、文献検索等	診療情報管理室
平成28年 4 月15日	栄養指導	栄養管理室
	医療生活相談室の利用について	あったかサポートセンター 医療福祉相談G
	リハビリ依頼について	リハビリテーション室
平成28年 4 月18日	検血、生化学、輸血など	中央臨床検査部
平成28年 4 月19日	生理機能検査、心エコーの基礎	中央臨床検査部
平成28年 4 月20日	腹部超音波検査など	中央臨床検査部
平成28年 4 月21日	細菌検査、病理検査室	中央臨床検査部
平成28年 4 月21日	死亡診断書、剖検、CPC	病理診断科 城光寺部長代行
平成28年 4 月25日	救急診療	循環器内科 中川担当部長
平成28年 4 月26日	造影CT検査	放射線科 前田部長
平成28年 4 月27日	抗菌薬適正使用	臨床研修部 古結医師

実習生等受け入れ

部門	学校名	期間	人数
総 合 内 科	大 阪 大 学	H28.6.6～H28.6.17	2名
		H28.6.20～H28.7.1	1名
		H28.9.26～H28.9.30	3名
H28.7.4～H28.7.15		2名	
H28.9.20～H28.9.30		2名	
H28.9.12～H28.9.16		3名	
H28.10.24～H28.10.28		3名	
H28.9.20		2名	
H28.10.11		2名	
H28.9.26～H28.9.30		1名	
総 合 内 科	兵 庫 医 科 大 学	H28.5.9～H28.6.3	1名
H29.2.6～H29.2.17		1名	
H29.3.13～H29.3.24		1名	
リハビリテー シ ョ ン 室	大 阪 リ ハ ビ リ テー シ ョ ン 専 門 学 校	H28.6.13～H28.8.5	1名
	履 正 社 医 療 ス ポー ツ 専 門 学 校	H28.8.1～H28.8.26	1名
		H28.9.26～H28.9.30	1名
	大 阪 医 専	H28.11.21～H28.12.17	1名
	大阪保健医療大学	H29.1.30～H29.2.17	1名
	大 阪 医 療 福 祉 専 門 学 校	H29.1.23～H29.2.18	1名
	阪 奈 中 央 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 専 門 学 校	H29.2.13～H29.2.17	1名
		H29.2.20～H29.3.10	1名
H29.2.27～H29.3.17	1名		
中 央 臨 床 検 査 部	大阪医療技術学園 専 門 学 校	H28.4.4～H28.9.9	2名
	関 西 医 療 大 学	H28.10.17～H28.12.16	2名
中 央 放 射 線 部	大 阪 物 療 大 学	H28.5.16～H28.7.1	2名
		H28.9.26～H28.12.13	2名
	大 阪 行 岡 医 療 専 門 学 校	H28.6.1～H28.7.29	4名
		H28.9.1～H28.10.31	4名
栄養管理室	大 手 前 栄 養 製 菓 学 院 専 門 学 校	H28.8.1～H28.8.5	2名
		H29.1.23～H29.2.10	3名
	相 愛 大 学	H28.11.7～H28.11.18	2名
薬 剤 部	羽 衣 国 際 大 学	H29.2.27～H29.3.10	2名
	大 阪 大 谷 大 学	H28.5.9～H28.7.24	1名
		京 都 薬 科 大 学	H28.5.9～H28.7.24
	神 戸 薬 科 大 学	H28.9.5～H28.11.20	2名
		H29.1.10～H29.3.27	1名
	摂 南 大 学	H28.5.9～H28.7.24	1名
	武庫川女子大学	H28.5.9～H28.7.24	1名
		H28.9.5～H28.11.20	1名
		H29.1.10～H29.3.27	1名
大 阪 薬 科 大 学		H28.5.24(早期体験学習)	10名

部門	学校名	期間	人数
看護部	大阪保健福祉専門学校	H28.5.9～H28.5.25	4名
		H28.6.6～H28.6.22	4名
		H28.6.27～H28.7.13	5名
		H28.8.8～H28.8.24	5名
	森ノ宮医療大学	H28.4.18～H28.4.28	4名
		H28.10.17～H28.10.21	5名
		H28.12.19～H28.12.22	5名
		H29.2.20～H29.2.24	5名
	南大阪看護専門学校	H28.5.11～H28.9.15	15名
	甲南女子大学	H28.5.23～H28.6.2	3名
		H28.6.6～H28.6.16	6名
		H28.6.27～H28.8.26	1名
		H28.9.6～H29.2.16	50名
		H28.9.6～H29.2.15	52名
	梅花女子大学	H28.8.23～H28.9.5	16名
		H28.9.6～H28.9.12	18名
	大阪府立大学	H28.6.13～H28.7.7	2名
		H28.7.19～H28.8.12	1名
	山梨県立大学	H28.9.5～H28.9.9	1名
		H28.9.12～H28.9.16	1名
	大阪府病院協会看護専門学校	H28.5～H28.7	15名
		H29.1.30～H29.2.17	5名
診療情報管理室	関西医療大学	H28.11.1～H28.11.9	4名
		H28.11.15～H28.11.22	3名
	大阪医専	H28.5.9～H29.3.17	76名
	大阪医専	H28.6.13～H28.6.24	1名

講演会・研修会

【院内職員対象】

日程	講演会・研修会	主催	場所
平成28年 4月28日、 5月2日、12日、 13日、17日 6月9日	第30回教育講演ランチDVD研修 「韓国におけるMERS感染の報告」 中央臨床検査部 小瀬戸昌博部長 「日生病院のアンチバイオグラム」 救急診療センター 古結敦士医師	感染対策委員会	別館講堂
平成28年 5月13日、16日	重症度、医療・看護必要度e-ラーニング視聴会	医事サービス部 看護部	
平成28年7月8日	医療安全講演会 「患者の権利と義務－医療従事者だって人間ですよ－」 北浜法律事務所・外国法共同事業 長谷部圭司（弁護士・医師）	医療安全管理 委員会	別館講堂
平成28年7月 26日、28日、29日	重症度、医療・看護必要度院内研修会	医事サービス部 看護部	別館講堂
平成28年 9月2、6、20、23日 10月20、28日 12月5、6日 平成29年 1月10、24日 3月8、16日	第31回感染対策委員会教育講演会（e-ラーニング） 「医療従事者が必要な感染対策の基礎知識」 東京医療保健大学大学院 感染管理認定看護師 吉田理香	感染対策委員会	別館講堂
平成28年 9月2、6、20、23日 10月20、28日 12月9、12日 平成29年 1月17、31日 3月9、15日	第32回感染対策委員会教育講演会（e-ラーニング） 「感染経路を理解する」 東京医療保健大学大学院 感染管理認定看護師 吉田理香	感染対策委員会	別館講堂
平成28年9月5日	医療安全講演会（インターネット講演会） 「身体疾患に伴う不眠やせん妄の評価と対応について」 市立札幌病院 精神医療センター 副医長 上村恵一	医療安全管理 委員会	別館講堂
平成28年9月16日	倫理委員会講演会 「警察病院における苦情対策－コードホワイト－」 警察病院 副院長 小牟田 清	倫理委員会 医療安全管理 委員会 教育委員会	別館講堂
平成28年10月7日	接遇研修会 「言葉を“使う”から“遣う”へ」 野口好美	看護部 日新会 教育委員会 総務人事G	別館講堂
平成28年10月19日	NST勉強会 「経腸栄養食の種類と使い分けについて」 消化器・一般外科部長（NST担当） 水野 均 「とろみ経腸食の内容と使用方法の注意点について （新規採用経腸食）」 株式会社明治 経腸食担当者	栄養・給食 委員会 NSTチーム	別館講堂
平成28年11月22日	医療安全講演会（インターネット講演会） 「神戸市民センター中央病院におけるせん妄・不眠対策 －チーム医療を通して－」 神戸市立医療センター 中央市民病院 精神・神経科医長 大谷恭平	医療安全管理 委員会	別館講堂

日程	講演会・研修会	主催	場所
平成28年11月25日	第2回 保険診療に関する講習会 「最近の適時調査・監査について」 医事サービス部 担当部長 村上 学	医事サービス部	別館講堂
平成28年12月13日	医療ガスの安全な取り扱い研修会 「病院医療ガス設備の基礎と災害対策について」 「医療用ガスの取り扱い方」 エア・ウォーター防災株式会社 株式会社馬場酸素 岩谷産業株式会社	医療ガス安全管理委員会	別館講堂
平成29年1月13日	人事制度研修会 「人事評価について」 事務局長 金尾文隆	教育委員会 総務人事G	別館講堂
平成29年1月20日	輸血療法講演会 「輸血療法の歩み－副作用とその対策－」 泌尿器科 部長 福井辰成	輸血療法委員会	別館講堂
平成29年 2月6日、23日	BLS研修 院内急変時対応研修	ACLS委員会 救急リンクナース	別館講堂
平成29年2月7日	TQM大会 人材育成研究所 立川義博		別館講堂
平成29年2月17日	医療安全研修会 「子供による医薬品誤飲事故防止について」 「医薬品管理WG、院内疑義照会事例の共有」 薬剤部 部長 野村浩英 「医療安全ME医療機器ラウンド結果報告」 臨床工学技士 三木和美	医療安全管理委員会	別館講堂
平成29年2月18日	I 第37回 看護研究発表会 II 第8回 専門・認定看護師実践報告会 テーマ：こんなことやってます！専門・認定看護師の実践 ①チームで取り組む経口抗がん薬 －患者サポートのためのシステム構築－ がん化学療法看護認定看護師 大島千春 ②看護師の補足説明によるがん患者・家族の意思決定支援 －外来で告知後の支援を考える－ がん疼痛性看護認定看護師 小山佐知子 ③病名告知後の患者の意思決定支援 乳がん看護認定看護師 水越 梓 ④1型糖尿病患者との関りから生活支援を考える 糖尿病看護認定看護師 角南ちえ子 ⑤非効果的であった術前指導 手術室看護認定看護師 二井千里 ⑥恥骨骨髓炎・恥骨首位膿瘍を発症し入退院を20回以上 繰り返す患者への教育 感染症看護専門看護師 大野典子 ⑦PICO創傷治癒システムが創傷管理における自己効力感を 高める一助となった症例 皮膚排泄ケア認定看護師 田中敬子 III 看護部活動報告会	看護部	別館講堂
平成29年2月24日	研修医発表会 1年目研修医症例報告会	臨床研修部	別館講堂
平成29年3月7日	研修医発表会 2年目研修医臨床研究発表会	臨床研修部	別館講堂
平成29年3月24日	倫理委員会講演会 「多職種で立ち止まって考える臨床倫理」 函館稜北病院 総合診療科 科長 川口篤也	倫理委員会 教育委員会	別館講堂

【医療関係者対象】

日程	講演会・研修会	主催	場所
平成28年4月21日	あわぎ認知症セミナー（あわぎ精神神経病診連携懇話会） 「将来の認知症診断治療について考える －これから明らかにしないといけないこと、 そしてそのイメージについて－」 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室 講師 大河内正康	精神科・神経科 あったかサポート センター	別館4F 会議室
平成28年5月24日	感染防止対策病院連携合同カンファレンス（第1回） 日生病院、大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、 大阪暁明館病院 ・みなと中央病院のラウンド ・合同カンファレンス ・職種別分科会	感染対策委員会	みなと中央 病院
平成28年6月18日	第5回 あわぎ産婦人科病診連携懇話会 I 講演 ①「月経困難症の稀症例について」 産婦人科 副医長 矢野 悠子 ②「日生病院における産婦人科がん治療の取組み」 日生病院 副院長 兼 産婦人科 部長 藤田征巳 II 特別講演 「日常診療におけるホルモン治療－思春期から更年期まで－」 こうむら女性クリニック 院長 甲村弘子	産婦人科 あったかサポート センター	ANAクラウン プラザホテル
平成28年7月12日	感染防止対策病院連携合同カンファレンス（第2回） 日生病院、大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、 大阪暁明館病院 ・研修会 薬剤耐性対策アクションプラン 当院のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌検出時の対応 講師：日生病院専門部長 大野典子 ・合同カンファレンス ・職種別分科会	感染対策委員会	別館講堂
平成28年7月23日	第17回 あわぎフォーラム－病診連携学術講演会－ ・開放型病院運営委員会 ・開放型病院登録医総会 I 講演 ①「呼吸器外科診療と胸腔鏡手術の実際」 特任副院長 兼 呼吸器外科部長 前田 元 ②「進行大腸癌に対する腹腔鏡下手術」 消化器・一般外科部長 水野 均 II 特別講演 「Futurability－医療の今と未来－」 大阪大学大学院医学系研究科 研究科長 医学部長 心臓血管外科教授 澤 芳樹 III 情報交換	あったかサポート センター	日本生命本店 東館
平成28年8月28日	日生ICLSコース	ACLS委員会	別館講堂他
平成28年10月18日	感染防止対策病院連携合同カンファレンス（第3回） 日生病院、大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、 大阪暁明館病院 ・各病院の手指消毒剤の使用状況の発表・討議 ・合同カンファレンス ・職種別分科会	感染対策委員会	別館講堂

日程	講演会・研修会	主催	場所
平成28年10月27日	第4回 あわぎ糖尿病病診連携懇話会 I 基調講演 「糖尿病性腎症の『今』と『これから』」 腎臓内科部長 宇津 貴 II パネルディスカッション テーマ「糖尿病患者の個別化医療」 ディスカッサー 生野内科クリニック 院長 生野善康 渋谷内科クリニック 院長 渋谷孝裕 徳田クリニック 院長 徳田好勇 日生病院 腎臓内科 部長 宇津 貴	糖尿病・内分泌 センター 腎臓内科 あったかサポート センター	堂島ホテル
平成28年11月12日	あわぎ クリニカル カンファレンス I 症例カンファレンス 「心膜炎を合併した潰瘍性大腸炎の症例」 消化器内科 田中敏雄 「白血球増多を来した症例について」 血液・化学療法内科 部長 川上 学 「難治性気胸に対して胸腔鏡下右上上葉、横隔膜部分切除した症例」 総合内科 二宮隆介 「除脈を繰り返した超高齢女性について」 循環器内科 不二樹五郎 「全身型重症筋無力症の診断と治療について」 神経内科 飛田哲志 II 講演 「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標」 総合内科 宇都佳彦 「糖尿病患者の腎臓のみかた」 腎臓内科部長 兼 腎臓・透析センター長 宇津 貴 III 情報交換会	循環器内科 消化器内科 総合内科 血液・化学療法 内科 神経内科 腎臓内科 あったかサポート センター	ホテル日航 大阪
平成28年11月16日	あわぎCKD病診連携勉強会 特別講演 「CKD連携診療のすすめ -この症例、腎臓内科医はどう診るのか-」 腎臓・透析センター長 宇津 貴	腎臓内科 あったかサポート センター	別館 4 F 会議室
平成28年11月19日	第7回 ニッセイ看護研究会 「感染症看護専門看護師による講演と標準予防策の演習」 感染症看護専門看護師 大野典子	看護部	別館講堂
平成28年12月9日	PET講演会 「腫瘍 FDG PET-CT - 基本から最新の動向まで -」 大阪大学医学部附属病院 放射線部講師 巽 光郎	がん治療センター	別館講堂
平成29年1月21日	第3回 あわぎ肝疾患病診連携懇話会 I 一般公演 「B型肝炎根絶に向けて -ワクチン定期接種開始への期待-」 消化器内科 副部長 村本 理 II 特別講演 「C型慢性肝炎の最新治療とこれからの病診療連携」 予防医学センター長 兼 消化器内科 部長 中村秀次 III 意見交換会	消化器内科 あったかサポート センター	ホテルモントレ グラスミア大阪

日程	講演会・研修会	主催	場所
平成29年2月2日	あわぎ腎臓病診療連携懇話会 Ⅰ 講演 「尿路結石と生活習慣病－予防と治療－」 腎臓・透析センター 副センター長 兼 泌尿器科部長 福井辰成 「CKDマネジメントのポイント いつ専門医に紹介するのか」 腎臓・透析センター センター長 兼 心臓内科部長 宇津 貴 Ⅱ 特別講演 「腎性貧血治療とCKD病診療連携」 聖隷浜松病院 腎センター長 磯崎泰介	腎臓内科 泌尿器科 あったかサポートセンター	ホテルモンテ グラスミア大阪
平成29年2月5日	第20回 日生ICLSコース	ACLS委員会	別館講堂他
平成29年2月14日	感染防止対策病院連携合同カンファレンス（第4回） 日生病院、大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院 ・「プライマリ・ケアの現場での抗菌薬適正使用」 （第33回院内感染教育講演会に参加） 大阪府立急性期・総合医療センター 総合内科部長 兼 感染制御室長 大場雄一郎 ・合同カンファレンス ・職種別分科会	感染対策委員会	別館講堂
平成29年2月16日	医療技能部 研修会 「多くの職種で役立つ、品質マネジメントシステムの考え方 －ISO規格を参考に－」 シスメックス(株) 学術推進部ラボラトリーサポート推進課	中央臨床検査部 あったかサポートセンター	別館講堂
平成29年3月4日	第13回ニッセイ産業医セミナー テーマ：「産業医のための膵腫瘍スクリーニング」 Ⅰ 講演 「産業医に役立つ膵臓超音波検査の実際」 臨床検査技師 篠田和子 「産業医が知っておきたい膵癌早期発見のための膵検査」 消化器内科部長 有坂好史 Ⅱ 特別講演 「産業医のための膵癌の現況と早期診断について」	ニッセイ予防 医学センター	中之島 センタービル
平成29年3月5日	第2回日生病院JMECC 日本内科学会認定 内科救急・ICLS講習会	ACLS委員会	別館講堂
平成29年3月10日	緩和ケア講演会 「終末期の栄養療法を考える」 愛生会山科病院 外科部長 NST 京滋 摂食・嚥下を考える会 代表世話人 荒金英樹	がん治療センター 緩和ケアチーム	別館講堂
平成29年3月18日	あわぎ消化管病診療連携懇話会 Ⅰ 講演 「逆流性食道炎の治療マネジメント」 消化器内科 副部長 田中敏雄 「早期胆嚢癌の画像診断」 消化器内科 部長 有坂好史 Ⅱ 情報交換会	消化器内科 あったかサポートセンター	ホテルモンテ グラスミア大阪

日程	講演会・研修会	主催	場所
平成29年3月24日	あわぎ糖尿病 医・薬連携カンファレンス I 講演 「糖尿病治療の選択と留意点」 総合内科 糖尿病・内分泌センター 魚田晃史 「患者のための療養指導－服薬指導のポイントを含めて－」 社会福祉法人石井記念愛染園付属愛染橋病院 薬剤部 主任 柳瀬昌樹 II カンファレンス 「糖尿病患者の薬物療法 －医師として、薬剤師として、どう対峙するか?」 コメンテーター 糖尿病・内分泌センター 部長 住谷 哲 薬剤師 主任 乾 有希子	糖尿病・内分泌センター 薬剤部 あったかサポートセンター	別館講堂

【一般・患者対象】

日程	講演会・研修会	主催	場所
平成28年5月12日	ニッセイ看護フェア ・身体測定（身長、体重、血圧、体脂肪等） ・アロマ ・フットケア ・認定・専門看護師イベント ポスター展示 活動報告 ・パンフレット・資料展示 ・看護協会グッズ配布	看護部	1F玄関ホール
平成28年6月11日	平成28年度 第1回 ニッセイ市民健康セミナー テーマ：糖尿病と腎臓病、透析治療について 第1部 ①「糖尿病腎症と透析治療について」 泌尿器科部長 福井辰成 ②「透析治療とならないために今すべきこと」 糖尿病・内分泌センター 糖尿病看護認定看護師 角南ちえ子 第2部 「アマチュア落語」 桂文喬主催落語研究会のみなさん	糖尿病・内分泌センター あったかサポートセンター	別館講堂
平成28年 7月29日、 8月5日	ニッセイ夏休み子ども医療体験2016 ・見学体験：看護部、リハビリテーション室、 予防医学センター、中央臨床検査部 中央放射線部、薬剤部、眼科 ・実習：内視鏡下手術、あかちゃん沐浴、AED等		院内各部
平成28年9月23日	西区民健康セミナー I 開会あいさつ 西区役所医務主幹 兼 保健所西部保健医療監 大仲博之 II 講演 「健康寿命と糖尿病－その深い関係を考える－」 糖尿病・内分泌センター部長 兼 ニッセイ予防医学センター予防医療部担当部長 住谷 哲 「がんの3次予防を考える」 がん治療センター長 兼 血液・化学療法内科部長 川上 学	あったかサポートセンター	西区民センター

日程	講演会・研修会	主催	場所
平成28年 10月19、20日 (花乃井中学校) 平成28年 11月17、18日 (堀江中学校)	花乃井中学校及び堀江中学校からの職場体験学習 ・佐藤名誉院長実習 ・病院見学：栄養管理室、情報システム室、診療情報管理室 ・実習：薬剤部、中央臨床検査部、中央放射線部、 リハビリテーション室	看護部 福祉事業部	院内各部
平成28年11月11日	ニッセイいい皮膚の日 Ⅰ ミニコンサート Ⅱ 「かゆい皮膚病の診断と治療」 「スキンケアについて」	皮膚科 あったかサポート センター	1 F 玄関 ホール
平成28年11月18日	ニッセイ糖尿病フェア テーマ：－知ろう！測ろう！相談しよう！－ 糖尿病にならないために ・血糖値・HbA1c測定 看護師 ・筋肉量・握力測定 理学療法士 ・服薬相談 薬剤師 ・栄養相談、カードバイキング 管理栄養士 ・簡易医師相談 医師 ・頸動脈エコー体験 検査技師	糖尿病・内分泌 センター あったかサポート センター	1 F 玄関 ホール
平成28年11月26日	平成28年度 第2回 ニッセイ市民健康セミナー Ⅰ 「脳卒中の診断と治療」 神経内科部長 浅野彰彦 Ⅱ 「もし“めまい”が起こったら」 耳鼻咽喉・頭頸部外科主任部長 藤田信哉	あったかサポート センター	別館講堂
平成29年1月27日	ニッセイ糖尿病ランチ&セミナー Ⅰ 昼食会「ヘルシー和食弁当を試食してみよう」 Ⅱ 講演会「糖尿病の最近の話題」 糖尿病・内分泌センター部長 糖尿病患者会「錦会」顧問医 住谷 哲 「低カロリー甘味料について」 株式会社H+Bライフサイエンス	糖尿病・内分泌 センター あったかサポート センター	別館講堂

3. 日生医学賞・日生医学奨励賞

日生医学賞

該当者なし

日生医学奨励賞

所属	氏名	受賞内容
ニッセイ予防医学センター	高島周志 (医師)	大腸がん検診における便ヘモグロビン定量値の有用性
循環器内科	村西寛実 (医師)	Impact of Patients activity on clinical outcome after FP intervention
臨床研究管理室	谷口真理子 (看護師)	日生病院における試験・臨床研究向上への取り組み

4. 地域活動

事業等	出務場所	出務日	講師/出務医師	備考
急病診療所出務	西九条休日急病診療所	4月24日(日) 10:00~17:00	池原千衣子	小児科担当
		12月31日(土) 10:00~17:00	赤木幹弘	
		2月12日(日) 10:00~17:00	川上 学	内科担当
3か月児健康診査	西区保健福祉センター	毎月第3水曜日 13:30~	池原千衣子	※健診対象者増加のため、 健診日程が増えています
		7・9・11・3月 第4水曜日 13:30~	池原千衣子	
3歳児健康診査 (耳鼻咽喉・頭頸部 外科)	西区保健福祉センター	4月6日(水) 13:45~	岡安 唯	
		9月7日(水) 13:45~	金澤成典	
		2月1日(水) 13:45~	金澤成典	
大阪西地域産業保健 センター労働健康相談	西区医師会 会議室	5月18日(水) 14:00~16:00	三木俊治	産業医による小規模事業所の 労働健康相談
西区民まつり 「健康のつどい」	西区民センター	10月16日(日) 9:00~15:00	笠山宗正	医師会の健康相談コーナー等
第2回学術講演会 基調講演 「COPDと糖尿病」	リーガロイヤル	11月26日(土) 16:00~18:00	立花 功	西区医師会主催の学術講演会
講演会 「認知症を理解する」	西区民センター	3月25日(土) 13:30~15:30	木藤友実子	「認知症等高齢者支援地域連携 事業」の市民対象の講演会

5. ボランティアについて

(概要)

- ・ H13年にボランティア導入
 - ・ メンバー：16名（対前年+6名）
 - ・ 活動内容：初診、再診手続き、車椅子患者様介助・移送、診察・検査等場所の案内、図書管理、手話通訳、入院患者様の補助（買い物代行・お洗濯等）、ものづくり体験講師 等
 - ・ 新病院の新設に向け、ボランティアの活動を「素晴らしい病院」づくりの強力なパートナーとして位置づけ、地域との信頼関係を強化し、より一層地域に貢献する病院としていくために、ボランティア制度・運営について見直しを図り、新たな活動内容の検討も含めた体制整備を進めている。
- ボランティアは患者様の身近な存在であり、職員だけでは行き届かない患者様サービスのサポート、心遣い、気遣いを形にした「あったかさサポート」の推進役として、これからも患者様サービスに努めていく。

	主な内容
4月	・ ボランティア保険加入（年度更新） ・ 新規ボランティア受け入れ（1名）
5月	・ ボランティア協会活動時間集計報告（1月～4月）
8月	・ ボランティア茶話会開催（8/4）
9月	・ ボランティア協会活動時間集計報告（5月～8月） ・ 新規ボランティア受け入れ（1名）
10月	・ ボランティア募集説明会（10/18） ・ 新規ボランティア受け入れ（1名）
11月	・ 日生病院ボランティア総会（11/26） ・ 新規ボランティア受け入れ（2名） ・ インフルエンザ予防接種（任意） ・ 健康診断（任意）
12月	・ 新規ボランティア受け入れ（1名）
1月	・ ボランティア協会活動時間集計報告（9月～12月）
3月	・ 病院ボランティア研修会「これからの病院ボランティアとは」

6. 広報関係

ラジオ出演

- 放送日時：平成29年1月31日（火） 20時40分～21時
- 番組名：ラジオ NIKKEI 第1『医学講座』（日本医師会企画）
- テーマ：胆嚢ポリープの診断とマネジメント
- 出演者：有坂好史 消化器内科部長

7. 院内行事

〈平成28年〉

4月1日	・新入職員入会式（原則各月第1水曜日）
4月1日	・進発式
4月11日	・看護部・臨床研修部新人宿泊研修（～4月12日）
4月21日	・あわぎ精神神経病診連携懇話会
4月25日	・病院管理者業績報告会（4月25日、5月23日、6月27日、10月24日、11月28日、12月26日）
5月6日	・自動精算機の導入
5月9日	・監査法人トーマツによる会計監査（5月9～13日、12月12～14日、3月6～9日）
5月11日	・部長補佐任命式
5月12日	・ニッセイ看護フェア
5月17日	・TQM研修会（～5月18日 講師：人材育成研究所 立川義博先生）
5月20日	・医学セミナーUpdate（～3月3日迄全11回）
5月24日	・感染防止対策病院連携合同カンファレンス（5月24日、7月12日、10月18日、2月14日）
5月26日	・相愛大学音楽学部とのコラボレーションイベント「みんなで鳴らそう！みんなで歌おう！」
5月28日	・大阪乾癬友の会（梯の会）総会（5月28日、12月4日）
5月31日	・定時理事会
6月11日	・ニッセイ市民健康セミナー（6月11日、11月26日）
6月18日	・あわぎ産婦人科病診連携懇話会
6月21日	・定時評議員会
6月21日	・理事会・評議員会報告会、TQMキックオフ
7月1日	・日生稲荷神社・日生白玉神社神事
7月7日	・入退院支援センター設置
7月7日	・消防・防災訓練（7月7日、12月8日）
7月8日	・あったか七夕コンサート
7月8日	・医療安全講演会（7月8日、9月5日、11月22日、2月17日）
7月23日	・あわぎフォーラム（特別講師：大阪大学大学院 澤芳樹医学系研究科長）
7月23日	・開放型病院運営委員会
7月23日	・開放型病院登録医総会
7月29日	・ニッセイ夏休みこども医療体験2016（7月29日、8月5日）
8月21日	・無料乳がん検診
8月24日	・夕刻診療開始（毎週水曜日）
9月2日	・院内感染対策教育講演会（9月2・6・20・23日、10月20・28日、2月14日）
9月16日	・人権研修会
9月20日	・日生病院地域医療支援運営委員会（9月20日、11月15日、1月17日、3月21日）
9月23日	・西区民健康セミナー
10月3日	・外科外来ブロック受付運営開始
10月7日	・接遇研修会
10月12日	・看護外来設置
10月15日	・自然にまなぶ！自然であそぶ！ニッセイ健康キッズ（共催：ニッセイ緑の財団）
10月19日	・花乃井中学校からの職場体験学習（～10月20日）
10月19日	・NST勉強会
10月21日	・下期進発式、日生医学賞・医学奨励賞表彰式、永年勤続表彰
10月21日	・神無月コンサート
10月27日	・あわぎ糖尿病病診連携懇話会
10月28日	・フォーラム「医療の改善活動」全国大会発表（～10月29日）
11月1日	・ボウリング大会（11月1・10日）
11月9日	・篤志解剖者慰霊祭
11月11日	・ニッセイいい皮膚の日
11月12日	・あわぎクリニカルカンファレンス
11月16日	・あわぎCKD病診連携勉強会
11月17日	・堀江中学校からの職場体験学習（～11月18日）
11月18日	・ニッセイ糖尿病フェア

11月19日	・ニッセイ看護研究会
11月25日	・保険診療に関する講習会
11月25日	・糖尿病患者友の会「錦会」総会
12月1日	・大阪市保健所立入検査
12月9日	・PET講演会
12月9日	・ニッセイあったかクリスマスコンサート
12月13日	・医療ガスの安全な取扱研修会
12月15日	・上棟式

〈平成29年〉

1月4日	・新年互礼会
1月5日	・「移転・開設準備本部」進発式
1月9日	・休日診療
1月13日	・人事制度研修会
1月20日	・輸血療法講演会
1月21日	・あわぎ肝疾患病診連携懇話会
1月27日	・ニッセイ糖尿病ランチ&セミナー
1月30日	・2階外来ブロック受付運営開始
2月2日	・あわぎ腎臓病病診連携懇話会
2月5日	・日生病院ICLSコース
2月7日	・TQM大会
2月18日	・看護研究発表会、専門・認定看護師実践報告会
2月24日	・研修医症例報告会
3月4日	・ニッセイ産業医セミナー
3月5日	・JMECC
3月7日	・研修医臨床研究発表会
3月10日	・緩和ケア講演会
3月17日	・あわぎ糖尿病医・薬連携カンファレンス
3月18日	・あわぎ消化管病診連携懇話会
3月21日	・臨時評議員会、定時理事会
3月24日	・倫理委員会講演会

糖尿病ふれあい教室 火～金曜日

母乳外来 月～水曜日・金曜日

マタニティービクス
アフタービクス 毎週／火曜日・木曜日
ベビービクス
マタニティーヨガ

両親学級 毎週／土曜日

大阪乾癬患者友の会「梯の会」	学習会・定例総会勉強会	2回／年
	患者交流会	4回／年
	会報発行	4回／年
	幹事会	毎月

糖尿病患者友の会「錦会」	総会	1回／年
	患者懇談会	随時
	ランチ&セミナー	1回／年
	大阪DMウォークラリー	1回／年

公益財団法人 日本生命済生会付属

日 生 病 院 年 報

公第5巻（通算第16巻） 平成29年12月発行

編 集 公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院 年報WG

発 行 公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院

住 所 〒550-0012 大阪市西区立売堀6丁目3番8号

T E L 06 (6543) 3581 (代表)

<http://www.nissay-hp.or.jp>